

# カクシクレ遺跡

丹生川ダム水没地区（五味原遺跡群）

埋蔵文化財発掘調査報告書 第2集

1997

岐 阜 県 土 木 部

財団法人 岐阜県文化財保護センター



A 地点水さらし場遺構

## 序

カクシクレ遺跡が所在する丹生川村折敷地五味原は、山水の豊かなところです。各所で「湧き水」がみられます。遺跡の発掘調査もたびたび「湧き水」に悩まされました。豊富な水量でかつ夏でも涸れない水がある場所は縄文時代の人々の居住条件を満たす大きな要素であったに違いありません。夏休みの発掘体験学習に参加した小学生が「休憩のときに飲んだ山水がおいしかった。忘れない。」と感想に記しています。

このたび、県土木部河川課宮川上流河川開発工事事務所が行う丹生川ダム建設に伴い、埋蔵文化財の記録保存を行うために、カクシクレ遺跡の発掘調査を実施しました。発掘調査は宮川上流河川開発工事事務所から岐阜県教育委員会に委託され、財団法人岐阜県文化財保護センターが担当しました。

今回の調査では、トチ、ナラ、ドングリなど堅果類のアクぬきや虫ころなどの用途をもつ「水さらし場遺構」(縄文時代晚期)が検出され、縄文時代の人々の食生活を中心とする生業のあり方を探る上で貴重な資料となりました。

最後になりましたが、発掘調査および出土品の整理・報告書の作成にあたりましては、関係諸機関各位の温かいご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。また、現地における調査に際しましては、地元の方々の多大なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成9年3月

財団法人 岐阜県文化財保護センター  
理事長 篠 田 幸 男

## 例　　言

1. 本書は岐阜県大野郡丹生川村折敷地字カクシクレに所在するカクシクレ遺跡（G07N00316）の発掘調査報告書である。「カクシクレ遺跡」は、岐阜県教育委員会『岐阜県遺跡地図』（1990）では「かくしきれ遺跡」となっているが、字名により「カクシクレ遺跡」と表記する。
2. 本調査は丹生川ダム建設に伴うもので、宮川上流河川開発工事事務所から岐阜県教育委員会を通じて委託を受け、財団法人岐阜県文化財保護センターが実施した。
3. 発掘調査は、平成7年度に実施し、渡辺誠名古屋大学文学部教授の指導のもとに上嶋善治と上原真昭が担当した。
4. 本書に記載した遺物の実測は、次の者が主に行った。

土器（拓本含む）白石和代 上原恭子 谷口尚子 飯塚八十子 黒田美奈子 丸山道代  
和座雅子 牛丸富士子 清田由美子 所 洋子 田村由美子

石器・石製品 田村由美子 谷口尚子 上出巳吉 上嶋善治

土製品 古田奈緒子

5. 遺構図面・遺物実測図のトレースは次の者が主に行った。

谷口尚子 田村由美子

6. 遺物の写真撮影は野村宗作が行った。

7. 本書の執筆は、第2章第1節は清見村立清見小学校教頭岩田修氏に玉稿を賜った。第3章第4節3および第4章第4節3は古田奈緒子が、第3章第5節3は千藤克彦が執筆し、他は上嶋が執筆した。自然科学的分析に関しては、それぞれ執筆者名を明記した。編集は上嶋が行った。

8. 事前地形測量は株式会社コンサルタントに委託して行った。

9. 空中写真撮影は株式会社イビソクに委託して行った。

10. 花粉分析・大型植物化石の同定・炭化材の同定・年代測定は、株式会社パレオ・ラボに委託して行った。

11. 発掘調査及び報告書の作成にあたって次の方々や諸機関からご助言・ご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。（敬称略・順不同）

山田昌久 高橋孝助 林 直樹 伊藤正人 野口哲也 川合 剛 小島俊彰 戸田哲也  
岩田 修 吉朝則富 藤本健三

12. 発掘調査作業ならびに調査記録及び出土品の整理等には、次の方々の参加・協力を得た。

古田奈緒子 稲本 喬 岩佐 勇 黒木明三 清水佐市 白田良恵 白田清子 白石和代  
田中靖久 竹本朋生 矢島和子 上村かな枝 山田博子 上原恭子 片桐一雄 沢之向 保  
太江哲夫 谷口尚子 西田幸平 西田正三 鶴見 博 中曾裕子 山本良秋 長瀬つや子  
小島浩之 飯塚八十子 伊藤世志光 大平 勇 川浦 泉 高橋公芳 高橋なよ 高原みか  
黒田美奈子 丸山道代 井端隆博 上野 稔 瓜田英明 志田縫子 白川良平 新明久夫  
峠 明美 中谷義男 三村昇子 森下宏明 森下佳博 和座雅子 新家正次 清水 武  
中村映子 牛丸富士子 清田由美子 所 洋子 坊田洋子 田村由美子

13. 遺構記号は次の通りである。SB：住居址 SF：焼土址 SK：土坑 P：ピット

14. 土層および遺物の色調観察は、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖』（1993）を参照した。

15. 調査記録及び出土品は、財団法人岐阜県文化財保護センターで保管している。

# 目 次

序

例言

第1章 発掘調査の経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の経緯	2
第2章 遺跡の環境	4
第1節 地形・地質環境	4
第2節 歴史的環境	8
第3章 A地点の調査	13
第1節 調査の概要	13
第2節 基本的層序	15
第3節 遺構	26
第4節 遺物	36
第5節 自然科学的分析	103
第4章 B地点の調査	113
第1節 調査の概要	113
第2節 基本的層序	114
第3節 遺構	117
第4節 遺物	119
第5章 C地点の調査	136
第1節 調査の概要	136
第2節 基本的層序	138
第3節 遺構	138
第4節 遺物	146
第5節 自然科学的分析	167
第6章 まとめ	171
第1節 発掘調査の成果	171
第2節 水さらし場遺構について	171
第3節 繩文晩期後半の土器について	173
引用・参考文献	177

## 図版目次

- 図版1 1. 遺跡遠景 2. A地点遠景 3. A地点発掘前の状況
- 図版2 1. A地点全景 2. A地点作業風景 3. A地点H5杭西側セクション  
4. A地点G3区東壁セクション 5. A地点第1トレンチ 6. A地点第2トレンチ
- 図版3 1. A地点竪穴住居址 2. A地点SF5とその周辺 3. A地点土坑  
4. A地点クルミ集中出土地点
- 図版4 1. A地点水さらし場遺構 2. A地点水さらし場遺構セクション  
3. A地点D5区遺物出土状況
- 図版5 1・2. A地点竪穴住居址出土の縄文土器 3. A地点水さらし場遺構出土の縄文土器  
4・5. A地点D5区出土の縄文土器
- 図版6 1・2. A地点D5区出土の縄文土器
- 図版7 1. A地点包含層出土の縄文土器（第V層） 2. A地点包含層出土の縄文土器（CⅠ群）
- 図版8 1. A地点包含層出土の縄文土器（CⅠ群）  
2. A地点包含層出土の縄文土器（CⅡ・CⅢ群）
- 図版9 1・2. A地点包含層出土の縄文土器（CⅣ群）
- 図版10 1. A地点包含層出土の縄文土器（BⅠ群）  
2. A地点包含層出土の縄文土器（BⅠ群）
- 図版11 1～3. A地点包含層出土の縄文土器（BⅠ群）  
4. A地点包含層出土の縄文土器（BⅡ群）
- 図版12 1～5. A地点包含層出土の縄文土器（BⅢ群）
- 図版13 1・2. A地点包含層出土の縄文土器（BⅢ群）
- 図版14 1・2. A地点包含層出土の縄文土器（BⅢ群）
- 図版15 1・2. A地点包含層出土の石器類
- 図版16 1・2. A地点包含層出土の石器類
- 図版17 1～5. A地点包含層出土の石器類
- 図版18 1～3. A地点出土の石製品 4. A地点出土の土製品
- 図版19 産出した花粉化石
- 図版20 産出した花粉化石
- 図版21 出土した大型植物化石
- 図版22 1. ヨツメトビケラ属 2・3. コエグリトビケラ属 4・5. ヒメコガネ  
6. クロマルエンマコガネ 7. クロアシナガコガネ
- 図版23 8. クシコメツキ 9. キクビアオハムシ 10. クワハムシ 11. ドウガネツヤハムシ  
12. ホソネクイハムシ 13. クロオオアリ 14. 双翅目
- 図版24 1. B地点遠景 2. B地点全景 3. B地点作業風景
- 図版25 1. B地点F12区東壁 2. B地点石組み遺構 3. B地点遺物出土状況
- 図版26 1. B地点遺構出土の縄文土器 2・3. B地点包含層出土の縄文土器（第IV～V層）

- 図版27 1・2. B地点包含層出土の縄文土器
- 図版28 1・2. B地点包含層出土の縄文土器
- 図版29 1・2. B地点出土の石器
- 図版30 1. B地点出土の石器 2. B地点黒曜石集中出土剥片類 3. B地点出土の土製品
- 図版31 1. C地点遠景 2. C地点発掘前の状況 3. C地点作業風景
- 図版32 1. C地点全景 2. C地点炭化材集中出土地点 3. C地点巨大炭化木  
4. C地点遺物出土状況
- 図版33 1. C地点遺構出土の縄文土器 2. C地点包含層出土の縄文土器
- 図版34 1~3. C地点包含層出土の縄文土器
- 図版35 1・2. C地点包含層出土の縄文土器
- 図版36 1. C地点包含層出土の縄文土器 2. C地点出土の石器
- 図版37 1・2. C地点出土の石器
- 図版38 カクシクレ遺跡C地点出土木材の樹種
- 図版39 カクシクレ遺跡C地点出土木材の樹種
- 図版40 カクシクレ遺跡C地点出土木材の樹種

## 挿 図 目 次

第1図 カクシクレ遺跡の位置	1
第2図 カクシクレ遺跡（五味原）付近の地形区分	5
第3図 カクシクレ遺跡付近の模式的断面図	6
第4図 遺跡周辺の地質図	7
第5図 荒城川水系の縄文遺跡	10
第6図 カクシクレ遺跡出土の石器類	12
第7図 A地点周辺地形図	13
第8図 A地点地区設定図	14
第9図 A地点土層図(1)	17
第10図 A地点土層図(2)	18
第11図 A地点土層図(3)	19
第12図 A地点土層図(4)	20
第13図 A地点地形測量図	21
第14図 A地点遺構配置図	23
第15図 A地点竪穴住居址	25
第16図 A地点竪穴住居址遺物出土状況	26
第17図 A地点竪穴住居址の炉	27
第18図 A地点 SF 4・SF 5周辺	28

第19図 A地点焼土址	29
第20図 A地点土坑	30
第21図 A地点水さらし場遺構周辺	34
第22図 A地点水さらし場遺構	35
第23図 A地点遺物出土状況	37
第24図 A地点遺構出土の縄文土器(1)	38
第25図 A地点遺構出土の縄文土器(2)	39
第26図 A地点遺構出土の縄文土器(3)	40
第27図 A地点D 5区出土の縄文土器(1)	41
第28図 A地点D 5区出土の縄文土器(2)	42
第29図 A地点D 5区出土の縄文土器(3)	43
第30図 A地点包含層出土の縄文土器(1)第V層	44
第31図 A地点包含層出土の縄文土器(2)C I群1類	45
第32図 A地点包含層出土の縄文土器(3)C I群1・2類	46
第33図 A地点包含層出土の縄文土器(4)C I群3類、C II群1・2類	47
第34図 A地点包含層出土の縄文土器(5)C II群3類	49
第35図 A地点包含層出土の縄文土器(6)C III群	50
第36図 A地点包含層出土の縄文土器(7)C IV群1類	51
第37図 A地点包含層出土の縄文土器(8)C IV群2~4類	52
第38図 A地点包含層出土の縄文土器(9)B I群1~5類	54
第39図 A地点包含層出土の縄文土器(10)B I群6・7類	55
第40図 A地点包含層出土の縄文土器(11)B II群	56
第41図 A地点包含層出土の縄文土器(12)B III群1類	58
第42図 A地点包含層出土の縄文土器(13)B III群2類	59
第43図 A地点包含層出土の縄文土器(14)B III群2類	60
第44図 A地点包含層出土の縄文土器(15)B III群2類	61
第45図 A地点包含層出土の縄文土器(16)B III群2類	62
第46図 A地点包含層出土の縄文土器(17)B III群3類	63
第47図 A地点包含層出土の縄文土器(18)B III群3類	64
第48図 A地点包含層出土の縄文土器(19)B III群4・5類	64
第49図 A地点遺構出土の石器(1)	74
第50図 A地点遺構出土の石器(2)	75
第51図 A地点包含層出土の石器(1)	77
第52図 A地点包含層出土の石器(2)	80
第53図 A地点包含層出土の石器(3)	81
第54図 A地点包含層出土の石器(4)	82
第55図 A地点包含層出土の石器(5)	84

第56図	A地点包含層出土の石器(6).....	85
第57図	A地点包含層出土の石器(7).....	86
第58図	A地点包含層出土の石器(8).....	87
第59図	A地点包含層出土の石器(9).....	88
第60図	A地点包含層出土の石器(10).....	89
第61図	A地点包含層出土の石器(11).....	90
第62図	A地点出土の石製品 .....	100
第63図	A地点出土の土製品 .....	102
第64図	花粉化石分布図 .....	106
第65図	B地点周辺地形図 .....	113
第66図	B地点地区設定図 .....	114
第67図	B地点土層図(1) .....	115
第68図	B地点土層図(2) .....	116
第69図	B地点石組み遺構 .....	116
第70図	B地点ピット .....	117
第71図	B地点ピット群 .....	118
第72図	B地点遺構出土の縄文土器 .....	119
第73図	B地点包含層出土の縄文土器(1)第IV～V層 .....	120
第74図	B地点包含層出土の縄文土器(2)第IV層 .....	121
第75図	B地点包含層出土の縄文土器(3)I群1・2類 .....	123
第76図	B地点包含層出土の縄文土器(4)I群3類、II群 .....	124
第77図	B地点包含層出土の縄文土器(5)III群1類 .....	125
第78図	B地点包含層出土の縄文土器(6)III群2類 .....	126
第79図	B地点出土の石器(1) .....	130
第80図	B地点出土の石器(2) .....	132
第81図	B地点出土の土製品 .....	133
第82図	C地点周辺地形図 .....	136
第83図	C地点地区設定図 .....	137
第84図	C地点土層図(1) .....	139
第85図	C地点土層図(2) .....	140
第86図	C地点土層図(3) .....	141
第87図	C地点遺構配置図 .....	142
第88図	C地点土坑 .....	143
第89図	C地点巨大炭化木 .....	144
第90図	C地点炭化材集中出土地点 .....	145
第91図	C地点遺物出土状況 .....	146
第92図	C地点遺構出土の縄文土器 .....	147

第93図	C地点包含層出土の縄文土器(1)第V層、第IV層	148
第94図	C地点包含層出土の縄文土器(2)I群1・2類	150
第95図	C地点包含層出土の縄文土器(3)I群2類、II群	151
第96図	C地点包含層出土の縄文土器(4)III群1類	152
第97図	C地点包含層出土の縄文土器(5)III群2類	153
第98図	C地点包含層出土の縄文土器(6)III群3類	154
第99図	C地点包含層出土の縄文土器(7)III群3類	155
第100図	C地点出土の石器(1)	160
第101図	C地点出土の石器(2)	161
第102図	C地点出土の石器(3)	162
第103図	C地点出土の石器(4)	163
第104図	栗林遺跡の水さらし場状遺構	172
第105図	飛驒における縄文晩期後半の土器	175

## 表 目 次

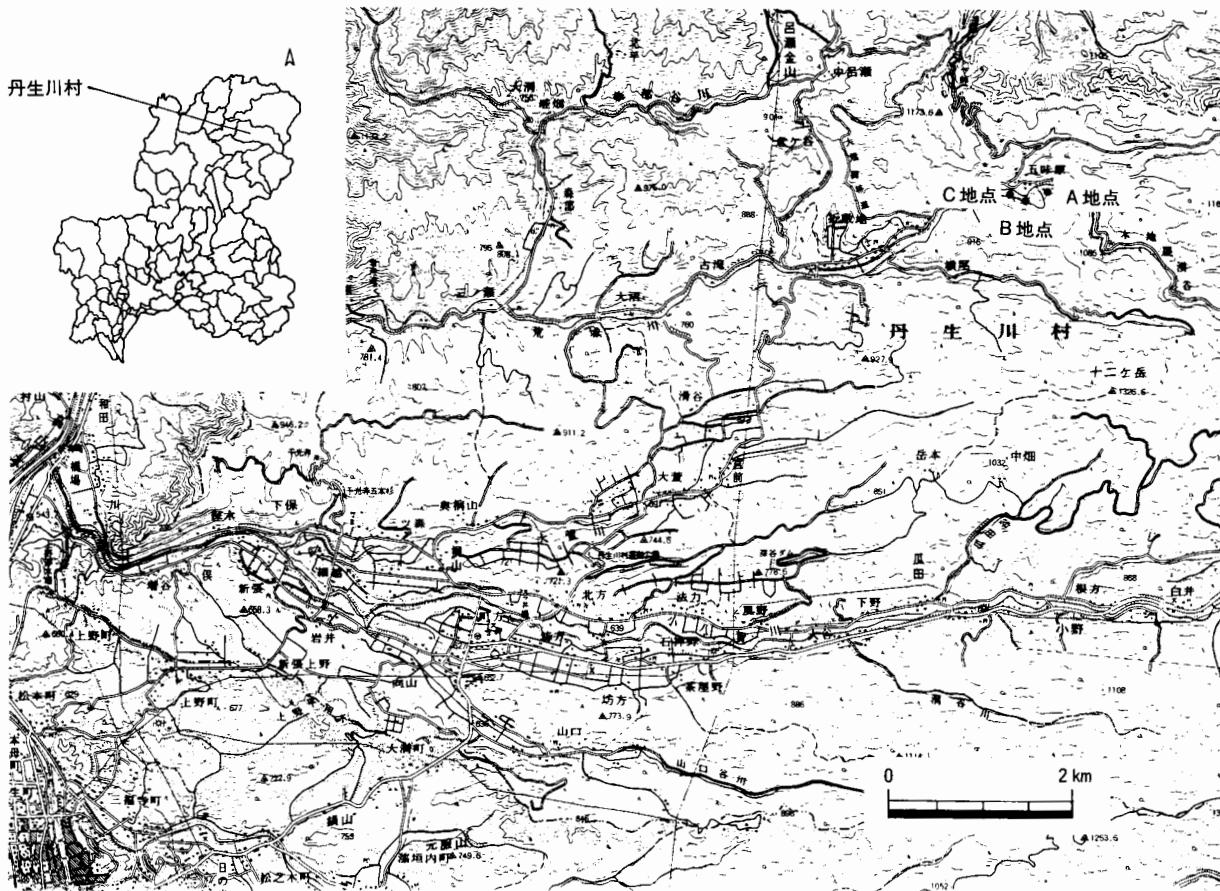
第1表	荒城川水系の縄文遺跡	11
第2表	A地点ピット一覧表	31
第3表	A地点縄文土器観察表	65
第4表	A地点石器一覧表	91
第5表	花粉化石一覧表	105
第6表	水さらし場遺構内堆積物から出土した大型植物化石	108
第7表	カクシクレ遺跡 水さらし場遺構出土昆虫遺体	112
第8表	B地点縄文土器観察表	127
第9表	B地点石器一覧表	134
第10表	C地点縄文土器観察表	156
第11表	C地点石器一覧表	164
第12表	カクシクレ遺跡C地点から出土した木材の樹種	170

## 第1章 発掘調査の経緯

## 第1節 調査に至る経緯

今回の発掘調査でカクシクレ遺跡が対象となったのは、岐阜県宮川上流河川開発工事事務所による丹生川ダム建設による。丹生川ダム水没地内埋蔵文化財緊急発掘調査の経緯については「西田遺跡」の発掘調査報告書にて詳述されているので割愛する。平成5年度に岐阜県文化財保護センターによって丹生川ダム水没地内埋蔵文化財緊急発掘調査が開始された時点では、カクシクレ遺跡は從来から知られていた地点の2,400m<sup>2</sup>の調査を予定していた。周辺地域において遺跡の広がりを確認する必要から、荒城川左岸の58か所にトレーナーを入れることになり、平成5年6月7日に小型重機を利用して試掘を行った。その結果、縄文土器片と石器の出土した地点を中心に、新たに遺跡の広がりを確認することができた。そこで、從来から知られていた地点をカクシクレ遺跡A地点とし、新たに確認された地点は、東から同じくB地点(1,000m<sup>2</sup>)、C地点(3,000m<sup>2</sup>)として発掘調査を行うことになった。

発掘調査は、A地点の調査とB・C地点の調査の2班体制とした。それぞれの発掘区の設定等については調査の概要にて記述する。



第1図 カクシクレ遺跡の位置

## 第2節 発掘調査の経緯

4月28日に調査始め式を実施し、B・C地点の発掘調査を先行させ、A地点の発掘調査はやや遅らせた。現地での発掘調査は11月17日に終了した。以下、まずB地点およびC地点の発掘調査の経緯を週ごとにまとめて記述し、つづいて、A地点の発掘調査について同様に記述する。

### カクシクレ遺跡B・C地点の発掘調査の経緯

第1～5週(4.28～5.26) 連休明けより発掘準備にとりかかり、プレハブをC地点に設置した。重機による表土剥ぎをB・C両地点で行い、5月26日にはC地点のグリッド杭を打ち終えた。

第6～8週(5.29～6.16) C地点の南西部分の整地作業から始めた。第6週には無文の縄文土器片数点が出土。H3区～G3区東側、H7区～E7区東側、E5区南側に土層確認のためトレンチを入れた結果、桑畑造成時の削平痕や攪乱が随所に見られた。第7週から、H列を中心に掘り始めるが出土する土器片等は、磨耗が著しく二次的な堆積によるものと思われた。

第9～12週(6.19～7.14) C地点の調査を続けた。6月22日、F5区より黒曜石製の石鏃が出土した。II層より打製石斧や剝片類が出土するようになった。7月に入り連日の雨で、休業日が多くなり、湧水が止まらないため特に北西区の作業は困難となった。第12週に、D1区III層より土器片が多数出土したため、北西部分の調査範囲を拡大し表土剥ぎを行った。

第13～15週(7.17～8.4) C地点の調査を続けた。F列、G列、H列はII層で完掘となり、北西区のIII層の調査が中心となった。湧水が止まらず作業は難航した。7月27日よりB地点の調査を開始した。B地点の西区では、砂層から縄文後期の土器片が多数出土した。D3区黒色土層より土偶頭部が出土。8月再びC地点の調査を再開。D1区III層より縄文後期の土器がまとまって出土し始めた。

第16～19週(8.7～9.1) C地点の調査を続けた。8月9日、丹生川ダム関連発掘調査現場において第4回タイムスリップ探検隊を実施(192名参加)。B地点では、28名が発掘体験学習を行う。8月14日より1週間(第17週)は夏季休業。C地点D4区II層において、炭化した巨木を検出した。

第20～22週(9.4～9.22) C地点の調査を続けた。D1区の南および西区を拡張する。D0区III層より、縄文後期の遺物がまとまって出土。D1区で土坑2基を検出。

第23・24週(9.25～10.6) C地点ではB5区より縄文晩期の土器片が出土。9月28日より、B地点の調査を再開した。B地点のB5区周辺より炭化クルミ片を検出。10月5日、B地点東区では纖維を含む土器片が出土した(F11区V層)。

第25～27週(10.9～10.27) B、C両地点の調査を並行して実施した。10月18日に空中写真撮影を行った。第26週に入ってC地点のC0区の谷部分から炭化木片等を検出(SX6)。第27週、B地点B列V層で黒曜石チップ、擦切磨製石斧、縄文中期初頭の土器片等がまとまって出土。

第28～30週(10.30～11.1) B地点西区、C地点SX6の調査を続行した。10月31日、B地点D6区IV層から口縁部を欠く縄文中期土器一個体が出土。B地点V層の遺物集中区およびC地点のSX4とSX6の実測図の作成を行う。11月9日には40cmの積雪があり、テントの除雪をする。11月16日に現地調査をすべて終え、翌17日に遺物等の引っ越し作業を終了した。

### カクシクレ遺跡A地点の発掘調査の経緯

第5～8週(5.24～6.16) 5月24日から、重機による表土剥ぎを行った。表土を剥いだ段階すでに地山に達する地点もあった。また、暗渠部分の掘削をした結果、谷地形が埋没していることが判明した。5月31日までにプレハブの設営等も行い、6月5日に杭打ちを行った。

第9週(6.19～6.23) 用具の搬入を行い、調査区の南側G～I列の掘削から開始した。まずI・II層の除去を行い、つづいて遺物包含層であるIII層の掘削を行った。

第10週(6.26～6.30) 掘削範囲をF列まで広げた。I4区は、黒色土が厚く堆積しているが、遺物はごく少量であった。H4区で焼土址を検出した(SF1)。

第11・12週(7.3～7.14) 雨天の日が多く、作業日数は少ない。F5区からG5区にかけて遺物が多い。掘削範囲をD・E列まで広げた。

第13・14週(7.17～7.28) 引き続き雨天の日が多い。重機による表土剥ぎを6列から7列にかけて行った。6・7列の杭打ちを行い、手掘りによる掘削にかかった。B6区からC7区にかけては、遺物がほとんど出土しない。第1トレンチおよび第2トレンチの土層観察をした。

第15週(7.31～8.4) 5列目以西もB・C列まで掘削範囲を広げたが、遺物の量はわずかであった。グリッドの壁のセクションおよび、上記のトレンチのセクションの実測を行った。

第16～18週(8.7～8.25) 8月10日のタイムスリップ探検隊では、A地点には94名参加した。F6区でクリの炭化物が出土。G3区からH4区にかけて、住居址らしい掘り込みを確認する(SB1)。G4区の焼土址(SF2)の実測・写真撮影を行い、掘り下げることにした。SB1を掘削した。埋土の黒色土を除去すると、擂鉢状を呈した。住居址ではない可能性も出てきたが、トレンチを入れて覆土を確認し、掘り下げることにした。D5区で浮線文の土器が出土する。

第19・20週(8.28～9.8) F7区で玉が出土。SB1で炉の一部を確認した。H4区では、縄文中期の土器が多く出土。F6区からG7区にかけて、ピットや焼土址を検出した。

第21・22週(9.11～9.22) G5区およびピット(P19)から土偶片が出土。G・H列の遺構検出にかかった。SB1で柱穴を確認した。G4区で黒色土の広がりがあり、サブトレンチを入れた。

第23週(9.25～9.29) F4～G4区で、板状の木が方形に区画された所を検出した(SE1)。のちに「水さらし場遺構」と名づけた。F6～G7区のピット群を観察すると、SF4およびSF5のまわりにピットが巡っている様子が見て取れることから住居址の可能性も考慮に入れることにした。

第24・25週(10.2～10.13) SE1周辺の調査を行い、クルミの集中地点を検出した。SE1内の花粉分析および大型植物遺体同定の試料のサンプルを採集した。ピット群の掘削および実測を行った。土坑を検出し、クルミ・トチ等が出土した。10月14日に現地説明会を実施した。

第26・27週(10.16～10.27) SE1の北側の2枚の板は1枚がずれて落ちたように重なっていることが判明した。10月18日に空中撮影を行った。その後IV層の除去およびV層の掘削を行った。遺物の出土はわずかであるが、押型文土器など縄文早期の遺物が見つかった。

第28・29週(10.30～11.10) V層の掘削およびSE1周辺の調査を行い、それに伴う実測・写真撮影を行ってA地点の調査を終了した。

以後、財団法人岐阜県文化財保護センター飛驒出張所にて整理作業に入った。

## 第2章 遺跡の環境

### 第1節 地形・地質環境

#### 1. はじめに

荒城川上流には、さまざまな種類の岩石が分布し、その上を大規模な火碎流堆積物がおおうことによって更に複雑な地形を形成している。大地の変動による隆起や地表の変化と荒城川の急流が篆刻する谷とが急峻な地形を形作っている。そんな中で、小規模な緩やかな地域が河川の周辺に分布する。カクシクレ遺跡は、山中のわずかな平坦地に、水と日当たりと周辺の豊かな自然の恵みの中に位置しているのである。

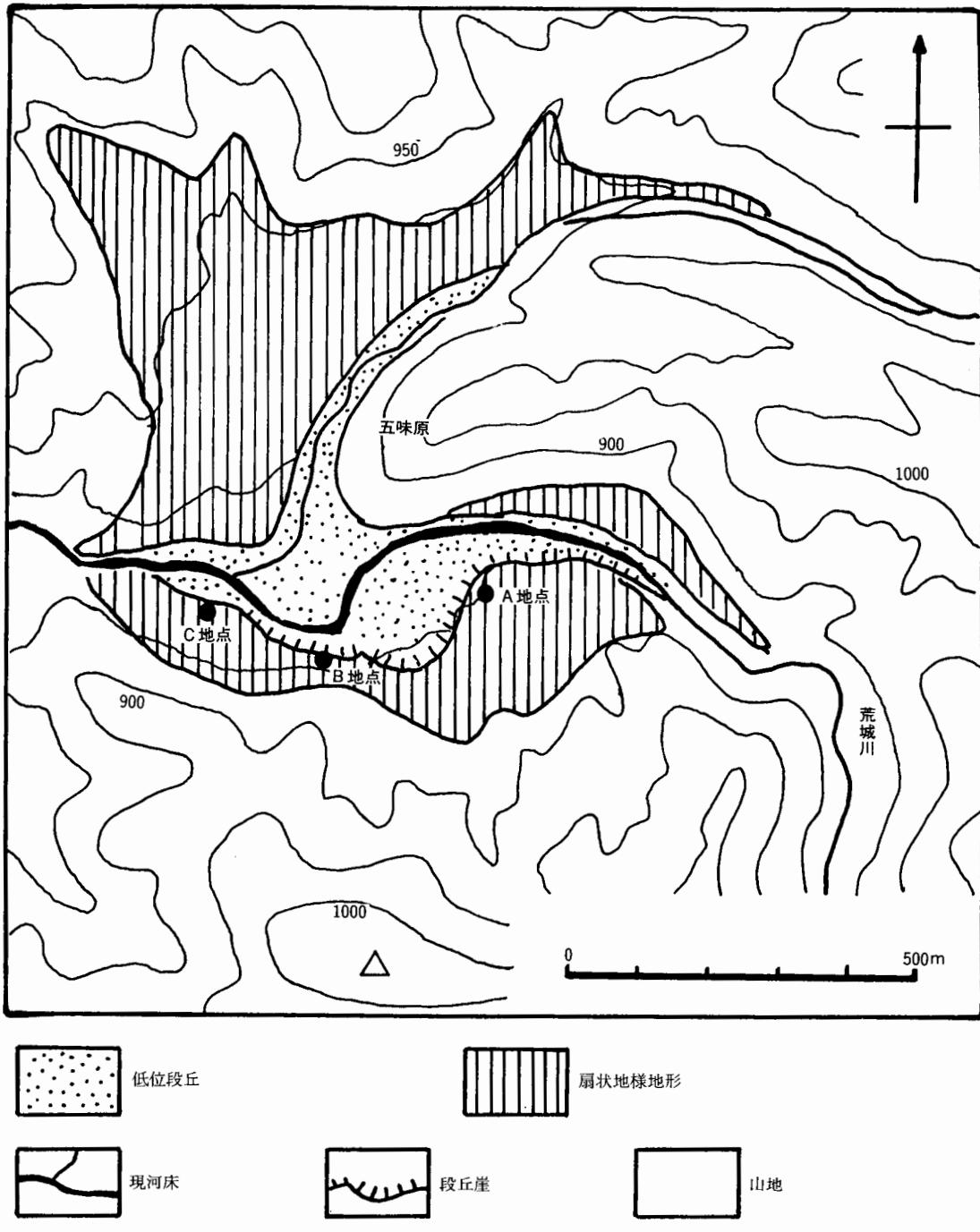
#### 2. 地形的特徴

荒城川本流と主な支流である大脇谷との合流地点付近に五味原の平坦地がある(第2図)。これより荒城川上流には、木地屋集落跡地にごく小規模の平坦地があるだけで、五味原が最上流の集落といえるだろう。五味原より下流には、折敷地が広い集落を形成し、さらに下流では谷が迫り、荒城神社付近になるまでほとんど平坦地が発達していない。荒城神社より下流では河岸段丘が発達し、やがて古川町で宮川と合流する。このように、現在においても五味原は人里離れた山里であり、山地の中でのわずかな耕地を耕して人々は生活していたのである。

この平坦地は、カクシクレ付近においては、2種類に分類される(第2図)。荒城川のすぐ両岸には荒城川の河川の働きによる低位の河岸段丘が見られる。現河川からの比高2~3mと低く、あまり発達していない。これより山地側には明確な段丘崖(比高8~10m)を境界にして緩斜面が発達している。この緩斜面は、分類すると扇状地様であるが、谷の発達がすこぶる悪いので砂礫の生産が少ない。それより小さな礫や土壌が多くなっている。大規模な土石流によって形成された緩斜面ではなく、風化されやすい岩石が土壌化したり細礫になったりして堆積していったと考える。礫はほとんど完全な角礫状であり、水流による円礫化の兆候は見当たらない。

第3図は、カクシクレ遺跡付近の模式的断面図である。細礫・巨礫・土壌が境界を不明瞭な状態で堆積している様子を示した。層として明確でなく、連続もよくない。土壌が1m以上堆積していることがあり、それをよく見ると細礫が配列していることから、緩やかな水流が関与していることが認められる。また、これらの堆積物を削って巨礫が帶状に配列しているのが見られた。これは、土壌などが堆積した後、部分的な谷川が地表を削って流れたことを示している。谷川は水量は多くないとしても生活していく上には十分であったことはこのような堆積物の状態から窺うことができる。

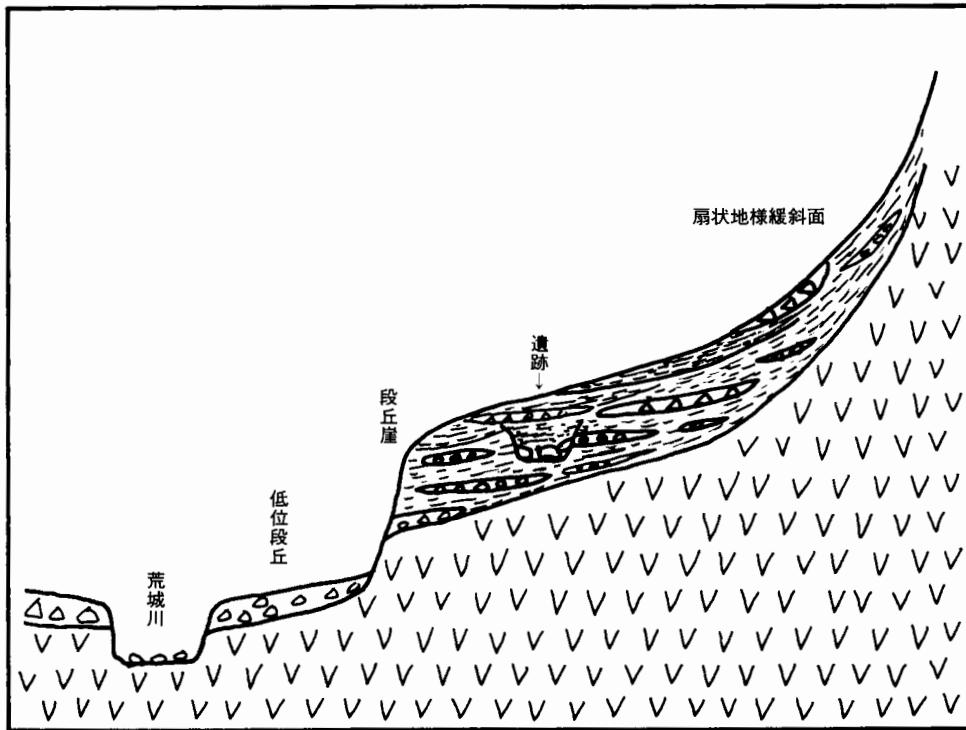
このような緩斜面が形成された時代については、ほとんど対岸といえる牛垣内遺跡の上の所で約4万4000年前に噴火したDKP(大山倉吉火山灰層)、より低位の牛垣内遺跡下の畠地からは6500年前のアカホヤ火山灰層が確認されているので、カクシクレ遺跡のこのような地形も4、5万年前から形成が始まったといえるだろう。普通このような地形は、2万年前に終了した最終氷期との関連で言及されるのだが、それから考えるとやや古いような印象を受ける。



第2図 カクシクレ遺跡（五味原）付近の地形区分

現在、この辺りの荒城川の河床には岩盤が露出しているので、全体的に侵食環境にある。低位段丘崖が比高最大で5mとすると、この値は下流の荒城神社付近と比べてやや大きいがこの付近の侵食力の大きさから考えると妥当な高さといえよう。この低位段丘は、荒城神社付近とそれより下流の低位段丘に対比される。この段丘面には縄文中期の遺跡があることから、後氷期の完新世に入る1万年前以降に形成されたと考えられる。また、カクシクレ遺跡の上にも堆積物がのっていることからこのような地形はずっと形成されてきた。

荒城川流域には、低位段丘はよく発達しているが、中位段丘やこのような扇状地状の緩斜面はあまり見られない。五味原の緩斜面の成因については今後もっと調べてみる必要がある。



第3図 カクシクレ遺跡付近の模式的断面図

### 3. 地質的特徴

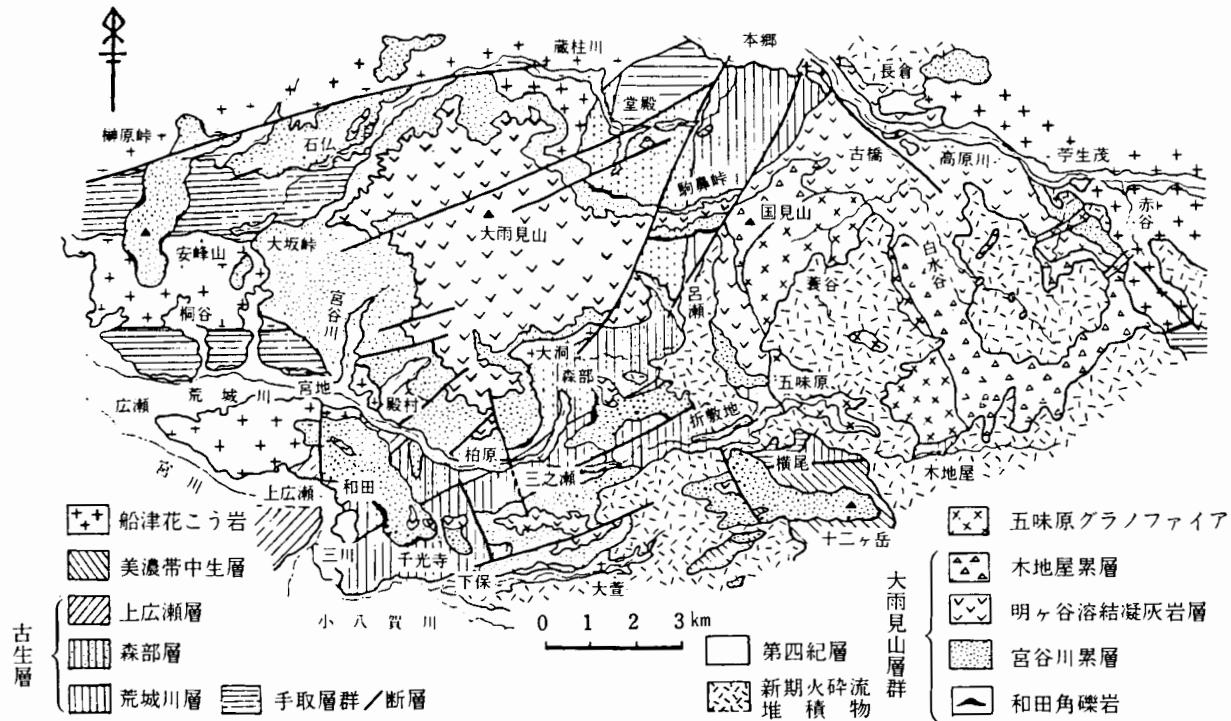
この付近の地質は、笠原芳雄氏がよく調べている(第4図)。カクシクレ遺跡は、大雨見山層群中の酸性火山岩である明ヶ谷溶結凝灰岩層の分布域と思われる。明ヶ谷溶結凝灰岩層の特徴は、笠原氏によれば、最大層厚300mであり、流紋ディサイト～流紋岩で、粗粒のカリ長石・石英・斜長石・黒雲母・单斜輝石などの鉱物を含んでいる。少し上流側には、上宝火碎流堆積物が広く分布している。また、周辺には古生層の荒城川層が見られ、河川の礫中にも緑色岩、泥岩などが多く存在している。五味原グラノファイアも分布している。

石器や炉石に上宝火碎流堆積物は使用しないで、大雨見山層群の流紋岩類はよく利用していた。大雨見山層群の岩石の細かい分類はできないが、溶結構造の顕著なものから非常に緻密なものまで、みかけは多様である。

溶結構造の発達した、多孔質の溶結凝灰岩は風化されやすくもろい岩石になってしまふ。粘土化・土壤化はかなり深くまで進行している。このことは、カクシクレ遺跡を置くこの緩斜面はかなり安定した数万年というかなり長い年月で形成されたと考えてよいのではないか。これに対して対岸の牛垣内遺跡付近などは土石流の発生があったことを思わせる。

### 4.まとめ

五味原付近は急流の荒城川上流の中でやや傾斜が緩くなる地域であり、平坦面が発達している。この平坦面は、カクシクレ遺跡がある荒城川左岸では土壤や粒径の小さな堆積物がほとんどで、土石流で堆積したような環境にはなかった。長い年月をかけて形成されたことを物語っている。低位段丘とは明確な段丘崖で境されているので、ここで何かイベントが生じたことは確かである。それが、後氷



第4図 遺跡周辺の地質図 (笠原1988より)

期のような気候変動によるものかどうかははっきりさせなければならない。また、何故五味原付近がそうなるのかについては今後さらに追求していく必要がある。

カクシクレ遺跡は、このように安定したやや台地状の緩斜面に位置し、日当たりや小さな谷川が適度の水量であったこと、周囲は山地であったことから、縄文時代においては生活の舞台としてふさわしい場所でなかったかと考えられる。

石材としては、上宝火碎流堆積物や大雨見山層群の酸性火山岩という火山岩を中心の地域である。大雨見山層群の岩石は炉石などに利用されているし打製石斧のようなものには利用できるが、精密な加工には使われない。そのために他から持ち込まれたのである。

#### 〈参考文献〉

- 笠原 芳雄(1988)「大見雨層群—飛驒外縁帶の白亜紀末期の湖成層と火碎流堆積物—  
『飛驒の大地をさぐる』(教育出版文化協会)

## 第2節 歴史的環境

カクシクレ遺跡が所在する岐阜県大野郡丹生川村折敷地の五味原地区は、宮川の支流荒城川の最上流部に位置する。歴史的な環境については、同じ五味原遺跡群の西田遺跡の報告書で丹生川村における縄文遺跡を中心にその概要等について述べている。ここでは、荒城川水系に地域を限定し縄文時代の遺跡の概要を述べたい。

荒城川は、北アルプスの乗鞍岳に源を発して、大野郡丹生川村、吉城郡国府町を経て、吉城郡古川町にて宮川と合流する。丹生川村から国府町にかけての縄文遺跡を列挙すると、第5図および第1表のようになる。ただし、これは、岐阜県遺跡地図（岐阜県教委1990）を中心に作成したものに、丹生川村折敷地地区における試掘調査によって明らかにされた遺跡と、国府町内で発掘調査された遺跡を加えたものである。国府町教育委員会による遺跡詳細分布調査の結果が報告されているが（国府町教委1993）、そこで新たに掲載された遺跡は呈示していない。

遺跡分布を見ると、地形的には、国府町内に広がる平野部に遺跡が散在する。丹生川村内に入ると、山間部に入り、柏原や折敷地の平坦地が見られる地域に遺跡が限定されてくる。そして、五味原地区に至る。以下、時期ごとに概観するが、丹生川ダム関連の遺跡については、詳細がそれぞれ別に報告書が刊行される予定なので、簡略に記述する。

草創期の様相は不明であるが、早期の遺跡としては、西田遺跡が注目される。押型文系土器、条痕文系土器などを中心とする早期後葉の土器が大量に出土した。これらは、該期の飛驒地区および全国的な編年の基準資料になり得るものである。さらに、焼礫集石遺構が約70基検出されている。

近接する牛垣内遺跡では、西田遺跡と様相の異なる押型文土器が出土しており、同じく西田遺跡の西方に位置する丸山遺跡からも、条痕文系土器が出土している。また、『岐阜県史』（大参ほか1972以下「県史」）によると、折敷地地内の滝垣内遺跡は、早期、中期の遺跡として知られている<sup>1)</sup>。

前期になると、西田遺跡で前葉の土器が出土している程度で不明な部分が多い。前期末から中期初等にかけての土器がカクシクレ遺跡B地点の第V層から出土している。

中期初頭から前葉にかけては、牛垣内遺跡や丸山遺跡に、竪穴住居址を伴う資料がある。現在整理作業中である。また、1990（平成2）年に国府町教育委員会によって発掘調査された南垣内遺跡は、5世紀初頭と推定される、直径20m前後の規模の周溝を有する円形の墳墓が見つかったことで有名な遺跡であるが、1号墳の中央部および東側に縄文中期の竪穴住居址が3軒検出された。出土した土器は、北陸系の中期初頭の土器と報告されている（岩花ほか1995）。つづく上山田式段階の土器が西田遺跡で出土している。また、信州系の中葉の土器として、いわゆる平出三Aが西田遺跡およびたのもと遺跡で出土している。

中期後半になると、カクシクレ遺跡でも1軒住居址が見つかっているが、牛垣内遺跡や、荒城神社遺跡、そして、森の木遺跡が注目される。森の木遺跡は、1987（昭和62）年に国府町教育委員会によって発掘調査された。中期後半の竪穴住居址が16軒検出され、複式炉も見つかっている。炉の中に土器を敷くものが4基あった。土器は、信州系が主体で、北陸系、関西系が混在している。荒城川の沖積面での中期の集落である（田中1992）。さらに、「県史」によると、八日町遺跡や漆垣内遺跡は、中期の遺跡で、打製石斧、磨製石斧等が出土している。

荒城神社遺跡は、中期後半から後期前半にかけての遺跡である。1993（平成5）年に、当センターが発掘調査を行った。竪穴住居址が4軒確認され、中期後半の埋甕などの土器や、後期前半の土器が出土している。詳細は報告書を参考にされたい（野村ほか1994）。

後期の遺跡としては、たのもと遺跡がある。後期前葉と考えられる資料がまとまって出土している。詳細は今後の調査による。また、中葉から後葉にかけては、カクシクレ遺跡B・C地点でも出土しているが、西田遺跡では、住居址を伴い、まとまった資料がある。また、西田遺跡では、土偶が70個体以上出土している。さらに、「県史」によると、柏原B地点遺跡は後期の遺跡とされており、石鏃・打製石斧・磨製石斧・石錐・土偶等が出土している。

晩期の遺跡としては、カクシクレ遺跡が古くから知られていた。「県史」では、一覧表に「晩期」と記されている。岐阜県教育委員会『岐阜県遺跡目録』（1962）では、「土器片（晩期）」と記されている。大野郡丹生川村史編纂委員会編『丹生川村史』（1962）では、「かくしきれ出土品」のタイトル<sup>2)</sup>で、「橋本岩三郎蔵」として、縄文晩期の土器片、磨製石斧、御物石器、石鏃、石錐等の遺物の写真が紹介されている。土器の中には、晩期後半の葺状突起も見られる。調査前に、橋本繁蔵氏所蔵の遺物を見ることができたが、その中に、同じ御物石器があった（第6図）<sup>3)</sup>。今回の発掘調査の成果は、後述するように、晩期前半の水さらし場遺構が検出され、また、晩期後半の土器がまとめて出土した。

また、西田遺跡では晩期前半の土器を中心に、牛垣内遺跡では、晩期後半の土器を中心に出土しており、いずれも飛驒地域での晩期土器の編年を研究する上で基準になる資料といえる。

五味原地区以外では、立石遺跡が注目される。国府町教育委員会によって、1994（平成6）年に発掘調査され、晩期後半の浮線文系の土器が大量に出土し、調査地点では、プラントオパールが検出されている。今後の整理・報告が期待される。また、柏原A地点遺跡（柏原神社遺跡）では、石冠が出土地している。

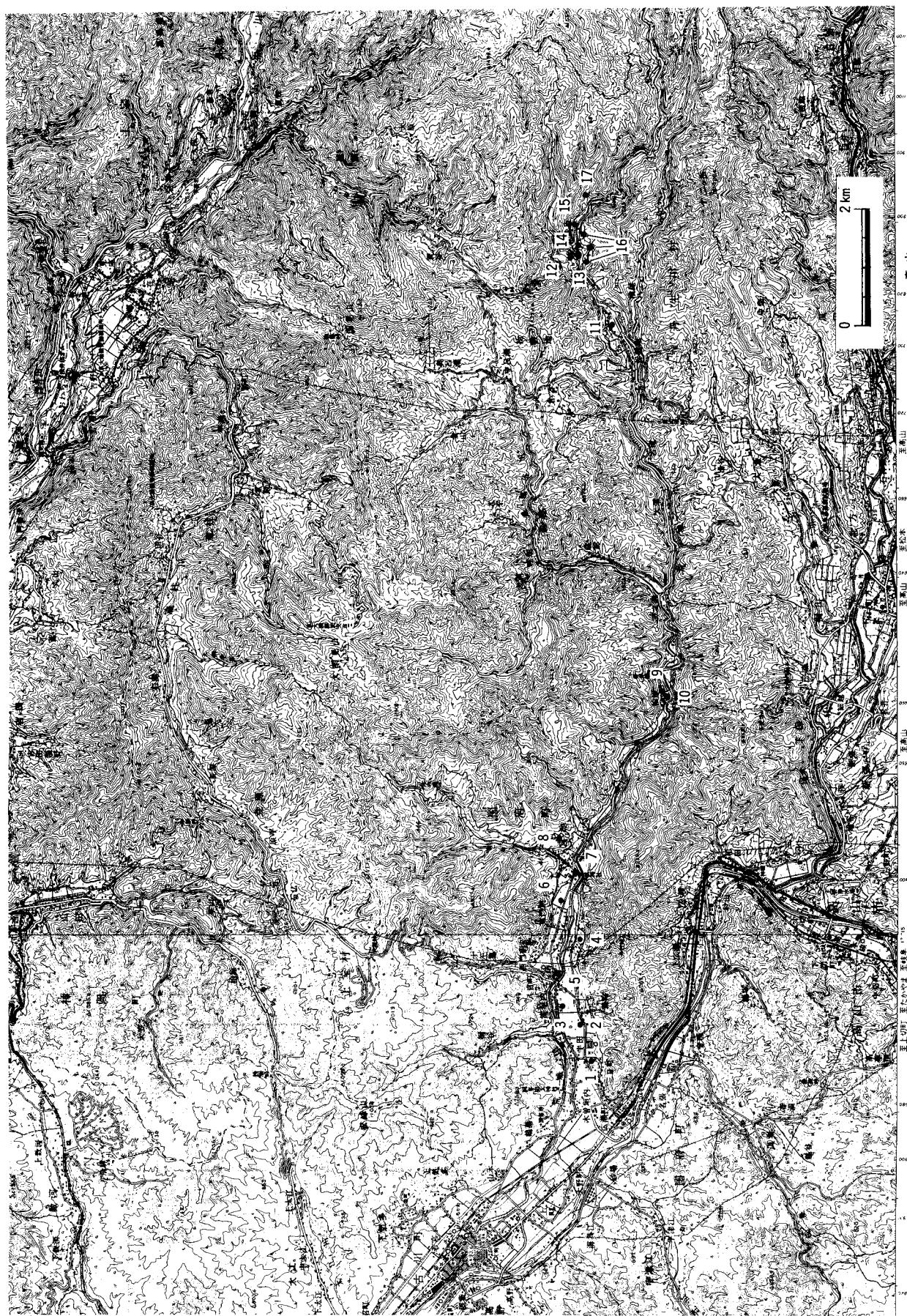
その他の遺跡としては、時期不明であるが、「県史」によると次のような遺跡が散在する。  
 三日町遺跡……………石鏃、打製石斧、磨製石斧、石冠、六頭石斧等の遺物が出土。  
 箕輪遺跡……………磨製石斧、石棒等の遺物が出土。  
 野瀬遺跡……………縄文土器片、石鏃、打製石斧、磨製石斧、石皿が出土。

以上、荒城川水系の縄文遺跡について概観したが、遺跡の分布から次のようなことが指摘できる。まず、五味原地区では、遺跡や地点を変えて、前期後半が未確認であるが、早期から晩期までほとんど切れ間がなくつづいている。

次に時期別に見ると、早期から前期にかけて、五味原地区に集落遺跡が確認されるが、中期から後期にかけて、南垣内遺跡、森の木遺跡や荒城神社遺跡など、平野部へ下りてきており、さらに、晩期後半になると、立石遺跡のように低湿地にまで進出して行く様子がわかる。

ただし、発掘調査された遺跡が地域的に限定されているので、今後の調査による部分が大きいことを付け加えておく。

第5図 荒城川水系の縄文遺跡



第1表 荒城川水系の縄文遺跡

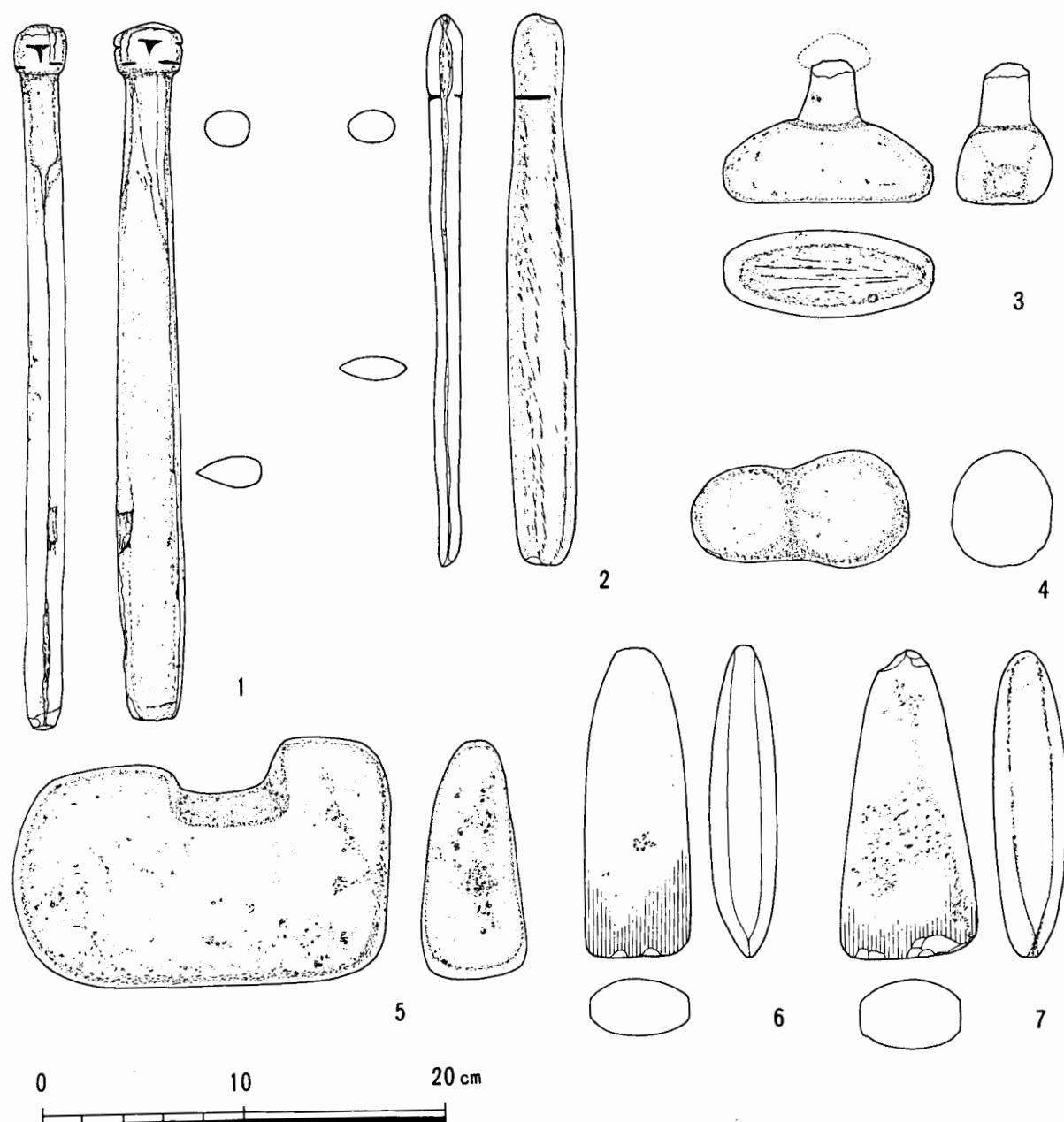
番号	遺跡名	所在地	備考(参考文献)
1	三日町遺跡	吉城郡国府町三日町	「地名表」「目録」「県史」
2	箕輪遺跡	吉城郡国府町箕輪	滅失「地名表」「目録」「県史」
3	立石遺跡	吉城郡国府町漆垣内字立石	
4	南垣内遺跡	吉城郡国府町今字南垣内	「岩花ほか1995」
5	八日町遺跡	吉城郡国府町八日町	滅失「地名表」「目録」「県史」
6	森の木遺跡	吉城郡国府町東門前森ノ木	1987年発掘調査「地名表」「目録」「県史」
7	荒城神社遺跡	吉城郡国府町宮地西垣内	1993年発掘調査 県史跡「野村ほか1994」
8	野瀬遺跡	吉城郡国府町宮地野瀬	滅失
9	柏原A地点遺跡	大野郡丹生川村柏原柏原神社内	「県史」
10	柏原B地点遺跡	大野郡丹生川村柏原	「地名表」「目録」「県史」
11	滝垣内遺跡	大野郡丹生川村折敷地	「地名表」「目録」「県史」
12	牛垣内遺跡	大野郡丹生川村折敷地字牛垣内	1994~95年発掘調査「目録」「県史」
13	丸山遺跡	大野郡丹生川村折敷地	1996年発掘調査
14	西田遺跡	大野郡丹生川村折敷地字西田	1993~94年発掘調査
15	たのもと遺跡	大野郡丹生川村折敷地	1996年発掘調査
16	カクシクレ遺跡	大野郡丹生川村折敷地字カクシクレ	1977年圃場整備により一部滅失 1995年発掘 「目録」「県史」
17	ナベリ谷遺跡	大野郡丹生川村折敷地字ナベリ谷	1989年発掘調査

「地名表」飛騨考古土俗学会1935『飛騨石器時代遺蹟地名表』

「目録」岐阜県教育委員会1962『岐阜県遺跡目録』

「県史」岐阜県編1972『岐阜県史』通史編原始

- 1) 滝垣内遺跡からは独鉛石が出土したと推定されているが、詳細は不明である（高山市教委1987）
- 2) 遺跡名に関しては「かくしきれ遺跡」と平仮名で表示されているものが多いが、字名より今回の発掘調査では、片仮名での「カクシクレ遺跡」と表記する。
- 3) 第6図は、吉朝則富氏の実測、トレースによるものであるが、氏のご協力でここに掲載する。

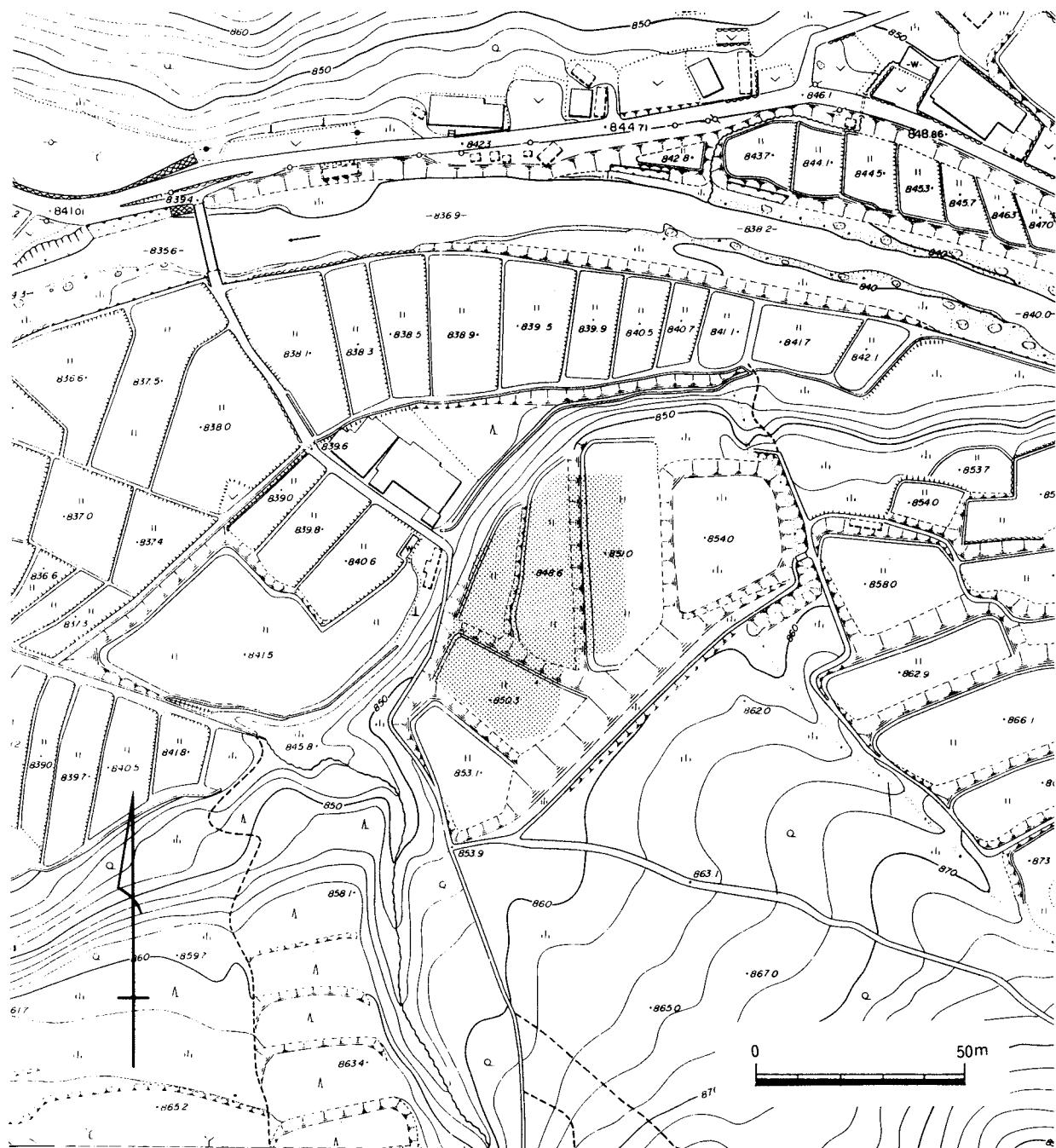


第6図 カクシクレ遺跡出土の石器類

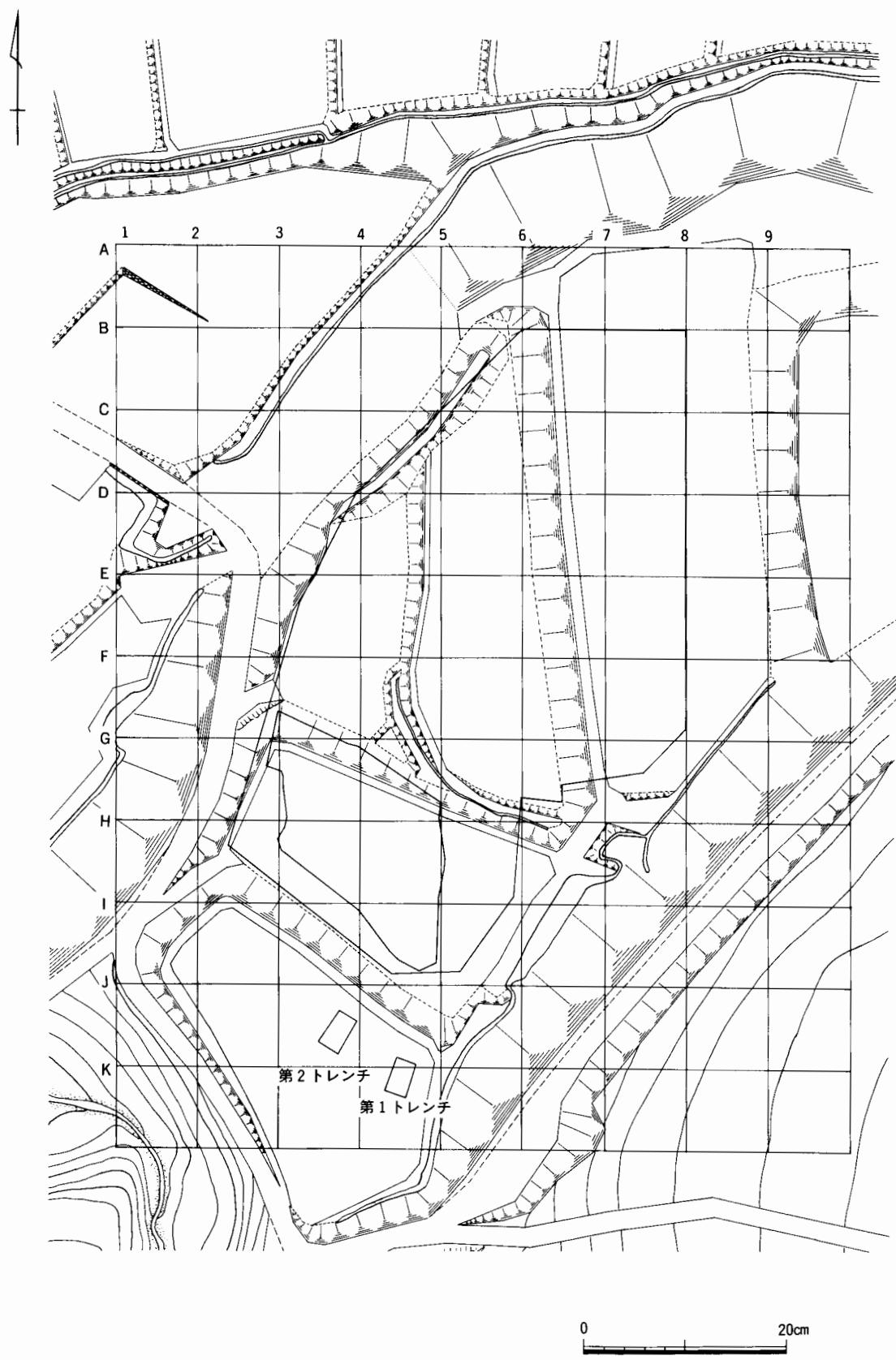
## 第3章 A 地点の調査

### 第1節 調査の概要

カクシクレ遺跡A地点は、標高850m前後の段丘上に位置する。水田が数段にわたって造成されており、調査区の中央には水路が作られていた。山麓の傾斜地を削平と埋土により造成したため、遺跡全体として遺構の残存状況は不良であった。



第7図 A 地点周辺地形図



第8図 A地点地区設定図

発掘調査にあたっての地区の設定は、国土座標に合わせて第8図のように、 $8 \times 8\text{ m}$ の区画を設け、北から南へA・B・Cとし、東から西へ1・2・3と番号を付けてグリッド名を表すことにした。A列は、国土座標第VII系のX=23784、1列は、同じくY=19268となっている。

耕作土および後世の埋土は重機を利用して除去した。旧地形は、東から西へ、南から北へ傾斜しており、調査区の中央から北よりの地点で、東西方向に幅約6～7mの埋没谷が見つかった。中央の水路は、山裾の湧水を集めたものであるが、掘削後もほぼ同じ地点が水路状の小川であったことが判明した。

検出された遺構は、竪穴住居址1軒、焼土址5基、土坑、ピット群および水さらし場遺構1基である。遺物は、縄文中期後半と晩期の土器、石器類約1万点である。調査区の南側では、崖錐性の土砂が堆積しており、その下に縄文早期の遺物包含層があった。

## 第2節 基本的層序

土層は、耕作土である表土第I層が約20～30cmあり、その下には、造成時の埋土（第II層）が深い所で約1.3m堆積していた。遺物包含層（第III層）は、地点によっては削平されていた。さらに崖錐性の土砂が堆積し（第IV層）、第V層が縄文早期の遺物包含層である。ただし、第V層は調査区の一部でしか確認できなかった。以下煩雑になるが、各土層の細分を略述する。第9～11図の土層図の記号と一致させている。

第I層 耕作土であるが、地点によって複雑な堆積状況を示している。

- I-1 黒色土（10YR1.7/1）しまり、粘性ともになし。草根や径2cm前後の礫を含む。
- I-2 黒色土（10YR2/1～1.7/1）しまり、粘性ともにあり。礫を多く含む。
- I-3 黒褐色土（10YR3/1～3/2）しまり、粘性ともになし。径3～5cmの礫を含む。
- I-4 黒褐色土（10YR3/1～2/1）しまり、粘性ともになし。I-2・3に比べて礫の混入は少ない。
- I-5 黒色土（2.5Y2/1）しまり、粘性ともになし。
- I-6 明黄褐色土（10YR7/8～6/8）しまり、粘性ともになし。大小の礫が混じりガラガラしている。
- I-7 褐灰色土（10YR4/1～3/1）しまりはあるが、粘性はない。
- I-8 にぶい黄褐色土（10YR4/3）よくしまっている。
- I-9 にぶい赤褐色土（5YR4/4）鉄分が沈着した層である。
- I-10 暗褐色土（10YR3/3）しまり、粘性ともになし。

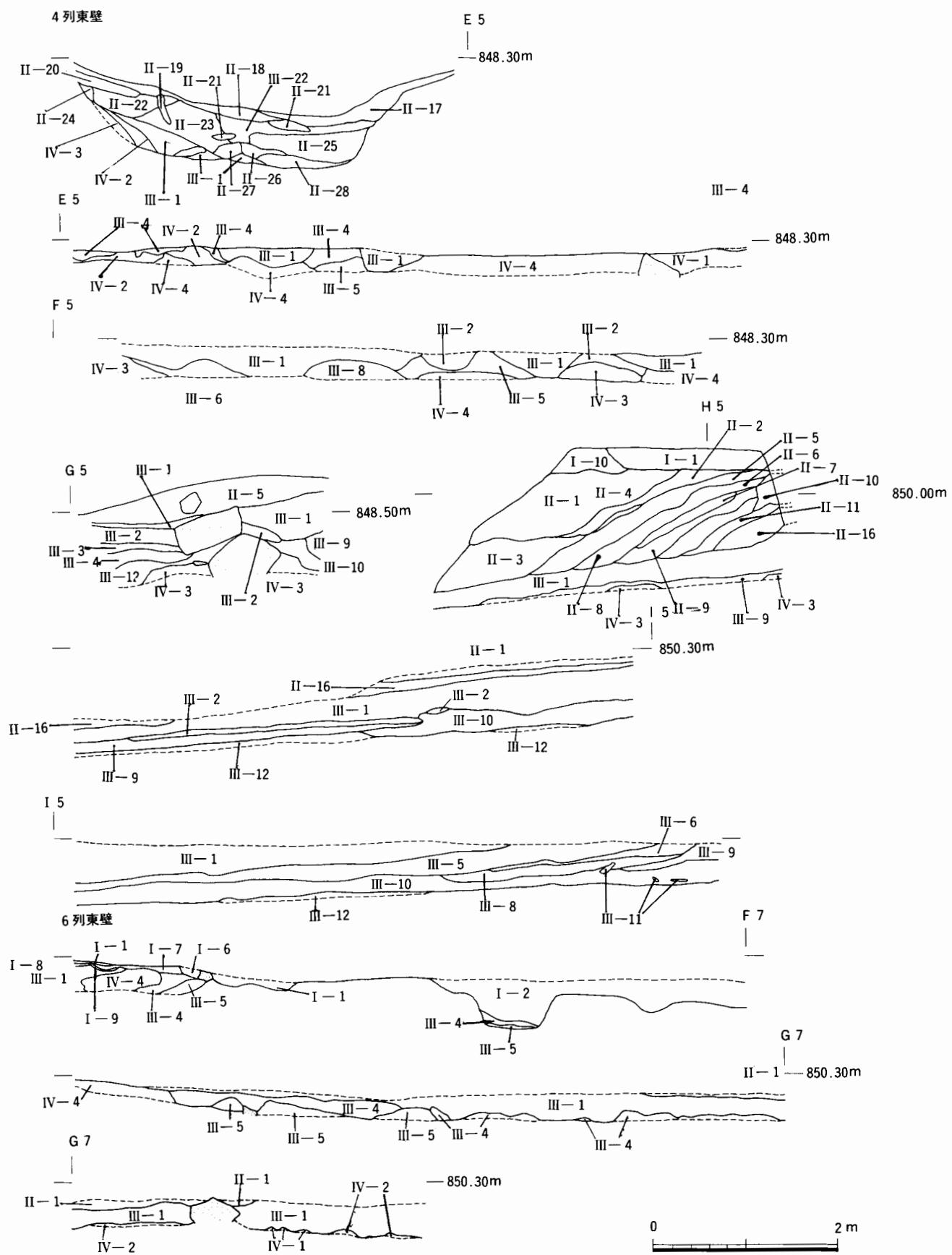
第II層 造成等による埋土の層である。III層を崩している部分もある。地点によって埋まり方が異なるため、非常に複雑な堆積をしている。

- II-1 にぶい黄橙色土（10YR6/4～6/6）しまり、粘性ともになく、草根が混じる。
- II-2 褐色土（7.5YR4/6）しまりはなく、粘性がわずかにある。炭化物を含む。

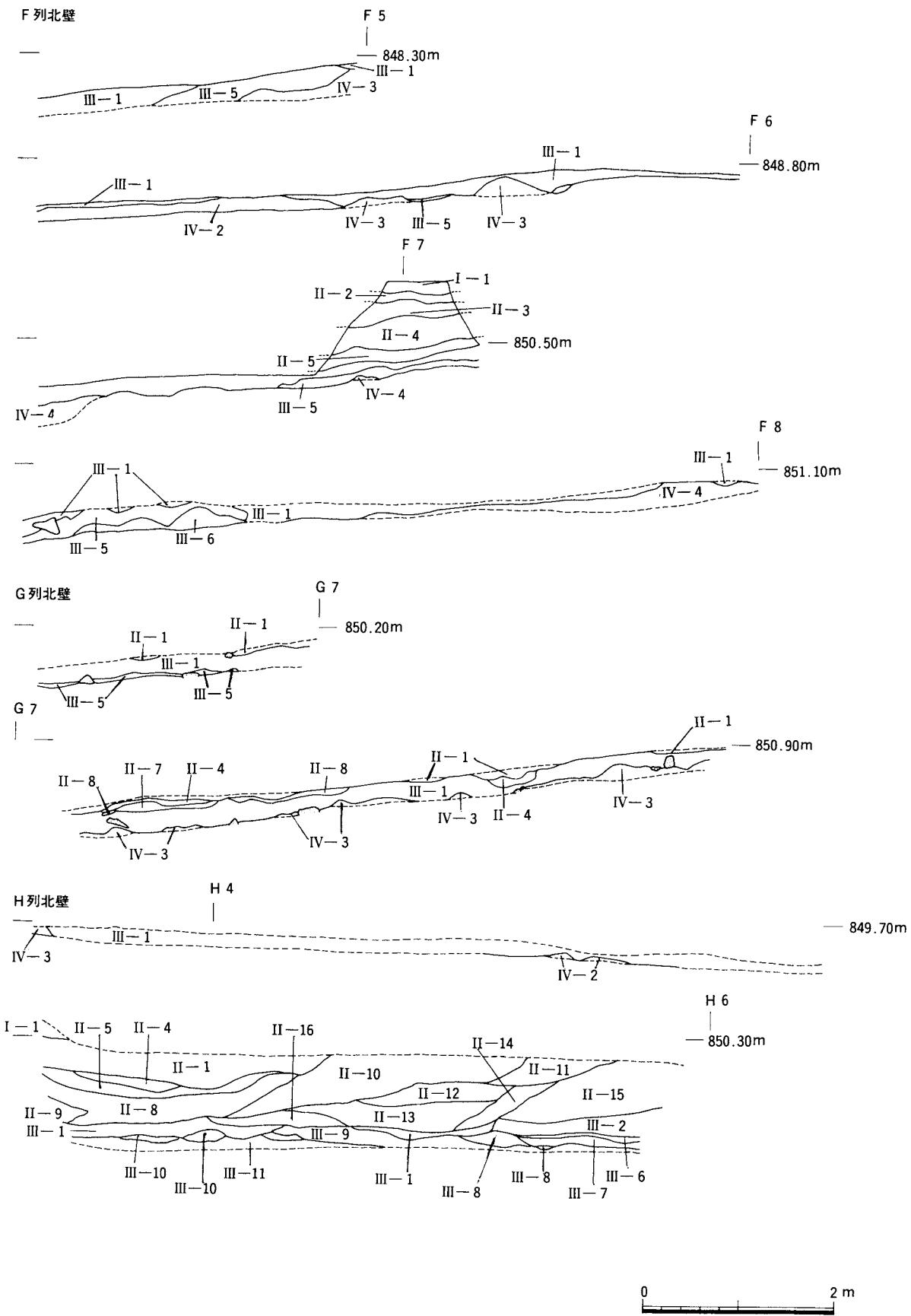
- II-3 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) しまり、粘性ともになく、大小の礫を多く含む。
- II-4 黒褐色土 (2.5Y4/1~3/1) しまり、粘性ともない砂質土である。
- II-5 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりがない。径5cm前後の礫を多く含む。
- II-6 明黄褐色土 (10YR6/6) しまり、粘性ともになく、礫を含む。
- II-7 黒褐色土 (10YR3/2~3/3) 粘性がややあり、黄褐色の砂粒を全体に含む。
- II-8 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまり、粘性ともになく、礫を含む。
- II-9 黒褐色土 (10YR3/2~3/3) しまりがなく、全体に黄褐色の砂粒を含む。
- II-10 黒色土 (10YR1.7/1) しまり、粘性ともに弱い。
- II-11 にぶい褐色土 (7.5YR5/4~5/6) しまりがない。
- II-12 にぶい黄橙色土 (10YR6/4~6/6) しまりはなく、粘性がややある。礫が混じる。
- II-13 暗灰黄色土 (2.5Y4/2) しまり、粘性ともになし。砂質で黄褐色の砂粒を含む。
- II-14 にぶい黄橙色土 (10YR6/4) しまり、粘性ともになし。径2~3cmの礫を含む。
- II-15 灰黄褐色土 (10YR4/2~3/2) しまり、粘性ともになし。砂質土である。
- II-16 黑褐色土 (10YR3/2~3/3) しまりがなく、径5~10cmの礫を含む。
- II-17 黑褐色土 (10YR3/2) しまり、粘性ともになく、礫を多く含みガラガラしている。
- II-18 黑褐色土 (10YR2/2~2/3) 粘性はなく、炭化物を含む。径2~3cmの礫を全体に少し含む。
- II-19 黒色土 (10YR2/1) しまりがない、木根の痕か。
- II-20 黒色土 (10YR2/1) しまりがある。
- II-21 橙色土 (7.5YR6/8) 砂礫層である。
- II-22 黑褐色土 (10YR2/2) しまりあり、炭化物を含む。
- II-23 黑褐色土 (10YR3/1~3/2) しまり、粘性ともにあり、炭化物、礫を全体に含む。
- II-24 黑褐色土 (10YR2/2~2/3) 炭化物が混じり、黄褐色の砂粒の混入が見られる。
- II-25 橙色土 (7.5YR6/8) しまり、粘性ともになく、角礫を多く含む。
- II-26 黑褐色土 (2.5Y3/1~3/2) 黄褐色の砂粒を含む砂質土。
- II-27 橙色土 (7.5YR6/8) 砂礫層である。
- II-28 明褐色土 (7.5YR6/8) ~5/8) しまり、粘性ともになく、大小の礫を含む。
- II-29 黑褐色土 (10YR3/1~3/2) しまりあり。炭化物を多く含む。
- II-30 橙色土 (7.5YR6/8) 砂礫層である。
- II-31 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性があり、径2~3cmの礫を全体に含む。

第III層 遺物包含層である。上層は縄文晩期で下層は縄文中期の包含層と考えられる。

- III-1 黑褐色土 (10YR3/1~3/2) しまりはなく粘性があり、炭化物を含む。
- III-2 にぶい黄褐色土 (10YR5/4~5/6) しまり、粘性ともになく、礫を含みガラガラしている。
- III-3 褐灰色土 (10YR4/1~3/1) しまりのある砂質土である。
- III-4 にぶい黄橙色土 (10YR6/4) しまりのない砂質土。大小の礫を含みガラガラしている。
- III-5 黑褐色土 (10YR2/2) しまりがあり、黄褐色の砂粒を全体に含む。



第9図 A地点土層図(1)



第10図 A地点土層図(2)

- III-6 黒色土 (2.5Y2/1) 粘性があり、炭化物を含む。
- III-7 暗赤灰色土 (2.5YR3/1) 粘性がかなりある。
- III-8 黒褐色土 (2.5Y3/1~3/2) 堅くしまっている。黄褐色の砂粒を全体に含む。
- III-8 黒褐色土 (10YR2/2) しまりがなく、粘性がある。黄褐色の砂粒を含む。
- III-10 黒色土 (10YR2/1) 粘性が強い。黄褐色の砂粒が部分的に混じる。
- III-11 暗赤褐色土 (5YR3/3) 鉄分が沈着した部分である。
- III-12 黒色土 (N1.5/0) しまりがなく、粘性が強い。縄文中期の包含層である。

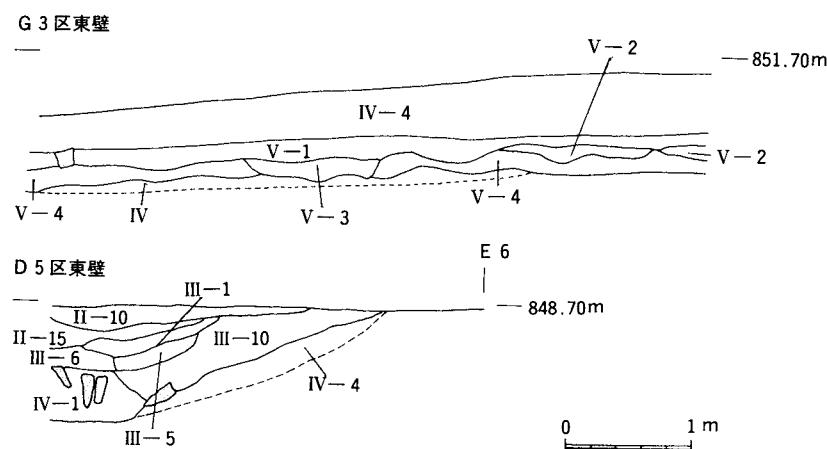
第IV層 崖錐性の堆積を示している。遺構検出面であるが、地点によっては、さらに下層に遺物包含層が確認された。

- IV-1 灰黃褐色土 (10YR4/2) 径10cm前後の礫を含む。
- IV-2 褐色土 (10YR4/4) しまり、粘性ともにあり。
- IV-3 にぶい黄褐色土 (10YR5/4~5/6) しまり、粘性ともにあり、大小の礫を含む。
- IV-4 明黄褐色土 (10YR6/8) しまりが弱く、径2~3cmの礫を含む。

第V層 縄文早期の遺物包含層である。調査地点の南側で確認された。

- V-1 暗褐色土 (7.5YR3/1) しまり、粘性ともにあり。径1cm程度の礫を含む。
- V-2 黒褐色土 (10YR3/1) しまり、粘性ともにあり。径1cm程度の礫を比較的多く含む。
- V-3 黒色土 (2.5Y2/1) しまりは弱い。白色・黄褐色の砂粒が混じる。
- V-4 灰黃褐色土 (10YR4/2) しまり、粘性ともにあり。径2~3cmの礫を含む。

第VI層 明黄褐色 (10YR6/6) の地山である。

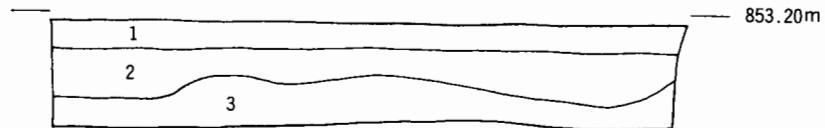


第11図 A 地点土層図(3)

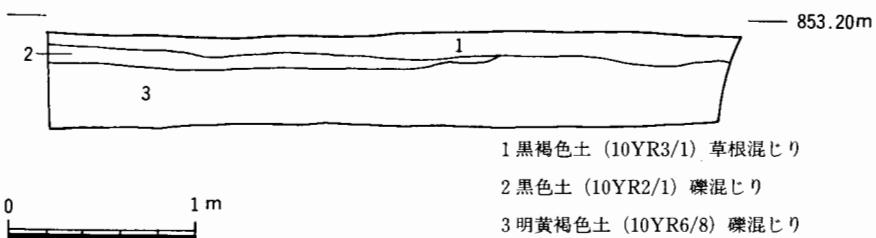
## トレンチ（第12図）

遺跡の広がりを確認するため、調査区南側の上段の水田面に2か所トレンチを設定した。東の方を第1トレンチ、西の方を第2トレンチとした。重機を利用して、深く掘り下げたが、遺物包含層等は確認されなかった。

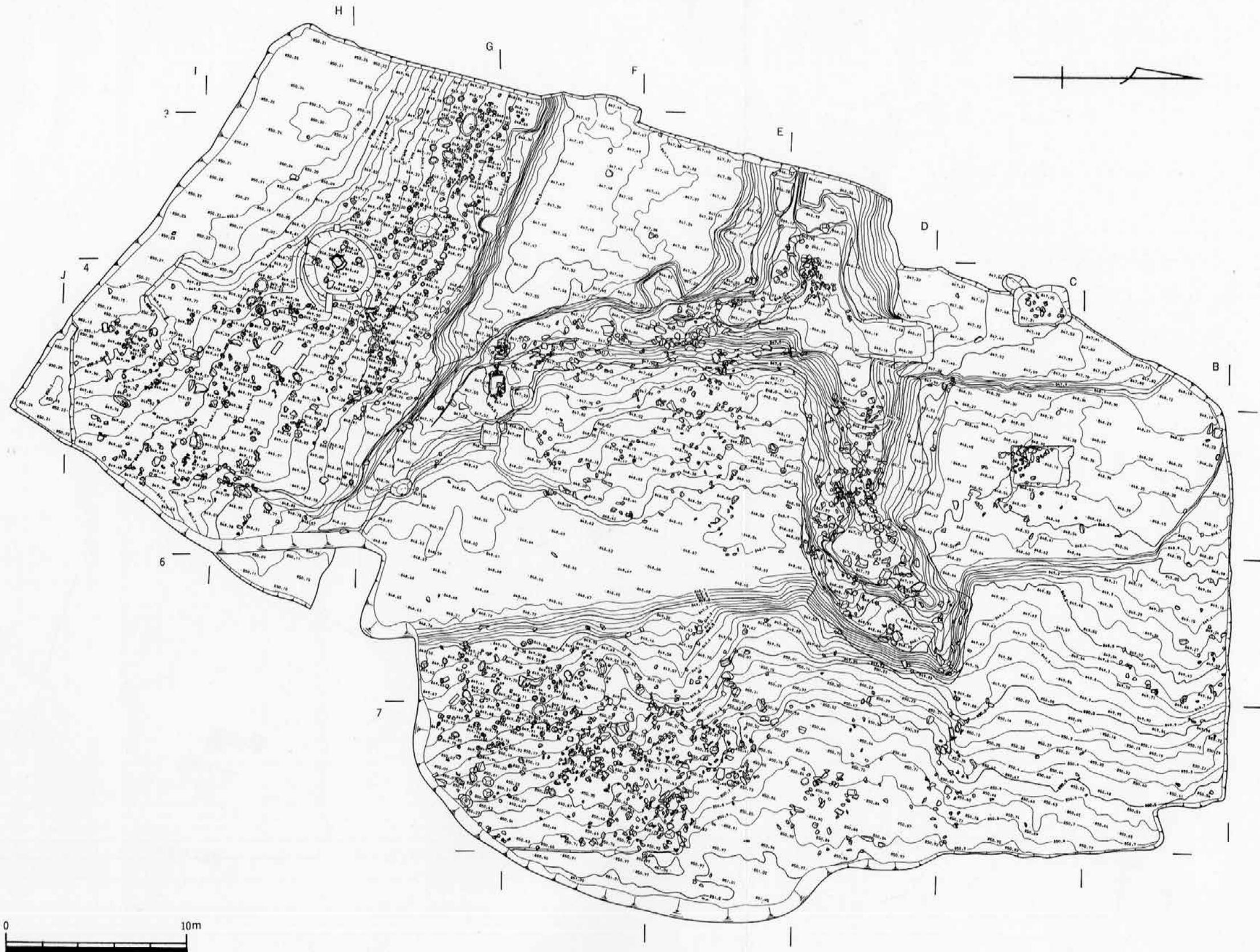
第1トレンチ東壁



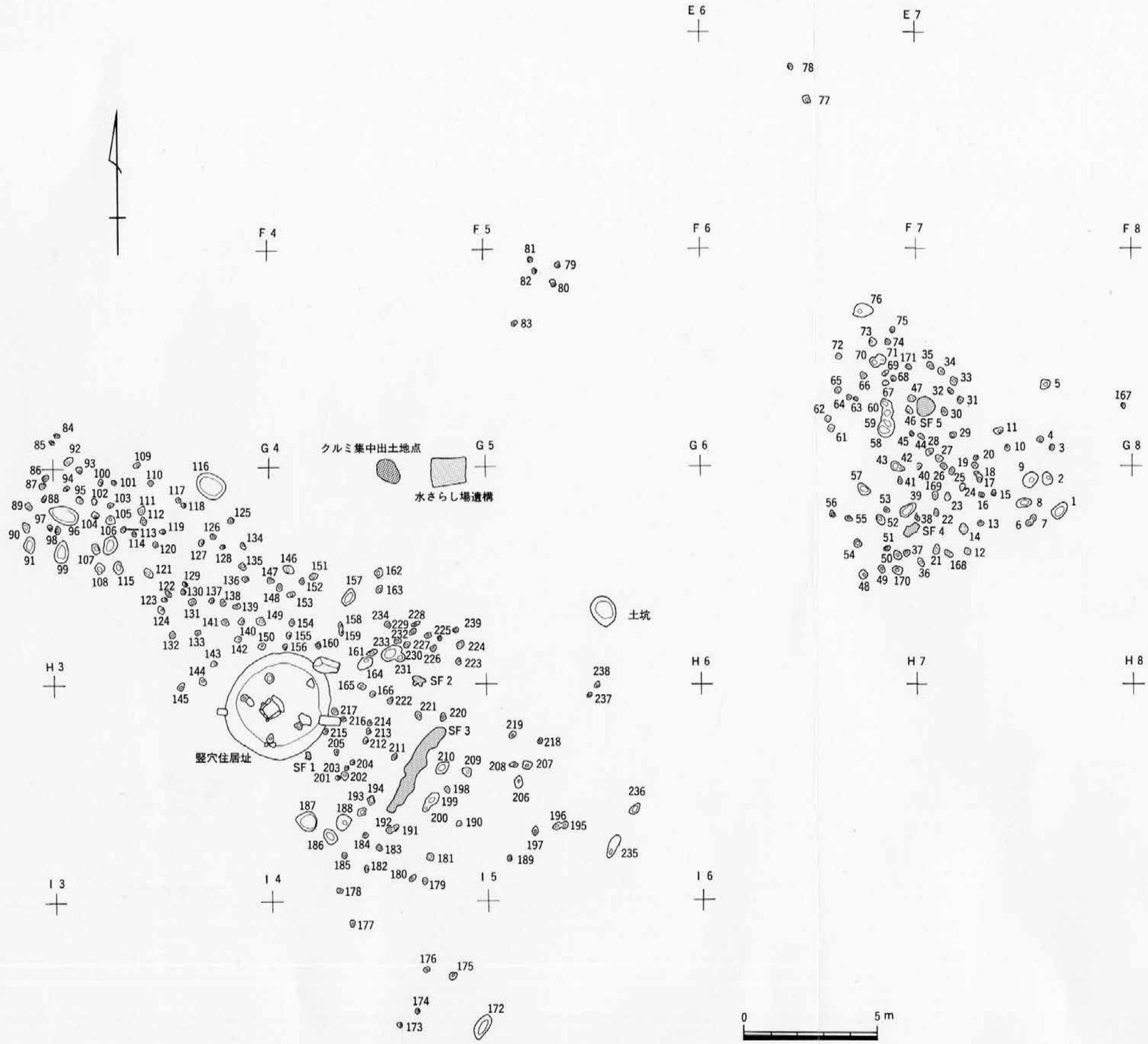
第2トレンチ東壁



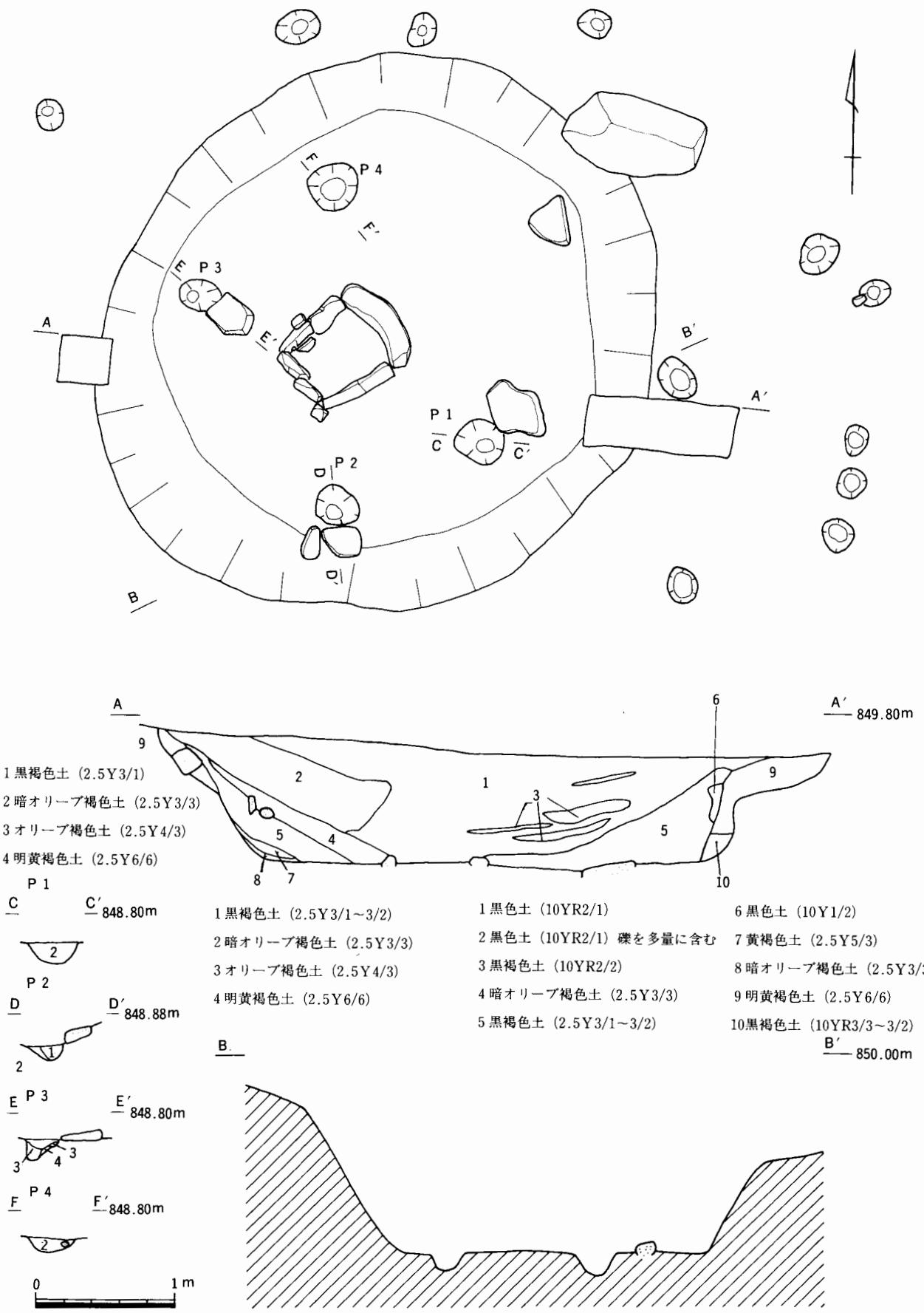
第12図 A地点土層図(4)



第13図 A 地点地形測量図



第14図 A地点遺構配置図

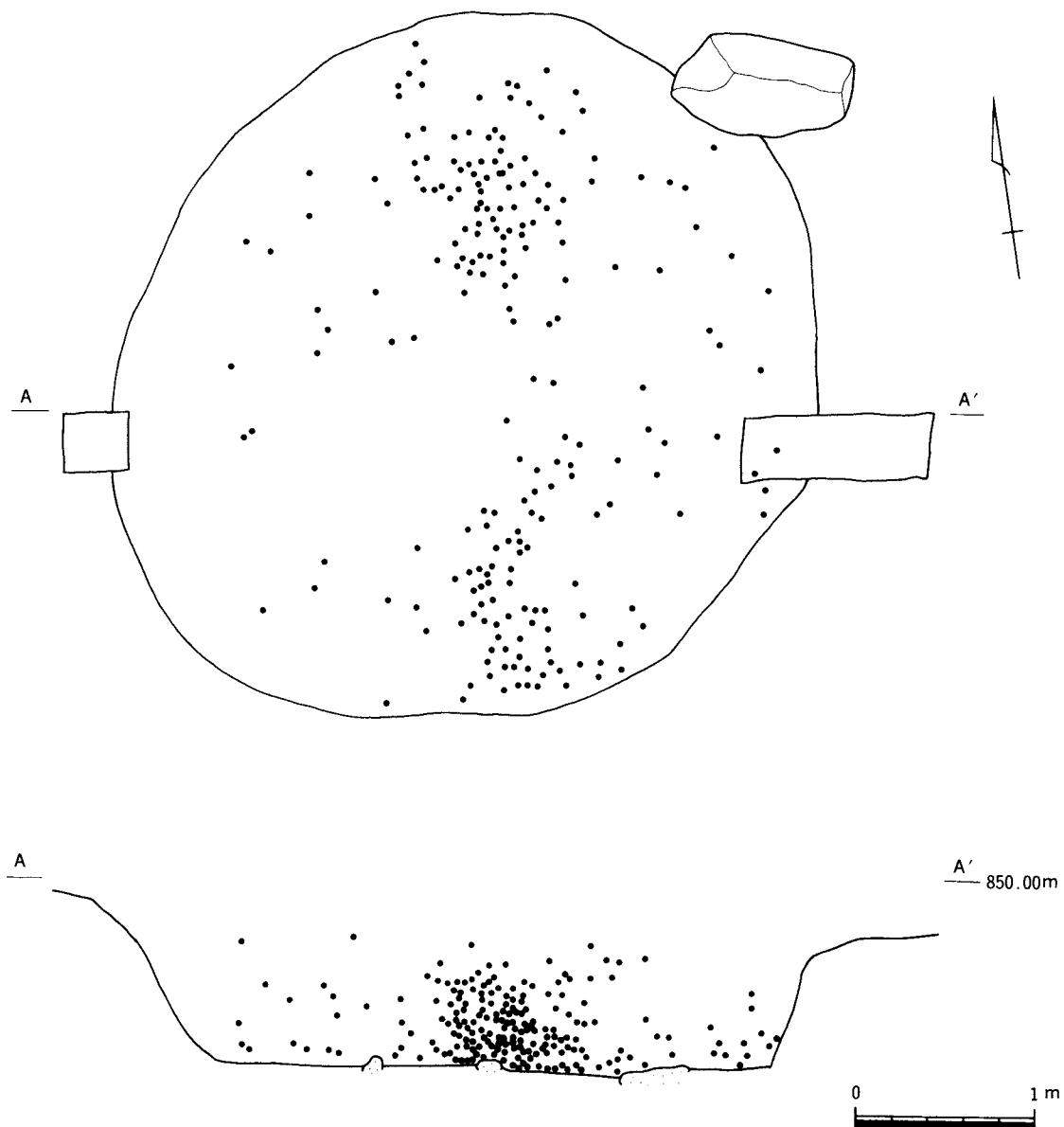


第15図 A地点竪穴住居址

### 第3節 遺構

#### 1 壇穴住居址（第15～17図、図版3）

壇穴住居址は、調査区の南よりのH4区北西杭を中心とした地点で検出された。遺物包含層を掘り下げて行く段階で、縄文中期の土器片を中心に遺物が集中している地点があり、黒色土のプランが橿円形に確認された。セクションベルトを残して掘り下げたところ、播鉢状を呈する様相であったが、サブトレレンチを入れ、土層が確認したところ住居址の壁と埋土を確認され、また、中央部に石囲炉が検出された。掘り込みは、第IV層から第V層にまで達していた。



第16図 A地点壇穴住居址遺物出土状況

規模は、長軸4.3m、短軸3.7mの楕円形を呈する。確認された壁の深さは、約60cm～110cmと深い。中央に方形に組まれた石囲炉がある。大きさは90×70cmで、北東は偏平な大きめの1個の石で西側は焼けて割れていた。ピットは4か所確認されたが、いずれも柱穴であろう。わずかな土質の違いによりかろうじて検出できた。それぞれ、近接して偏平な石が添えるようにおいてあった。西田遺跡の縄文中期の竪穴住居址と推定される遺構(SX17)にも同様の配石が見られる。石囲炉の形状および柱穴の位置から見て、入口は、北東方向と推定され、中軸線は、N-54°-Eである。

遺物の出土状況は、いわゆる吹上パターンを呈する。土器は縄文中期後半のもので、石器類では打製石斧が8点出土している点が注目される。

## 2 焼土址（第19図）

焼土址が5基検出された。第III層中のものと第IV層にかかるものの2種類となる。前者は縄文晩期、後者は縄文中期のものと推定される。

### SF 1

H 4区の第III層中で検出した。50×40cmの大きさで、不定形である。周辺からは、縄文晩期の土器片が出土している。

### SF 2

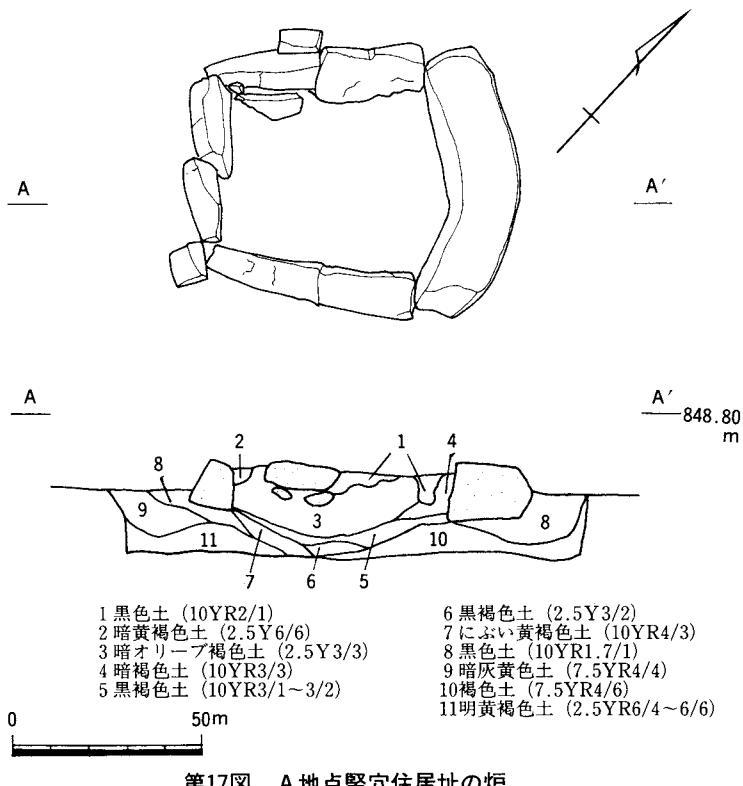
G 4区とH 4区の境目の第III層中で検出した。50×40cmの大きさで、不定形である。周辺からは、縄文晩期の土器片が出土している。

### SF 3

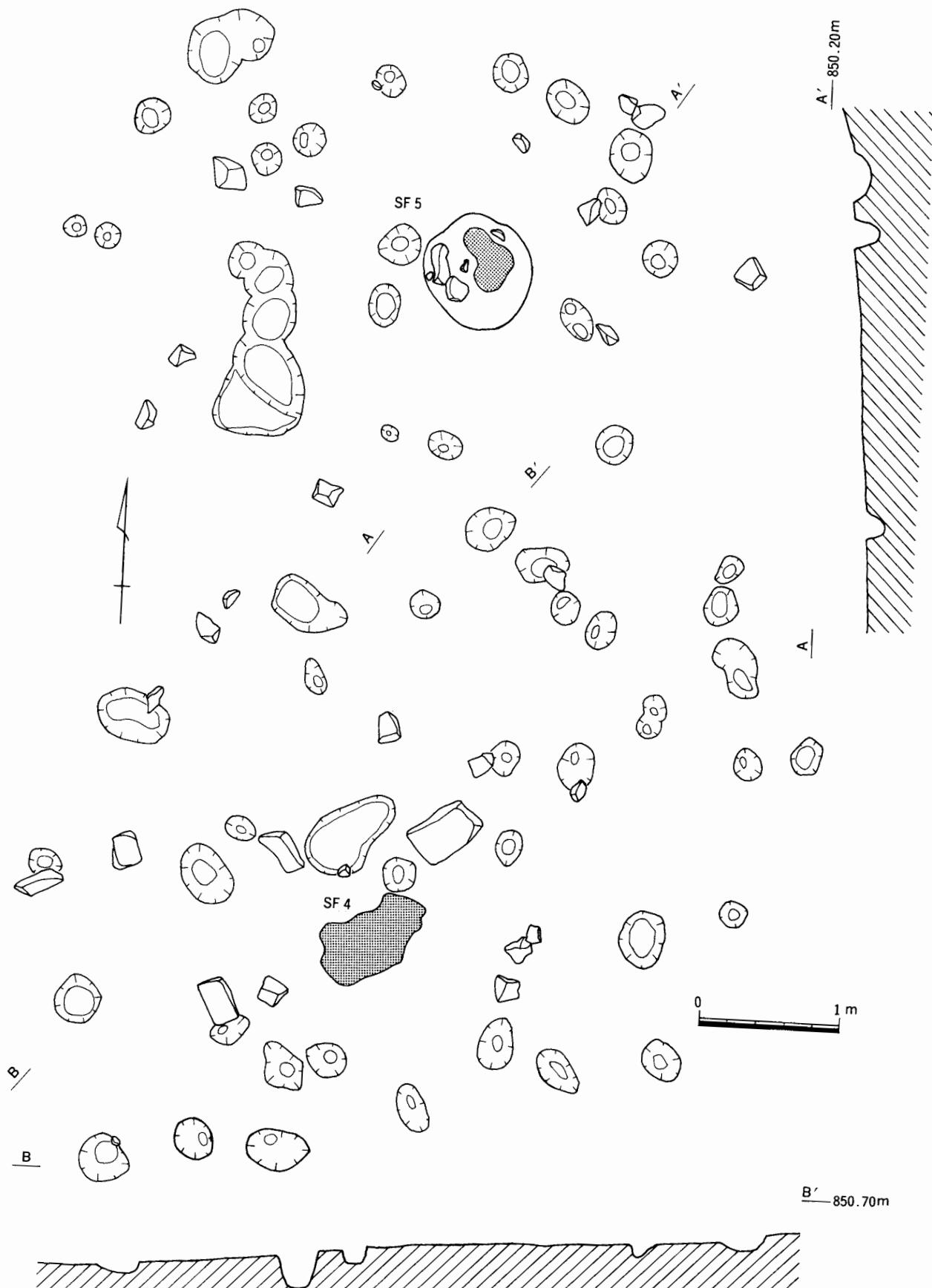
H 4区の第IV層上で検出した。不定形であるが、幅約60cm、長さ約3.7mの細長いものである。周辺からは、縄文中期の土器片が出土している。

### SF 4

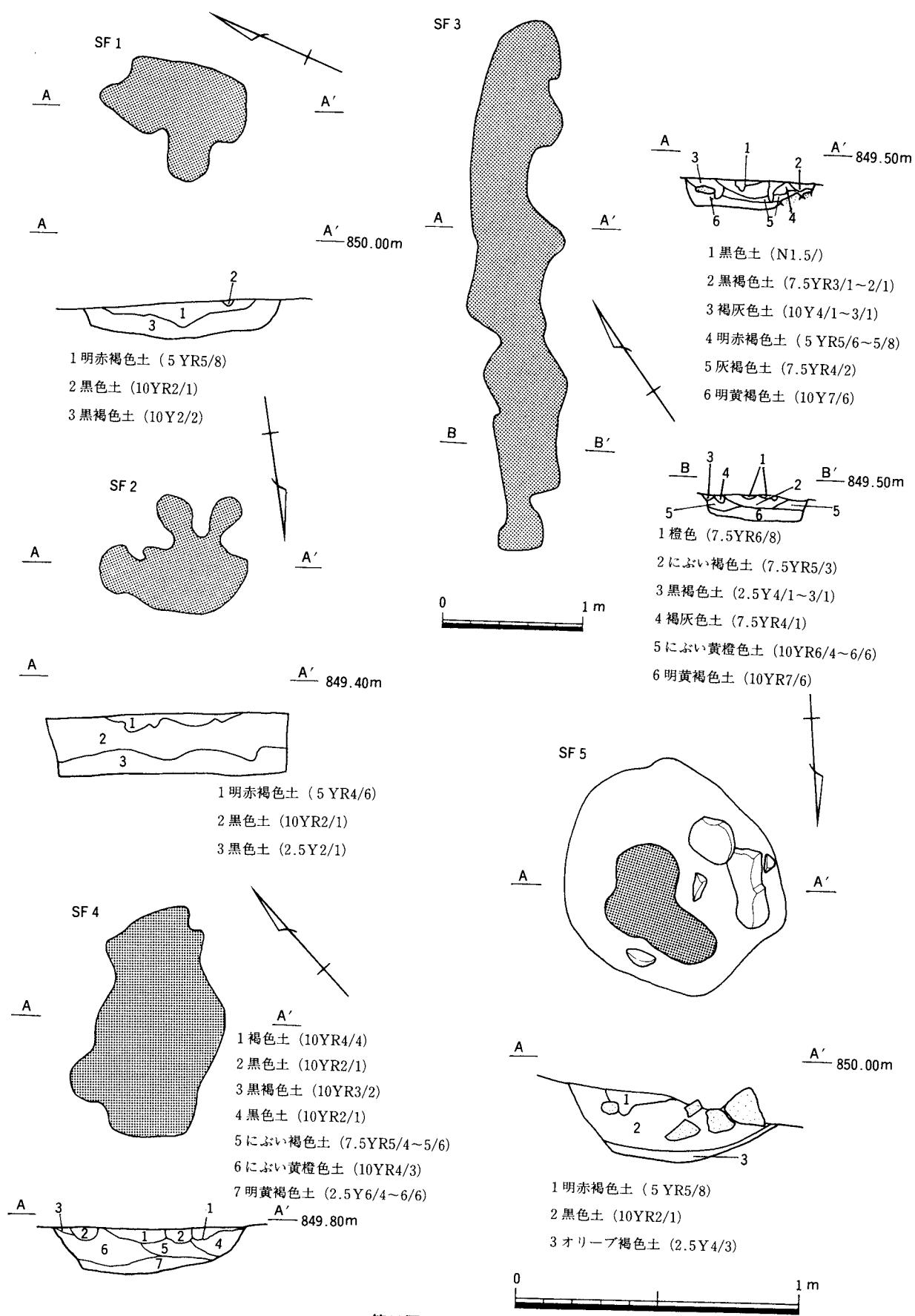
G 6区の第IV層上で検出した。80×45cmの大きさで、不定形である。後述する調査区東側のピット



第17図 A地点竪穴住居址の炉



第18図 A地点SF4・SF5周辺



第19図 A地点焼土址

群の中に位置する。住居址の地床炉の可能性もある。

周辺からは、縄文晩期の土器片が出土している。

### SF 5

F 7 区の第IV層上で検出した。45×25cmの大きさで、不定形である。そのまわりには、径約80cmの黒色土のプランがあり、その中に長さ約15~25cmの大きさの石があった。SF 4 同様にピット群の中に位置することから、住居址の石囲炉の石が抜き取られた可能性もある。

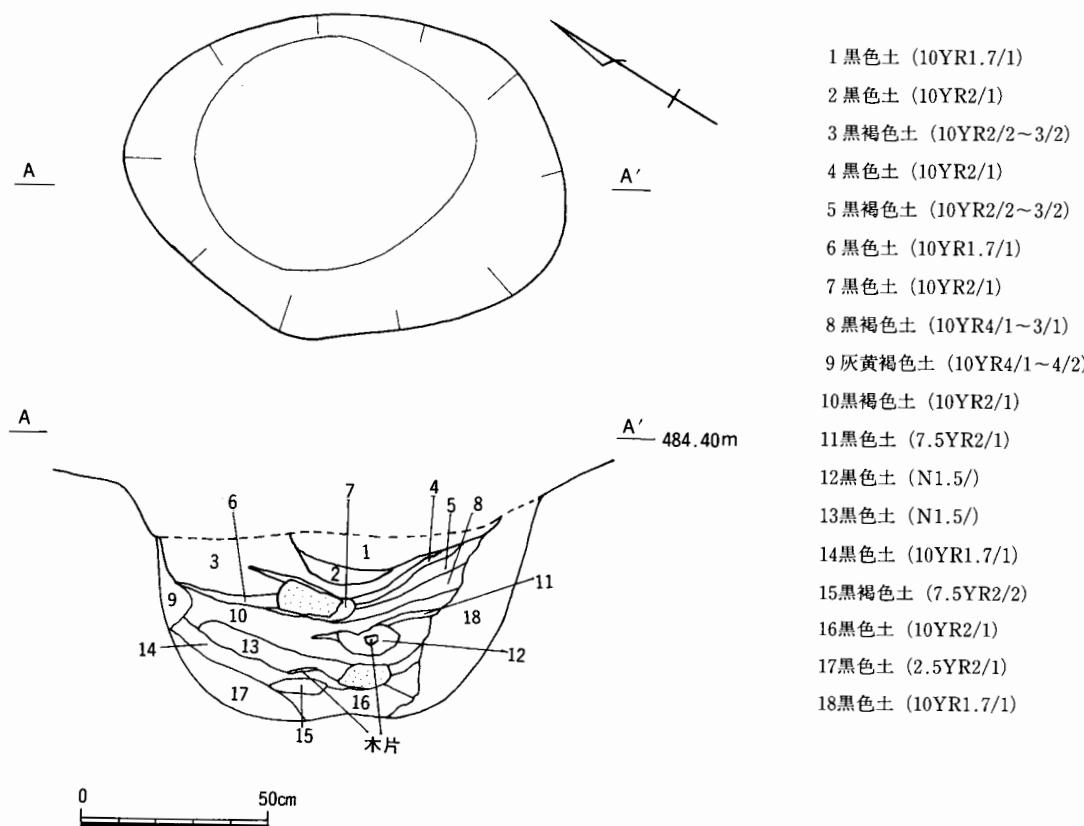
周辺からは、縄文晩期の土器片が出土している。

### 土坑（第20図、図版3）

G 5 区で検出された。調査区中央を流れる小川部分の北辺にあたる。110×90cmの大きさで橢円形のプランを呈する。黒色の泥炭質の土と拳大から20cm程の石が埋まっていた。クルミとトチの果皮が少量であるが、出土した。貯蔵穴と推定されるが、地下水位が高い地点であり、西日本に見られる低湿地貯蔵穴との関連性が予想される。

### ピット群（第14図、第2表）

ピットは239基検出した。F 6 ~ G 7 区の東ピット群と、G 3 ~ H 5 区の南ピット群の2群が認められる。東ピット群は、焼土址（SF 4 および SF 5）の周辺にあり、住居址の存在が予想されるが、不明である。また、クリが出土したピットもある（P66・P67・P70・P76）。



第20図 A 地点土坑

第2表 A地点ピット一覧表 (単位はcm)

番号	地区	大きさ	深さ	遺物 (数字は挿図番号)	番号	地区	大きさ	深さ	遺物 (数字は挿図番号)
1	G 7	71×47	10		61	F 6	24×23	9	
2	G 7	50×41	17		62	F 6	28×23	17	
3	F 7	19×14	10		63	F 6	18×17	7	
4	F 7	25×14	10		64	F 6	20×16	5	
5	F 7	40×32	18		65	F 6	24×19	6	
6	G 7	21×19	9	縄文土器片 4 (25-27)	66	F 6	24×14	15	クリ
7	G 7	28×21	11	縄文土器片 3 (25-28・29)	67	F 6	22×20	23	クリ
8	G 7	55×34	15		68	F 6	21×20	16	
9	G 7	62×50	22		69	F 6	21×18	20	縄文土器片 1
10	F 7	22×18	8		70	F 6	36×30	7	クリ
11	F 7	38×23	9		71	F 6	20×16	11	
12	G 7	29×23	17		72	F 6	20×19	11	縄文土器片 2、フレイク 1
13	G 7	20×17	12		73	F 6	38×35	11	
14	G 7	41×30	11		74	F 6	20×20	16	
15	G 7	26×19	17		75	F 6	22×18	11	
16	G 7	22×20	29		76	F 6	74×50	26	縄文土器片 1 (25-39)、クリ
17	G 7	29×23	8		77	E 6	36×26	22	
18	G 7	19×18	12		78	E 6	21×18	19	
19	F 7	26×23	23		79	F 5	18×15	9	
20	F 7	21×14	13		80	F 5	18×18	7	縄文土器片 2 (25-40)
21	G 7	35×23	6		81	F 5	19×16	13	
22	G 7	24×14	7		82	F 5	13×12	7	
23	G 7	33×22	23	縄文土器片 1	83	F 5	20×12	10	
24	G 7	28×16	15	縄文土器片 1	84	F 3	18×18	10	
25	G 7	25×19	14	縄文土器片 1 (25-30)	85	F 2	14×13	7	
26	F 7	23×18	21	縄文土器片 5 (25-31~34)	86	G 2	27×21	7	
27	F 7	36×25	11		87	G 2	29×28	24	
28	F 7	32×26	10		88	G 2	19×15	17	
29	F 7	27×23	9		89	G 2	31×24	10	
30	F 7	32×18	14		90	G 2	41×27	7	
31	F 7	26×22	19		91	G 2	61×48	20	
32	F 7	24×20	15		92	F 3	30×29	14	縄文土器片 4 (25-41)
33	F 7	38×29	14		93	G 3	24×22	15	
34	F 7	32×24	21		94	G 3	19×18	10	
35	F 7	26×23	21		95	G 3	30×22	23	
36	G 7	34×18	13		96	G 3	128×79	14	
37	G 6	30×23	8		97	G 2	21×20	5	
38	G 7	24×24	19	縄文土器片 3 (25-35)	98	G 3	33×21	10	
39	G 6	69×41	8		99	G 3	81×48	15	
40	G 7	22×20	10		100	G 3	27×19	12	
41	G 6	25×14	5		101	G 3	19×19	8	
42	G 6	33×29	7		102	G 3	25×21	26	
43	G 6	21×18	7		103	G 3	23×18	15	
44	F 7	25×19	15		104	G 3	33×33	23	
45	F 6	14×10	7		105	G 3	38×31	29	
46	F 6	30×23	6		106	G 3	74×56	15	
47	F 6	33×25	12		107	G 3	48×27	8	
48	G 6	33×32	9	縄文土器片 1 (25-36)	108	G 3	40×39	14	
49	G 6	29×29	8		109	F 3	24×22	14	
50	G 6	38×25	8		110	G 3	22×21	12	
51	G 6	31×16	13		111	G 3	34×27	17	
52	G 6	45×30	21		112	G 3	37×25	16	
53	G 6	22×14	14		113	G 3	22×20	6	
54	G 6	33×33	10		114	G 3	23×20	9	
55	G 6	23×19	12	縄文土器片 1 (25-37)	115	G 3	51×37	13	
56	G 6	22×20	14		116	G 3	121×103	39	縄文土器片 7 (25-42~48)
57	G 6	50×33	9		117	G 3	18×16	16	
58	F 6	60×56	6		118	G 3	21×14	14	
59	F 6	37×36	8	縄文土器片 1 (25-38)	119	G 3	20×14	10	
60	F 6	40×33	12		120	G 3	22×19	11	

番号	地区	大きさ	深さ	遺物 (数字は挿図番号)	番号	地区	大きさ	深さ	遺物 (数字は挿図番号)
121	G 3	47×27	22		181	H 4	33×30	14	
122	G 3	23×16	7		182	H 4	25×21	21	
123	G 3	21×15	10		183	H 4	25×24	14	
124	G 3	33×25	7		184	H 4	21×20	11	
125	G 3	24×16	9		185	H 4	23×21	16	
126	G 3	25×23	7		186	H 4	65×48	8	
127	G 3	26×20	13		187	H 4	81×74	13	縄文土器片 2 (25-63)
128	G 3	19×16	8		188	H 4	63×55	12	
129	G 3	18×14	9	縄文土器片 2 (25-49)	189	H 5	21×20	18	
130	G 3	17×17	10		190	H 4	22×22	9	
131	G 3	35×25	10		191	H 4	25×20	17	
132	G 3	29×25	12		192	H 4	25×23	17	
133	G 3	18×18	8		193	H 4	42×33	9	
134	G 3	25×18	6		194	H 4	36×29	10	
135	G 3	35×32	15		195	H 5	31×25	9	
136	G 3	28×22	18	縄文土器片 1	196	H 5	36×29	10	
137	G 3	24×18	22	縄文土器片 1 (25-50)	197	H 5	32×23	11	
138	G 3	23×23	20		198	H 4	28×20	8	
139	G 3	25×25	18		199	H 4	45×38	20	縄文土器片 1
140	G 3	22×21	7		200	H 4	28×19	15	
141	G 3	29×26	11	縄文土器片 1 (25-51)	201	H 4	18×17	13	
142	G 3	25×22	12		202	H 4	32×21	18	縄文土器片 1 (25-64)
143	G 3	22×17	12		203	H 4	20×20	13	
144	G 3	37×34	5		204	H 4	23×21	14	
145	H 3	35×21	9		205	H 4	27×17	12	
146	G 4	43×32	18	縄文土器片 12 (25-52~54)	206	H 5	48×31	21	
147	G 4	31×28	9		207	H 5	42×39	33	
148	G 4	26×24	11		208	H 5	32×18	11	
149	H 3	43×31	17		209	H 4	38×35	20	縄文土器片 1
150	H 3	30×22	12		210	H 4	57×37	14	
151	G 4	31×25	14		211	H 4	27×23	11	
152	G 4	22×19	8		212	H 4	23×22	11	
153	G 4	27×25	14	縄文土器片 2	213	H 4	22×22	9	
154	G 4	19×17	7		214	H 4	20×17	7	
155	G 4	23×15	8		215	H 4	20×19	5	
156	G 4	23×19	5	縄文土器片 1 (25-55)	216	H 4	19×16	8	
157	G 4	64×40	10	縄文土器片 2	217	H 4	30×22	9	
158	G 4	26×16	11	縄文土器片 2 (25-56)	218	H 5	17×16	10	
159	G 4	21×15	10	縄文土器片 3 (25-57)	219	H 5	26×24	9	
160	G 4	22×21	7		220	H 4	25×25	14	
161	G 4	39×28	10		221	H 4	30×25	16	
162	G 4	35×32	17	縄文土器片 6 (25-58~59)	222	H 4	25×19	20	縄文土器片 1 (25-65)
163	G 4	30×25	12		223	G 4	27×20	16	
164	G 4	58×43	24	縄文土器片 9 (25-60~61)	224	G 4	33×25	12	
165	H 4	29×24	15		225	G 4	18×15	7	縄文土器片 2 (25-66~67)
166	H 4	21×19	16		226	G 4	23×22	9	
167	F 7	21×18	7		227	G 4	25×21	10	
168	G 7	36×21	10		228	G 4	35×19	11	
169	G 7	21×18	11	縄文土器片 2	229	G 4	34×20	8	
170	G 6	45×30	15		230	G 4	28×25	7	
171	F 6	20×19	17		231	G 4	37×29	8	
172	I 4	110×43	14		232	G 4	25×23	13	
173	I 4	27×21	11		233	G 4	81×50	12	
174	I 4	20×20	7		234	G 4	21×21	7	
175	I 4	35×28	9		235	H 5	92×35	14	
176	I 4	26×22	7		236	H 5	54×33	6	
177	I 4	25×19	12		237	H 5	20×16	7	
178	H 4	28×21	10	縄文土器片 4 (25-62)	238	H 5	28×25	9	
179	H 4	22×17	8		239	G 4	25×19	29	
180	H 4	28×20	9						

### 水さらし場遺構（第21・22図、図版4）

水さらし場遺構は、調査区の東南から西北方向に水が流れている小川の右岸で検出された。水田に伴う水路が作られた際に築かれていた土手の部分を掘削するため、水路の水をホースで迂回させて掘り下げた地点である。

小川は、幅約1～1.5mで、調査区の南東から北西方向へカーブを描いて流れ、谷部分に接続している。左岸は段差が50cm以上の崖面になっているのに対して、右岸は緩やかな斜面になっている。東方の山中からの湧水を集めて流れているが、夏の酷暑の中でも枯れることがなかった。

この川の中程のあたりで、縄文晚期の無文の粗製土器片が出土する層を掘り下げて行く中で、板状の材が方形に並ぶ状況が検出された。

確認された木組みの遺構は方形をなし、ほぼ東西南北に面していた。東および南側は、浅黄色の堅くしまった砂質土を掘り込んでいた。大きさは、外寸で東西約110cm、南北約90cmである。南辺は1枚の板材からなる。確認された大きさは、高さ約30cm、長さ約100cm、幅約3～5cmである。東西端の残りが悪く中央部が高くなっている。火熱を受けたと思われる所があり建築材の転用の可能性もある。西辺も1枚の板を確認した。高さ約25cm、長さ約55cm、幅約3cmである。南端は残りが悪く、北端には板材が柱状に打ち込まれていた。柱材は、幅約10cm、厚さ約5cm、高さ約35cmである。板材の西側には、約20cmの角礫、亜角礫が組まれていた。水圧を受ける側に位置するため、補強したものと考えられる。北辺は、検出当初は、2枚の板が平行に配置しているように確認されたが、完掘してみると、1枚の板が折れて斜めにずり落ちているようになっていた。ただし、薄い板を重ねて使った可能性もある<sup>1)</sup>。現況で、高さ約30cm、長さ約85cm、幅2～3cmである。東端は残りが悪かった。東辺は残存状況が悪く、長さ約30cm、幅約10cm、厚さ約3cmの木片を確認したにすぎない。また、拳大から20cm程度の石が散在していた。材はいずれも杉材と推定され<sup>2)</sup>、石器類による加工痕も見られる。

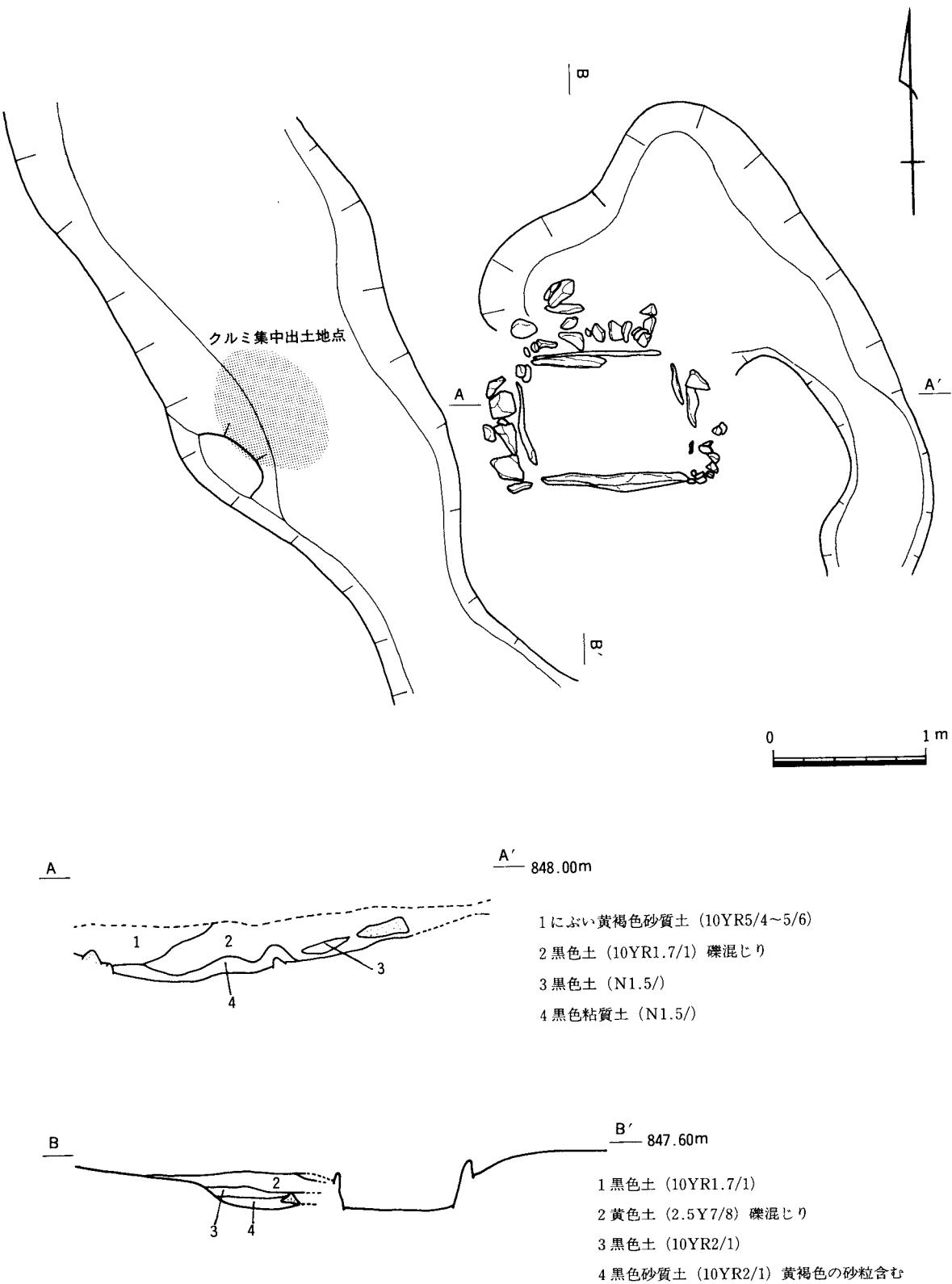
遺構内の堆積状況は、泥炭質の土とやや砂質の土が互層をなしていた。また、約20cmの角礫が4個北東部にあったが、据えつけたものではなく転石と推定される。底部は砂層であった。

遺構の東側約1mの所に幅約40cm、深さ約10cm程度の溝状に掘り窪められた部分があった。上流から水を引き寄せるための施設とも考えられる。また、遺構の北側は東西約2m、南北1.5mにわたって窪地が広がっている。

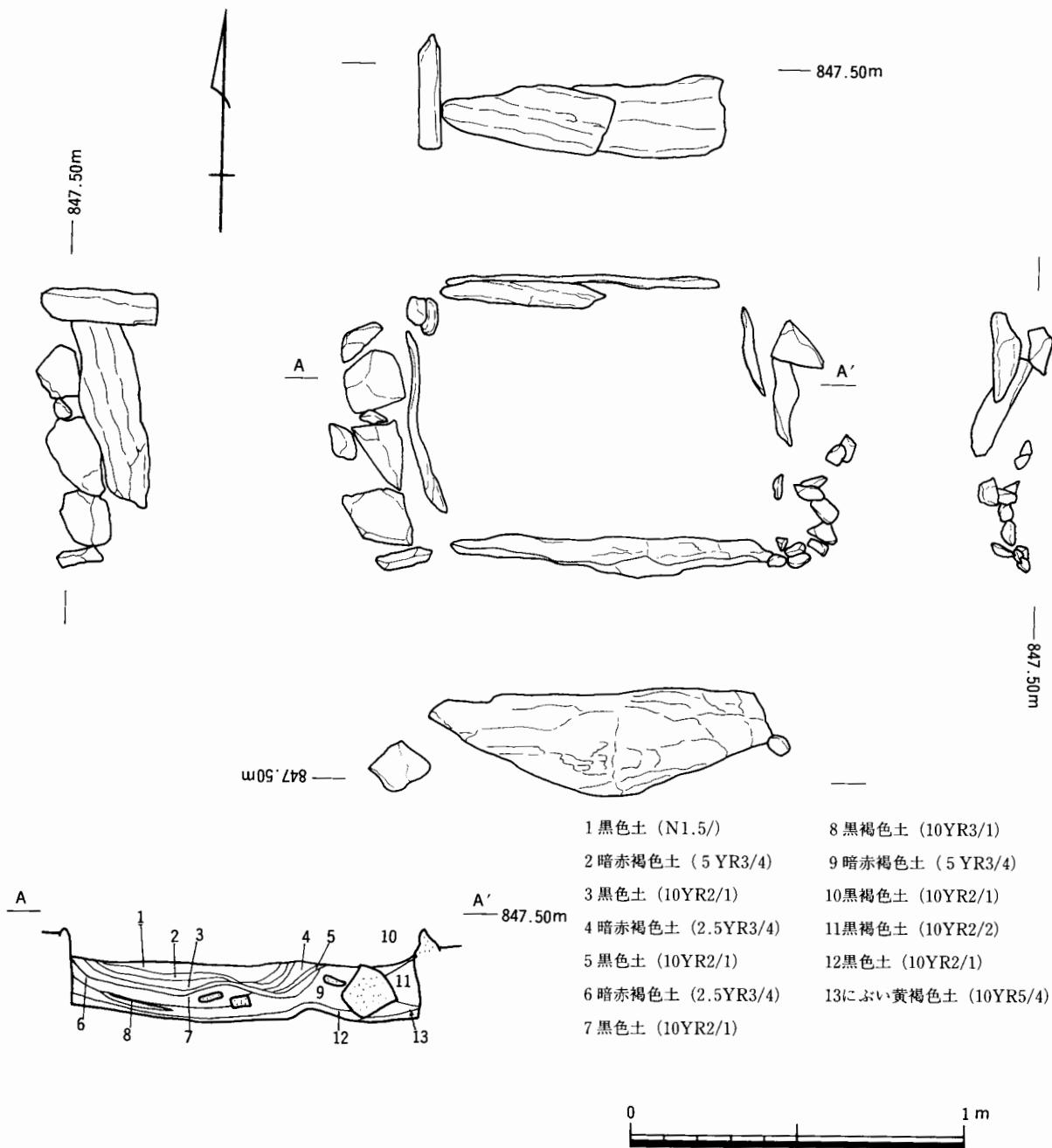
同様の遺構は、長野県栗林遺跡の例（第104図）など、発掘調査例が増えているが、第6章第2節であらためて述べることにする。

出土遺物は、土器片が1点堆積土にあり、底部からも土器片が2点出土した。発掘時は無文の土器と見ていたが、水洗後に観察すると、擬縄文が施されている。クルミやトチの果皮が多く見つかったが、同定結果は花粉分析の結果と合わせて第5節で詳述する。

構築された時期は、周辺の土器の出土状況から見て、縄文晚期前半のものと推定した。底部から出土したクルミによる年代測定の結果からもほぼ妥当であると考える。



第21図 A地点水さらし場遺構周辺



第22図 A地点水さらし場遺構

## クルミ集中地点（第21図、図版3）

水さらし場遺構とは小川を挟んで約1.2m西側の位置に径が約90cmの範囲でクルミの集中出土を見た。確認された個数は236個である。クルミの果皮を除去するために皮を腐らせるための工夫として、山のように積んで、藁を被せたりすることがある。同様の工夫とも考えられる。ただ、水辺に近い地点であるという点がやや気になる。籠のような物に詰めて水辺に置いていたということも考えられるが、出土状況からはそのようなものの存在等は不明である。

- 1) 山田昌久氏のご教示による。
- 2) 藤根久氏のご教示による。

## 第4節 遺物

### 1 概要

出土遺物は、縄文土器・石器類など約1万点と植物遺体、昆虫遺体等である。包含層より出土した縄文土器は、中期後半と晚期前半、後半の3つの集中した時期がある。遺物包含層である第III層は地點的には分層できているが、包含層が薄い地点や搅乱層では、分層できていない。第III層の下に崖錐性の堆積層である第IV層が厚く覆っており、その下には早期の包含層（第V層）がある。第V層からは、押型文土器が出土している。

水さらし場遺構内の泥炭質の土は取り上げて、水洗選別等を行った。昆虫遺体は主にこの中からの検出である。

### 2 縄文土器

#### 出土状況

第III層からは、縄文中期および晚期の土器が出土している。中期の土器は、調査区南側の竪穴住居址周辺から多く出土している。晚期の土器は調査区中央から北側で多く出土している。特に、D5区の埋没谷があった地点では、斜面に沿って土器が集中的に出土しており、土器捨て場と推定される。出土土器は晚期後半の一括性の高い好資料である。

第V層からは、縄文早期の押型文土器および、条痕文系土器が出土している。

#### 分類

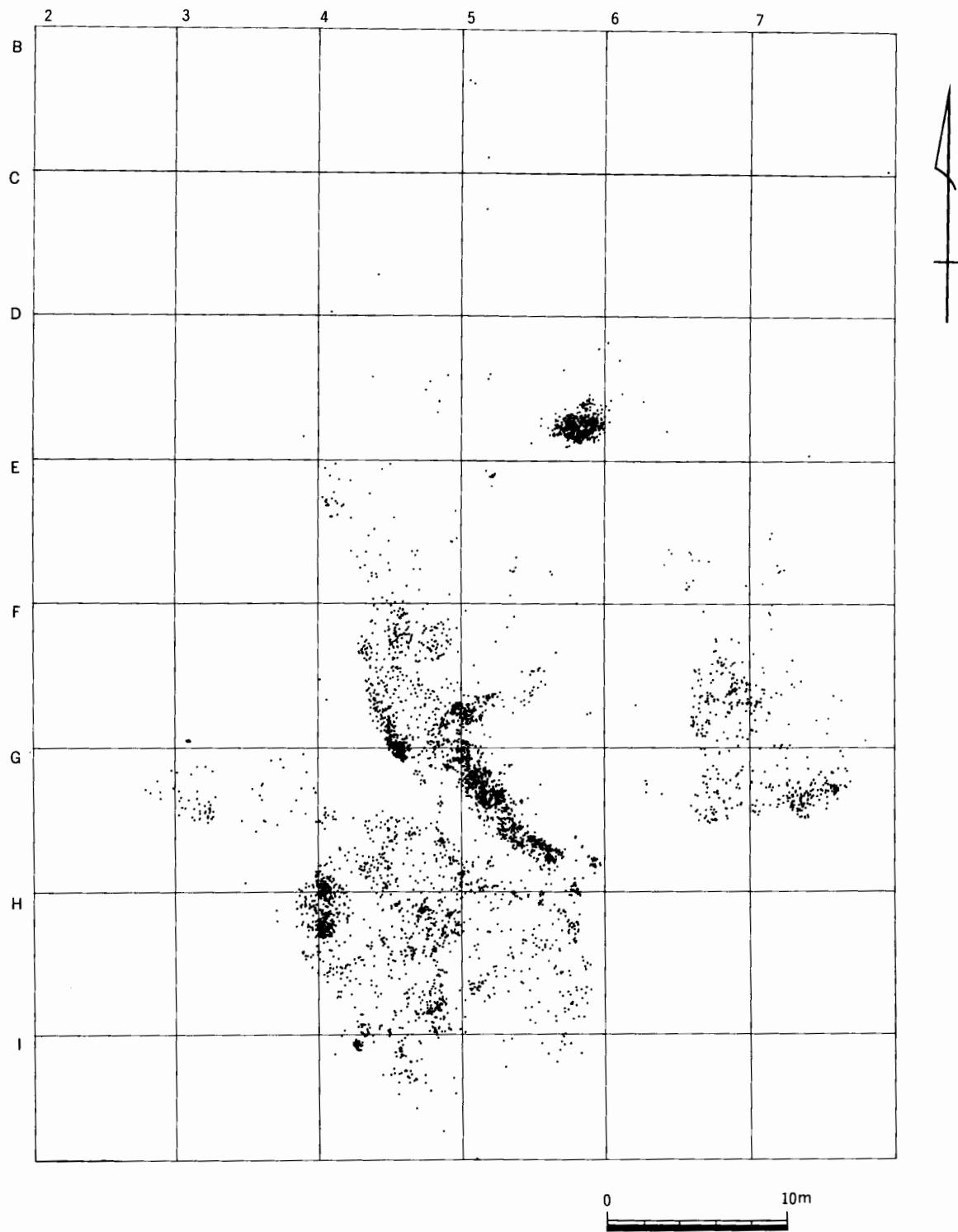
中期と晚期の土器について、大まかな分類を記し、詳細はそれぞれの所で記述する。

#### 中期

- C I群 主として隆帯により施文されている土器
- C II群 主として沈線により施文されている土器
- C III群 上記の文様以外の有文土器
- C IV群 無文土器

#### 晚期

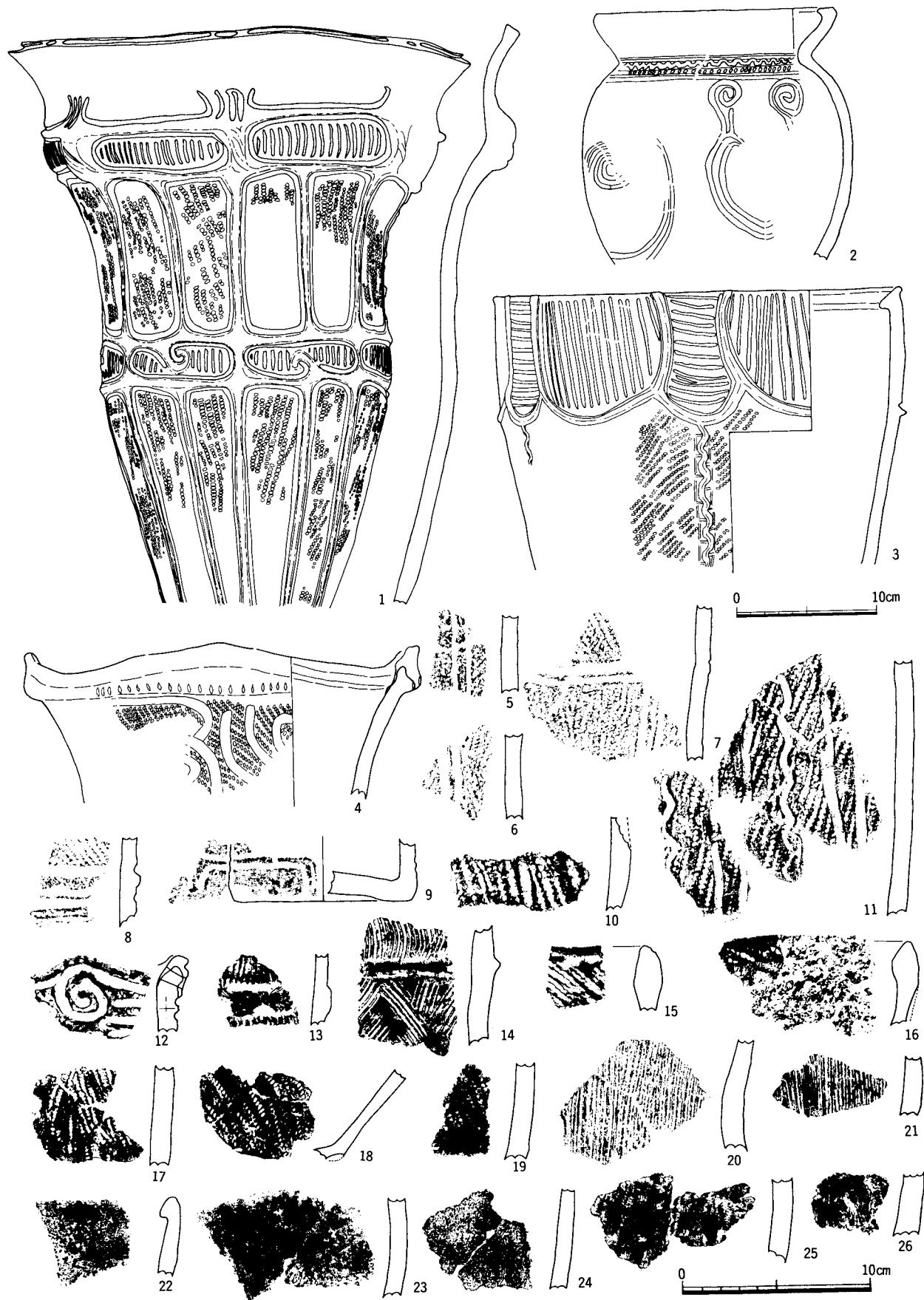
- B I群 晚期前半の土器
- B II群 晚期後半の土器
- B III群 無文土器



第23図 A 地点遺物出土状況

## 竪穴住居址出土の縄文土器（第24図、図版5）

覆土から縄文中期後半の土器が出土している。1は、頸部がやや膨らみ口辺部が外反する器形で、口縁端部に沈線と刺突が入る。頸部は隆帯による区画があり、間を縦の短沈線が並ぶ。区画間にはねじり棒状の突帯がつき、口辺部に向かって沈線が縦に2～3本とその間をつなぐものが続く。胴部中央には中心で渦を巻く区画文があり、頸部と同様に沈線が並ぶ。区画帯の上下は長方形の区画

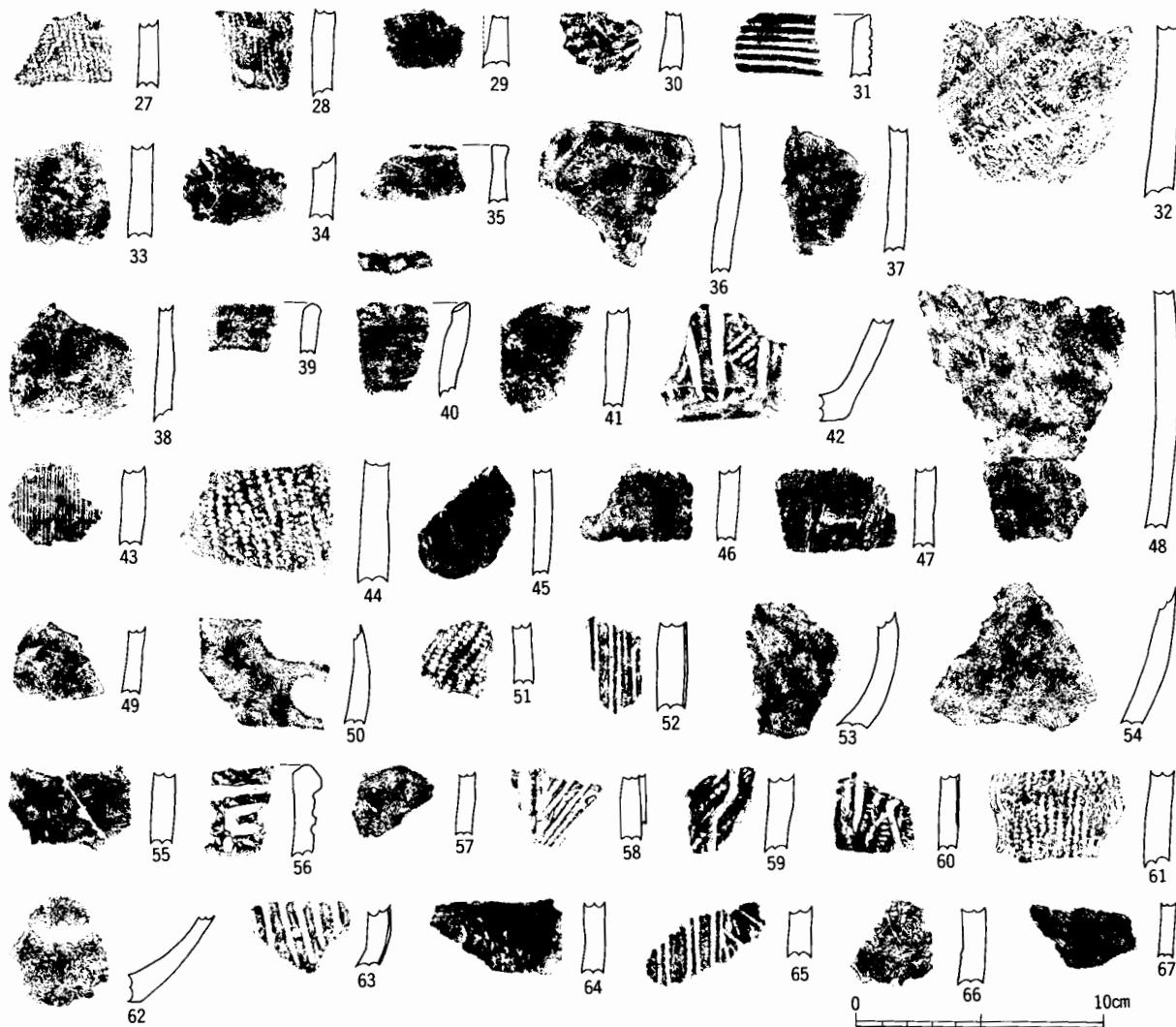


第24図 A地点遺構出土の縄文土器(1)

がなされ、その中は縄文が施文されている。同様の文様構成を持つ土器が大野郡朝日村森ノ下遺跡でも出土している(岐阜県博1992)。2は、くの字にくびれ、胴部は丸みをもった器形である。口辺部は無文で、頸部に交互刺突文と連続刺突が入る。胴部は、沈線による腕骨文と大型渦巻き文を組み合わせたように推定される。雲母を多く含む胎土で他の土器と比べてやや異質である。3は、平口縁で、口縁部に隆帯による区画がなされ、その中を縦方向と横方向に沈線が埋めてある。その下に交互に切り込みを入れた形で施文された隆帯による蛇行文が垂下する。地文はLRの縄文である。4は、ゆるやかな波状口縁で、口辺には水平方向に刺突文が連続的に施文される。地文は縄文で指で押さえたような幅の広い深い沈線(凹線)が曲線的に施文される。後述するC II群3類の土器である。

5~9は同一個体と思われるが、接合が困難で全容は不明である。沈線が縦横に走り、底部近くまで施文される。10は縦に、11は縦方向に蛇行文と組み合わせて沈線が施されている。

12は小波状の口縁で、沈線による渦巻きが描かれ、横方向に展開する。13には、リボン状突帯が施文される。14は、隆帯が横位に入り、上下に条線が施される。15・16は撚糸文の土器で肥厚した口縁が直立する。17~19は縄文、20・21は条線文の土器で、22~26は無文である。

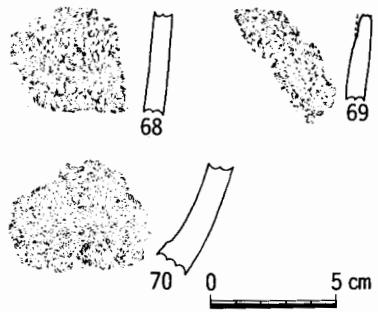


第25図 A地点遺構出土の縄文土器(2)

### ピット出土の縄文土器（第25図）

図示した土器のピット番号は第2表に記した通りである。

31は沈線が横位に5本ある平口縁の土器で、42は、縦方向の沈線間に縄文が施文され、56は沈線が口辺部に区画されている。58は、縦方向の隆帯と斜位の沈線を組み合わせてある。59～61は縄文地に蛇行沈線が施される。63・65には、沈線が縦走する。他は縄文（27・28・29・30・32・44・51）や条線（43）、無文（33～41・45～50・53～55・57・62・64・66・67）である。



第26図 A地点遺構出土の縄文土器(3)

### 水さらし場遺構出土の縄文土器（第26図、図版5）

底部に近い覆土中から3片出土した。発掘当初は無文と見ていたが、水洗後、68・69は擬縄文が認められた。70は無文である。

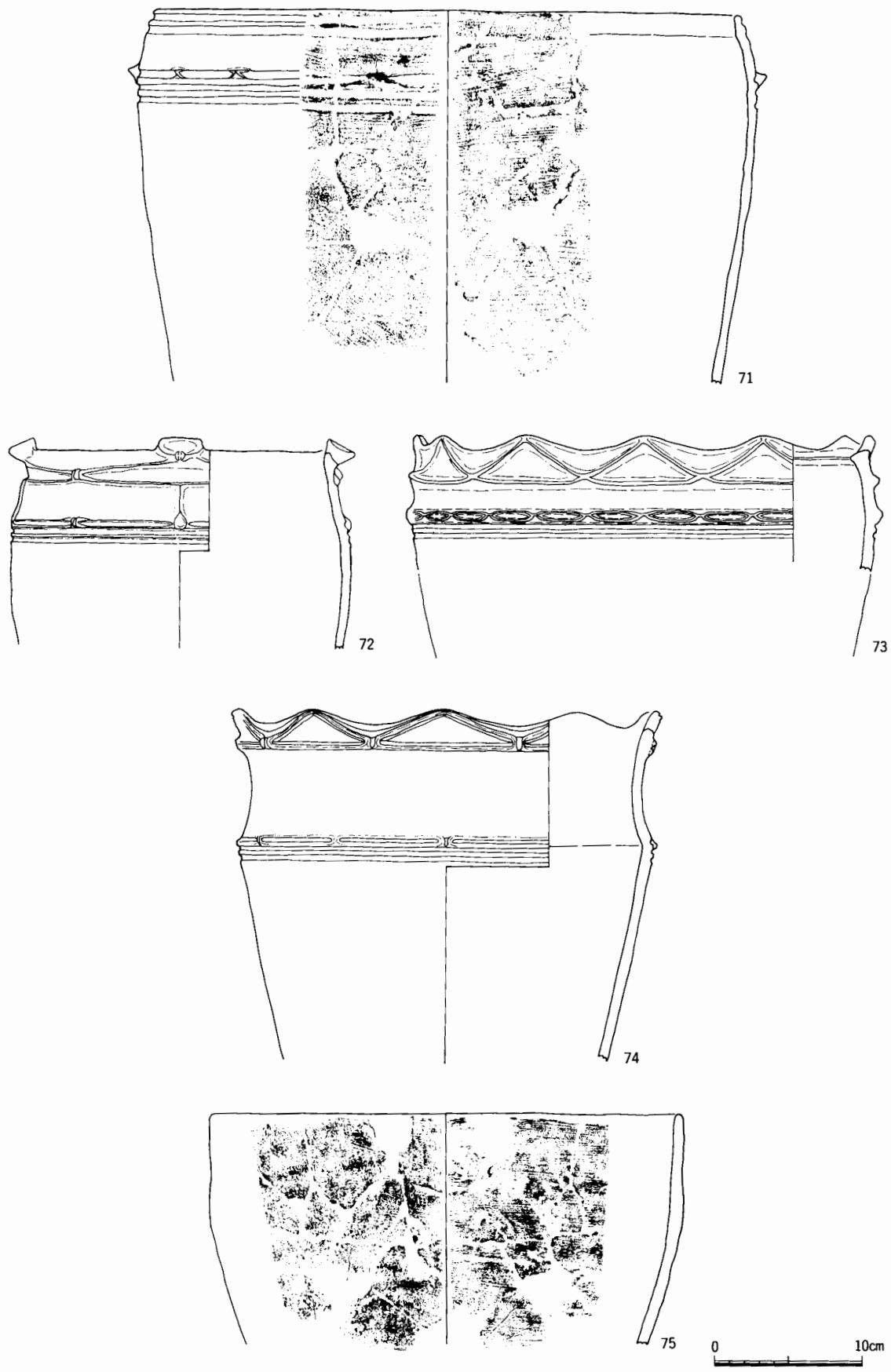
### D5区出土の縄文土器（第27～29図、図版5・6）

D5区の中央部に埋没谷があり、南斜面に晩期の土器が集中的に出土した。完全に復元できるものはないが、図上復元できるものが数個体ある。一括性が高い資料と推定される。

有文土器は後述するBIII群の1類と2類に相当する。1類は浮線文的な技法であるが、隆帯的な施文方法や突起が付く。72は、やや内湾気味に直立する器形で、いわゆる茸状突起がつく。突起にはわずかに切り込みが見られる。口辺部に三角形状の区画文があり、連結部に切り込みが入る。胴上部の文様帶は、レンズ状文と2条の沈線が横走している。レンズ状文の突起部には切り込みが見られる部分とそうでない所があり、後者の部分で口辺部文様帶と隆線でつながっている。73は、三角形状の隆帯による区画文が山形の波状口縁をなしている。無文部をはさんで、レンズ状文と2条の沈線がつづく。74は、くびれて外反して直立する器形で、73と同様に波状を呈するが、口縁部文様帶の連結部に切り込みが見られる。頸部は無文で、肩部にレンズ状文と2条の沈線が横走する。76～79は同一個体である。やや内傾する平口縁で、隆帯状の区画文があって、無文帶の下にレンズ状文と2条の沈線がつづく。80～82もやや内傾する平口縁で、83は内傾するが、山形の口縁部である。84～86は胴部片であるが、レンズ状文と沈線文の組み合わせである。87はやや異質で、隆線的な文様が網状に展開する。

2類は主として沈線による施文である。71は内湾気味に直立する平口縁で、口縁部に沿って2条の沈線があり、無文部をはさんで、レンズ状文と2条の沈線が横走する。内外面は条痕調整である。88～94は内傾気味に直立する平口縁の土器である。95はゆるくくびれて外反しながら直立平口縁のこぶりの深鉢形土器である。口縁部に2条の沈線があり、頸部は無文部があり、肩部には沈線の区切りに小突起が付く。96～98は同一個体である。ゆるやかな波状口縁で、口縁部に沿って浅い沈線が横走する。99は内傾し沈線とわずかに隆線も見られる。100は茸状突起である。中央外面に切り込みが入る。101・102は沈線が施されているが、やや異質なものである。102には沈線の両側に刺突列があり、下半に条痕が施されている。

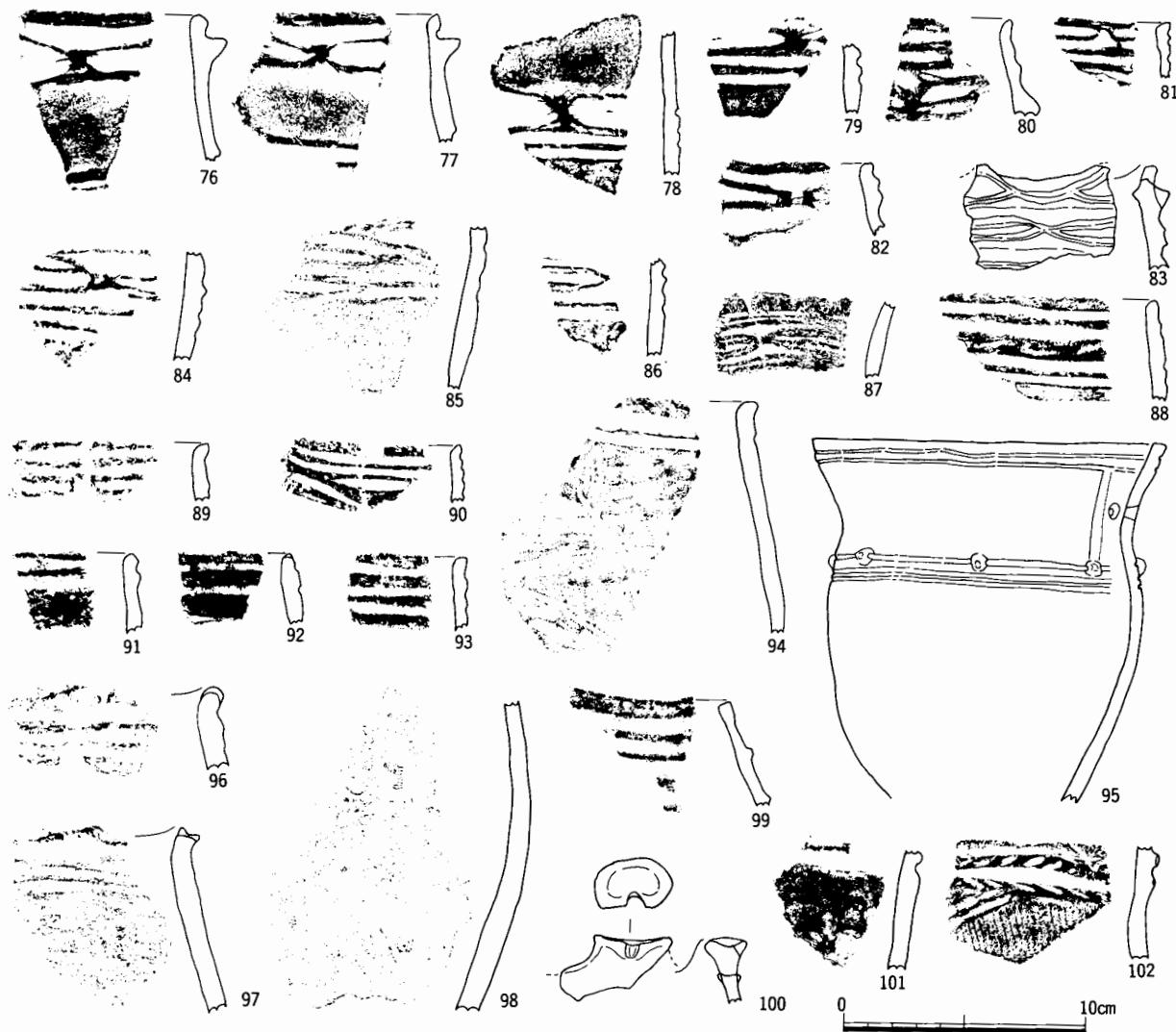
有文以外の土器は条痕文と無文のものがある。75は、直立する平口縁で内外面に横方向に条痕が見られる。103～110は同一個体である。破片が小さく器形の復元には到らなかったが、段を有して上は



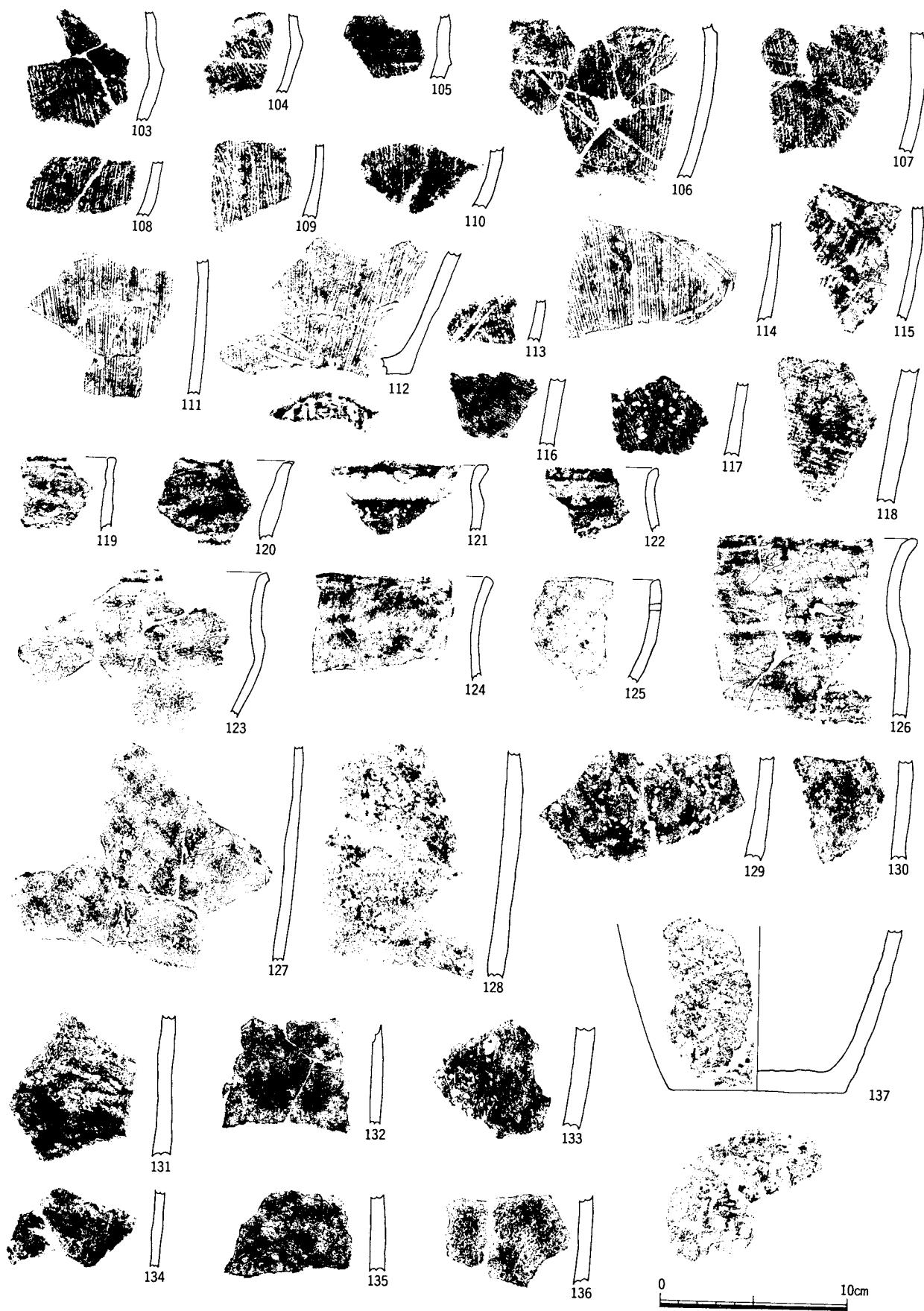
第27図 A地点D 5区出土の縄文土器(1)

無文、下にいわゆる細密条痕が施され、浅い沈線がジグザグに引かれる。111～114は同一個体で、やはり、細密条痕に沈線が2本組みになってジグザグに引かれる。115～118も条痕が施されている。

119～137は無文である。口縁が、直立するもの（119・125）、外傾するもの（120）、外反するもの（121～124・126）がある。122・123は口縁端部が外側に面取りされている。123・126は段を有して括れている。



第28図 A地点D 5区出土の縄文土器(2)

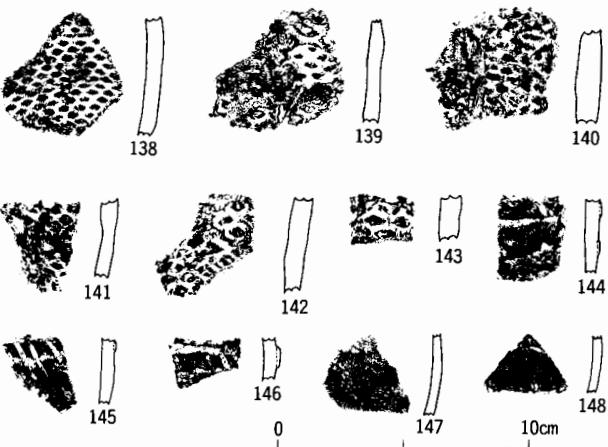


第29図 A地点D5区出土の縄文土器(3)

## 第V層出土の縄文土器（第30図、図版7）

縄文早期の土器がわずかであるが出土している。押型文土器と早期末葉の条痕文系土器に2分できる。

138～143は押型文で、楕円文が横位に密接施文されている。纖維をわずかに含む。吉城郡古川町岡前遺跡の押型文土器III期に併行する。条数は3条以上であるが、138は5条である。140の1単位は、丸みを持っているが、他はいわゆる穀粒状を呈する。144～146は器厚が約5mmで低い隆帯がつき、隆帯状および胴部に条痕がつく。144は、口縁に平行する隆帯とその下部に波状を描く隆帯がつく。147は無文で、148はわずかに条痕が観察される。いずれも早期末葉のものである。



第30図 A地点包含層出土の縄文土器(1)第V層

## 第III層出土の縄文土器（第31～48図、図版7～14）

第III層からは、縄文中期後半と縄文晩期の土器が出土している。以下、時期・施文方法等による分類ごとに記述する。

## C I群 隆帯文の土器（第31～33図、図版7・8）

## 1類 隆帯と沈線文を組み合わせたもの（第31・32図、図版7）

## a類（149～178）

隆帯で区画された中を沈線が埋めるものである。149～162は同一個体と推定されるが、渦巻きと連続する繋ぎ弧文による区画内に沈線が施される。文様帶の下は条線である。

口縁部は平口縁で、内面に段を有するもの（163～170）と平坦な面のもの（171～173）がある。

## b類（179・180）

隆帯が縦に走り、沈線が平行する。179の隆帯には連続刺突が施される。

## c類（181～183）

隆帯に対して斜位に沈線が施される。181の隆帯は渦を巻いている。唐草文系土器と考えられる。

## d類（184～187）

縦の隆帯と交互に蛇行沈線が組み合ったものである。地文は条線が斜位に施される。

## e類（188～190）

沈線が渦巻き状に施されているものである。188は突起部分で、渦巻きが対になっている。外面にも渦巻きが見られ、中に押し引き状の刺突が見られる。189の突起は橋状把手になっており、渦巻き文と縦位の沈線が組み合ってある。190は頸部が括れる波状口縁の土器である。大きく欠失しているので、文様の展開は不明な部分が多いが、口縁部から頸部にかけては隆帯が円を描き、沈線が渦を巻きながら展開する。胴部には隆帯が2本1組で蛇行しながら垂下する。



第31図 A地点包含層出土の縄文土器(2)C I群 1類



第32図 A地点包含層出土の縄文土器(3)C I群1・2類

## f類 (191~193)

沈線が曲線的な展開をする。193は、台状の頂部を有する波状口縁で、隆帶は渦を巻き刺突が連続的に施されている。

## 2類 隆帶のみのもの (第32図、図版8)

## a類 (194~199)

地文が無文のものである。隆帶は横位あるいは曲線的に施される。

## b類 (200~202)

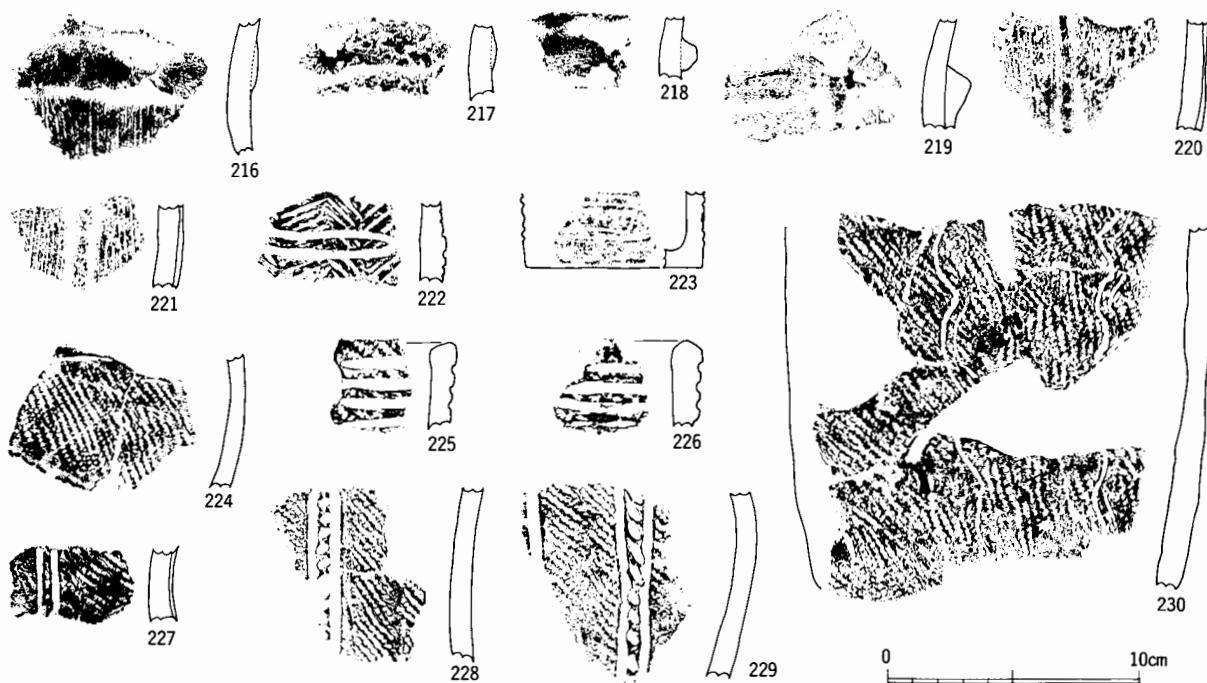
地文が条線文のものである。隆帶が口縁に平行になっているもの (200・201) と蛇行して垂下するもの (202) がある。200は条線が斜位に二方向から施文されている。

## c類 (203~215)

地文が縄文のものである。203・204・207はゆるい波状口縁を呈し、隆帶が曲線的に巻き込んでいる。205は渦を巻く隆帶と横方向の隆帶がある。206・207は平口縁で横方向に隆帶があるが、後者の隆帶は低くてゆるやかである。209~215は隆帶が曲線的に施文されている。

## 3類 リボン状突帯を有するもの (第33図216~221)

216~220は同一個体と思われる。口縁は不明であるが、頸部に指で隆帶を押しつぶしたようなわゆるリボン状突帯があり、さらに隆帶が縦に下りる。口辺部は無文で、胴部は縦方向の条線文である。



第33図 A地点包含層出土の縄文土器(4)C I群3類、C II群1・2類

**C II群 沈線文の土器（第33～35図、図版8）****1類 地文が無文のもの（第33図222・223、図版8）**

222は、横走する2本の沈線と斜位に施された沈線がある。223は底部近くに沈線で区画された中を縦位の短沈線が施されている。

**2類 地文が縄文のもの（第33図224～230、図版8）**

沈線が横位のもの（224～226）と縦位のもの（227～229）がある。後者は、2本の沈線間に連続刺突文がある。230は蛇行沈線である。

**3類 凹線が施されるもの。（第34図、図版8）**

幅が広くて浅い沈線（凹線）が施されたものである。縄文後期後葉の凹線文とは区別する。指で押し引いたような施文である。

231は頸部がやや括れゆるく外反する平口縁の土器で、口縁部に沈線が入り2本の短い隆帯がつく。凹線は横位に施され、区画された下に2本横位にあり、さらに下にはまた凹線が曲がっている。

232はやや開く器形で、対になった突起部があり、口縁部に沿って沈線内に円筒状の連続刺突が見られる。頸部に縦位の沈線が並び、その下に凹線が横位に区切られ曲がって展開する。233は、外反しゆるい波状口縁で、波頂部に落ち込みがある。口縁部に沿って隆帯が横走し、波頂部の下は円形になっている。頸部には、U字状に沈線が施され、その下に凹線が工字状に施されている。地文は縄文である。233～258は器形不明のものである。凹線が横位あるいは、縦位に施されている。地文はいずれも縄文である。

凹線文が同様に施されるものとしては、高山市寺東遺跡の第2号住居址からまとまって出土した例があり、飛驒地方の特徴的なものと考えられる（吉朝1988）。

**C III群 その他の文様の土器（第35図、図版8）****1類 連続刺突文が施されるもの（第35図259～279、図版8）**

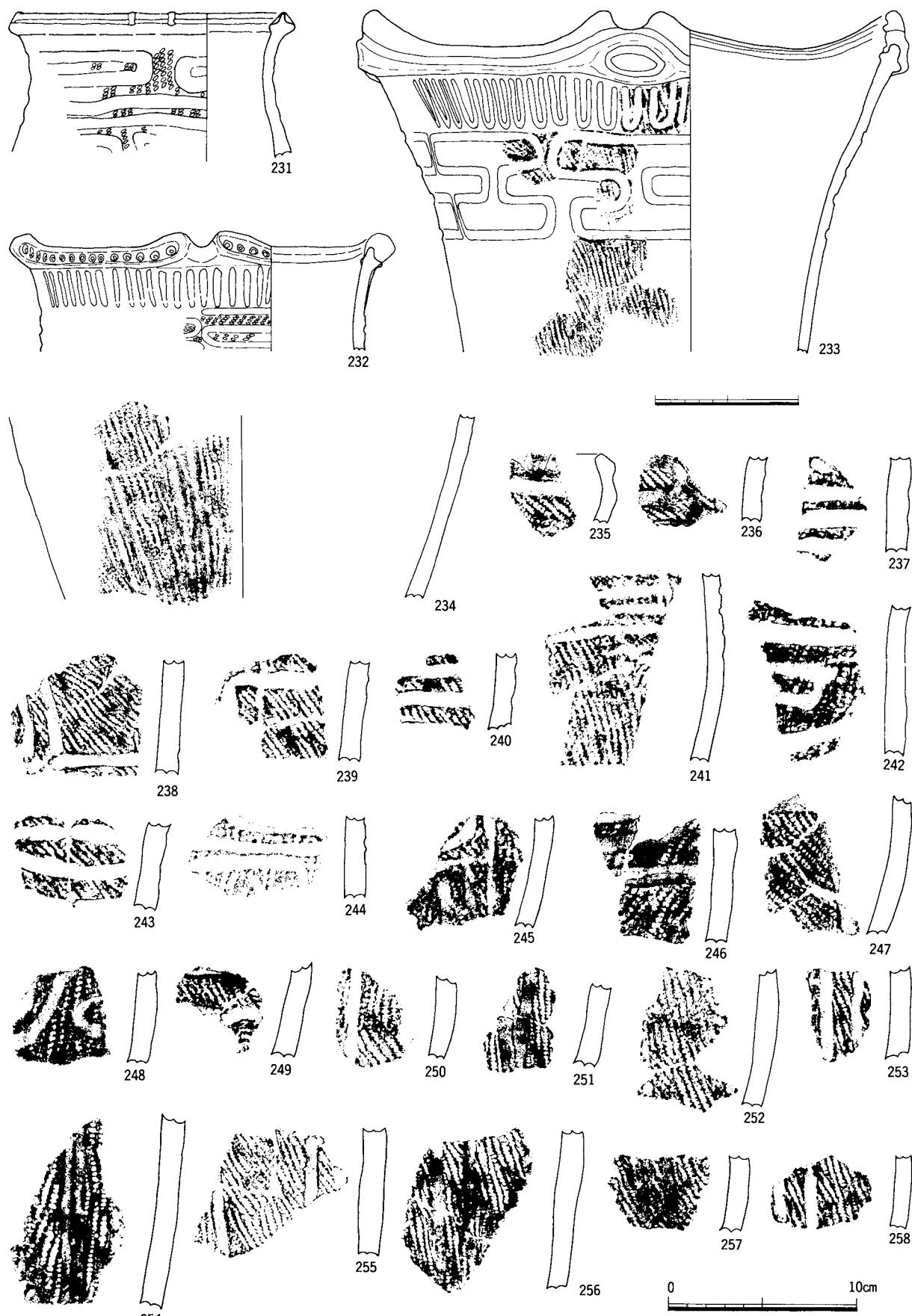
259～265は比較的浅い沈線で区画文が施され、口縁部に沿った部分と低い隆帯の部分に櫛状工具による連続刺突が見られる。古串田新式に相当すると思われる。

266～279は2本が対になった櫛状工具による連続刺突が見られる。

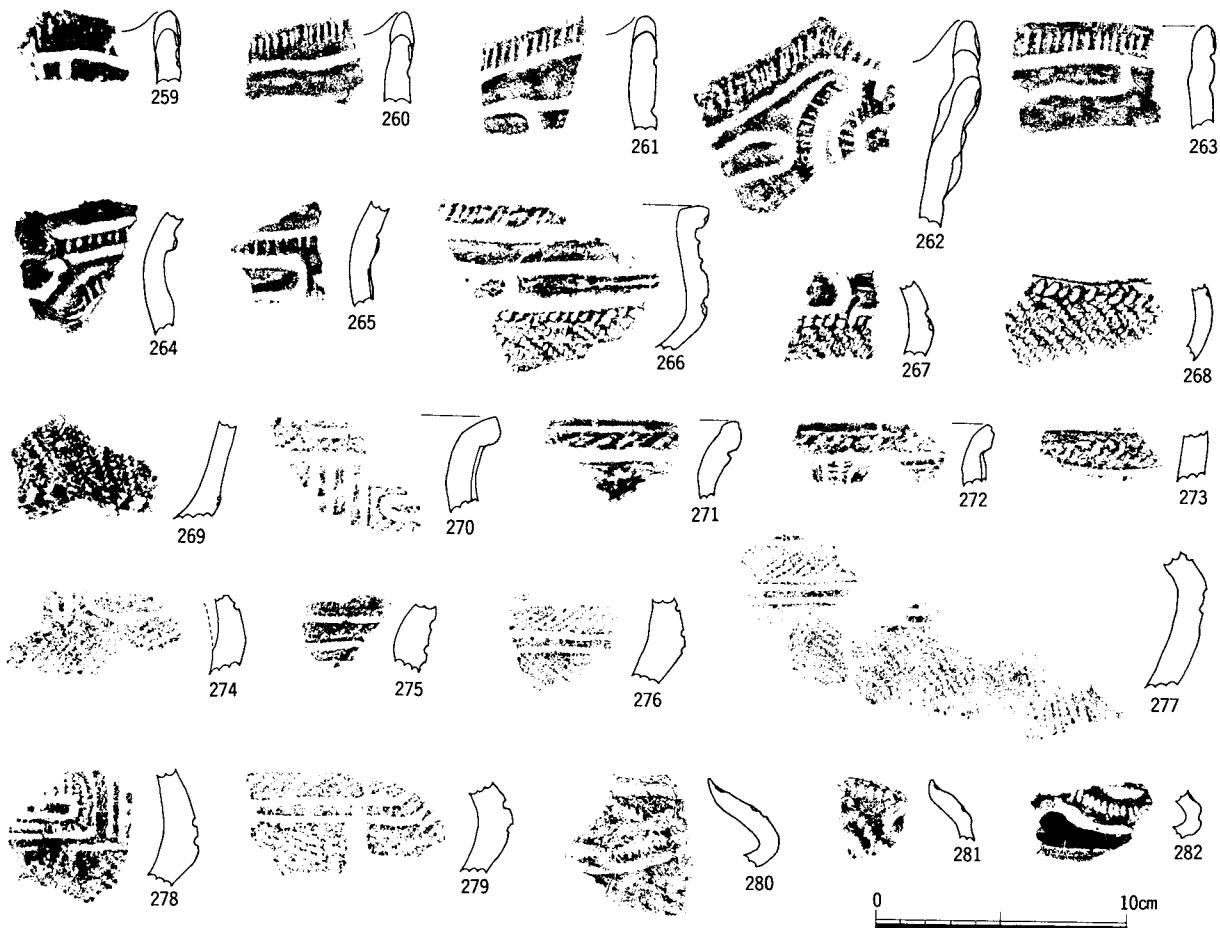
270～279は同一個体である。括れて外反する平口縁で、口縁部に沿って横方向に沈線があり、頸部に沈線による区画文があり、肩部に横長のやはり沈線による区画がある。頸部以上と胴部の縄文は向きが異なっている。

**2類 押し引きの沈線が施されるもの（第35図280～282、図版8）**

キャリバー形の器形で口縁部に押し引きの沈線が施される。東海系の土器である。



第34図 A 地点包含層出土の縄文土器(5) C II 群 3類



第35図 A地点包含層出土の縄文土器(6)C III群

## C IV群 無文の土器 (第36・37図、図版9)

## 1類 縄文が施されるもの (第36図、図版9)

器厚や胎土などから見て縄文中期と思われるものを集めたが、他の時期のものが混じっているかもしれない。283～285は肥厚した口縁で内湾気味の平口縁である。286はやや外反気味に直立する平口縁である。他は器形不明の胴部片である。

## 2類 摺糸文が施されるもの (第37図312～316、図版9)

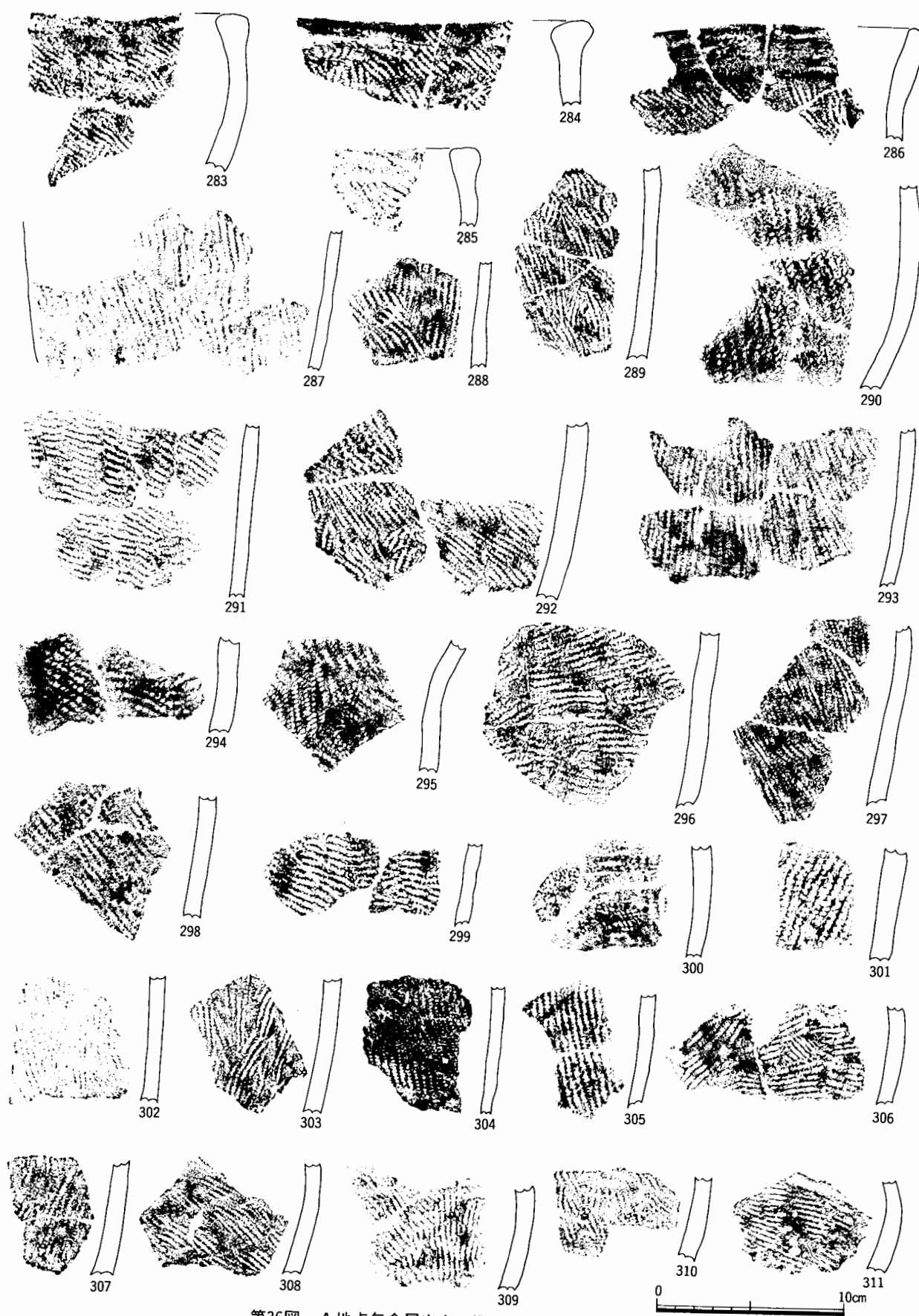
肥厚した口縁で直立する平口縁である。摺糸文が縦位あるいは斜位に施されている。

## 3類 条線文が施されるもの (第37図317～330、図版9)

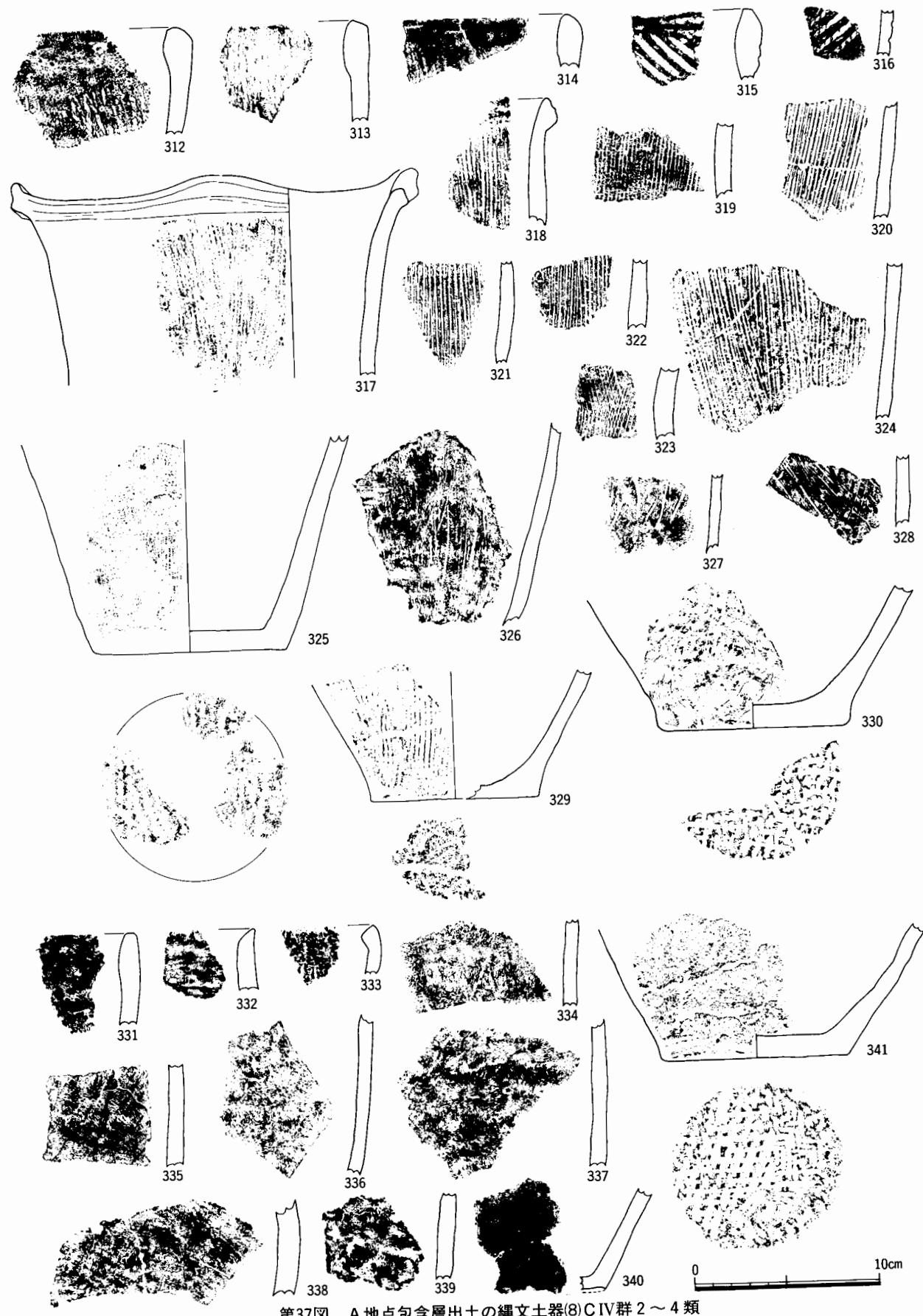
条線が縦位に密接に施されているもの (317～325・329) とまばらに引かれているもの (326～328・330) がある。317・318は肥厚した口縁である。

## 4類 無文のもの (第37図331～341、図版9)

発掘調査地点は晩期の土器が多い所であるが、胎土等から見て中期と思われるものを集めた。



第36図 A 地点包含層出土の縄文土器(7) C IV群 1類



第37図 A地点包含層出土の縄文土器(8)C IV群 2～4類

## B I 群 晩期前半の土器（第38・39図、図版10・11）

## 1類 磨消繩文が施されている土器（第38図342～345、図版10）

342は直線的に開く器形で三叉文が施される。343は内湾する平口縁で、入り組み文が見られる。

## 2類 沈線文の土器（第38図346～374、図版10・11）

沈線が曲線的に展開するもの（346～351）と、直線的に展開するもの（352～374）がある。後者は繩文を伴うもの（352～360）と、無文のもの（361～374）がある。無文のものはいずれも沈線が横位に施されている。345は直線的に開き器形の浅鉢である。351は、ゆるい波状口縁で2本の沈線が施される。352は縦位に2本1組の沈線が施されている。353～356は内湾あるいはやや内傾する平口縁の土器で沈線が横方向に施されている。365は小型の鉢形土器である。

## 3類 凹線文の土器（第38図375～380、図版10）

幅が広くて浅い沈線（凹線）が施されている。やや外反気味に直立する器形である。

## 4類 刺突文のある土器（第38図381～389、図版10・11）

連続的に刺突文が施されている。381・382は2本の沈線間に刺突が施されている。387は台付き土器の脚部である。円筒状の刺突と小刺突が交互に施されている。刺突列の上下には、沈線が複数横走し、脚裾部には浅い短沈線が斜位に施されている。388・389は横走する隆帶上に刺突が施されている。

## 5類 隆帶文等の文様がある土器（第38図390～392、図版10・11）

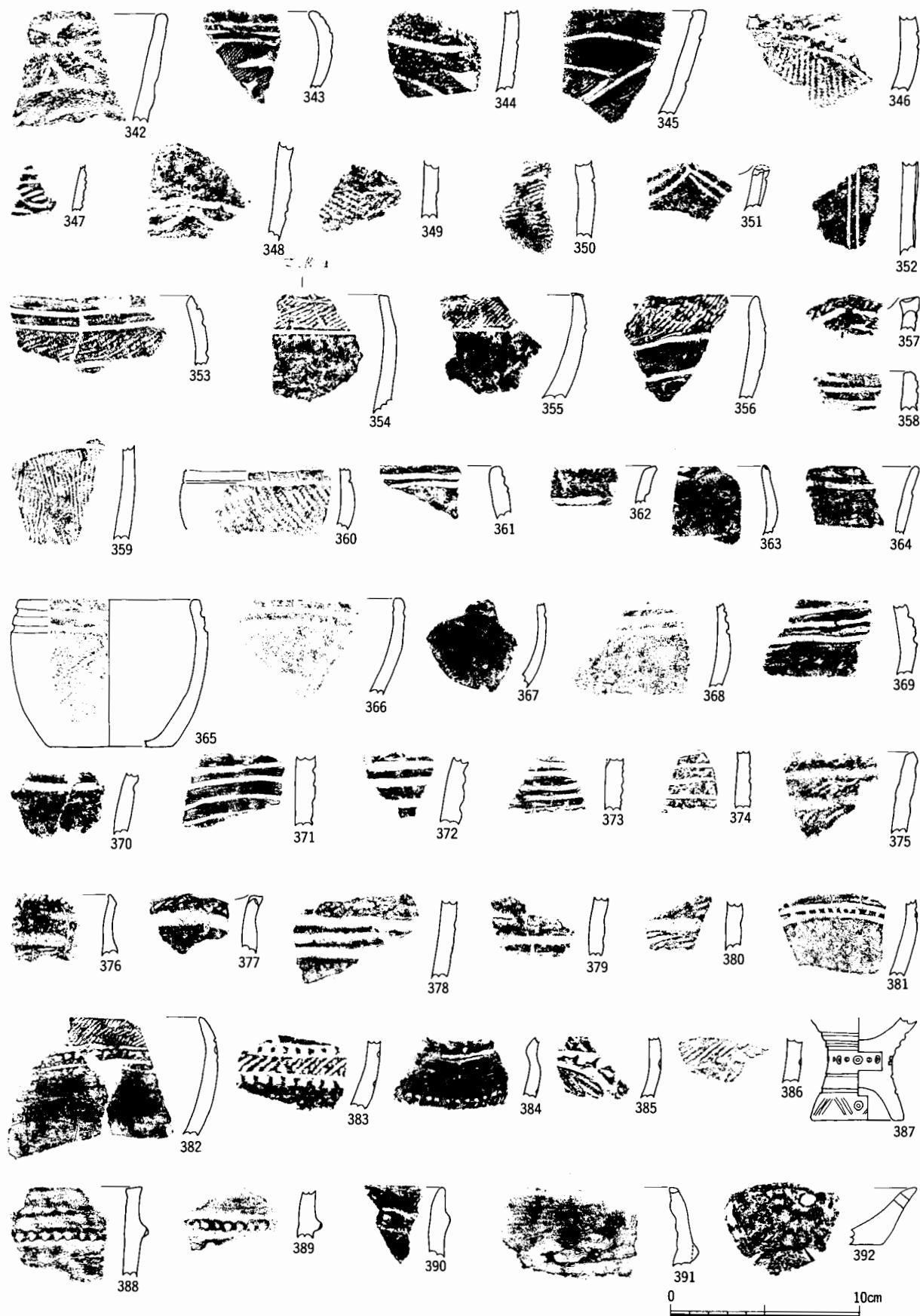
390は平口縁で、指押さえのある隆帶が斜め方向に施文される。繩文中期のリボン状突帯と類似している。胎土から見て晩期のものと判断した。391は小突起が並ぶ。

## 6類 中屋式段階の土器（第39図393～405、図版10）

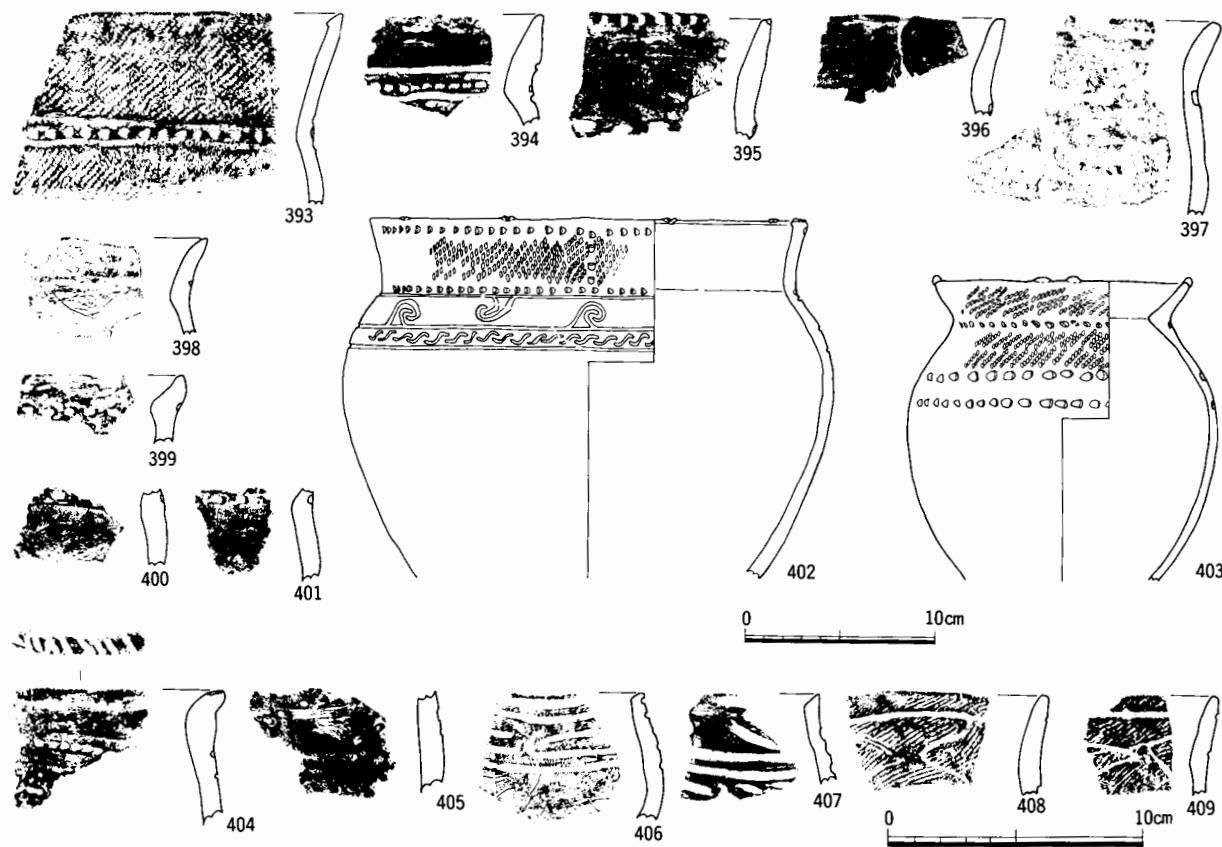
口縁部がくの字状に屈曲して外反する。頸部に連続刺突文が見られる。393・394は括れ部の2本の沈線間に刺突がある。395は口縁端部にも連続刺突文があるもの。402は、口縁部に沿って連続刺突が施され、口辺部には擬繩文が施される。括れ部の連続刺突文の下に沈線が横走し、胴上部に沈線による渦巻き文と入り組み文が連続する。403は口縁部に小突起が付く。地文は繩文で、胴上部には2条の連続刺突文が並ぶ。

## 7類 晩期中葉の土器（第39図406～409、図版10）

沈線が横方向に展開する。406・407は内傾し、408・409はやや外反しながら直立する平口縁の土器である。後者は地文は繩文で、口縁に平行の沈線と曲線的に対になる沈線が見られる。



第38図 A地点包含層出土の縄文土器(9)B I群 1～5類



第39図 A 地点包含層出土の縄文土器(10)B I 群 6・7類

## B II群 晩期後半の土器 (第40図、図版11)

## 1類 浮線文系の土器 (第40図410~416・418~422、図版11)

沈線部を磨き込んで浮線部を形成する典型的な浮線文とは異なるが、磨き込んで隆線部を作り出す浮線文的な土器を「浮線文系の土器」とする。410は頸部が括れ、やや外反気味に開き、波状口縁を呈するが、いわゆる葺状突起を有する。口辺部は、隆帶で三角形に区切られ、連結部は切られている。頸部は無文で、肩部から胴部上部にかけて、工字的な文様が展開する。412・413にも同様の文様が展開するが、施文の位置は直立する口縁部の直下である。411は小型の鉢形土器で、口縁端部は指でおさえたような小波状を呈する。口縁内面は段を有する。頸部は無文で、肩部の隆帶には連続的に刻みが施されている。胴上部は沈線が横走し、弧状に沈線が連続する。418は外反しながら立ち上がるゆるやかな波状口縁を呈し、対になった突起が見られる。口辺部は無文で、肩部に浮線網状文が見られる。419は直立する口縁で、口縁部文様帶の下に無文部がある。内面は横方向の条痕である。

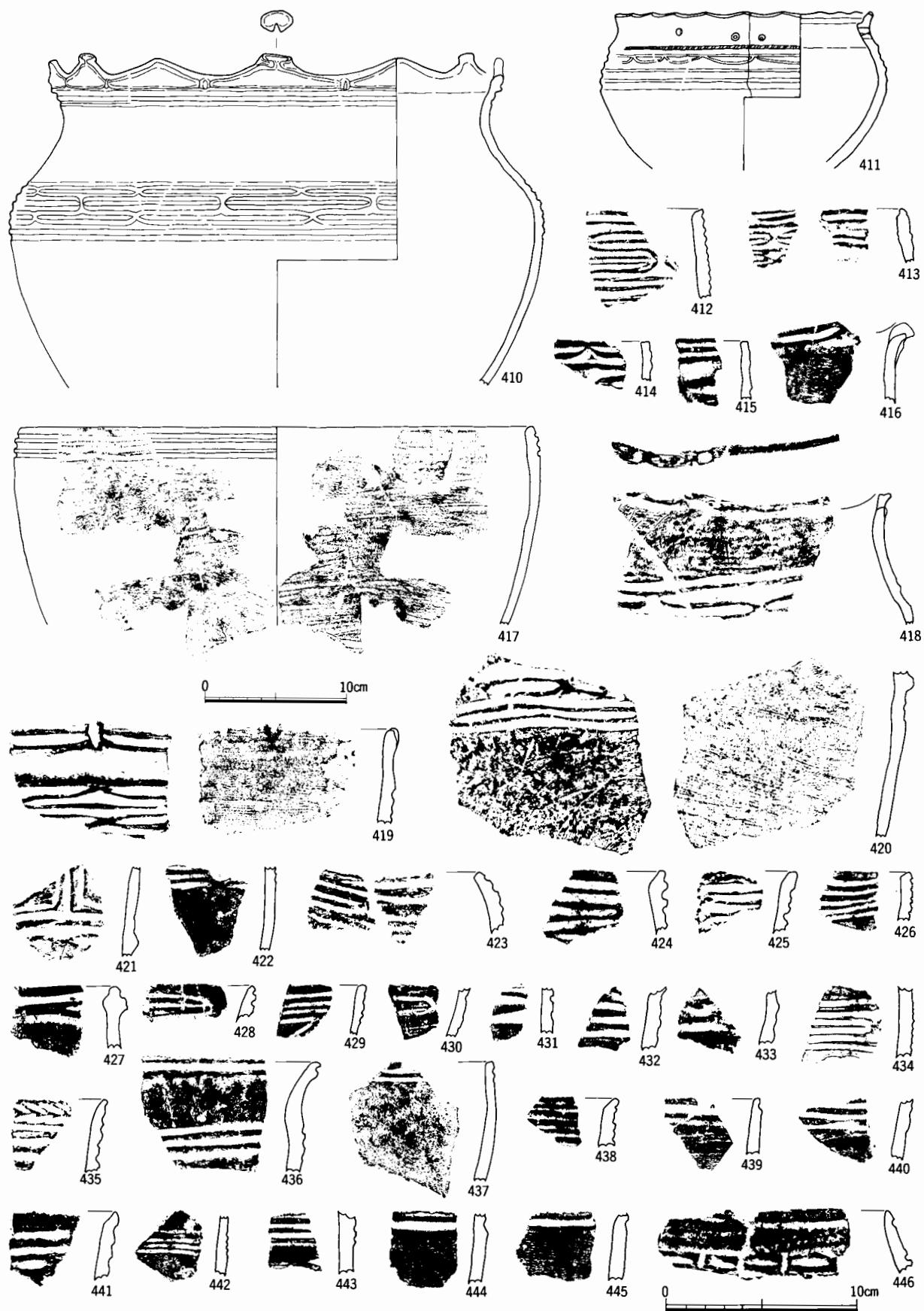
## 2類 沈線文系の土器 (第40図417・423~446、図版11)

## a類 (417・423~434)

沈線が施されているが、磨き込んでやや隆帶気味の施文がなされている。423・424は内傾し、425~429は直立あるいはやや外反気味の平口縁である。

## b類 (435~445)

沈線文の土器である。435は直線的にやや外反する口縁部羽状沈線が施されている。阿弥陀堂遺跡の



第40図 A地点包含層出土の縄文土器(II)B II群

二類土器に類似するものがある（大江1965）。

#### c類（446）

内傾する平口縁で、口縁部に沿って1本沈線が横走し、口辺は無文で沈線による区画内に短沈線が横位に並ぶ。眼鏡状付帶文に類似する文様展開である。

### B III群 無文土器（第41～48図、図版12～14）

#### 1類 輪積み痕を有する土器（第41図、図版12）

口縁部は、平口縁で内湾気味に直立するもの（447～452）と、やや開き気味のもの（453～458）がある。さらに小波状口縁のもの（459・460）がある。粘土帯の幅は約10～20mmである。

#### 2類 無文の土器（第42～45図、図版12・13）

器形等から次のように分類する。

##### a類（478～480）

平口縁で、内湾気味に立ち上がるもの。

##### b類（481～550）

口縁部が直立するもの。515～521は、口縁端部が尖り、内面に面取りされている。523～525はさらに外面にも面取りが見られる。522・526は口縁端部外面に面取りがなされているが、同様の土器がD5区からも出土しており（第29図123）、晩期後半の土器の指標になる可能性がある。

口縁端部に刺突等が施されるものがある（528～542）。528は小型の深鉢形土器で口縁端部に連続刺突文が施されている。529も同様であるが、さらに口縁内面に凹線状の溝がある。口縁端部の刺突は、内面側に施文されるもの（530・532・535・539・540）と、外面側に施文されるもの（533・534・536～538）がある。541・542には口縁端部に縄文が施文され、後者にはさらに刺突も組み合わせてある。

543は口縁内面に幅の広い沈線が引かれている。544～548は波状を呈する。548は口縁部に連続刺突が施される。549は内屈する器形である。550は隆帯による円形の文様がついている。

##### c類（551～567）

口縁部が外反気味のもの。559・561～565は、口縁端部に刺突が施され、560には同じく縄文が施されている。566・567には、口縁内面に沈線が施されている。

##### d類（568～574）

口縁部が、くの字に屈曲して外反するものである。568は口縁端部に交互に斜め方向の刺突が施されている。569はゆるやかに括れている。

##### e類（576・577）

浅鉢形土器である。576は、指押さえによる小波状口縁を呈している。長野県御社宮司遺跡でも同様の土器が出土している。

##### f類（575・578～615）

器形不明の胴部片を集めた。



第41図 A地点包含層出土の縄文土器(12)B III群1類

## g類 (616)

浅鉢形のミニチュア土器である。

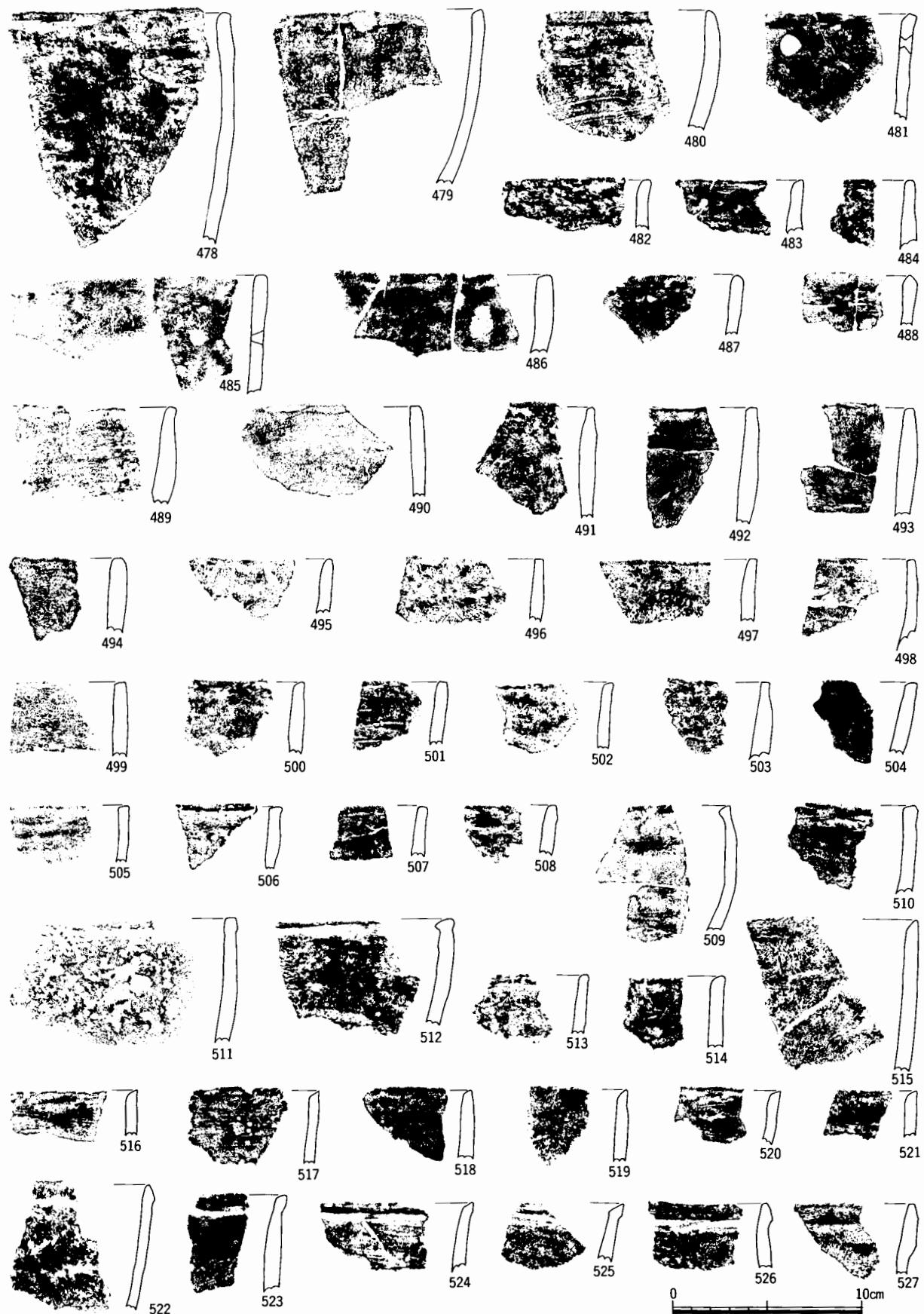
## 3類 条痕文の土器 (第46・47図、図版13)

条痕の目の荒いもの (617~639・650・651)、条痕の目の細かいもの (631~641) と、かすかに条痕状の擦痕が観察されるもの (642~649) がある。

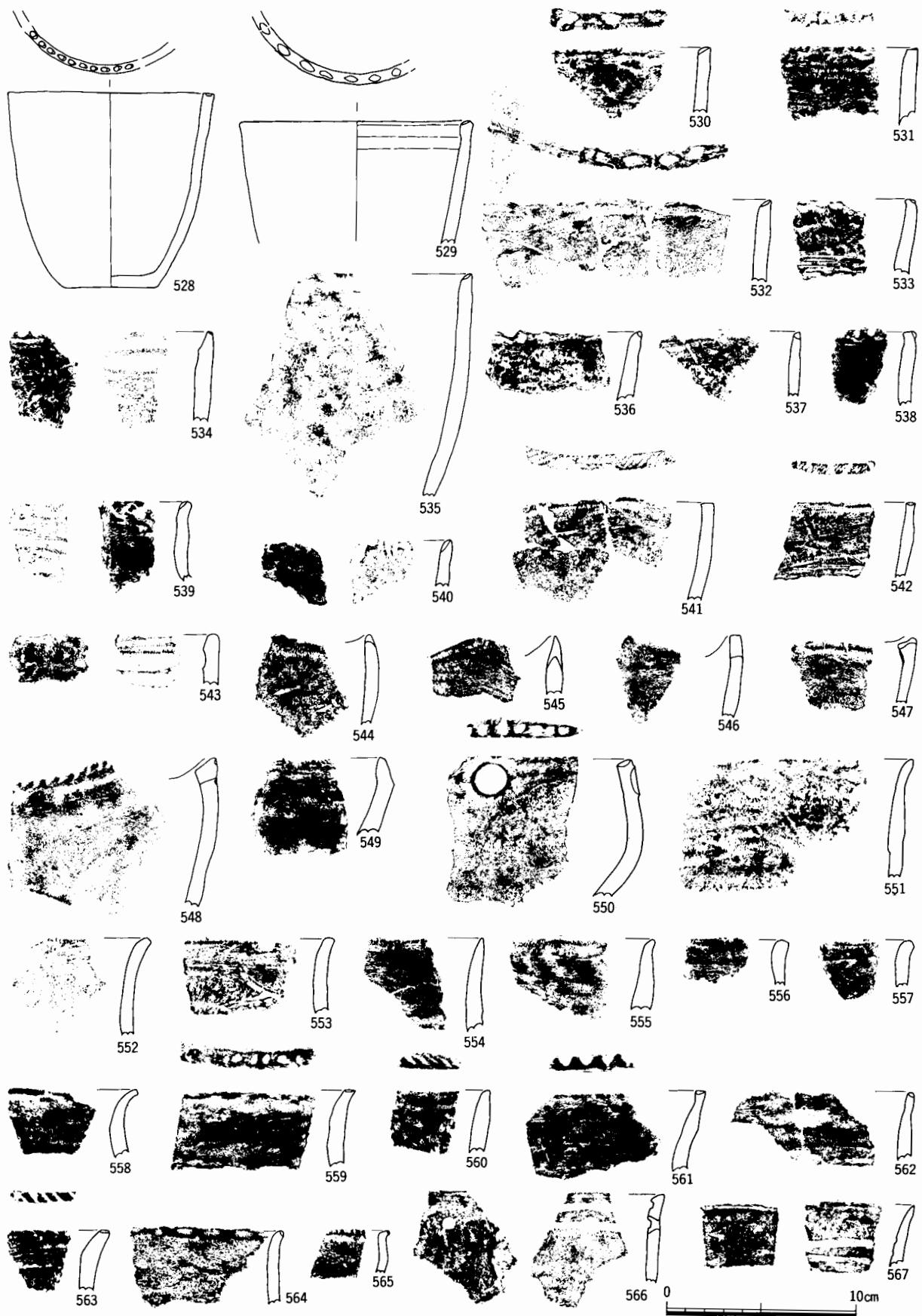
650・651は底部であるが、651には葉脈压痕（網状脈）が見られる。

## 4類 縄文の土器 (第48図、図版14)

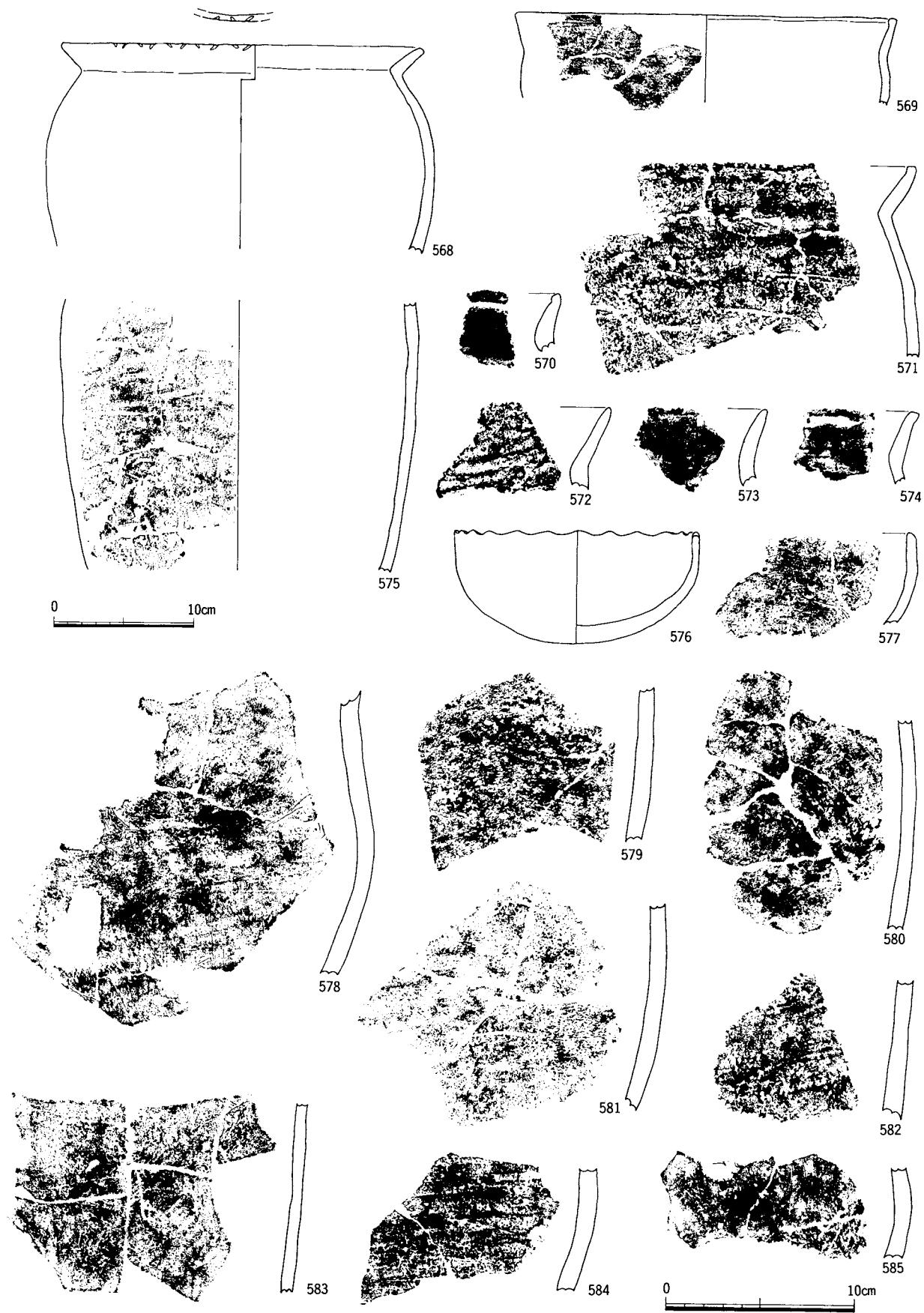
胎土等から見て晩期と推定したものを集めた。中期のものが混ざっているかもしれない。652はゆるやかに括れて外反する器形で、口縁端部の内面側に刺突が見られる。



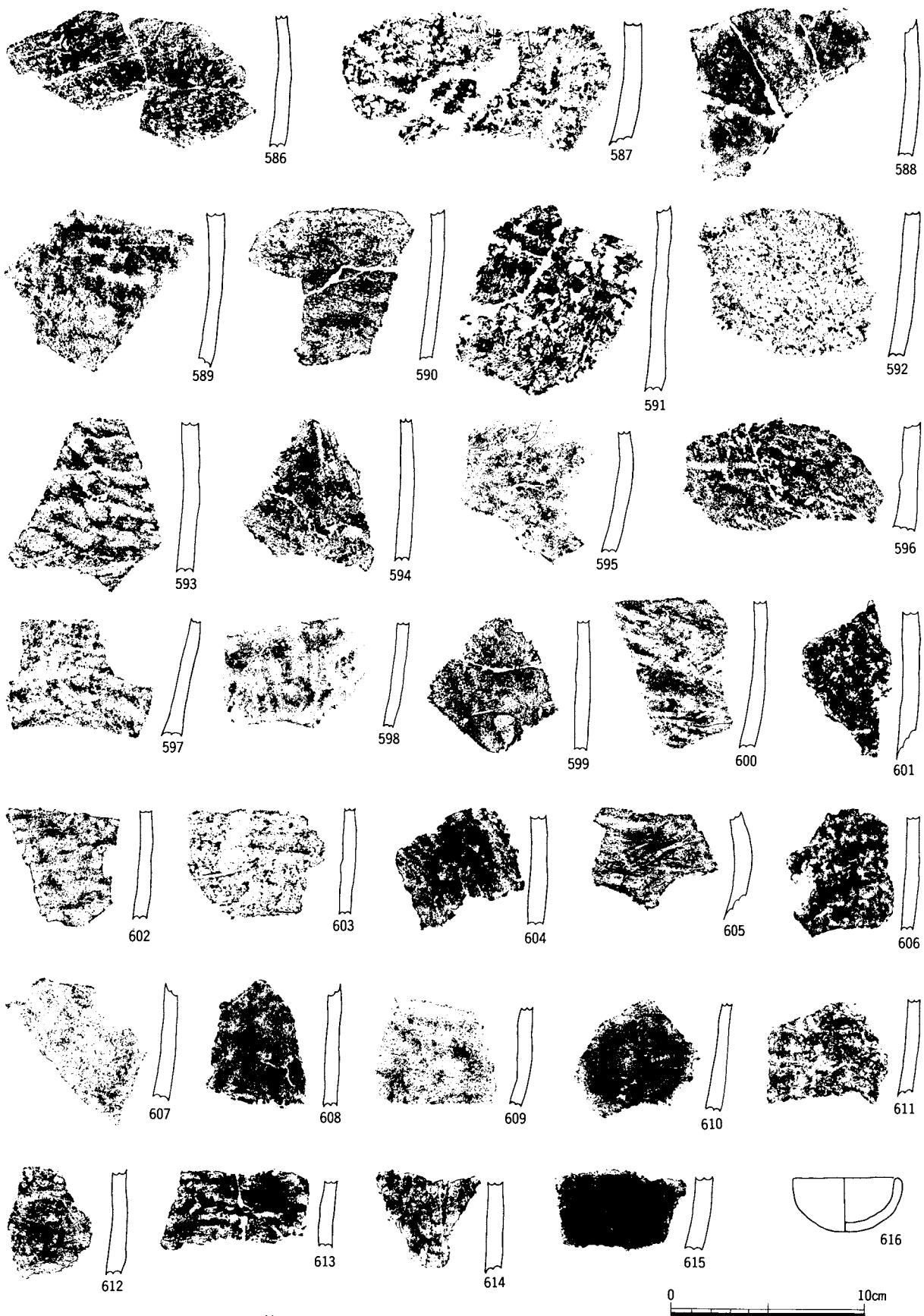
第42図 A 地点包含層出土の縄文土器(13)B III群 2類



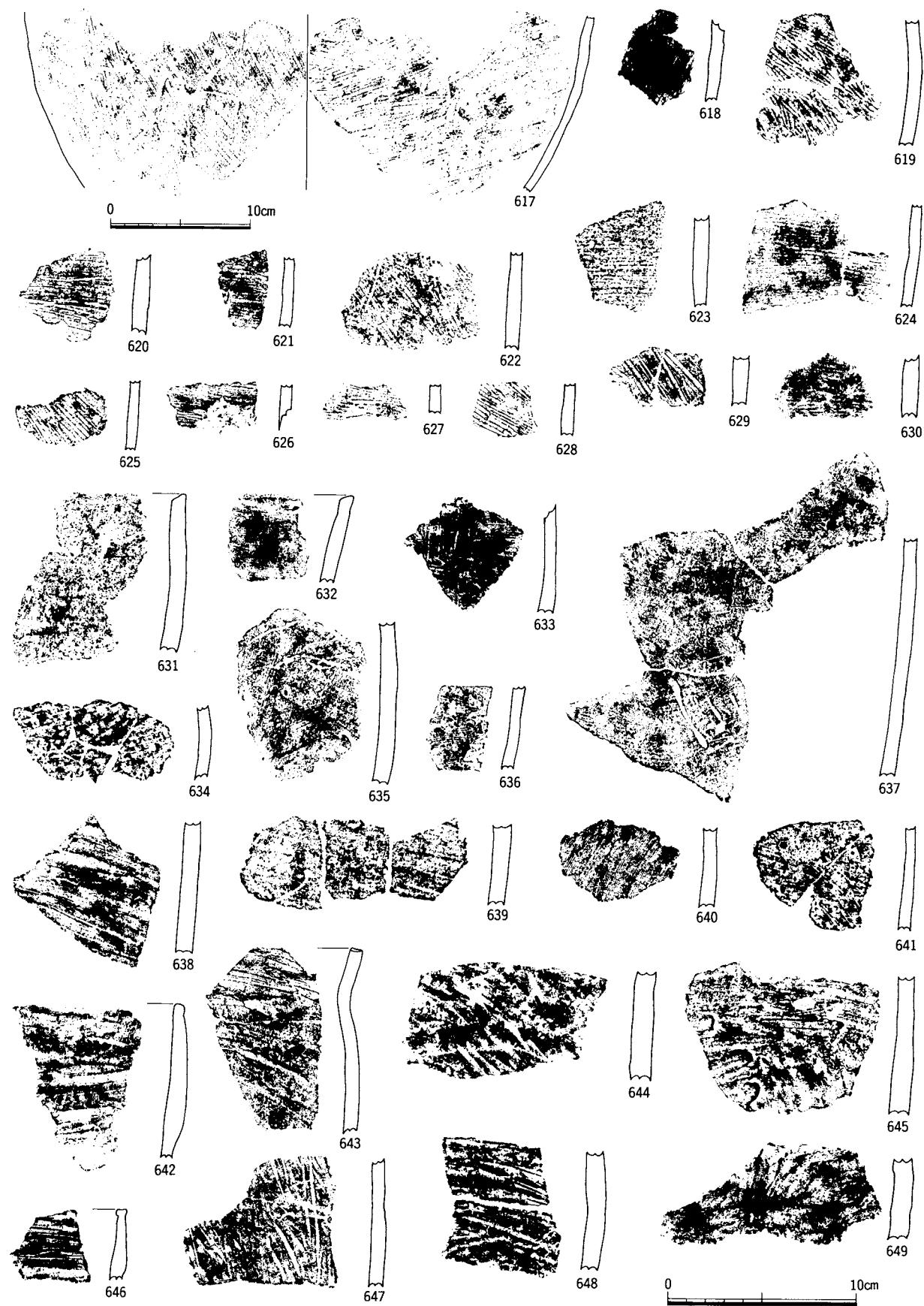
第43図 A地点包含層出土の縄文土器(14)B III群 2類



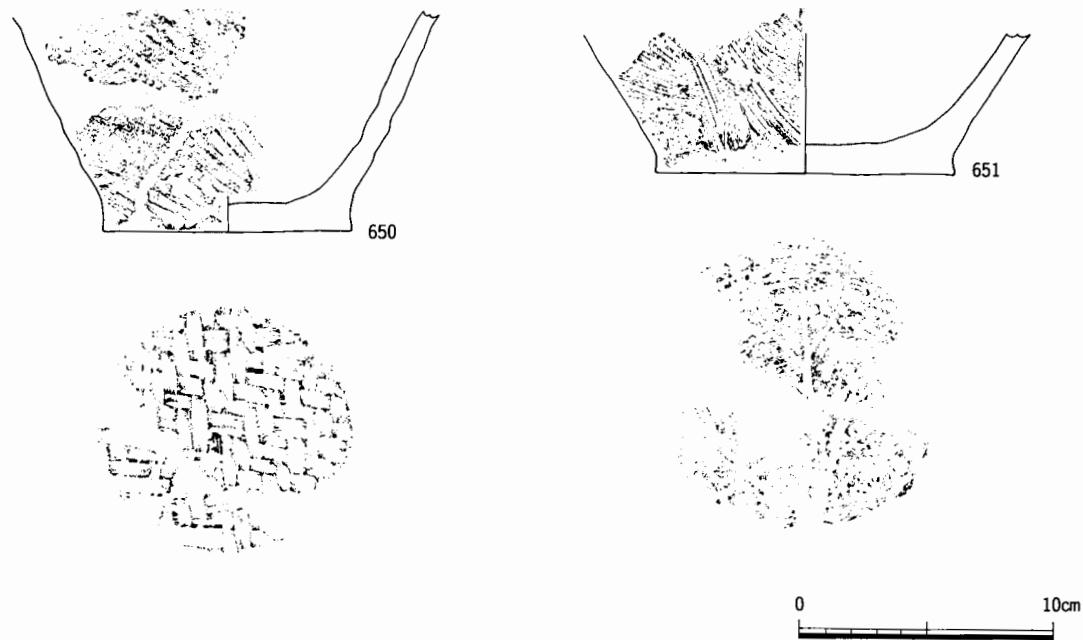
第44図 A地点包含層出土の縄文土器(15)B III群2類



第45図 A地点包含層出土の縄文土器(16)B III群 2類



第46図 A 地点包含層出土の縄文土器 (I) B III群 3類

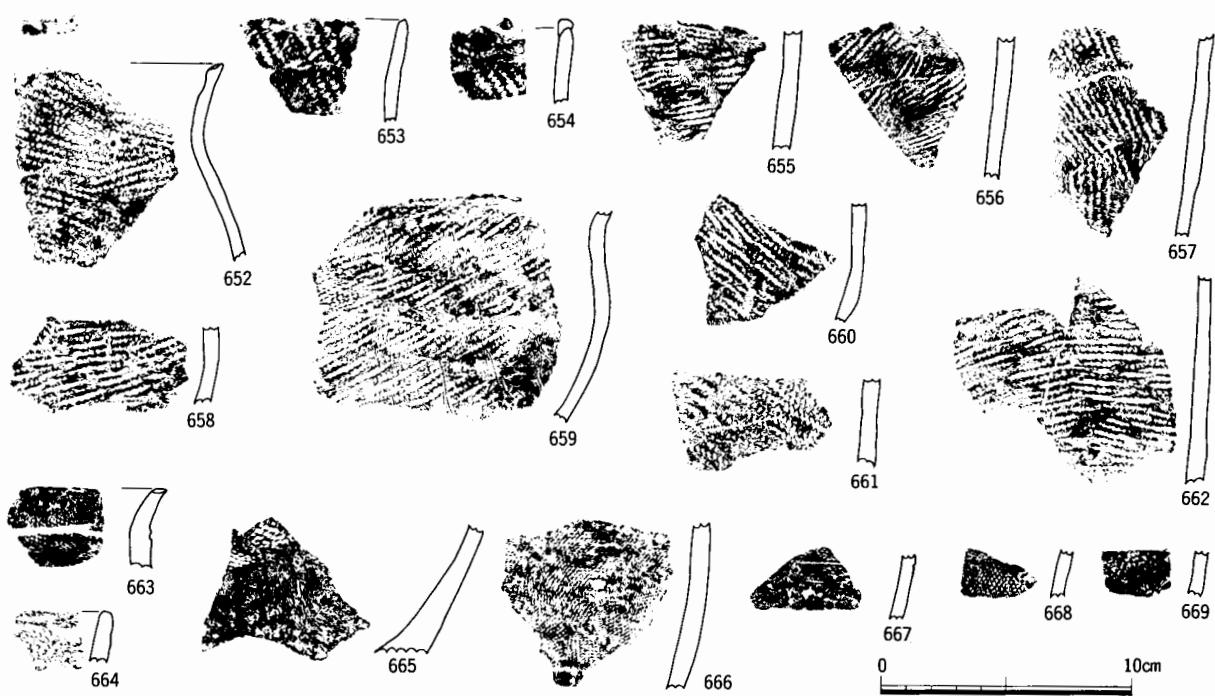


第47図 A地点包含層出土の縄文土器(18)B III群3類

## 5類 擬縄文の土器（第48図、図版14）

縄文以外の原体を回転して施文したいわゆる擬縄文の土器である。オオバコの穂を原体と推定している報告例（長屋1995）があり、本遺跡の例も同様のものと思われる。

水さらし場遺構出土の土器（第26図68・69）やその周辺で出土した第39図402の土器にも擬縄文が見られる。本遺跡では晩期前半に特徴的なものようである。



第48図 A地点包含層出土の縄文土器(19)B III群4・5類

## 底部

A地点出土の縄文土器の底部は計186点である。時期別に検討すべきであるが、判断のつかないものが多いので一括して記述する。分類の基準は五味原遺跡群の西田遺跡の報告例を参考にした。

器形については、(A) 深鉢状に底部から急に立ち上がるもの(角度105度以下)が30点、(B) 鉢状に底部からややゆるく立ち上がるもの(120度以下)が61点、(C) 浅鉢状に底部よりゆるく立ち上がるもの(140度以下)が44点、(D) 皿状に大きく開くもの(140度以上)が4点、不明47点となる。

底部の圧痕については、網代圧痕をA、葉脈圧痕をBとする。網代圧痕のうち、A1「1本越え1本潜り1本送り」10点、A2「2本越え2本潜り1本送り」5点、A3「2本越え2本潜り1本送り」3点、A4「2本越え2本潜り1本送り2本潜り1本越え1本潜り1本送り」1点、A6「3本越え3本潜り1本送り」1点、不明56点である。葉脈圧痕は、網状脈(B1)が11点、平行脈(B2)が4点である。さらに、2種類の網代圧痕を組み合わせたもの1点、網代圧痕と葉脈圧痕を組み合わせたもの4点である。その他に、丁寧なナデ仕上げが61点、その他6点、不明23点である。

## 土器観察表の記号について

観察項目の記号は次の通りである。

[器形] 確定できないが、推定を含めて次のようにする。

A 深鉢形土器 B 鉢形土器 C 浅鉢形土器 D 小型土器・ミニチュア土器

[残存度] 分数で表現できない細片については次のようにする。

a 口縁部片 b 胴部片 c 底部片

[焼成] a 良好 b 普通 c やや不良 d 不良

[胎土] a 密 b 粗

第3表 A地点縄文土器観察表

番号	地区	層	器種	残存度	文様・調整	焼成	胎	土	色調
1	SB1	III	A	2/3	隆帯・沈線	b	b		5YR5/6 明赤褐色
2	SB1	III	A	1/5	沈線・刺突	b	b (雲母)		10YR4/3 にぶい黄褐色
3	SB1	III	A	a	隆帯・沈線	b	b		7.5YR5/6 明褐色
4	SB1	III	A	a	沈線・縄文	b	b		5YR5/6 明赤褐色
5	SB1	III	A	b	沈線・縄文	b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色
6	SB1	III	A	b	沈線・縄文	b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色
7	SB1	III	A	b	沈線・縄文	b	b (1~2mmの砂粒)		7.5YR5/4 にぶい褐色
8	SB1	III	A	b	沈線・縄文	b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色
9	SB1	III	A	c	沈線・縄文	b	b (1~2mmの砂粒)		7.5YR5/4 にぶい褐色
10	SB1	III	A	b	沈線・縄文	b	b		5YR5/4 にぶい赤褐色
11	SB1	III	A	b	沈線・縄文	b	b		5YR5/6 明赤褐色
12	SB1	III	A	a	沈線・縄文	b	b		10YR6/4 にぶい黄橙色
13	SB1	III	A	b	突帯・	b	b		7.5YR5/6 明褐色
14	SB1	IV	A	b	隆帯・条線	b	b		10YR5/3 にぶい黄褐色
15	SB1	IV	A	a	撚糸文	b	b		5YR5/4 にぶい赤褐色
16	SB1	IV	A	a	撚糸文	b	b		7.5YR5/3 にぶい褐色
17	SB1	III	A	b	縄文	b	b		7.5YR6/4 にぶい橙色
18	SB1	III	A	b	縄文	b	b		10YR8/3 にぶい黄橙色
19	SB1	IV	A	b	縄文	b	b		7.5YR5/6 明褐色
20	SB1	III	A	b	条線文	b	b		7.5YR3/1 黒褐色
21	SB1	III	A	b	条線文	b	b		10YR3/3 暗褐色
22	SB1	III	A	a	無文	c	b		7.5YR4/4 褐色
23	SB1	III	A	b	無文	c	b		7.5YR4/4 褐色
24	SB1	IV	A	b	無文	b	b		7.5YR6/4 にぶい橙色
25	SB1	III	A	b	無文	b	b		5YR6/6 橙色
26	SB1	III	A	b	無文	b	b		5YR5/6 明赤褐色
27	P6	—	A	b	縄文	b	b		10YR5/4 にぶい黄褐色
28	P7	—	A	b	縄文	b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色
29	P7	—	A	b	縄文	b	b		7.5YR6/6 橙色

番号	地区	層	器種	残存度	文様・調整	焼成	胎	土	色調
30	P25	—	A	b	繩文	c	b	10YR5/4	にぶい黄褐色
31	P26	—	A	a	沈線	b	b	10YR3/1	黒褐色
32	P26	—	A	b	繩文	c	b (1~3mmの砂粒)	2.5Y6/6	明黄褐色
33	P26	—	A	b	無文	c	b (2~4mmの砂粒)	2.5Y6/3	にぶい黄色
34	P26	—	A	b	無文	c	b (2~3mmの白色砂粒)	2.5Y7/4	浅黄色
35	P38	—	A	a	無文	b	b	7.5YR6/6	橙色
36	P48	—	A	b	無文	b	b	2.5Y7/4	浅黄色
37	P55	—	A	b	無文	b	b	2.5Y4/2	暗灰黄色
38	P59	—	A	b	無文	b	b	7.5YR6/6	橙色
39	P76	—	A	a	無文	b	b	10YR6/6	明黄褐色
40	P80	—	A	a	無文	b	b	10YR7/6	明黄褐色
41	P82	—	A	b	無文	b	b	10YR5/4	にぶい黄褐色
42	P116	—	A	b	沈線・繩文	a	a	10YR7/4	にぶい黄橙色
43	P116	—	A	b	条痕文	b	b	10YR4/1	褐灰色
44	P116	—	A	b	繩文	b	b	10YR6/4	にぶい黄橙色
45	P116	—	A	b	無文	b	b	5YR4/6	赤褐色
46	P116	—	A	b	無文	b	b	7.5YR5/4	にぶい褐色
47	P116	—	A	b	無文	a	a	7.5YR6/6	橙色
48	P116	—	A	b	無文	b	b	2.5Y4/4	オリーブ褐色
49	P129	—	A	b	無文	b	b	7.5YR6/6	橙色
50	P137	—	A	b	無文	b	b	7.5YR6/6	橙色
51	P141	—	A	b	繩文	a	a	10YR4/2	灰黄褐色
52	P146	—	A	b	沈線	b	b	2.5Y3/1	黑褐色
53	P146	—	A	b	無文	b	b	10YR4/2	灰黄褐色
54	P146	—	A	b	無文	b	b	7.5YR6/6	橙色
55	P156	—	A	b	無文	b	b	7.5YR6/6	橙色
56	P158	—	A	a	沈線・繩文	b	b	10YR4/3	にぶい黄褐色
57	P159	—	A	b	無文	b	b	7.5YR6/6	橙色
58	P162	—	A	b	隆帶・沈線	b	b	2.5Y5/4	黄褐色
59	P162	—	A	b	沈線・繩文	b	b	5YR5/6	明赤褐色
60	P164	—	A	b	沈線・繩文	b	b	10YR7/6	明黄褐色
61	P164	—	A	b	沈線・繩文	a	a	10YR4/3	にぶい黄褐色
62	P178	—	A	b	無文	c	b	10YR5/4	にぶい黄褐色
63	P187	—	A	b	沈線	b	b	10YR4/3	にぶい黄褐色
64	P202	—	A	b	無文	b	b	7.5YR5/6	明褐色
65	P222	—	A	b	沈線	b	b	10YR2/2	黒褐色
66	P225	—	A	b	無文	b	b	7.5YR6/6	橙色
67	P225	—	A	b	無文	b	b	10YR7/4	にぶい黄橙色
68	SE1	—	A	b	擬繩文	a	(砂粒)	2.5Y6/2	灰黄色
69	SE1	—	A	b	擬繩文	b	(砂粒)	2.5Y5/3	黄褐色
70	SE1	—	A	b	無文	c	(砂粒)	10YR5/2	灰黄褐色
71	D 5	III	A	1/6	沈線・条痕、内) 条痕	b	b (1~3mmの砂粒)	10YR5/6	黄褐色
72	D 5	III	B	1/6	隆帶・沈線、内) 条痕	b	b (1~2mmの砂粒)	10YR5/3	にぶい黄褐色
73	D 5	III	A	口縁部1/2	隆帶・沈線	b	b (2~3mmの白色砂粒)	10YR2/2	黒褐色
74	D 5	III	A	1/5	隆帶・沈線、内) 条痕	b	b	10YR5/4	にぶい黄褐色
75	D 5	III	A	1/5	条痕、内) 条痕	c	b	7.5YR5/4	にぶい褐色
76	D 5	III	A	a	隆帶	b	b	5YR5/4	にぶい赤褐色
77	D 5	III	A	a	隆帶	b	b	5YR5/4	にぶい赤褐色
78	D 5	III	A	b	隆帶	b	b	5YR5/4	にぶい赤褐色
79	D 5	III	A	b	隆帶	b	b	5YR6/6	橙色
80	D 5	III	A	a	隆帶、内) 条痕	b	b	10YR6/4	にぶい黄橙色
81	D 5	III	A	a	隆帶、内) 条痕	b	b	7.5YR4/3	褐色
82	D 5	III	A	a	隆帶	b	b	10YR3/2	黒褐色
83	D 5	III	A	a	隆帶	b	b (2~3mmの砂粒)	10YR6/4	にぶい黄橙色
84	D 5	III	A	b	隆帶	b	b	7.5YR5/4	にぶい褐色
85	D 5	III	A	b	沈線	b	b	7.5YR5/4	にぶい褐色
86	D 5	III	A	b	沈線	b	b	10YR3/1	黒褐色
87	D 5	III	A	b	沈線	b	b	5YR4/3	にぶい赤褐色
88	D 5	III	A	a	沈線	b	b	7.5YR5/6	明褐色
89	D 5	III	A	a	沈線	b	b	10YR5/3	にぶい黄褐色
90	D 5	III	A	a	沈線、内) 条痕	c	b	7.5YR4/6	褐色
91	D 5	III	A	a	沈線	b	b	5YR4/4	にぶい赤褐色
92	D 5	III	A	a	沈線	b	b	10YR6/4	にぶい黄橙色
93	D 5	III	A	a	沈線	b	b	7.5YR4/6	褐色
94	D 5	III	A	a	沈線	b	b	10YR7/3	にぶい黄橙色
95	D 5	III	A	底部欠失	沈線	b	b	2.5Y3/3	暗褐色
96	D 5	III	A	a	沈線	b	b	7.5YR2/2	黒褐色
97	D 5	III	A	a	沈線	b	b	7.5YR2/2	黒褐色
98	D 5	III	A	b	沈線	b	b	7.5YR5/3	にぶい褐色
99	D 5	III	A	a	隆帶	b	b	10YR5/2	灰黄褐色
100	D 5	III	A	a	茸状突起	b	b (1~2mmの白色砂粒)	10YR5/8	黄褐色
101	D 5	III	A	b	沈線	b	b	5YR3/1	黒褐色
102	D 5	III	A	b	沈線・条痕、内) 条痕	b	b	7.5YR5/3	にぶい褐色
103	D 5	III	A	b	条痕・沈線	b	b	10YR6/4	にぶい黄橙色
104	D 5	III	A	b	条痕	b	b	10YR6/4	にぶい黄橙色
105	D 5	III	A	b	条痕	b	b	7.5YR6/4	にぶい橙色
106	D 5	III	A	b	条痕・沈線	b	b	7.5YR6/4	にぶい橙色
107	D 5	III	A	b	条痕	b	b	7.5YR6/6	橙色
108	D 5	III	A	b	条痕	b	b	10YR6/4	にぶい黄橙色
109	D 5	III	A	b	条痕	b	b	7.5YR6/4	にぶい橙色

番号	地区	層	器種	残存度	文様・調整	焼成	胎	土	色調
110	D 5	III	A	b	条痕	b	b		7.5YR6/4 にぶい橙色
111	D 5	III	A	b	条痕・沈線、内)	b	b		10YR5/8 赤色
112	D 5	III	A	b	条痕・沈線、内)	b	b		5YR4/6 赤褐色
113	D 5	III	A	b	条痕・沈線、内)	b	b		5YR4/6 赤褐色
114	D 5	III	A	b	条痕・沈線、内)	b	b		10YR5/8 赤色
115	D 5	III	A	b	条痕	b	b		5YR3/4 暗赤褐色
116	D 5	III	A	b	条痕	b	b		2.5YR4/6 赤褐色
117	D 5	III	A	b	条痕	c	b		7.5YR6/4 にぶい橙色
118	D 5	III	A	b	条痕	c	b		7.5YR1.7/1 黒色
119	D 5	III	A	a	無文、内) 凹線	b	b		7.5YR6/6 橙色
120	D 5	III	A	a	無文	b	b		5YR5/4 にぶい赤褐色
121	D 5	III	A	a	無文	b	b		7.5YR4/4 褐色
122	D 5	III	A	a	無文	b	b		10YR5/3 にぶい黄褐色
123	D 5	III	A	a	無文	b	b		7.5YR6/6 橙色
124	D 5	III	A	a	無文	b	b		10YR6/4 にぶい黄橙色
125	D 5	III	A	a	無文	a	a		5YR5/3 にぶい赤褐色
126	D 5	III	A	a	無文	b	b		2.5YR3/1 黑褐色
127	D 5	III	A	b	無文	b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色
128	D 5	III	A	b	無文	c	b	(1 ~ 2 mmの砂粒)	7.5YR3/2 黑褐色
129	D 5	III	A	b	無文	b	b	(1 ~ 2 mmの白色砂粒)	7.5YR5/4 にぶい褐色
130	D 5	III	A	b	無文	b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色
131	D 5	III	A	b	無文	b	b		10YR5/3 にぶい黄褐色
132	D 5	III	A	b	無文	b	b		2.5Y4/2 暗灰黄色
133	D 5	III	A	b	無文	b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色
134	D 5	III	A	b	無文	b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色
135	D 5	III	A	b	無文	b	b		10YR4/2 灰黄褐色
136	D 5	III	A	b	無文	b	b		2.5Y5/2 暗灰黄色
137	D 5	III	A	c	無文	c	b	(1 ~ 2 mmの白色砂粒)	7.5YR5/4 にぶい褐色
138	D 5	III	A	b	押型文	b	b	(繊維)	10YR6/4 にぶい黄橙色
139	G 3	V	A	b	押型文	b	b	(繊維)	7.5YR6/3 にぶい褐色
140	G 3	V	A	b	押型文	b	b	(繊維)	7.5YR6/4 にぶい橙色
141	G 3	V	A	b	押型文	b	b	(繊維)	2.5Y6/2 灰黄色
142	I 4	V	A	b	押型文	b	b	(繊維)	2.5Y6/3 にぶい黄色
143	I 4	V	A	b	押型文	b	b	(繊維)	2.5Y6/2 灰黄色
144	G 3	V	A	b	隆帶	b	b		10YR6/4 にぶい黄橙色
145	G 3	V	A	b	隆帶	b	b		7.5YR6/4 にぶい橙色
146	I 4	V	A	b	隆帶	b	b		10YR5/4 にぶい黄褐色
147	G 3	V	A	b	無文	b	b		10YR6/4 にぶい黄橙色
148	I 4	V	A	b	条痕文	b	b		10YR4/4 褐色
149	H 4	III	A	a	隆帶・沈線	b	b		7.5YR3/2 黑褐色
150	I 4	III	A	b	隆帶・沈線	b	b		10YR4/3 にぶい黄褐色
151	H 4	III	A	b	隆帶・沈線	b	b		7.5YR3/2 黑褐色
152	H 4	III	A	b	隆帶・沈線	b	b		7.5YR3/2 黑褐色
153	I 4	III	A	b	隆帶・沈線	b	b		7.5YR3/2 黑褐色
154	I 4	III	A	b	隆帶・沈線	b	b		7.5YR3/2 黑褐色
155	H 4	III	A	b	隆帶・条線	b	b		7.5YR4/3 褐色
156	H 4	III	A	b	隆帶・条線	b	b		10YR5/3 にぶい黄褐色
157	H 4	III	A	b	沈線	b	b		7.5YR4/2 灰褐色
158	H 4	III	A	b	隆帶・条線	b	b		7.5YR4/2 灰褐色
159	H 4	III	A	b	条線	b	b		7.5YR3/2 黑褐色
160	H 4	III	A	b	条線	b	b		7.5YR4/3 褐色
161	H 4	III	A	b	条線	b	b		7.5YR4/3 褐色
162	H 4	III	A	b	条線	b	b		7.5YR4/2 灰褐色
163	H 4	III	A	a	隆帶	b	b		5YR4/6 赤褐色
164	G 4	III	A	a	隆帶・沈線	b	b		5YR3/4 明赤褐色
165	G 5	III	A	a	隆帶・沈線	b	b		7.5YR4/3 褐色
166	H 4	III	A	a	隆帶・沈線	b	b		5YR5/8 明赤褐色
167	H 4	III	A	a	隆帶・沈線	b	b		5YR4/8 赤褐色
168	G 5	III	A	a	隆帶・沈線	b	b	(1 ~ 2 mmの白色砂粒)	10YR6/6 明黄褐色
169	F 4	III	A	a	隆帶・沈線	b	b		7.5YR5/6 明褐色
170	H 4	III	A	a	隆帶	a	a		7.5YR4/2 灰褐色
171	F 4	III	A	a	隆帶・沈線	b	b		7.5YR4/2 灰褐色
172	H 4	III	A	a	沈線	b	b		7.5YR5/6 明褐色
173	H 5	III	A	a	隆帶・沈線	b	b		7.5YR5/6 明褐色
174	H 5	III	A	a	隆帶・沈線	b	b		5YR5/6 明赤褐色
175	F 3	III	A	b	隆帶	b	b		10YR5/4 にぶい黄褐色
176	H 5	III	A	b	隆帶	b	b		7.5YR4/3 褐色
177	H 4	III	A	b	沈線	b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色
178	G 4	III	A	b	隆帶・沈線	a	a		2.5YR5/6 明赤褐色
179	G 4	III	A	b	隆帶・沈線・縄文	b	b		10YR5/3 にぶい黄褐色
180	H 4	III	A	b	隆帶・沈線	a	a		7.5YR6/6 橙色
181	G 4	III	A	b	隆帶・沈線	b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色
182	G 4	III	A	b	隆帶・沈線	b	b		10YR5/4 にぶい黄褐色
183	G 4	III	A	b	隆帶・沈線	b	b		7.5YR5/6 明褐色
184	H 4	III	A	b	沈線・条線	b	b	(1 ~ 2 mmの白色砂粒)	7.5YR3/1 黑褐色
185	H 4	III	A	b	隆帶・条線	b	b	(1 ~ 2 mmの白色砂粒)	7.5YR3/1 黑褐色
186	H 4	III	A	b	沈線・条線	b	b	(1 ~ 2 mmの白色砂粒)	7.5YR3/2 黑褐色
187	H 4	III	A	b	条線	b	b	(1 ~ 2 mmの白色砂粒)	7.5YR3/1 黑褐色
188	G 4	III	A	a	隆帶・沈線	b	b	(1 ~ 2 mmの白色砂粒)	7.5YR6/6 橙色
189	H 4	III	A	a	隆帶・沈線	a	a		7.5YR6/4 にぶい橙色

番号	地区	層	器種	残存度	文様・調整	焼成	胎土	色調
190	G 4	III	A	1 / 6	隆帯・沈線	b	b (1 ~ 2 mmの砂粒)	10YR7/6 明黄褐色
191	G 4	III	A	b	隆帯・沈線	b	b	5YR3/3 暗赤褐色
192	H 4	III	A	b	沈線	a	a	10YR4/3 にぶい黄褐色
193	H 5	III	A	a	隆帯・沈線	b	b (1 ~ 5 mmの白色砂粒)	5YR5/4 にぶい赤褐色
194	H 4	III	A	a	隆帯	b	b	7.5YR4/4 褐色
195	H 4	III	A	b	隆帯	b	b	7.5YR4/3 褐色
196	G 4	III	A	b	隆帯	b	b	5YR5/6 赤褐色
197	H 5	III	A	b	隆帯	a	a	5YR4/6 赤褐色
198	H 4	III	A	b	隆帯	b	b	5YR5/6 明赤褐色
199	H 4	III	A	b	隆帯	b	b	2.5YR3/4 暗赤褐色
200	G 4	III	A	b	隆帯・条線	a	a	5YR4/1 褐灰色
201	H 4	III	A	a	隆帯・条線	b	b	10YR7/4 にぶい黄橙色
202	F 5	III	A	b	隆帯・縄文	b	b	7.5YR6/6 橙色
203	H 4	III	A	a	隆帯・縄文	b	b	7.5YR4/3 褐色
204	H 4	III	A	a	隆帯・縄文	b	b	7.5YR3/3 暗褐色
205	H 5	III	A	a	隆帯・縄文	b	b	7.5YR4/4 褐色
206	H 4	III	A	a	隆帯・縄文	b	b	10YR6/4 にぶい黄橙色
207	H 4	III	A	a	隆帯・縄文	a	a	5YR5/6 明赤褐色
208	G 4	III	A	a	隆帯・縄文	b	b	5YR2/1 黒褐色
209	H 5	III	A	b	隆帯・縄文	b	b	7.5YR4/4 褐色
210	H 4	III	A	b	隆帯・縄文	b	b	7.5YR3/3 暗褐色
211	H 4	III	A	b	隆帯・縄文	b	b	7.5YR3/1 黒褐色
212	G 5	III	A	b	隆帯・縄文	b	b	7.5YR6/6 橙色
213	G 4	III	A	b	隆帯・縄文	b	b	7.5YR5/4 にぶい褐色
214	G 4	III	A	b	隆帯・縄文	b	b	5YR5/6 明赤褐色
215	G 4	III	A	b	隆帯・縄文	b	b	7.5YR5/6 明褐色
216	I 4	III	A	b	リボン状突帯・条線	b	b	10YR4/2 灰黄褐色
217	I 4	III	A	b	リボン状突帯	b	b	7.5YR4/3 褐色
218	I 4	III	A	b	リボン状突帯	b	b	10YR4/2 灰黄褐色
219	I 4	III	A	b	リボン状突帯・条線	b	b	10YR4/2 灰黄褐色
220	I 4	III	A	b	隆帯	b	b	7.5YR4/4 褐色
221	I 4	III	A	b	隆帯	b	b	10YR4/2 灰黄褐色
222	G 3	III	A	b	沈線	a	a	7.5YR3/2 黒褐色
223	H 4	III	A	a	沈線	b	b	5YR5/4 にぶい赤褐色
224	F 6	III	A	b	沈線・縄文	b	b	10YR6/4 にぶい黄橙色
225	H 4	III	A	a	沈線・縄文	b	b	5YR3/2 暗赤褐色
226	G 4	III	A	a	沈線・縄文	b	b	10YR6/4 にぶい黄橙色
227	H 4	III	A	b	沈線・縄文	b	b	5YR4/2 灰褐色
228	G 4	III	A	b	沈線・縄文	b	b	7.5YR2/1 黒色
229	G 4	III	A	b	沈線・縄文	b	b	7.5YR4/3 褐色
230	G 4	III	A	b	沈線・縄文	b	b (1 ~ 3 mmの砂粒)	10YR5/4 にぶい黄褐色
231	H 4	III	A	a	凹線・縄文	b	b	5YR5/4 にぶい赤褐色
232	H 4	III	A	a	凹線・刺突・縄文	b	b	10YR6/4 にぶい黄橙色
233	H 4	III	A	a	凹線・縄文	b	b (1 ~ 2 mmの砂粒)	10YR3/3 暗褐色
234	H 5	III	A	b	凹線・縄文	b	b (1 ~ 5 mmの白色砂粒)	5YR4/4 にぶい赤褐色
235	G 4	III	A	a	凹線・縄文	b	a	7.5YR6/6 橙色
236	G 4	III	A	b	凹線・縄文	b	b	7.5YR6/4 にぶい橙色
237	H 4	III	A	b	凹線・縄文	b	b	5YR4/6 赤褐色
238	G 4	III	A	b	凹線・縄文	b	b	7.5YR5/4 にぶい褐色
239	H 4	III	A	b	凹線・縄文	b	b	7.5YR5/6 明褐色
240	H 4	III	A	b	凹線・縄文	b	b	7.5YR5/4 にぶい褐色
241	E 7	III	A	b	凹線・縄文	c	b (1 ~ 2 mmの砂粒)	2.5Y6/6 明黄褐色
242	H 4	III	A	b	凹線・縄文	b	b	5YR4/6 赤褐色
243	H 4	III	A	b	凹線・縄文	b	b	7.5YR5/4 にぶい褐色
244	G 3	III	A	b	凹線・縄文	b	b	5YR3/3 暗赤褐色
245	G 4	III	A	b	凹線・縄文	b	b	2.5YR5/6 明赤褐色
246	H 4	III	A	b	凹線・縄文	b	b	2.5YR5/6 明赤褐色
247	G 4	III	A	b	凹線・縄文	b	b	5YR5/6 明赤褐色
248	H 4	III	A	b	凹線・縄文	b	b	7.5YR4/4 褐色
249	H 4	III	A	b	凹線・縄文	b	b	5YR6/6 橙色
250	G 4	III	A	b	凹線・縄文	b	b	5YR5/6 明赤褐色
251	H 4	III	A	b	凹線・縄文	b	b	10YR6/6 明黄褐色
252	G 4	III	A	b	凹線・縄文	b	b	5YR5/6 明赤褐色
253	H 4	III	A	b	凹線・縄文	b	b	7.5YR6/6 橙色
254	G	III	A	b	凹線・縄文	b	b	7.5YR3/2 黒褐色
255	H 4	III	A	b	凹線・縄文	b	b	5YR2/1 黑褐色
256	H 4	III	A	b	凹線・縄文	b	b	5YR6/6 橙色
257	H 4	III	A	b	凹線・縄文	b	b	7.5YR6/4 にぶい橙色
258	H 4	III	A	b	凹線・縄文	b	b	5YR6/6 橙色
259	G 2	III	A	a	沈線・刺突	b	b	10YR5/2 灰黄褐色
260	G 3	III	A	a	沈線・刺突	b	b	10YR5/4 にぶい黄褐色
261	G 3	III	A	a	沈線・刺突	b	b	10YR5/3 にぶい黄褐色
262	F 4	III	A	a	沈線・刺突	b	b	10YR5/2 灰黄褐色
263	G 3	III	A	a	沈線・刺突	b	b	10YR6/4 にぶい黄橙色
264	G 3	III	A	b	沈線・刺突	b	b	10YR5/3 にぶい黄褐色
265	G 3	III	A	b	沈線・刺突	b	b	10YR6/2 灰黄褐色
266	G 3	III	A	a	沈線・刺突	a	a	10YR7/3 にぶい黄橙色
267	F 4	III	A	a	沈線・刺突	b	b	2.5Y3/1 黑褐色
268	G 3	III	A	b	刺突・縄文	b	b	10YR2/1 黑色
269	H 4	III	A	b	刺突・縄文	b	b	10YR5/2 灰黄褐色

番号	地区	層	器種	残存度	文様・調整	焼成	胎	土	色調
270	H 4	III	A	a	沈線・刺突	c	b		2.5Y4/4 にぶい赤褐色
271	H 4	III	A	a	沈線・刺突	c	b		5YR4/4 にぶい赤褐色
272	H 4	III	A	a	沈線・刺突	c	b		5YR4/6 赤褐色
273	H 4	III	A	b	沈線・刺突	c	b		2.5Y3/6 暗赤褐色
274	H 4	III	A	b	沈線・縄文	c	b		2.5Y4/4 にぶい赤褐色
275	H 4	III	A	b	沈線	c	b		5YR4/4 にぶい赤褐色
276	H 4	III	A	b	沈線・縄文	c	b		5YR4/3 にぶい赤褐色
277	H 4	III	A	b	沈線・縄文	c	b	(1 ~ 2 mmの砂粒)	5YR4/6 赤褐色
278	H 4	III	A	b	沈線・刺突・縄文	c	b	(1 ~ 3 mmの砂粒)	2.5Y4/4 にぶい赤褐色
279	H 4	III	A	b	沈線・縄文	c	b	(1 ~ 2 mmの砂粒)	2.5Y4/4 にぶい赤褐色
280	I 5	III	A	a	沈線	c	b		10YR5/6 黄褐色
281	H 5	III	A	a	沈線	b	b		10YR2/2 黒褐色
282	H 4	III	A	a	沈線	b	b		10YR2/2 黒褐色
283	G 6	III	A	a	縄文	b	b		7.5YR6/4 にぶい褐色
284	G 6	III	A	a	縄文	b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色
285	G 6	III	A	a	縄文	b	b		5YR6/6 橙色
286	G 7	III	A	a	縄文	b	b		5YR5/6 明赤褐色
287	H 4	III	A	b	縄文	b	b	(1 ~ 2 mmの白色砂粒)	5YR5/4 にぶい赤褐色
288	F 4	III	A	b	縄文	b	b	(1 ~ 2 mmの白色砂粒)	10YR6/4 にぶい黄橙色
289	G 7	III	A	b	縄文	b	b		5YR5/6 明赤褐色
290	G 5	III	A	b	縄文	b	b		7.5YR4/3 褐色
291	G 4	III	A	b	縄文	b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色
292	G 6	III	A	b	縄文	b	b		5YR6/6 橙色
293	H 4	III	A	b	縄文	b	b		5YR5/6 明赤褐色
294	H 5	III	A	b	縄文	b	b		5YR5/6 明赤褐色
295	H 4	III	A	b	縄文	b	b		7.5YR6/6 橙色
296	G 4	III	A	b	縄文	b	b		10YR7/4 にぶい黄橙色
297	G 7	III	A	b	縄文	b	b		5YR5/6 明赤褐色
298	H 4	III	A	b	縄文	c	b		7.5YR4/3 褐色
299	G 4	III	A	b	縄文	b	b		5YR5/4 にぶい赤褐色
300	H 4	III	A	b	縄文	b	b		5YR5/6 明赤褐色
301	H 4	III	A	b	縄文	b	b		5YR4/8 赤褐色
302	G 7	III	A	b	縄文	b	b		7.5YR5/6 明褐色
303	G 7	III	A	b	縄文	b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色
304	I 5	III	A	b	縄文	b	b		10YR7/4 にぶい黄橙色
305	G 4	III	A	b	縄文	b	b		7.5YR3/3 暗褐色
306	H 4	III	A	b	縄文	b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色
307	G 7	III	A	b	縄文	b	b		5YR5/6 明赤褐色
308	G 7	III	A	b	縄文	b	b		5YR5/4 にぶい赤褐色
309	H 4	III	A	b	縄文	b	b	(1 ~ 5 mmの砂粒)	7.5YR5/4 にぶい褐色
310	G 7	III	A	b	縄文	b	b	(1 ~ 2 mmの砂粒)	7.5YR5/6 明褐色
311	G 6	III	A	b	縄文	b	b		7.5YR6/4 にぶい橙色
312	H 5	III	A	a	撚糸文	b	b		5YR4/6 赤褐色
313	G 4	III	A	a	撚糸文	a	a		5YR5/6 明赤褐色
314	G 4	III	A	a	撚糸文	a	a		7.5YR4/6 褐色
315	G 4	III	A	a	撚糸文	b	b		7.5YR4/1 灰灰色
316	G 4	III	A	b	撚糸文	b	b		5YR2/2 黑褐色
317	H 5	III	A	a	条線	b	b	(1 ~ 2 mmの白色砂粒)	7.5YR4/3 褐色
318	G 4	III	A	a	条線	b	b	(1 ~ 2 mmの白色砂粒)	10YR6/3 にぶい黄橙色
319	H 4	III	A	b	条線	b	b	(1 ~ 2 mmの砂粒)	5YR3/2 暗赤褐色
320	G 4	III	A	b	条線	b	b	(1 ~ 2 mmの砂粒)	10YR6/3 にぶい黄褐色
321	I 4	III	A	b	条線	b	b	(1 ~ 2 mmの砂粒)	10YR4/2 灰黃褐色
322	H 4	III	A	b	条線	b	b	(1 ~ 2 mmの砂粒)	10YR6/4 にぶい黄橙色
323	H 4	III	A	b	条線	b	b	(1 ~ 2 mmの砂粒)	7.5YR3/3 暗褐色
324	H 4	III	A	b	条線	b	b	(1 ~ 2 mmの砂粒)	10YR6/3 にぶい黄褐色
325	H 4	III	A	c	条線	b	b		5YR3/6 暗赤褐色
326	H 5	III	A	b	条線	b	b		2.5Y7/2 灰黄色
327	G 4	III	A	b	条線	b	b		5YR4/3 にぶい赤褐色
328	G 5	III	A	b	条線	b	b		10YR6/1 灰灰色
329	G 5	III	A	c	条線	b	b	(1 ~ 2 mmの砂粒)	7.5YR5/4 にぶい褐色
330	G 5	III	A	c	条線	b	b	(1 ~ 2 mmの白色砂粒)	2.5Y7/3 浅黄色
331	F 4	III	A	a	無文	b	b		10YR6/3 にぶい黄橙色
332	F 4	—	A	a	無文	b	b		5YR5/6 明赤褐色
333	F 4	III	A	a	無文	b	b		10YR5/3 にぶい黄褐色
334	F 3	III	A	b	無文	b	b	(1 ~ 3 mmの白色砂粒)	10YR5/4 にぶい黄褐色
335	G 3	III	A	b	無文	b	b		7.5YR1.7/ 黒色
336	G 5	III	A	b	無文	b	b		2.5Y3/1 黑褐色
337	G 4	III	A	b	無文	b	b		5YR4/6 明赤褐色
338	F 4	III	A	b	無文	a	a		10YR7/4 にぶい黄橙色
339	F 6	III	A	b	無文	b	b	(1 ~ 3 mmの砂粒)	5YR4/4 にぶい赤褐色
340	H 4	III	A	b	無文	b	b		2.5YR4/8 赤褐色
341	G 5	III	A	c	無文	b	b	(1 ~ 5 mmの砂粒)	5YR5/4 にぶい赤褐色
342	G 4	III	C	a	沈線	b	b		7.5YR5/6 明褐色
343	H 5	III	B	a	沈線・縄文	b	b		10YR6/2 灰黃褐色
344	H 5	III	B	a	沈線・縄文	b	b		7.5YR5/6 明褐色
345	F 4	III	C	a	沈線・縄文	b	b		2.5YR5/6 明赤褐色
346	F 7	III	A	b	沈線・縄文	b	b		10YR8/4 浅黃褐色
347	G 5	III	A	b	沈線	c	b		10YR4/6 赤色
348	F 4	III	A	b	沈線	b	b	(1 ~ 3 mmの砂粒)	2.5Y7/2 灰黄色
349	F 7	III	A	b	沈線・縄文	b	b		10YR4/2 灰黃褐色

## 70 第3章 A地点の調査

番号	地区	層	器種	残存度	文様・調整	焼成	胎	土	色	調
350	F 6	III	A	a	沈線・縄文	b	b		7.5YR3/2 黒褐色	
351	G 4	III	A	a	沈線	b	b		2.5Y8/2 灰白色	
352	F 4	III	A	a	沈線	b	b		7.5YR6/6 橙色	
353	G 3	III	A	a	沈線・縄文	b	b		2.5Y7/4 浅黄色	
354	G 5	III	A	a	沈線・縄文	b	b		7.5YR4/2 灰褐色	
355	F 5	III	A	a	沈線・縄文	b	b		7.5YR5/2 灰褐色	
356	F 4	III	A	a	沈線・縄文	b	b		7.5YR5/3 にぶい褐色	
357	G 7	III	A	a	沈線	b	b		7.5YR4/4 褐色	
358	G 7	III	A	a	沈線	b	b		10YR7/6 明黄褐色	
359	E 6	III	A	b	沈線・縄文	b	b		2.5Y6/4 にぶい黄色	
360	F 3	III	C	b	沈線・縄文	b	b		7.5YR6/6 橙色	
361	F 7	III	A	a	沈線	a	a		2.5Y4/2 暗灰黄色	
362	G 5	III	A	a	沈線	c	b		7.5YR6/6 橙色	
363	G 5	III	A	a	沈線	b	b		10YR7/4 にぶい黄橙色	
364	F 4	III	A	a	沈線	b	b		10YR5/4 にぶい黄褐色	
365	G 3	III	C	1 / 3	沈線	b	b		5YR6/6 橙色	
366	F 4	I	A	a	沈線	b	b		10YR8/6 黄橙色	
367	G 5	III	B	b	沈線	b	b		10YR6/4 にぶい黄色	
368	F 7	III	A	b	沈線	b	b	(1 ~ 3 mmの白色砂粒)	7.5YR4/3 褐色	
369	G 7	III	A	b	沈線	b	b		10YR8/4 浅黄橙色	
370	G 5	III	A	b	沈線	c	b		10YR4/6 褐色	
371	F 7	III	A	b	沈線	a	a		10YR6/4 にぶい黄橙色	
372	G 4	III	A	b	沈線	b	b		10YR5/2 灰黄褐色	
373	G 7	III	A	b	沈線	b	b		2.5YR5/6 明赤褐色	
374	G 4	III	A	b	沈線	b	b		2.5Y5/2 暗灰黄色	
375	G 7	III	A	a	四線	b	b		10YR6/3 にぶい黄橙色	
376	G 7	III	A	a	四線	c	b		10YR4/3 にぶい黄褐色	
377	G 5	III	A	a	四線	b	b		10YR5/3 にぶい黄褐色	
378	G 4	III	A	b	四線	b	b		7.5YR7/4 にぶい橙色	
379	C 5	III	A	b	四線	b	b		10YR6/3 にぶい黄橙色	
380	F 7	III	A	b	四線	b	b		10YR5/3 にぶい黄褐色	
381	C 5	III	A	b	沈線・刺突	b	b		10YR6/2 灰黄褐色	
382	G 5	III	C	a	沈線・刺突	b	b		7.5YR5/1 褐灰色	
383	H 4	III	A	b	刺突・縄文	b	b		7.5YR6/4 にぶい橙色	
384	G 5	III	B	b	刺突	a	b		10YR8/3 浅黄橙色	
385	G 5	III	A	b	刺突・縄文	b	b		7.5YR7/4 にぶい橙色	
386	G 5	III	A	b	刺突・縄文	b	b		10YR6/2 灰黄褐色	
387	F 4	III	B	c	沈線・刺突	b	b		10YR8/2 灰白色	
388	G 6	III	A	a	隆帶・刺突	b	b		5YR5/6 明赤褐色	
389	G 6	III	A	b	隆帶・刺突	b	b		5YR5/6 明赤褐色	
390	G 5	III	A	a	隆帶	b	b		7.5YR5/1 褐灰色	
391	G 5	III	A	a	隆帶	b	b		2.5YR5/6 明赤褐色	
392	H 5	III	B	a	無文	b	b		10YR7/4 にぶい黄褐色	
393	F 4	III	A	a	沈線・刺突	a	b		7.5YR6/4 にぶい橙色	
394	H 5	III	A	a	沈線・刺突	b	b		7.5YR6/1 褐灰色	
395	G 5	III	A	a	刺突	b	b		10YR6/3 にぶい黄橙色	
396	F 4	III	A	a	刺突	b	b		2.5YR6/6 橙色	
397	F 4	III	A	a	刺突	b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色	
398	G 4	III	A	a	刺突	b	b		10YR7/2 にぶい黄褐色	
399	G 5	III	A	a	刺突	b	b		10YR7/4 にぶい黄橙色	
400	H 4	III	A	b	刺突	b	b		5YR5/6 明赤褐色	
401	H 4	III	A	a	刺突	b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色	
402	F 4	III	A	1 / 5	沈線・刺突	b	b	(1 ~ 2 mmの砂粒)	10YR7/4 にぶい黄橙色	
403	F 5	III	A	1 / 4	刺突・縄文	b	b		10YR7/4 にぶい黄橙色	
404	G 5	III	A	a	刺突	b	b		10YR7/2 にぶい黄橙色	
405	G 5	III	A	b	沈線	d	b	(1 ~ 5 mmの砂粒)	7.5YR7/6 橙色	
406	G 7	III	B	a	沈線	b	b		10YR6/6 明黄褐色	
407	G 6	III	B	a	沈線	a	a		7.5YR5/4 にぶい褐色	
408	G 5	III	A	a	沈線・縄文	b	b		10YR5/2 灰黄褐色	
409	F 5	III	A	a	沈線・縄文	b	b		10YR6/4 にぶい黄橙色	
410	H 5	III	B	1 / 6	沈線	b	b	(2 ~ 3 mmの砂粒)	10YR5/3 にぶい黄褐色	
411	F 4	III	C	1 / 5	沈線	b	b	(1 mmの白色砂粒)	10YR4/3 にぶい黄褐色	
412	G 4	III	B	a	沈線	b	b		2.5Y7/2 灰黄色	
413	G 5	III	B	a	沈線	b	b		10YR6/2 灰黄褐色	
414	G 5	III	B	a	沈線	b	b		10YR6/4 にぶい黄橙色	
415	G 5	III	B	a	沈線	b	b		2.5Y6/3 にぶい黄色	
416	G 5	III	A	a	沈線	b	b		10YR6/3 にぶい黄橙色	
417	E 4	III	A	a	沈線、内) 条痕	b	b	(1 ~ 3 mmの白色砂粒)	7.5YR5/4 にぶい褐色	
418	F 4	III	A	a	沈線	b	b	(1 mmの砂粒)	2.5Y5/2 暗灰黄色	
419	G 5	III	A	a	沈線、内) 条痕	b	b		2.5Y6/4 にぶい黄色	
420	F 4	III	A	b	沈線、内) 条痕	b	b		7.5YR7/3 にぶい橙色	
421	F 4	III	A	b	沈線	b	b		2.5Y7/2 灰黄色	
422	E 4	III	A	b	沈線	b	b		10YR5/4 にぶい黄褐色	
423	G 4	III	A	a	沈線	c	b		10YR3/2 暗赤褐色	
424	G 5	III	A	a	沈線	b	b		10YR8/3 浅黄橙色	
425	F 4	—	A	a	沈線	b	b	(1 ~ 3 mmの砂粒)	2.5Y4/1 黄灰色	
426	F 7	III	A	a	沈線	b	b		10YR7/4 にぶい黄橙色	
427	G 5	III	A	a	隆帶・条痕	b	b		10YR6/3 にぶい黄橙色	
428	G 5	III	A	a	沈線	b	b		10YR7/6 明赤褐色	
429	F 4	II	A	a	沈線	b	b		2.5YR5/6 明赤褐色	

番号	地区	層	器種	残存度	文様・調整	焼成	胎	土	色調
430	G 4	III	A	b	沈線	b	b		5YR5/6 明赤褐色
431	F 7	III	A	b	沈線	b	b		2.5Y5/1 黄灰色
432	G 5	III	A	b	沈線	b	b		10YR6/3 にぶい黄橙色
433	G 5	III	A	b	沈線	b	b		7.5YR7/4 にぶい橙色
434	G 7	III	A	b	沈線	a	b		2.5YR5/6 明赤褐色
435	G 2	III	A	a	沈線	b	b		2.5Y6/3 にぶい黄色
436	G 5	III	A	a	沈線	a	b		2.5Y7/4 浅黄色
437	D 6	III	A	a	沈線	b	b		10YR5/3 にぶい黄褐色
438	G 4	III	A	a	沈線	b	b		10YR7/4 にぶい黄橙色
439	F 7	III	A	a	沈線	c	b		10YR5/3 にぶい黄褐色
440	G 5	III	A	b	沈線	b	b		2.5Y6/3 にぶい黄色
441	H 5	III	A	a	沈線	b	b		7.5YR4/6 棕色
442	G 5	III	A	a	沈線	b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色
443	G 6	III	A	b	沈線	b	b		10YR7/6 明黄褐色
444	G 5	III	A	b	沈線・条痕	b	b	(1 ~ 8 mmの砂粒)	10YR5/2 灰黄褐色
445	G 5	III	A	b	沈線	b	b		10YR6/6 明黄褐色
446	G 5	III	A	a	沈線	b	b		2.5Y5/3 黄褐色
447	G 4	III	A	a	輪積み痕	b	b		7.5YR5/2 灰褐色
448	G 5	—	A	a	輪積み痕	b	b		7.5YR5/6 明褐色
449	F 4	III	A	a	輪積み痕	b	b		5YR5/4 にぶい赤褐色
450	G 4	III	A	a	輪積み痕	b	b		7.5YR6/6 橙色
451	F 5	III	A	a	輪積み痕	b	b		7.5YR7/4 にぶい橙色
452	F 4	III	A	a	輪積み痕	b	b		7.5YR5/3 にぶい橙色
453	F 5	III	A	a	輪積み痕	b	b		7.5YR6/4 にぶい橙色
454	F 4	III	A	a	輪積み痕	b	b		10YR6/4 にぶい黄橙色
455	F 4	III	A	a	輪積み痕	b	b		10YR5/2 灰黄褐色
456	F 5	III	A	a	輪積み痕	b	b		7.5YR5/6 明褐色
457	F 5	III	A	a	輪積み痕	b	b		7.5YR6/6 橙色
458	F 5	III	A	a	輪積み痕	b	b		10YR5/2 灰黄褐色
459	G 5	III	A	a	輪積み痕	b	b		10YR7/3 にぶい黄褐色
460	F 4	III	A	a	輪積み痕	b	b		7.5YR7/6 橙色
461	G 4	III	A	b	輪積み痕	b	b		7.5YR7/4 にぶい橙色
462	F 4	III	A	b	輪積み痕	b	b		10YR8/3 浅黄橙色
463	G 5	III	A	b	輪積み痕	b	b		10YR7/4 にぶい黄橙色
464	F 4	III	A	b	輪積み痕	b	b		7.5YR6/4 にぶい橙色
465	G 5	III	A	b	輪積み痕	b	b		7.5YR7/4 にぶい橙色
466	F 4	III	A	b	輪積み痕	b	b		10YR7/4 にぶい黄橙色
467	F 4	III	A	b	輪積み痕	b	b		7.5YR6/6 橙色
468	H 5	III	A	b	輪積み痕	b	b		10YR6/3 にぶい黄橙色
469	G 5	III	A	b	輪積み痕	b	b		10YR6/2 灰黄褐色
470	G 5	III	A	b	輪積み痕	b	b		10YR7/4 にぶい黄褐色
471	F 5	III	A	b	輪積み痕	b	b		10YR7/4 にぶい黄褐色
472	F 4	III	A	b	輪積み痕	b	b		10YR6/2 灰黄褐色
473	G 5	III	A	b	輪積み痕	b	b		10YR6/3 にぶい黄褐色
474	F 4	III	A	b	輪積み痕	b	b		10YR7/4 にぶい黄褐色
475	F 5	III	A	b	輪積み痕	b	b		10YR7/3 にぶい黄褐色
476	H 5	III	A	c	輪積み痕	b	b		10YR7/4 にぶい黄褐色
477	H 5	III	A	c	輪積み痕	b	b		7.5YR6/4 にぶい橙色
478	G 4	III	A	a	無文	b	b		2.5Y6/3 にぶい黄色
479	F 4	III	A	a	無文	b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色
480	H 5	III	A	a	無文	b	b		10YR4/3 にぶい黄褐色
481	F 6	III	A	a	無文	b	a		2.5Y5/2 暗灰黄色
482	H 5	III	A	a	無文	b	b		10YR6/2 灰黄褐色
483	G 5	III	A	a	無文	b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色
484	H 3	III	A	a	無文	b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色
485	G 5	III	A	a	無文	b	b		10YR6/4 にぶい黄橙色
486	F 4	III	A	a	無文	b	a		7.5YR5/4 にぶい褐色
487	G 5	III	A	a	無文	b	b		10YR4/3 にぶい黄褐色
488	G 5	III	A	a	無文	b	b		10YR5/3 にぶい黄褐色
489	G 7	III	A	a	無文	b	b		10YR5/3 にぶい黄褐色
490	G 6	III	A	a	無文	b	b		2.5Y6/3 にぶい黄色
491	G 4	III	A	a	無文	b	b		2.5Y6/1 黄灰色
492	H 5	III	A	a	無文	b	b		2.5YR2/1 赤黑色
493	H 5	III	A	a	無文	b	b		7.5YR2/2 黑褐色
494	G 5	III	A	a	無文	b	b		7.5YR7/6 橙色
495	F 6	III	A	a	無文	b	b		7.5YR5/6 明褐色
496	F 6	III	A	a	無文	b	b		10YR6/6 明黄褐色
497	F 6	III	A	a	無文	b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色
498	G 4	III	A	a	無文	b	b		2.5Y5/6 明赤褐色
499	H 3	III	A	a	無文	b	b		10YR6/4 にぶい黄橙色
500	F 4	III	A	a	無文	b	b		10YR5/2 灰黄褐色
501	F 4	III	A	a	無文	b	b		5Y7/1 灰白色
502	F 7	III	A	a	無文	b	b		7.5YR6/6 橙色
503	G 6	III	A	a	無文	b	b		2.5Y5/1 黄灰色
504	F 5	III	A	a	無文	b	b		7.5YR6/6 橙色
505	G 5	III	A	a	無文	b	b		10YR6/4 にぶい黄橙色
506	G 6	III	A	a	無文	b	b		10YR6/3 にぶい黄褐色
507	F 5	III	A	a	無文	b	b		5YR3/4 暗赤褐色
508	F 7	III	A	a	無文	b	b		7.5YR5/6 明褐色
509	F 5	III	A	a	無文	b	b		10YR4/1 褐灰色

## 72 第3章 A地点の調査

番号	地区	層	器種	残存度	文様・調整	焼成	胎	土	色調
510	H 4	III	A	a	無文	b	b		7.5YR3/3 暗褐色
511	E 5	III	A	a	無文	d	b		10YR6/6 明黄褐色
512	G 5	III	A	a	無文	b	b		10YR4/2 灰黄褐色
513	F 4	I	A	a	無文	b	b		2.5Y6/2 灰黄色
514	H 5	III	A	a	無文	b	b		5YR5/8 明赤褐色
515	G 4	III	A	a	無文	c	b		2.5Y8/3 淡黄色
516	G 5	III	A	a	無文	b	b		7.5YR2/1 黒色
517	G 5	III	A	a	無文	b	b		2.5Y8/3 淡黄色
518	G 3	III	A	a	無文	b	a		7.5YR4/3 褐色
519	H 4	III	A	a	無文	b	b		10YR7/4 にぶい黄橙色
520	G 5	III	A	a	無文	b	b		10YR4/4 褐色
521	G 5	III	A	a	無文	b	b		7.5YR3/1 黒褐色
522	F 4	III	A	a	無文	b	b		10YR7/4 にぶい黄橙色
523	H 5	III	A	a	無文	b	b		10YR6/3 にぶい黄橙色
524	G 5	III	A	a	無文	b	b		10YR6/2 灰黄褐色
525	F 4	II	A	a	無文	b	b		10YR6/3 にぶい黄橙色
526	G 5	III	A	a	無文	b	b		10YR7/4 にぶい黄橙色
527	F 4	I	A	a	無文	b	b		10YR6/6 明黄褐色
528	E 5	III	B	4 / 5		b	b		7.5YR6/6 橙色
529	G 5	III	B	a		b	b		7.5YR3/3 暗褐色
530	G 5	III	A	a		b	b		2.5Y5/2 暗灰黄色
531	F 4	III	A	a		b	b		10YR4/6 褐色
532	H 3	III	A	a		b	b		10YR7/1 灰白色
533	G 4	III	A	a		b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色
534	F 4	III	A	a		b	b		7.5YR6/4 にぶい橙色
535	G 6	III	A	a		b	b		10YR6/3 にぶい黄橙色
536	G 4	III	A	a		b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色
537	H 4	III	A	a		b	b		10YR5/6 黄褐色
538	F 4	II	A	a		a	a		7.5YR5/4 にぶい褐色
539	F 4	III	A	a		b	b		2.5Y7/3 浅黄色
540	F 4	III	A	a		b	b		10YR6/3 にぶい黄橙色
541	F 6	III	A	a		b	b		10YR5/3 にぶい黄褐色
542	G 5	III	A	a		b	b		2.5Y3/1 黑褐色
543	H 4	III	A	a		b	b		2.5Y4/2 暗灰黄色
544	E 4	III	A	a		b	b		10YR3/2 黑褐色
545	G 4	III	A	a		b	b		10YR5/2 灰黄褐色
546	G 5	III	A	a		b	b		10YR7/3 にぶい黄橙色
547	F 4	III	A	a		b	b		7.5YR6/6 橙色
548	F 4	III	A	a		b	b		7.5YR7/3 にぶい橙色
549	G 6	III	A	a		b	b		10YR7/4 にぶい黄橙色
550	G 5	III	A	a		b	b		10YR5/4 にぶい黄褐色
551	G 5	III	A	a		b	b		10YR4/2 灰黄褐色
552	F 4	III	A	a		b	b		2.5Y7/3 浅黄色
553	G 4	III	A	a		b	b		10YR7/4 にぶい黄橙色
554	G 4	III	A	a		b	b		2.5Y7/3 浅黄色
555	F 6	III	A	a		b	b		2.5Y7/3 浅黄色
556	G 4	III	A	a		b	b		5YR4/8 赤褐色
557	F 6	III	A	a		b	b		10YR4/1 褐灰色
558	F 5	III	A	a		b	b		10YR6/6 明黄褐色
559	H 5	III	A	a		b	b		7.5YR6/4 にぶい橙色
560	F 3	III	A	a		b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色
561	G 5	III	A	a		b	b		10YR6/6 明黄褐色
562	H 4	III	A	a		b	b		7.5YR5/6 明褐色
563	H 4	III	A	a		b	b		2.5YR5/6 明赤褐色
564	G 5	III	A	a		b	b		10YR7/6 明黄褐色
565	F 6	III	A	a		b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色
566	G 5	III	A	a		b	b		10YR7/3 にぶい黄橙色
567	G 5	III	A	a		b	b		2.5Y3/1 黑褐色
568	G 5	III	A	a		b	b	(1 ~ 2 mmの白色砂粒)	2.5Y6/2 灰黄色
569	I 4	III	A	a		c	b	(1 ~ 2 mmの白色砂粒)	7.5YR4/4 褐色
570	F 4	III	A	a		b	b	(1 ~ 3 mmの白色砂粒)	2.5Y5/3 黄褐色
571	F 5	III	A	a		b	b	(1 ~ 3 mmの白色砂粒)	7.5YR5/3 にぶい褐色
572	G 5	III	A	a		b	b	(1 ~ 3 mmの白色砂粒)	10YR6/3 にぶい黄褐色
573	G 5	III	A	a		b	b	(1 ~ 3 mmの白色砂粒)	7.5YR6/6 橙色
574	G 5	III	A	a		b	b	(1 ~ 3 mmの白色砂粒)	2.5Y7/2 灰黄色
575	E 5	III	A	b		b	b	(1 ~ 3 mmの白色砂粒)	10YR6/4 にぶい黄褐色
576	G 5	III	C	2 / 3		b	b	(1 ~ 3 mmの白色砂粒)	10YR6/3 にぶい黄橙色
577	G 5	III	A	b		b	b	(1 ~ 3 mmの白色砂粒)	7.5YR6/4 にぶい橙色
578	G 5	III	A	b		b	b	(1 ~ 3 mmの白色砂粒)	2.5Y6/1 黄灰色
579	F 4	III	A	b		b	b	(1 ~ 3 mmの白色砂粒)	10YR6/3 にぶい黄橙色
580	F 4	III	A	b		b	b	(1 ~ 3 mmの白色砂粒)	7.5YR6/6 橙色
581	F 5	III	A	b		b	b	(1 ~ 3 mmの白色砂粒)	10YR8/3 浅黄橙色
582	E 4	II	A	b		b	b	(1 ~ 3 mmの白色砂粒)	10YR6/4 にぶい黄橙色
583	G 4	III	A	b		b	b	(1 ~ 3 mmの白色砂粒)	7.5YR5/4 にぶい褐色
584	G 5	III	A	b		b	b	(1 ~ 3 mmの白色砂粒)	2.5Y3/1 黑褐色
585	E 4	III	A	b		b	b	(1 ~ 3 mmの白色砂粒)	2.5Y6/1 黄灰色
586	F 4	III	A	b		b	b	(1 ~ 3 mmの白色砂粒)	7.5YR4/6 褐色
587	H 5	III	A	b		c	b	(1 ~ 3 mmの白色砂粒)	10YR8/2 灰白色
588	H 4	III	A	b		b	b	(1 ~ 3 mmの白色砂粒)	10YR6/4 にぶい黄橙色
589	F 4	III	A	b		b	b	(1 ~ 3 mmの白色砂粒)	7.5YR5/4 にぶい褐色

内) 沈線

番号	地区	層	器種	残存度	文様・調整	焼成	胎	土	色調
590	F 4	III	A	b	無文	b	b		10YR6/2 灰黄褐色
591	G 4	III	A	b	無文	b	b		7.5YR8/3 浅黄橙色
592	H 5	III	A	b	無文	c	b		7.5YR8/3 浅黄橙色
593	G 5	III	A	b	無文	b	b		2.5Y8/3 浅黄色
594	F 4	III	A	b	無文	b	b		2.5Y7/1 灰白色
595	G 6	III	A	b	無文	b	b		2.5Y7/3 浅黄色
596	F 4	III	A	b	無文	b	b		2.5Y6/2 灰黄色
597	G 5	III	A	b	無文	b	b		10YR7/4 にぶい黄橙色
598	F 6	III	A	b	無文	b	b		2.5Y7/3 浅黄色
599	G 5	III	A	b	無文	b	b		10YR6/4 にぶい黄橙色
600	G 5	III	A	b	無文	b	b		2.5Y6/2 灰黄色
601	G 5	III	A	b	無文	b	b	(1 ~ 2 mmの砂粒)	7.5YR5/3 にぶい褐色
602	G 4	III	A	b	無文	b	b		5YR4/6 赤褐色
603	G 5	III	A	b	無文	b	b		10YR6/3 にぶい黄橙色
604	G 5	III	A	b	無文	b	b		7.5YR7/6 橙色
605	G 4	III	A	b	無文	b	b		10YR7/3 にぶい黄橙色
606	G 5	III	A	b	無文	b	b		10YR5/2 灰黄褐色
607	G 6	III	A	b	無文	b	b		10YR5/2 灰黄褐色
608	G 4	II	A	b	無文	b	b		10YR7/4 にぶい黄橙色
609	F 6	III	A	b	無文	b	b	(1 ~ 3 mmの白色砂粒)	5YR4/3 にぶい赤褐色
610	G 6	III	A	b	無文	b	b		10YR6/4 にぶい黄橙色
611	F 4	III	A	b	無文	b	b		10YR5/4 にぶい黄褐色
612	H 3	III	A	b	無文	b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色
613	H 5	III	A	b	無文	b	b		5YR4/6 赤褐色
614	E 6	III	A	b	無文	b	b		10YR5/3 にぶい黄褐色
615	F 6	III	A	b	無文	b	b	(1 ~ 2 mmの砂粒)	10YR5/4 にぶい黄褐色
616	H 5	III	D	完形	無文	b	b		7.5YR6/4 にぶい橙色
617	G 5	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		7.5YR5/4 にぶい褐色
618	F 6	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		2.5Y5/1 黄灰色
619	G 3	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		5Y6/1 灰色
620	G 5	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		7.5YR3/2 黒褐色
621	G 7	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		2.5Y6/3 にぶい黄色
622	G 5	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		7.5YR5/6 明褐色
623	H 4	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		10YR5/3 にぶい黄褐色
624	G 6	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		2.5Y4/2 暗灰黄色
625	F 6	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		10YR6/2 灰黄褐色
626	G 6	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		2.5Y5/3 黄褐色
627	G 7	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		10YR4/2 灰黄褐色
628	G 6	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		2.5Y6/3 にぶい黄色
629	E 4	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		7.5YR6/6 橙色
630	F 4	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		2.5Y6/1 黄灰色
631	F 4	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		10YR5/3 にぶい黄褐色
632	H 5	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		10YR4/2 灰黄褐色
633	H 4	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		10YR7/4 にぶい黄橙色
634	F 4	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		7.5YR6/1 灰色
635	F 4	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		2.5Y7/2 灰黄色
636	F 6	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		10YR6/4 にぶい黄褐色
637	G 5	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		10YR7/1 灰白色
638	G 4	III	A	b	条痕、内) 条痕	a	a		10YR6/6 明黄褐色
639	H 5	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		10YR7/4 にぶい黄橙色
640	F 4	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		10YR5/2 灰黄褐色
641	G 5	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		2.5Y7/2 灰黄色
642	G 4	I	A	a	条痕、内) 条痕	b	b		2.5Y7/2 灰黄色
643	F 4	III	A	a	条痕、内) 条痕	b	b		10YR7/3 にぶい黄橙色
644	F 4	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		2.5Y7/2 灰黄色
645	E 4	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		7.5YR6/6 橙色
646	G 5	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		10YR7/3 にぶい黄橙色
647	F 4	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		10YR6/3 にぶい黄橙色
648	G 5	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		10YR6/4 にぶい黄橙色
649	F 4	III	A	b	条痕、内) 条痕	b	b		2.5Y7/3 浅黄色
650	E 4	III	A	c	条痕、内) 条痕	b	b	(1 ~ 2 mmの白色砂粒)	7.5YR4/6 褐色
651	G 5	III	A	c	条痕、内) 条痕	b	b		7.5YR6/6 橙色
652	F 4	III	A	a	繩文	b	b		5YR5/1 褐灰色
653	F 4	III	A	a	繩文	b	b		10YR7/6 明黄褐色
654	F 4	III	A	a	繩文	b	b		10YR6/6 明黄褐色
655	F 4	III	A	b	繩文	b	b		10YR6/6 明黄褐色
656	F 4	I	A	b	繩文	b	b		10YR7/4 にぶい黄褐色
657	E 4	II	A	b	繩文	b	b		10YR5/3 にぶい黄褐色
658	G 5	III	A	b	繩文	b	b		10YR6/2 灰黄褐色
659	F 4	III	A	b	繩文	b	b		7.5YR7/4 にぶい橙色
660	G 5	III	A	b	繩文	b	b		10YR6/2 灰黄褐色
661	G 3	III	A	b	繩文	b	b		2.5Y7/3 浅黄色
662	F 4	III	A	b	繩文	b	b		10YR7/2 にぶい黄橙色
663	F 4	III	A	a	沈線・擬繩文	b	b	(1 ~ 2 mmの砂粒)	10YR7/2 にぶい黄橙色
664	E 5	III	A	a	擬繩文	b	b		10YR5/4 にぶい黄褐色
665	G 5	III	A	b	擬繩文	b	b		10YR7/3 にぶい黄橙色
666	G 5	III	A	b	擬繩文	b	b		10YR8/2 灰白色
667	G 5	III	A	b	擬繩文	b	b		10YR8/2 灰白色
668	G 5	III	A	b	擬繩文	b	b		10YR6/4 にぶい黄橙色
669	G 4	III	A	b	擬繩文	b	b		2.5Y7/2 灰黄色

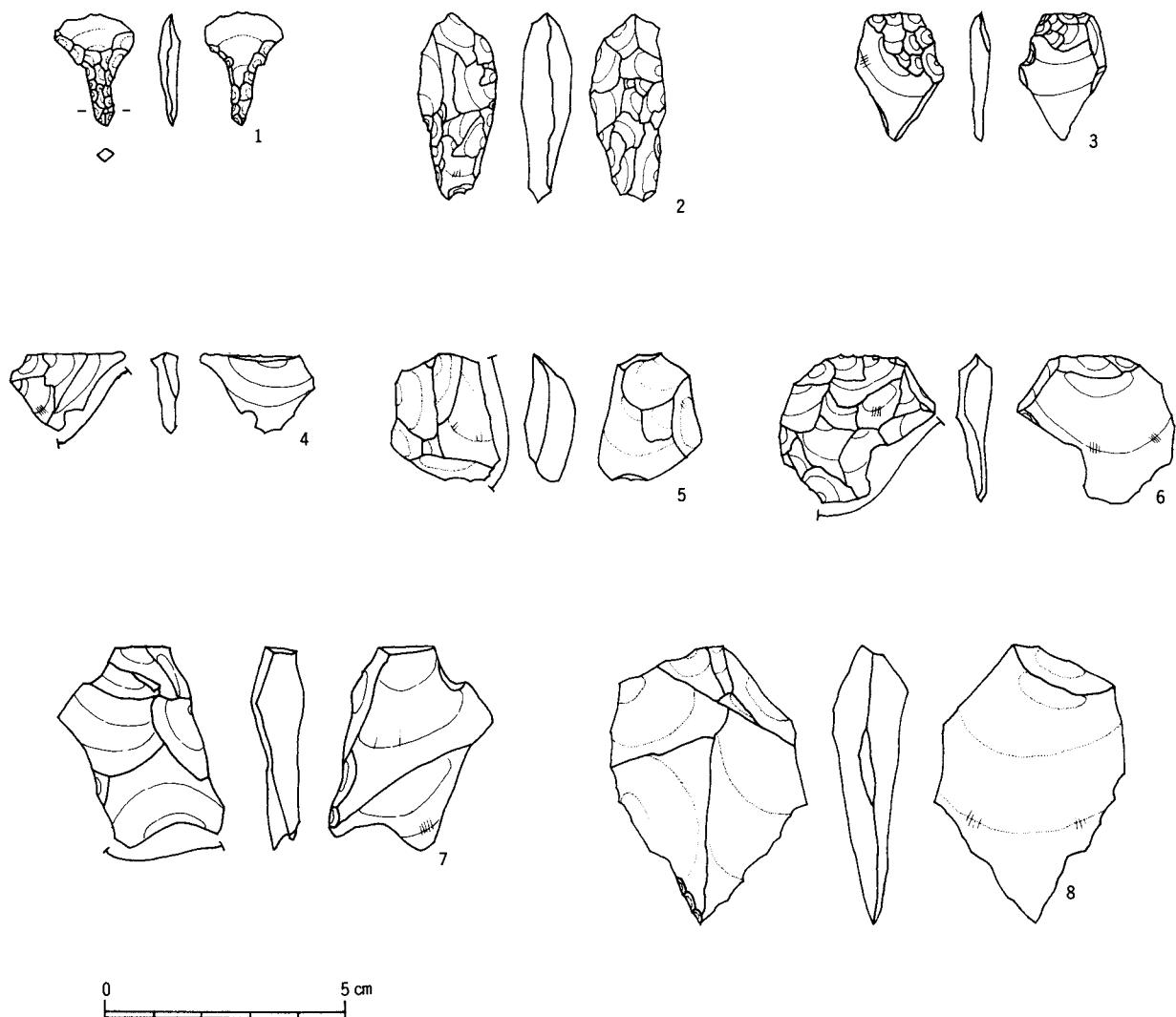
## 3 石器類

遺構出土のものとしては、SB 1からのものと、SF 5、P 7、P 116からのものがある。遺構出土のものを記述した後、包含層出土のものを記述する。形態分類に関しては、丹生川ダム水没地区埋蔵文化財発掘調査の「西田遺跡」の報告書に準ずる。器種ごとの分類に関しては、包含層出土の項目でまとめて述べる。

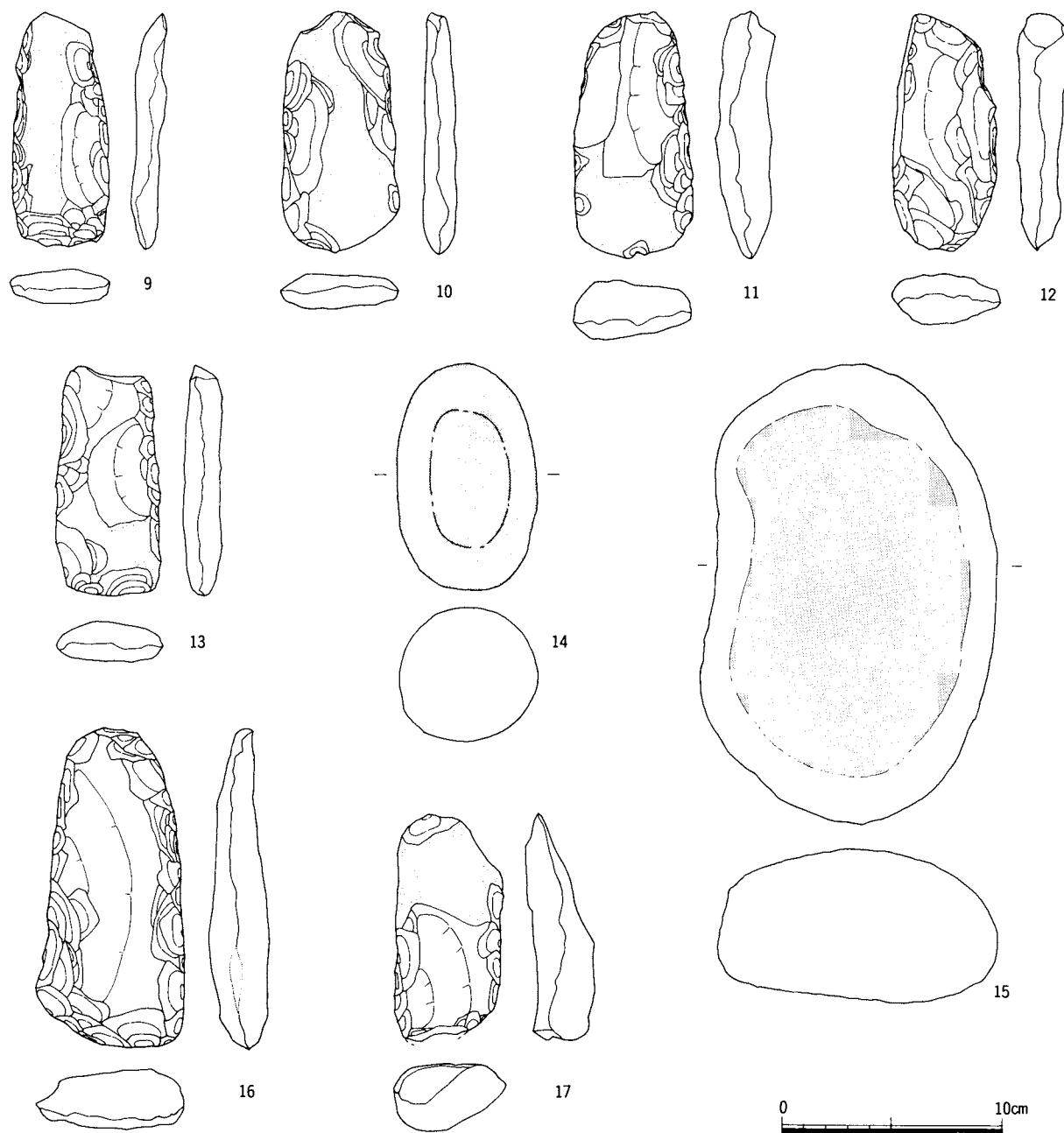
## 遺構出土の石器類（第49・50図）

SB 1より出土したものとしては、石錐1点（1）、削器1点（2）、二次加工のある剥片1点（3）、使用痕のある剥片4点（4～7）、打製石斧8点（9～13）、磨石・凹石・敲石類4点（14・15）、剥片類9点（黒曜石5点、チャート4点）である。1は、2B類の石錐である。

8は、SF 5出土の二次加工のある剥片で、下呂石製である。16・17はそれぞれP 7・P 116出土の打製石斧である。



第49図 A地点遺構出土の石器(1)



第50図 A 地点遺構出土の石器(2)

#### 包含層出土の石器類

石鎌、石錐、削器、搔器、打製石斧、磨製石斧、磨石・凹石類など約1,000点出土している。以下、器種ごとに記述する。ただし、個数等については、遺構出土のものも含めて記述する。

#### 石鎌 (51図1～33、図版15)

23点出土している。第II～III層出土が19点、第V層出土が3点、層位不明が1点である。石材は、下呂石6点、チャート9点、黒曜石8点である。

形態に関しては、尖頭部と基部との組み合わせで分類した。

### 尖頭部の分類

- 1類 鋭角な尖頭部を持つもの。
- 2類 1類と同じく鋭角な尖頭部を持つが、全体が細長いもの（全長が全幅の2倍以上）。
- 3類 鈍角な尖頭部を持つもの。
- 4類 先端が小さく尖り、側縁部の肩が張った形状を持つもの。
- 5類 先端が尖らず、丸いカーブ描くもの。
- 6類 先端が小さく尖り出しているもの。

### 基部の分類

- A類 基部の中央部がU字型に深くえぐられているもの。
- B類 基部の凹状のえぐりが浅く不明瞭なもの。
- C類 基部が凹状のもの。
- D類 いわゆる平基鎌で、基部が直線状になるもの。
- E類 いわゆる円基鎌で、基部が丸みを帯びて突出したもの。
- F類 いわゆる有茎鎌で、基部に茎を持つもの。
- G類 いわゆる片足鎌で、基部に片方しか脚部を持たないもの。もしくは、一方の脚部が非常に小さいもの。

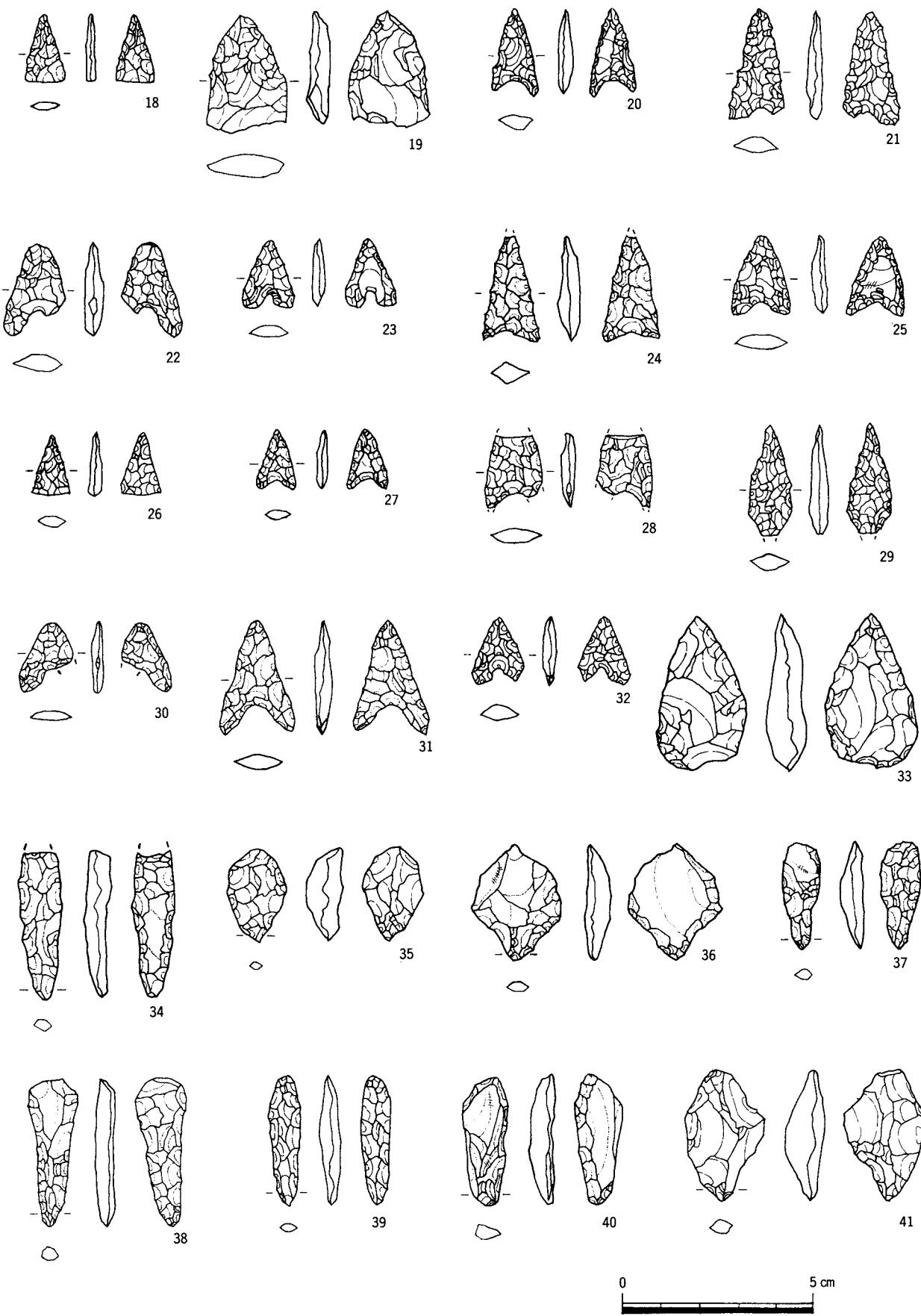
### 破損、折損の部位による分類

- a 尖頭部欠損
- b 一方の脚部または基部の一部欠損
- c 脚部のみ残存
- d 尖頭部のみ残存
- e 尖頭部と一方の脚部欠損
- f 基部から胴部の半身欠損
- g 両脚を欠損
- h 基部を欠損（胴部と尖頭部が残存）
- i 胴部のみ（基部と尖頭部を欠く）

以上の分類によると、1A類1点、1B類1点、1C類6点、1D類2点、1E類1点、2F類1点、3C類1点、5A類1点、5F類1点、不明7点である。

### 石錐（第51図34～41、図版15）

13点出土している。下呂石7点、チャート3点、黒曜石2点、頁岩1点である。形態分類は以下のようである。



第51図 A地点包含層出土の石器(1)

1類 全体の形状が棒状をなすもの。

1A類 両端が尖るもの。

1B類 錐部は一端のみに作られ、他端は鈍頭をなすもの（全面に調整加工を施されるものを原則とする）。

2類 剥片の一端に長い錐部を作り出し、明瞭なつまみ状の頭部を持つもの。

2A類 つまみ状の頭部も全面に調整が施されているもの。

2B類 頭部は素材の剥片の形状を留めるもの。

3類 明瞭なつまみ状の頭部を持つもので、錐部が著しく短いもの。

3A類 頭部に調整加工が施されるもの。

3B類 頭部は素材の剥片の形状をそのまま残すもの。

4類 錐部が次第に広がっていき頭部との区分が不明瞭なもの。

4A類 両面もしくは片面の全体が調整加工を施されているもの。

4B類 錐部の両側縁に調整加工の施されるもので、素材の剥片の形状を留めるもの。

5類 棒状あるいは長い三角形状の剥片の先端に微弱な調整加工を加え、そのまま錐として用いたもの。

以上の分類によると、1A類3点、1B類1点、2B類1点、3B類1点、4A類4点、5類2点、不明1点である。

#### 両極剝離痕のある石器（第52図42～45、図版15）

向かい合った二辺ないし四辺の辺縁部に剝離痕やつぶれが認められる石器。大部分がピエス・エスキューと考えられるが、機能的に異なるものが含まれると推定される。次の3つに分類する。

1類 縦長で縦に1対の剝離痕が見られるもの。

2類 1類以外で1対の剝離痕が見られるもの。

3類 2対以上の複合的な剝離痕が見られるもの。

A地点で出土したものは、1類2点、2類2点、3類1点である。石材は下呂石3点、チャート1点、黒曜石1点である。

#### ヘラ形石器（第52図46～49、図版15）

剥片の両側を折り取り、折り取り部分に挟まれた一端に刃部を持つ石器をヘラ形石器とする。次の2つに分類する。

1類 剥片を剝離した際の鋭利な刃部を利用しているもの。

2類 刀部に細かい数回の剝離を加えているもの。

4点出土しており、いずれも、チャート製で2類である。出土はIII層2点、V層2点である。

#### 削器（第52図50～54、図版15）

剥片の縁辺に連続的な調整によって刃部を作り出した石器を削器とした。刃部の作出方法により次のように分類する。

- 1類 片面加工により刃部を作出したもの。
- 2類 片面加工により作出された刃部と、両面加工により作出された刃部を合わせ持つもの。
- 3類 両面加工により刃部を作出したもの。

下呂石2点、チャート4点、黒曜石2点の計8点出土している。形態は1類5点、3類3点である。

#### 搔器（第52図55・56、図版15）

急角度に調整された刃部を持つ石器を搔器とした。刃部の位置と数により次のように分類する。

- 1類 素材の全周が刃部となるいわゆるラウンドスクレイパー。
- 2類 素材の一辺縁を除く三辺縁が刃部となるもの。
- 3類 縦長剥片が用いられ、その側縁と末端が刃部となるもの。
- 4類 素材の長軸先端部に刃部を作り出したもの。

2点出土しており、いずれも第V層からのものでともにチャートで製である。1類1点、2類1点である。

#### 二次加工のある剝片（第53図57～61、図版15）

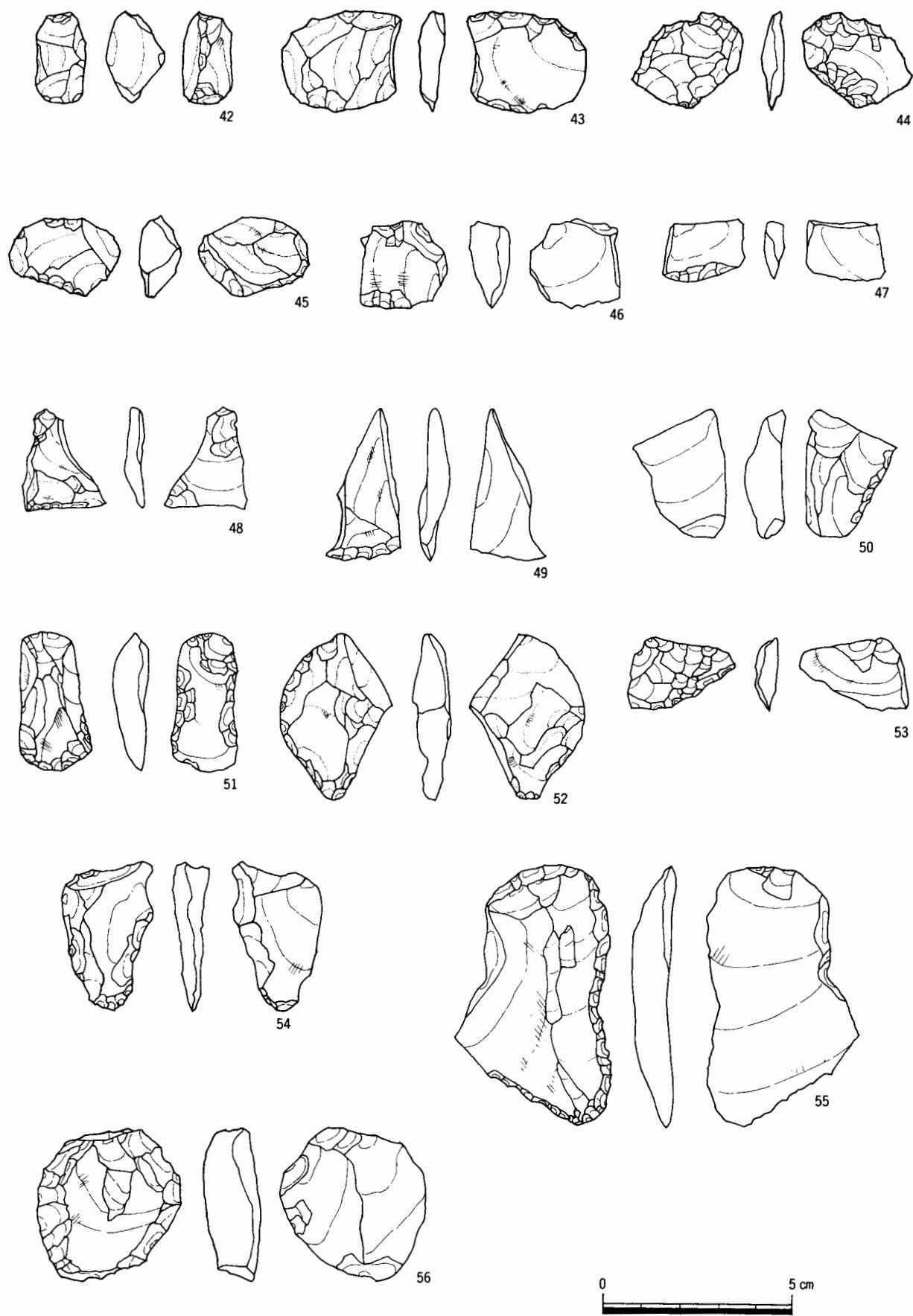
剥片の側縁に大小の剥離痕を連続して施したものを二次加工のある剝片とした。13点出土している。下呂石6点、チャート5点、黒曜石2点である。

#### 使用痕のある剝片（第53図62～68、図版15）

剥片の側縁に微細な剥離痕が密接して、あるいは不規則に観察されるものを使用痕のある剝片とした。33点出土している。下呂石11点、チャート10点、黒曜石12点である。

#### 石核（第54図、図版15）

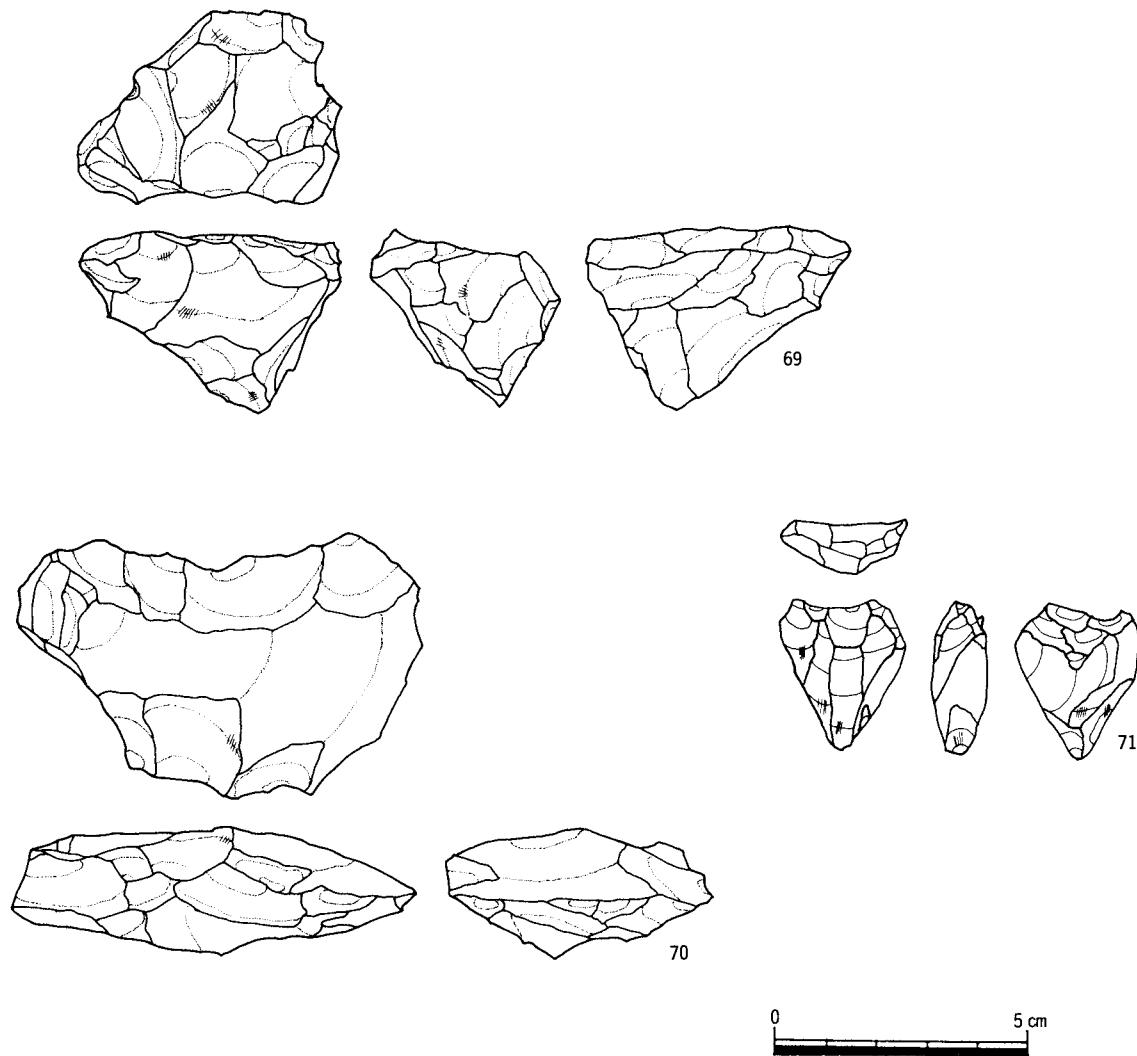
9点出土している。石材は、下呂石4点（69・70）、黒曜石4点（71）、チャート1点である。69は厚みのある剝片を素材とし、打面転移を行いながら剝片剥離作業を行っている。70は長大な剝片を素材としている。71は、厚手の板状剝片を素材とし、残核がレンズ状を呈する。



第52図 A地点包含層出土の石器(2)



第53図 A地点包含層出土の石器(3)



第54図 A地点包含層出土の石器(4)

### 剝片

包含層から出土した剝片類は、309点である。

層位別に点数を数えると、I層は、下呂石3点、チャート3点の6点出土している。II層は、下呂石16点、チャート19点、黒曜石3点の38点出土している。III層からは、下呂石101点、チャート80点、黒曜石58点の計239点出土している。V層からは、下呂石4点、チャート17点の計21点であるが、他の層位では出土していない赤色のチャートが8点出土している点が注目される。

石材別では、下呂石が125点、チャートが122点、黒曜石が62点である。

### 打製石斧（第55～57図、図版16）

132点出土している。次のように分類する。

- 1類 頭部がほぼ平行な、いわゆる短冊形。
- 2類 脘部がくびれる、いわゆる分銅形。
- 3類 形状が基部に向かって収束する、いわゆる撥形。

#### 折損部位による分類

- a 刃部を欠く
- b 基部を欠く
- c 基部の一部を欠く
- d 脳部のみ（両端を欠く）
- e 破片

形態別では、1類50点、2類1点、3類69点、不明12点である。

#### 磨製石斧（第58図113～118、図版16）

9点出土している。次のように分類する。

1類 側面が未発達で横断面が方形にならない偏平なもの。

2類 定角式磨製石斧。大きさで4つに細分する。

2 A類 長さが10cm以上のもの。

2 B類 長さが4cm以上10cm未満で、幅が2cm以上のもの。

2 C類 長さが4cm以上、幅が2cm未満のもの。

2 D類 長さが4cm未満のもの。

3類 乳棒状磨製石斧

#### 折損部位による分類

- a 刃部を欠く
- b 基部を欠く
- c 基部の一部を欠く
- d 脳部のみ（両端を欠く）
- e 破片

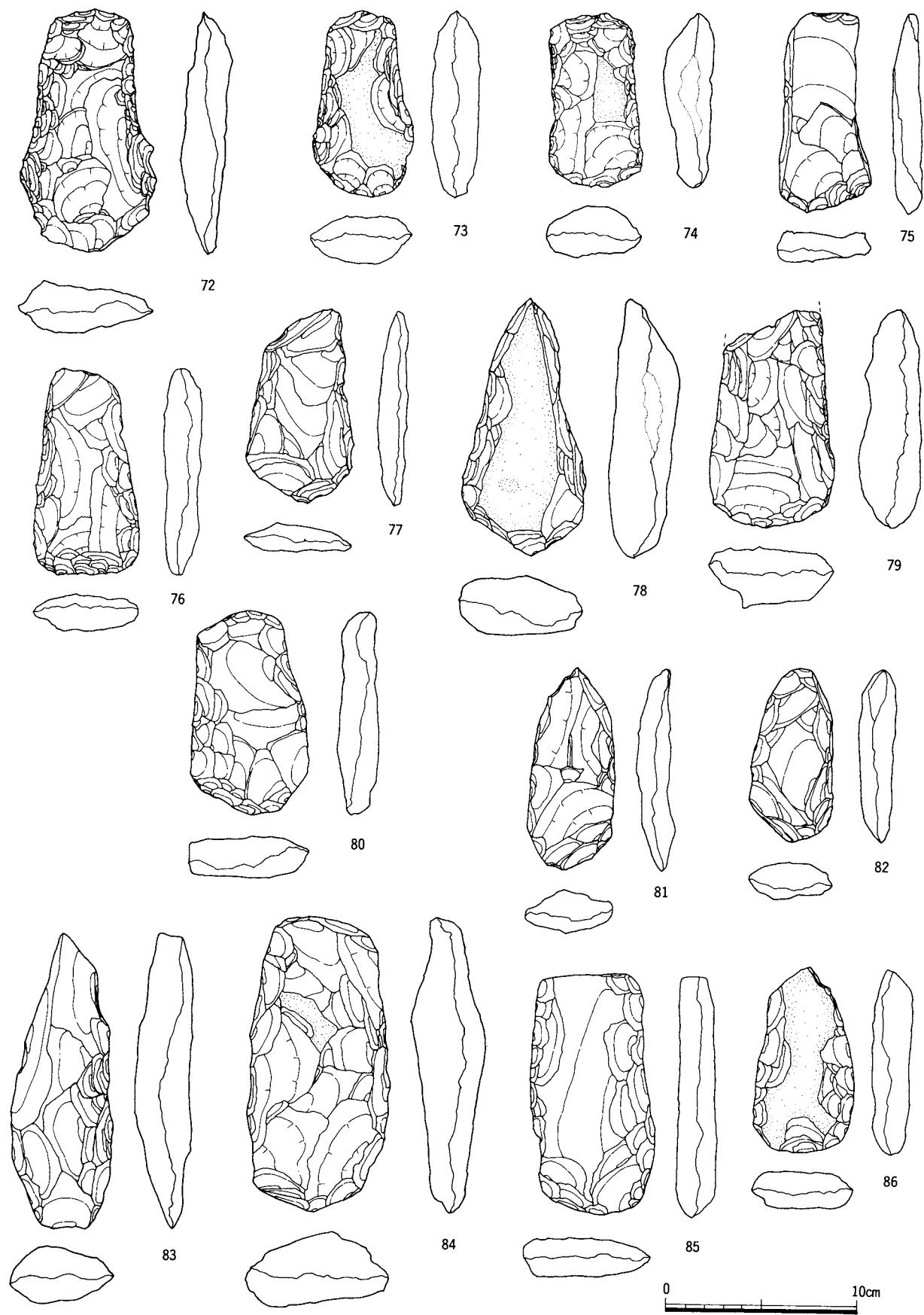
形態別では、2A類4点、2B類1点、不明4点である。

#### 砥石（第58図119、図版16）

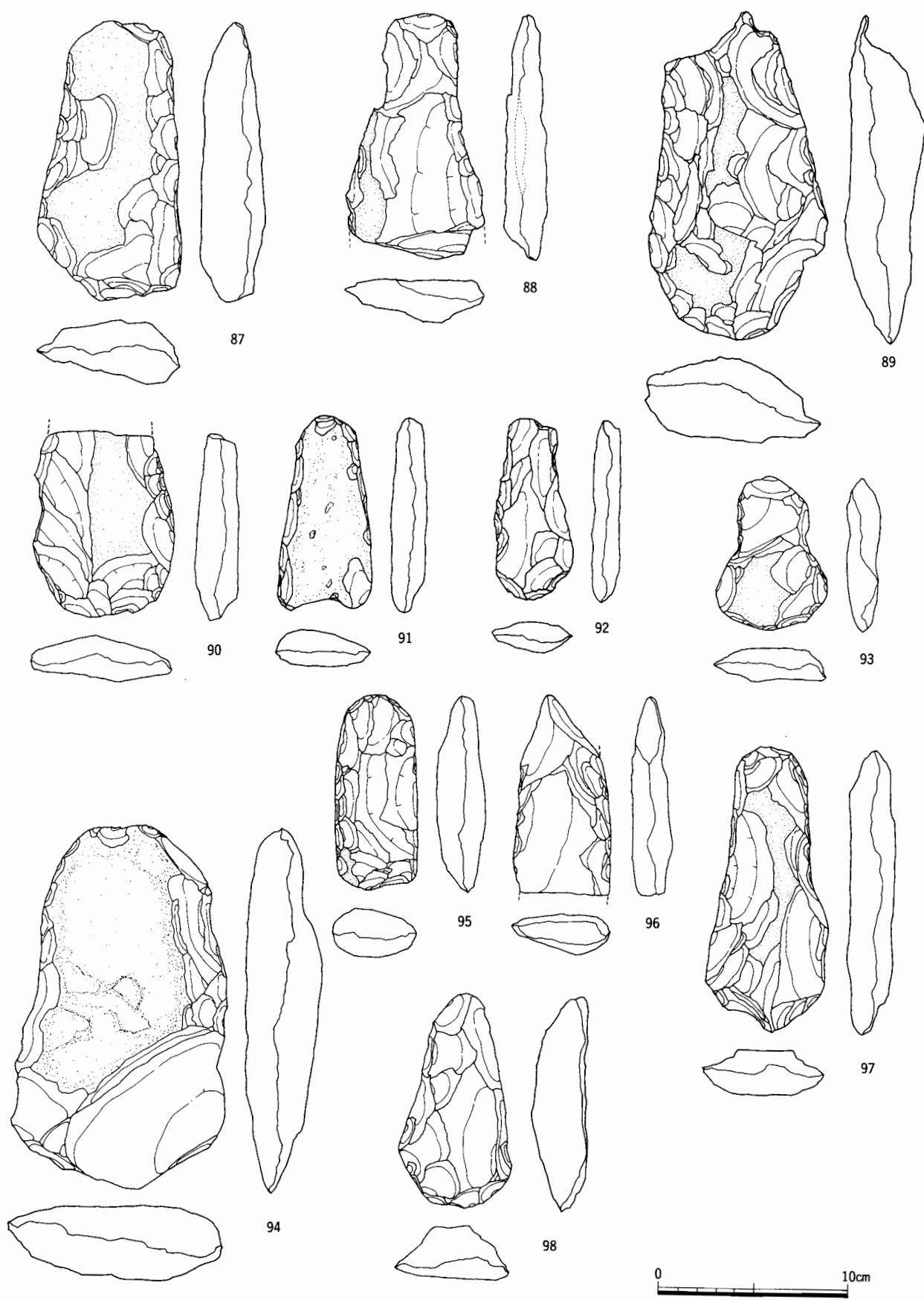
図示した1点は、砂岩製で両面に浅い溝がある。

#### 粗製削器（第58図120、図版16）

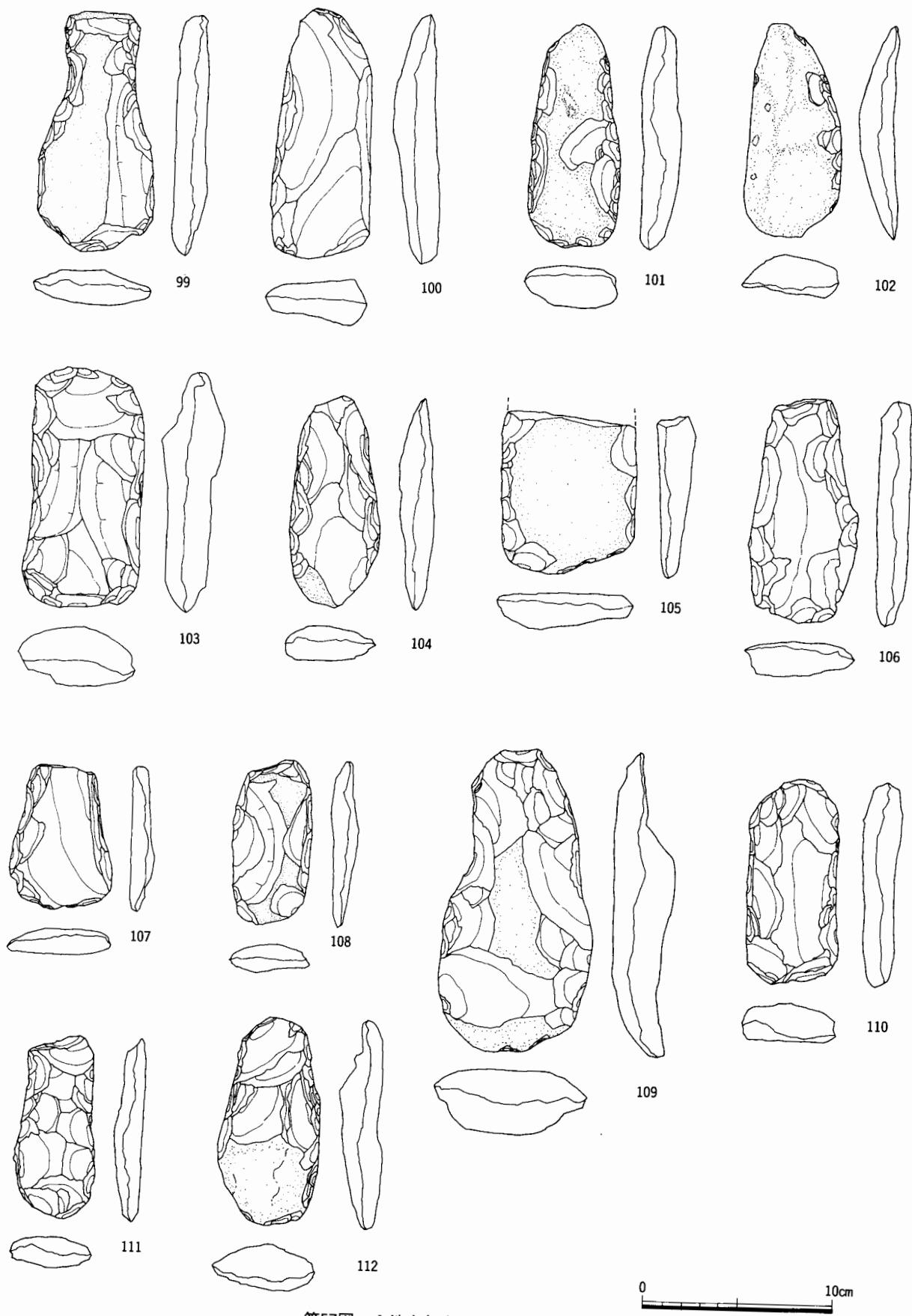
名称は適切ではないかもしれない。偏平な石でもともと円盤状を呈するものと予想される。縁の円弧状の部分に加工痕がある。中央には両面に窪みがあり、握りやすくなっている。石材は凝灰岩である。



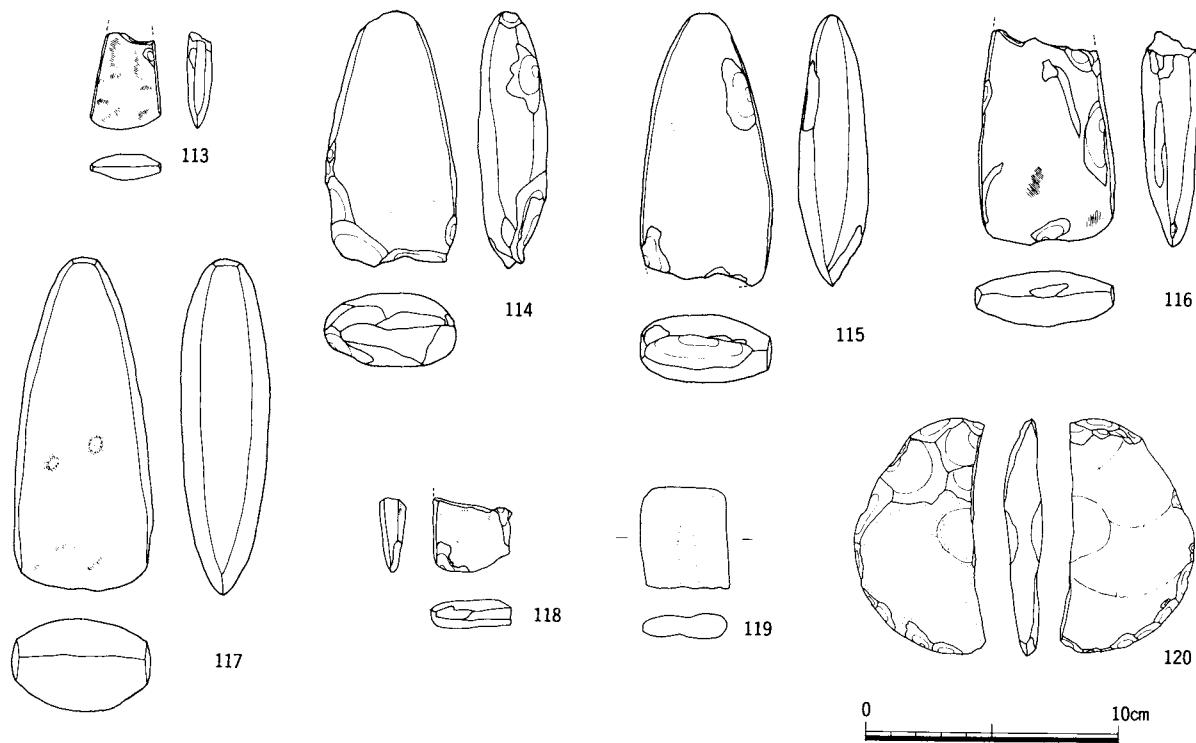
第55図 A地点包含層出土の石器(5)



第56図 A 地点包含層出土の石器(6)



第57図 A地点包含層出土の石器(7)



第58図 A 地点包含層出土の石器(8)

## 磨石・凹石・敲石類（第59・60図、図版17）

この類の石器では、磨痕・凹痕・敲打痕など複数の痕跡が重複していることが多く、機能も多様であると考えられるが一括して扱うこととする。形態については、まず平面形および断面形によって次のように分類する。

1類 平面形が円形のもの。

2類 平面形が橢円形のもの。

3類 平面形が方形のもの。

1～3類は、その断面形によりさらに4つに細分した。

A類 断面形が円形のもの。

B類 断面形が橢円形のもの。

C類 断面形が凸レンズ状のもの。

D類 断面形が方形のもの。

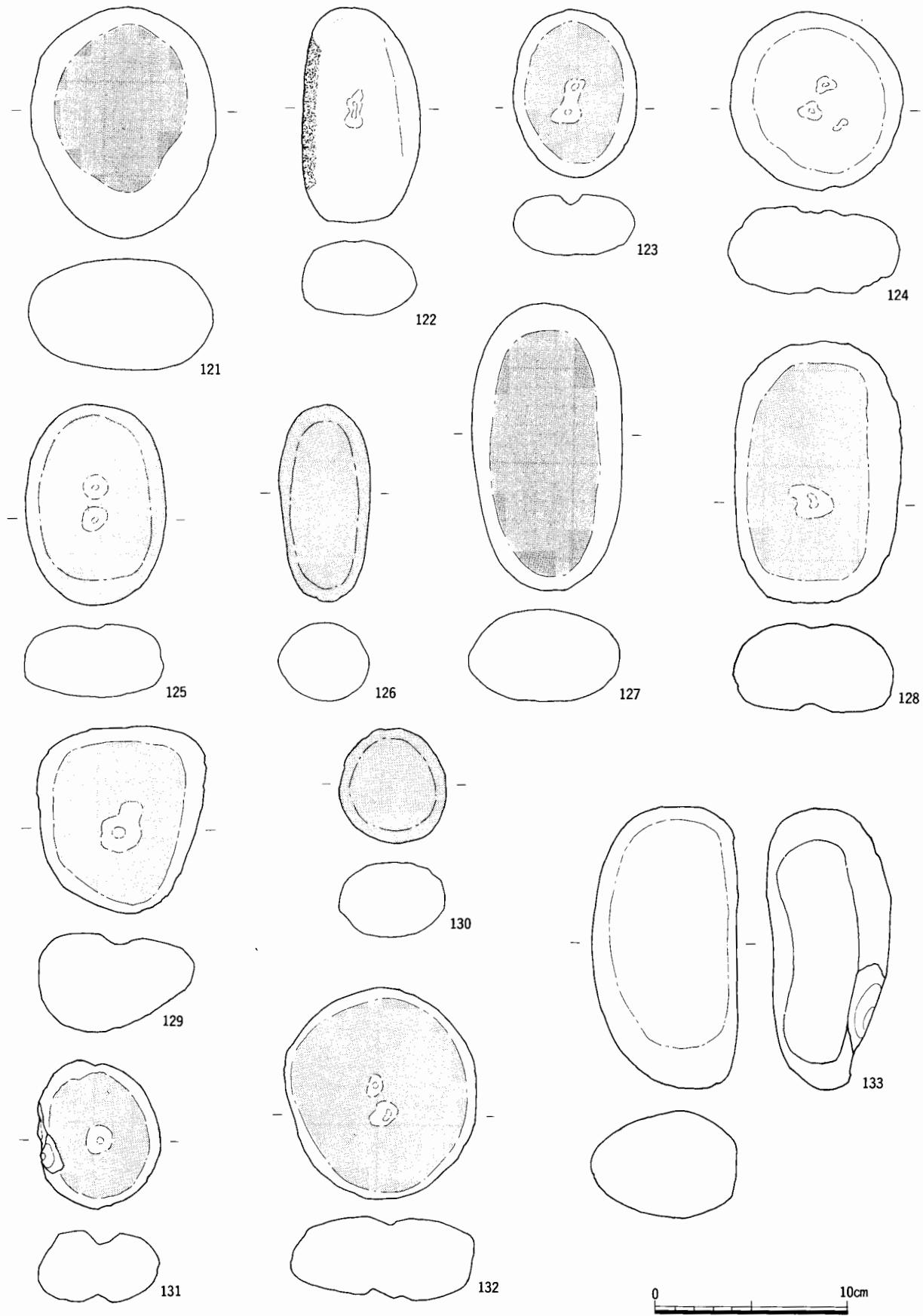
4類 角柱状や円柱状の自然礫を用いたもので、断面は多角形（いわゆる特殊磨石）。

凹痕の数については、いわゆる表面・裏面・その他の面の個数を一覧表に示した。また、凹の形状について、次のア～ウのように分類した。

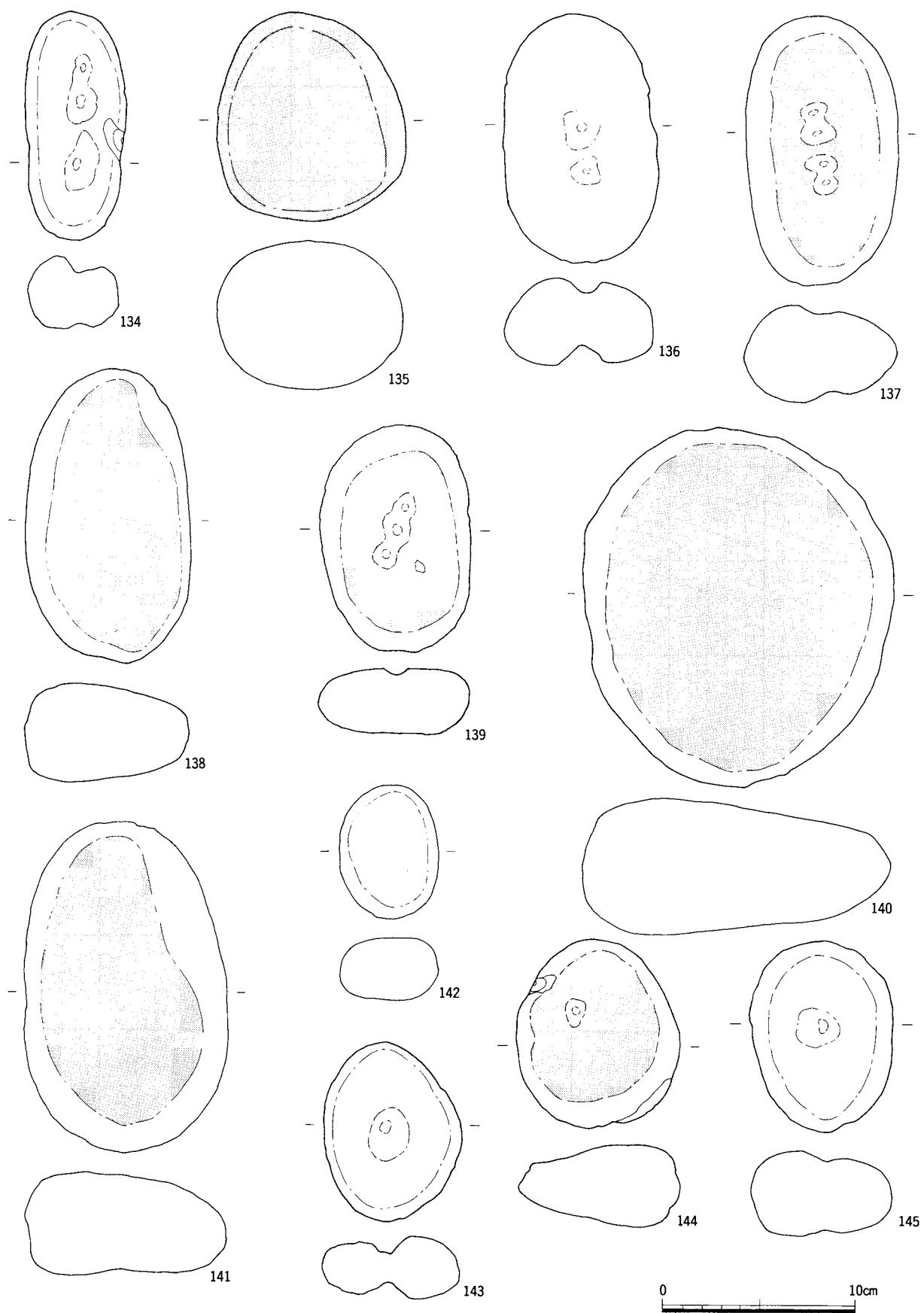
ア 敲打痕がかたまって浅い凹痕をつくっているもの。

イ すりばち状のはっきりした凹痕のあるもの。

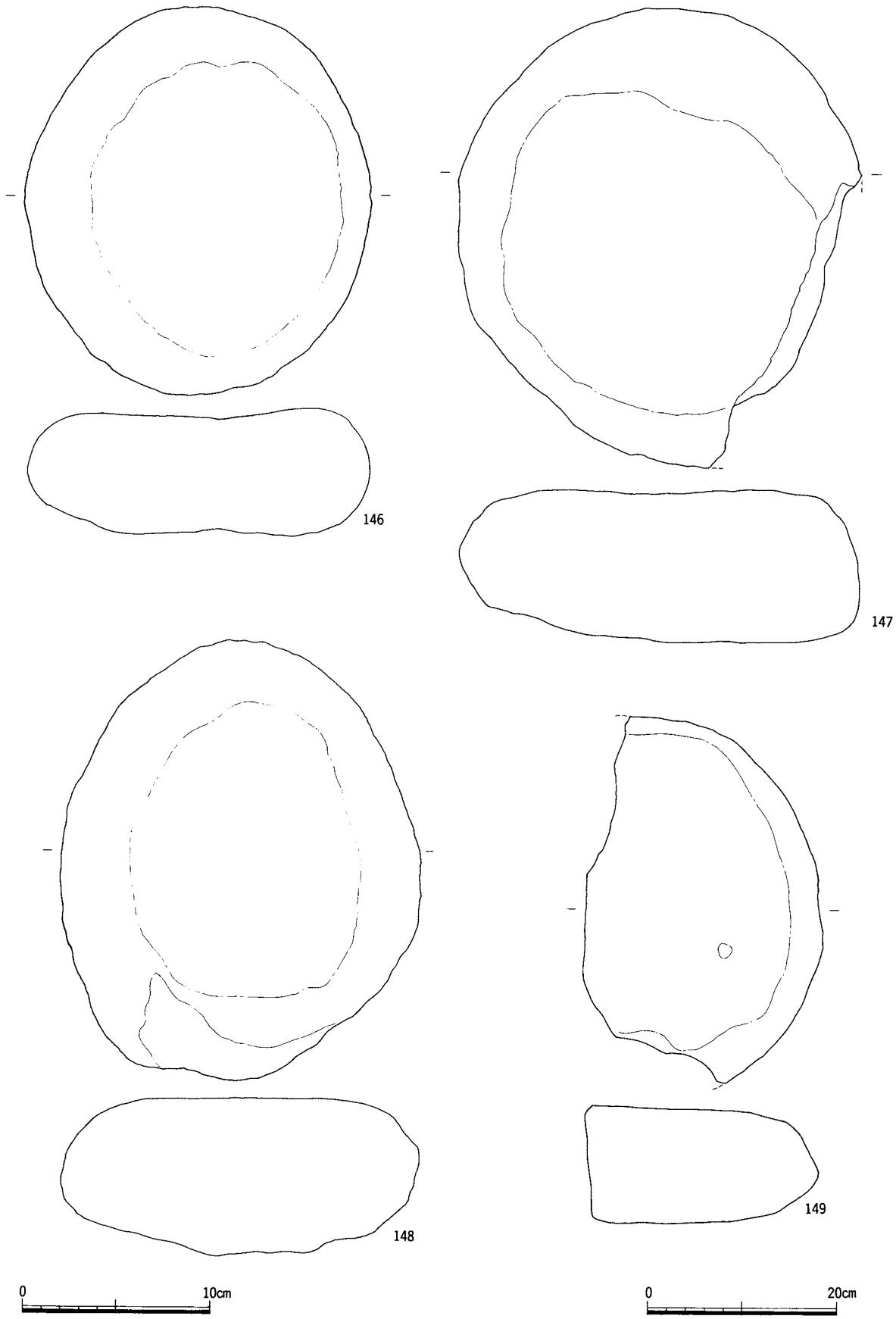
ウ 右上がり状に広がる細長い凹痕を有するもの。



第59図 A地点包含層出土の石器(9)



第60図 A地点包含層出土の石器(10)



第61図 A地点包含層出土の石器(II)

なお、凹痕のないものについては、磨面や敲打痕の様子を一覧表に記述した。

出土点数は176である。形態別では、1B類3点、2A類2点、2B類136点、2C類7点、2D類19点、3C類1点、3D類3点、4類5点となっている。

2B類が圧倒的に多い（全体の77%）ということと、4類は5点のうち第V層出土のものが3点あることが注目される。

### 石皿（第61図、図版17）

石皿は4点出土している。いずれも凝灰岩である。偏平でやや窪みが見られる。

第4表 A地点石器一覧表（単位はmm、g）

#### 石鎚

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	折損	挿図番号	備考
1	C 4	II	チャート	(17.8)	10.6	2.3	(0.5)	—	h	51-18	
2	F 4	II	チャート	30.3	20.5	6.1	4.2	1 D		51-19	
3	F 4	II	下呂石	(13.7)	11.3	4.2	(0.5)	1 D	e		
4	C 4	III	黒曜石	22.3	11.9	3.2	0.7	1 C		51-20	
5	D 4	III	黒曜石	(20.7)	(9.8)	2.9	(0.6)	—	h		
6	D 5	III	黒曜石	(27.9)	(13.9)	3.6	(1.1)	1 C	g	51-21	
7	E 4	III	チャート	(24.8)	(14.6)	4.6	(1.6)	5 A	b	51-22	
8	F 4	III	チャート	17.3	13.0	2.4	0.6	1 A		51-23	
9	F 4	III	黒曜石	21.2	14.9	3.2	0.9	1 C		51-25	
10	F 4	III	黒曜石	(15.6)	10.0	3.1	(0.4)	—	h	51-26	
11	F 4	III	下呂石	(28.3)	14.8	6.3	(1.8)	1 C	a	51-24	
12	F 4	III	黒曜石	(14.7)	11.6	3.8	(0.7)	5 F	b		
13	F 5	III	チャート	17.3	10.7	2.6	0.4	1 C		51-27	
14	F 6	III	下呂石	(15.6)	19.5	4.7	(1.6)	1 B	e		
15	G 4	III	下呂石	(19.1)	(14.3)	3.4	(1.0)	—	e	51-28	
16	G 4	III	チャート	40.2	22.9	10.4	9.0	1 E		51-33	
17	G 5	III	下呂石	(17.1)	(7.8)	3.2	(0.5)	—	f		
18	G 7	III	黒曜石	(28.6)	11.1	4.6	(1.3)	2 F	b	51-29	
19	H 5	III	チャート	(18.4)	(11.2)	2.0	(0.4)	3 C	e	51-30	
20	I 4	V	下呂石	29.8	19.9	3.3	1.1	1 C		51-31	
21	I 4	V	チャート	(15.2)	(16.2)	3.8	(0.9)	—	i		
22	I 4	V	チャート	(18.6)	(7.7)	2.5	(0.4)	—	f		
23	G 7	—	黒曜石	(17.6)	(13.4)	3.1	(0.7)	1 A	b	51-32	

#### 石錐

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	折損	挿図番号	備考
1	D 5	II	下呂石	(38.9)	10.9	5.8	(2.6)	1 A	一端	51-34	
2	F 4	II	チャート	24.1	15.8	8.4	3.4	4 A		51-35	
3	G 5	II	黒曜石	(18.8)	18.0	5.1	(1.6)	4 A	尖端		
4	D 5	III	下呂石	29.7	23.5	5.8	3.4	3 B		51-36	
5	D 5	III	下呂石	27.9	9.8	5.3	1.3	4 A		51-37	
6	E 5	III	チャート	34.3	7.7	5.2	1.4	1 A		51-39	
7	E 4	III	頁岩	(19.8)	6.2	2.7	(0.5)	1 A	一端		
8	E 5	III	下呂石	39.2	13.0	5.2	2.4	1 B		51-38	
9	D 5	III	下呂石	(18.6)	10.4	4.9	(1.0)	—	一端		
10	F 7	III	下呂石	34.0	12.1	6.1	2.3	5		51-40	
11	G 4	III	黒曜石	24.5	10.2	5.5	1.0	5			

12	H 4	III	チャート	34.3	19.5	8.5	5.1	4 A		51-41	
13	SB 1	IV	下呂石	22.5	15.9	3.1	0.8	2 B		49-1	

## 両極削離痕のある石器

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	挿図番号	備考
1	D 5	III	下呂石	23.0	12.6	16.0	4.6	1	52-42	
2	F 4	III	下呂石	25.6	31.6	5.9	4.7	2	52-43	
3	G 5	III	チャート	25.3	28.2	4.7	3.8	3	52-44	
4	H 5	III	下呂石	19.7	28.7	10.5	4.2	2	52-45	
5	G 6	III	黒曜石	21.7	18.1	2.5	1.6	1		

## ヘラ形石器

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	挿図番号	備考
1	F 7	III	チャート	21.8	22.7	9.9	6.8	2	52-46	
2	G 6	III	チャート	14.1	19.3	4.6	1.9	2	52-47	
3	G 3	V	チャート	23.8	29.2	4.0	2.5	2	52-48	
4	I 4	V	チャート	40.2	19.6	5.7	4.5	2	52-49	

## 削器

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	挿図番号	備考
1	F 4	I	チャート	32.6	22.9	8.6	5.8	1	52-50	欠損
2	F 4	II	下呂石	34.1	14.4	4.0	2.3	1		
3	G 4	II	黒曜石	36.2	17.7	8.9	6.0	3	52-51	
4	F 4	III	下呂石	43.3	29.9	8.2	9.6	3	52-52	
5	G 5	III	黒曜石	18.8	27.0	5.0	2.5	1	52-53	
6	I 4	III	チャート	33.8	31.6	9.4	11.1	1		
7	I 4	V	チャート	(18.9)	22.7	6.1	3.3	1		
8	SB 1	IV	チャート	36.3	15.7	10.4	6.1	3	49-2	

## 捶器

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	挿図番号	備考
1	H 4	V	チャート	37.6	38.0	14.2	28.3	1	52-56	
2	I 4	V	チャート	67.7	39.1	8.1	27.0	2	52-55	

## 二次加工のある剝片

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号	備考
1	D 5	II	下呂石	55.4	33.9	9.9	17.1	53-57	
2	F 4	II	下呂石	34.2	32.7	8.9	10.3	53-58	
3	D 5	III	下呂石	45.9	35.5	8.7	12.9		
4	E 6	III	チャート	20.0	21.1	6.1	3.0		
5	F 4	III	下呂石	22.8	35.8	4.9	3.9	53-59	
6	F 5	III	チャート	18.4	23.1	4.0	2.2		
7	F 6	III	黒曜石	19.9	20.8	8.3	2.7		
8	H 4	III	チャート	39.0	19.2	7.9	3.5	53-61	
9	H 4	III	下呂石	28.7	17.4	5.2	3.0	53-60	
10	H 5	III	チャート	21.3	27.9	5.5	2.5		
11	H 3	V	チャート	39.6	24.3	10.7	6.5	53-54	
12	SB 1	IV	黒曜石	17.8	19.9	3.2	1.8	49-3	
13	SF 5	—	下呂石	56.3	40.0	12.2	19.6	49-8	

## 使用痕のある剝片

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号	備考
1	D 3	II	下呂石	37.9	54.7	10.3	18.8		
2	E 3	II	下呂石	49.4	27.2	13.5	16.1		

3	E 4	II	チャート	39.3	33.3	11.6	8.5			
4	F 4	II	下呂石	14.3	24.7	4.6	1.7			
5	D 5	III	下呂石	23.2	28.4	5.3	2.7			
6	D 5	III	下呂石	50.9	34.4	9.0	10.5	53-62		
7	D 5	III	黒曜石	14.1	18.4	4.7	1.1			
8	D 5	III	チャート	30.1	37.9	6.9	9.9			
9	D 5	III	下呂石	39.2	24.0	6.7	6.3			
10	H 4	III	チャート	22.0	27.4	4.9	2.7			
11	E 5	III	下呂石	26.4	17.6	5.0	2.0			
12	F 5	III	黒曜石	20.2	21.6	3.9	1.5			
13	F 6	III	黒曜石	25.7	16.1	7.3	2.5			
14	F 6	III	黒曜石	20.7	18.4	3.6	1.1			
15	F 7	III	黒曜石	19.4	16.1	4.9	1.4			
16	G 4	III	下呂石	35.8	15.3	7.9	3.5			
17	G 4	III	黒曜石	15.9	25.2	2.9	1.1			
18	G 4	III	黒曜石	24.4	20.4	5.1	1.8	53-63		
19	G 4	III	黒曜石	20.2	20.3	7.1	2.2			
20	G 5	III	黒曜石	21.2	15.0	3.0	1.2			
21	G 6	III	チャート	33.4	19.2	2.9	2.2	53-64		
22	G 6	III	チャート	15.1	20.9	2.7	1.3	53-65		
23	G 6	III	チャート	35.5	13.7	2.7	1.3	53-66		
24	G 6	III	黒曜石	23.8	34.7	6.5	4.0			
25	G 3	V	下呂石	26.1	60.0	8.6	13.7	53-68		
26	H 3	V	チャート	44.2	21.3	3.8	4.4	53-67		
27	F 4	—	黒曜石	19.0	20.2	7.5	2.3			
28	G 4	—	下呂石	38.0	51.1	6.7	12.4			
29	表採	—	チャート	33.5	25.5	8.7	6.8			
30	SB 1	III	黒曜石	14.7	22.2	3.1	1.0	49-4		
31	SB 1	III	チャート	42.9	28.9	10.8	10.2	49-7		
32	SB 1	III	チャート	30.3	26.6	5.4	4.8	49-6		
33	SB 1	—	下呂石	24.5	22.0	9.2	4.4	49-5		

## 打製石斧

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	折損	挿図番号	備考
1	F 4	I	凝灰岩	128.1	72.0	21.4	233.5	3		55-72	
2	F 4	I	凝灰岩	( 72.2)	42.3	17.6	( 63.0)	1	a		
3	表採	—	凝灰岩	107.8	51.9	17.7	124.4	3			
4	D 5	II	凝灰岩	101.9	52.7	23.9	169.6	3		55-73	
5	D 6	II	緑色片岩	(109.6)	102.4	20.5	(317.1)	3	c		
6	E 4	II	凝灰岩	97.0	50.6	25.9	138.4	1		55-74	
7	E 4	II	凝灰岩	103.4	55.9	20.0	132.2	3			
8	F 4	II	凝灰岩	( 77.0)	50.2	18.0	( 83.0)	1	a		
9	F 4	II	凝灰岩	113.9	51.0	17.1	121.5	—		55-75	未製品
10	G 4	II	凝灰岩	108.0	56.0	19.6	162.6	3		55-76	
11	G 4	II	凝灰岩	( 76.0)	63.8	15.4	(113.9)	3	b		
12	G 5	II	凝灰岩	( 80.0)	50.4	27.0	(129.2)	3	a		
13	H 5	II	緑色片岩	(100.3)	57.0	19.9	(177.3)	1	b		
14	B 6	III	緑色片岩	( 79.5)	58.5	14.8	( 71.1)	3	b		
15	C 7	III	凝灰岩	106.3	46.2	16.6	90.2	1			
16	C 7	III	凝灰岩	( 59.2)	72.9	23.8	(150.3)	—	d		
17	D 3	III	凝灰岩	101.5	48.0	26.0	181.0	1			
18	D 4	III	凝灰岩	69.6	37.7	15.4	50.4	1			
19	D 5	III	凝灰岩	( 95.5)	71.1	36.2	(284.0)	3	b		

20	D 5	III	凝灰岩	( 84.6)	59.5	29.3	(150.0)	1	a		
21	D 5	III	凝灰岩	( 78.8)	57.0	29.0	(129.2)	—	b		
22	D 5	III	緑色片岩	(103.2)	55.9	14.6	( 93.9)	3	b	55-77	
23	D 5	III	凝灰岩	135.2	67.2	31.8	329.9	3		55-78	
24	D 5	III	凝灰岩	(112.2)	65.6	33.5	(300.0)	3	b	55-79	
25	D 5	III	砂岩	108.1	62.1	20.6	173.8	3		55-80	
26	D 5	III	凝灰岩	106.8	45.5	16.6	93.3	3		55-81	
27	D 5	III	凝灰岩	( 88.8)	46.7	20.0	(121.3)	1	b		
28	D 6	III	凝灰岩	(101.5)	52.3	17.1	(119.2)	1	b		
29	D 6	III	凝灰岩	( 78.5)	47.5	20.9	( 80.5)	3	b		
30	D 6	III	緑色片岩	91.5	43.3	17.9	96.2	3		55-82	
31	D 6	III	緑色片岩	98.5	50.6	20.0	139.5	3			
32	D 6	III	凝灰岩	104.1	55.0	15.9	124.4	1			未製品
33	E 4	III	凝灰岩	157.9	53.5	29.2	257.5	3		55-83	未製品
34	E 4	III	凝灰岩	158.0	77.1	35.9	461.5	3		55-84	
35	E 6	III	凝灰岩	99.3	51.7	22.9	134.3	3			
36	E 6	III	緑色片岩	( 61.0)	39.2	15.6	( 46.1)	—	a		
37	F 4	III	凝灰岩	128.0	63.7	21.9	289.9	1		55-85	
38	F 4	III	凝灰岩	( 64.2)	( 81.5)	23.2	(171.1)	—	b		
39	F 4	III	凝灰岩	95.4	48.7	22.4	153.6	1			
40	F 4	III	泥岩	( 69.3)	( 52.2)	11.4	( 60.7)	3	b		未製品
41	F 4	III	凝灰岩	(112.7)	43.9	19.8	(119.7)	1	a		
42	F 4	III	凝灰岩	( 79.6)	57.7	28.2	(159.9)	—	a		
43	F 4	III	砂岩	( 98.5)	52.5	19.9	(138.1)	3	c	55-86	
44	F 4	III	緑色片岩	( 78.7)	48.7	14.7	( 71.5)	3	b		
45	F 4	III	凝灰岩	(123.7)	80.8	30.2	(288.8)	3	a		
46	F 4	III	凝灰岩	138.1	59.7	34.3	360.7	—			未製品
47	F 4	III	凝灰岩	102.3	48.5	25.5	109.5	3			
48	F 4	III	凝灰岩	(107.0)	( 59.5)	16.7	(150.2)	1	a		
49	F 4	III	凝灰岩	(149.6)	77.1	30.3	(426.1)	3	a	56-87	
50	F 4	III	凝灰岩	(130.7)	73.6	(19.2)	(191.7)	3	a	56-88	被熱
51	F 4	III	砂岩	(118.2)	66.4	25.5	(313.5)	1	b		
52	F 4	III	凝灰岩	142.3	103.0	39.5	605.7	3			未製品
53	F 4	III	凝灰岩	(176.0)	96.3	36.7	(593.7)	3	b	56-89	被熱
54	F 4	III	凝灰岩	( 98.2)	76.8	19.7	(210.7)	3	b	56-90	
55	F 4	III	凝灰岩	(116.1)	75.3	25.2	(248.4)	3	c		
56	F 4	III	凝灰岩	(103.9)	49.3	17.2	(119.6)	3	a	56-91	
57	F 4	III	緑色片岩	( 81.1)	( 55.7)	18.8	(109.0)	3	a		
58	F 4	III	凝灰岩	(137.2)	91.5	25.0	(344.4)	1	c		
59	F 4	III	緑色片岩	97.4	41.0	14.4	77.6	3		56-92	
60	F 4	III	緑色片岩	( 77.5)	41.2	(13.0)	( 45.5)	3	d		
61	F 4	III	緑色片岩	80.6	46.4	14.2	62.6	3			未製品
62	F 5	III	緑色片岩	82.3	58.9	14.6	93.7	2		56-93	
63	F 5	III	緑色片岩	( 86.4)	41.5	7.7	( 37.8)	3	a		
64	F 5	III	緑色片岩	( 82.3)	44.2	11.1	( 59.5)	1	a		
65	F 6	III	凝灰岩	( 70.7)	41.3	16.3	( 58.0)	1	a		
66	F 6	III	凝灰岩	94.9	39.2	12.5	48.7	3			
67	F 6	—	凝灰岩	( 56.0)	( 55.8)	16.4	( 67.8)	—	b		
68	F 7	III	緑色片岩	( 76.7)	( 61.3)	14.6	( 81.0)	—	b		
69	F 7	III	凝灰岩	92.0	48.9	20.6	111.3	3			未製品
70	F 7	III	緑色片岩	92.2	46.1	12.6	57.2	3			
71	F 7	III	凝灰岩	( 78.5)	42.3	16.2	( 65.9)	1	a		

72	G 4	III	凝灰岩	104.5	43.9	25.6	154.0	1		56-95	
73	G 4	III	凝灰岩	194.0	115.4	39.8	(904.1)	3	a	56-94	
74	G 4	III	凝灰岩	( 80.3)	52.3	25.6	(117.1)	1	a		
75	G 4	III	凝灰岩	(103.2)	46.7	13.2	( 81.6)	1	c		
76	G 4	III	凝灰岩	( 98.5)	88.5	21.8	(192.7)	3	a		未製品
77	G 5	III	綠色片岩	96.7	44.9	14.2	81.6	1			
78	G 5	III	凝灰岩	126.7	62.4	17.1	158.0	3		57-99	
79	G 5	III	凝灰岩	106.3	54.7	23.3	228.1	—			未製品
80	G 5	III	凝灰岩	( 98.9)	73.2	28.1	(297.7)	1	b		
81	G 5	III	凝灰岩	150.2	63.1	23.5	259.0	3		56-97	
82	G 5	III	凝灰岩	(106.9)	50.3	20.4	(116.9)	1	d	56-96	
83	G 5	III	綠色片岩	( 86.1)	46.3	16.4	( 78.3)	1	d		
84	G 5	III	凝灰岩	131.9	52.2	20.2	175.3	1		57-100	未製品
85	G 5	III	凝灰岩	(117.7)	48.1	19.1	(136.8)	3	c	57-101	
86	G 5	III	凝灰岩	(131.0)	64.8	25.3	(301.3)	3	b		未製品
87	G 5	III	凝灰岩	113.1	50.6	17.5	114.2	3		57-102	未製品
88	G 5	III	凝灰岩	119.3	46.6	19.5	149.0	1			
89	G 5	III	凝灰岩	126.8	62.0	32.1	287.8	1		57-103	
90	G 5	III	凝灰岩	115.1	58.6	26.6	187.8	3		56-98	未製品?
91	G 5	III	凝灰岩	110.8	48.1	17.6	100.8	3		57-104	
92	G 5	III	凝灰岩	( 85.6)	( 62.2)	24.2	(135.5)	3	b		
93	G 5	III	凝灰岩	(109.3)	60.7	24.7	(226.2)	3	a		
94	G 5	III	凝灰岩	95.0	46.7	24.5	130.2	1			
95	G 5	III	凝灰岩	106.8	56.8	19.8	151.5	3			
96	G 5	III	凝灰岩	( 87.7)	56.2	19.4	(114.4)	3	a		未製品
97	G 5	III	砂岩	( 84.9)	71.9	19.1	(145.1)	1	b	57-105	
98	G 5	III	凝灰岩	( 83.6)	( 66.4)	17.4	(142.5)	3	b		
99	G 5	III	凝灰岩	(100.3)	76.0	25.2	(209.3)	3	b		
100	G 5	III	凝灰岩	118.3	57.2	16.4	130.1	3		57-106	被熱
101	G 6	III	凝灰岩	( 59.4)	44.2	14.9	( 58.3)	—	d		
102	G 6	III	凝灰岩	( 71.2)	55.4	14.1	( 65.4)	3	b		
103	G 6	III	凝灰岩	( 67.1)	51.5	14.2	( 57.7)	3	a		
104	G 7	III	凝灰岩	70.2	48.8	23.1	96.4	1			
105	G 7	III	綠色片岩	98.7	52.6	20.9	124.8	3			
106	G 7	III	凝灰岩	( 99.0)	47.4	16.9	(112.8)	1	a		
107	G 7	III	綠色片岩	( 76.1)	( 54.6)	12.4	( 63.6)	3	b	57-107	
108	H 4	III	凝灰岩	( 99.6)	59.8	24.1	(150.1)	3	c		
109	H 4	III	凝灰岩	84.3	42.5	12.1	47.6	1		57-108	
110	H 4	III	凝灰岩	( 65.4)	43.6	15.9	( 54.1)	1	b		
111	H 4	III	凝灰岩	160.9	80.0	31.8	380.5	3		57-109	
112	H 4	III	凝灰岩	76.3	47.0	17.7	84.7	3			
113	H 5	III	凝灰岩	106.4	46.8	25.2	120.3	3			
114	H 5	III	凝灰岩	139.9	67.1	30.0	346.8	3			
115	H 5	III	凝灰岩	( 88.3)	72.2	23.6	(185.5)	—	a		
116	H 5	III	凝灰岩	103.3	55.5	22.3	155.3	1			
117	H 5	III	凝灰岩	( 76.4)	( 54.1)	18.1	( 86.5)	3	a		
118	H 5	III	凝灰岩	( 75.1)	53.9	24.7	(115.5)	1	b		
119	H 5	III	凝灰岩	94.0	41.8	14.5	81.3	1			被熱
120	I 4	III	綠色片岩	106.5	49.2	18.8	153.1	1		57-110	被熱
121	I 5	III	凝灰岩	( 98.0)	42.5	15.1	( 68.7)	1	b	57-111	
122	I 5	III	凝灰岩	110.9	54.6	21.2	134.2	3		57-112	
123	SB 1	IV	凝灰岩	101.0	45.6	15.5	118.1	1		50-13	

124	SB 1	IV	凝灰岩	104.4	43.3	15.6	87.7	1		50-9	
125	SB 1	IV	凝灰岩	107.1	50.8	14.3	113.6	1		50-10	
126	SB 1	IV	凝灰岩	105.5	47.1	21.0	139.2	1		50-12	
127	SB 1	IV	凝灰岩	( 79.3)	52.5	13.8	( 73.1)	1	a		
128	SB 1	IV	凝灰岩	125.4	50.8	26.1	192.4	1			
129	SB 1	IV	凝灰岩	108.6	51.7	24.3	158.7	1		50-11	
130	SB 1	IV	凝灰岩	( 98.2)	55.0	11.6	( 84.7)	1	a		
131	P 7	—	凝灰岩	142.5	65.3	25.4	282.5	3		50-16	
132	P 116	—	凝灰岩	101.1	46.7	23.3	140.4	1		50-17	

## 磨製石斧

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	折損	挿図番号	備考
1	E 4	II	蛇紋岩	( 37.6)	28.0	9.1	( 16.2)	2 B	b	58-113	
2	F 4	II	蛇紋岩	( 42.1)	( 17.0)	( 4.6)	( 4.1)	—	e		
3	F 4	II	蛇紋岩	50.0	( 21.2)	( 7.0)	( 7.0)	—	e		
4	G 5	II	班れい岩	(100.5)	( 51.2)	(26.8)	(185.7)	2 A	a	58-114	
5	D 5	III	蛇紋岩	(107.7)	51.4	27.2	(232.4)	2 A	a	58-115	
6	E 4	III	班れい岩	( 85.5)	53.5	19.9	(154.3)	2 A	b	58-116	
7	G 5	III	凝灰岩	132.2	55.7	34.7	366.8	2 A		58-117	
8	G 5	III	蛇紋岩	( 28.9)	( 31.0)	9.9	( 13.5)	—	e	58-118	
9	SB 1	III	蛇紋岩	( 62.2)	( 26.1)	( 6.5)	( 14.7)	—	e		

## 磨石・凹石・敲石類

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	挿図番号	備考
1	F 4	I	花崗岩	120.1	97.3	60.4	1,067.1	2 B	59-121	滑らかな磨痕
2	D 5	II	凝灰岩	110.3	78.9	50.7	519.1	2 B		3・2・0 ア
3	D 5	II	凝灰岩	107.0	83.4	37.3	394.9	2 B		2・2・0 ア
4	E 3	II	凝灰岩	(108.4)	( 86.5)	48.9	( 600.4)	2 B		滑らかな磨痕
5	F 4	II	凝灰岩	(100.0)	( 81.6)	(34.5)	( 359.7)	2 B		3・1・0 アウ
6	F 4	II	凝灰岩	130.0	109.5	54.3	991.3	2 B		ザラつく磨痕
7	F 4	II	凝灰岩	121.0	87.8	40.5	587.1	2 D		ザラつく磨痕
8	G 5	II	凝灰岩	109.7	78.3	45.0	464.3	2 B		1・1・0 ア
9	G 5	II	凝灰岩	(113.4)	( 49.7)	(47.6)	( 482.3)	2 B		ザラつく磨痕
10	D 4	III	凝灰岩	( 98.1)	( 98.1)	(52.7)	( 492.2)	1 B		ザラつく磨痕
11	D 4	III	凝灰岩	136.2	120.0	67.6	1,400.0	2 B		ザラつく磨痕
12	D 4	III	凝灰岩	83.6	77.3	60.4	442.2	2 B		ザラつく磨痕
13	D 5	III	凝灰岩	90.5	78.4	38.6	281.5	2 B		1・1・0 ウ
14	D 6	III	凝灰岩	103.2	78.9	55.3	531.6	2 B		2・2・0 ア
15	D 6	III	凝灰岩	129.8	75.8	46.8	483.9	2 D		2・—・0 ア
16	D 6	III	凝灰岩	93.7	89.7	44.3	514.3	2 B		1・1・0 ア
17	D 6	III	凝灰岩	96.1	47.9	46.6	277.2	2 D		ザラつく磨痕
18	D 6	III	凝灰岩	104.4	95.6	52.9	693.4	2 B		ザラつく磨痕
19	D 6	III	凝灰岩	97.0	71.3	43.4	396.3	2 B		1・1・0 ア
20	E 3	III	凝灰岩	109.7	44.9	52.5	300.3	2 D		2・2・2 ア
21	E 4	III	凝灰岩	(138.4)	(115.0)	44.8	( 960.8)	2 B		1・1・0 ア
22	E 4	III	凝灰岩	119.7	77.6	55.4	677.9	2 D		2・2・0 ア
23	E 4	III	凝灰岩	84.4	73.1	49.2	354.2	2 B		ザラつく磨痕
24	E 4	III	凝灰岩	101.2	74.2	54.2	444.1	2 B		2・1・0 ウ
25	E 4	III	凝灰岩	90.5	82.5	34.8	364.9	2 B		1・1・0 ア
26	F 3	III	凝灰岩	99.6	81.1	48.6	504.0	2 B		1・1・0 ア
27	F 3	III	凝灰岩	78.6	53.0	41.3	215.5	2 B		2・1・0 ア
28	F 4	III	凝灰岩	( 78.9)	62.0	41.4	( 189.6)	2 B		1・1・0 イ
29	F 4	III	凝灰岩	93.7	43.9	38.8	175.6	2 B		ザラつく磨痕

30	F 4	III	凝灰岩	80.5	69.6	30.7	193.1	2 B		1・1・0 ア
31	F 4	III	花崗岩	111.6	78.3	48.2	636.5	2 B		ザラつく磨痕
32	F 4	III	凝灰岩	120.9	71.6	42.1	456.8	2 B		ザラつく磨痕
33	F 4	III	凝灰岩	87.1	64.0	33.4	218.1	2 B	59-123	2・2・0 ウ
34	F 4	III	凝灰岩	82.0	77.7	47.6	408.7	2 B		2・1・0 ア
35	E 4	III	凝灰岩	92.6	89.8	45.2	459.6	1 B	59-124	2・1・0 ウ
36	F 4	III	凝灰岩	113.1	69.1	52.1	503.7	2 C		2・2・2 ア
37	F 4	III	凝灰岩	99.4	77.1	41.6	391.4	2 B		ザラつく磨痕
38	F 4	III	凝灰岩	104.3	74.2	37.7	433.3	2 D	59-125	0・3・0 ア
39	F 4	III	凝灰岩	73.4	63.6	49.8	284.4	2 B		ザラつく磨痕
40	F 4	III	凝灰岩	101.6	44.1	42.0	209.5	2 A	59-126	ザラつく磨痕
41	F 4	III	凝灰岩	126.1	88.2	49.9	686.7	3 D		ザラつく磨痕
42	F 4	III	凝灰岩	95.3	71.4	43.6	419.4	2 B		2・2・0 ア
43	F 4	III	凝灰岩	(101.5)	( 87.8)	(43.8)	( 458.0)	2 B		ザラつく磨痕
44	F 4	III	凝灰岩	(111.5)	( 68.5)	33.4	( 349.2)	2 B		1・0・0 ア
45	F 4	III	凝灰岩	93.9	77.0	41.4	386.5	2 B		ザラつく磨痕
46	F 4	III	凝灰岩	149.6	78.6	51.4	886.2	2 B	59-127	滑らかな磨痕
47	F 4	III	凝灰岩	111.9	101.4	53.3	739.2	2 B		2・0・0 ア
48	F 4	III	凝灰岩	94.1	( 86.0)	52.5	( 514.5)	2 B		ザラつく磨痕
49	F 4	III	凝灰岩	( 83.0)	70.3	36.5	( 266.5)	2 B		1・1・0 ア
50	F 4	III	凝灰岩	58.8	56.1	38.9	155.9	1 B	59-130	ザラつく磨痕
51	F 4	III	凝灰岩	97.7	71.4	61.5	536.0	2 B		ザラつく磨痕
52	F 4	III	凝灰岩	(105.3)	( 71.7)	37.0	( 452.0)	2 B		2・2・0 ア
53	F 4	III	凝灰岩	138.8	85.8	50.1	968.5	3 D	59-128	2・2・0 ア
54	F 4	III	凝灰岩	101.3	88.3	50.8	490.7	3 C	59-129	1・0・0 ア
55	F 4	III	凝灰岩	115.4	75.8	47.0	496.7	2 B		2・2・0 ア
56	F 4	III	凝灰岩	93.6	84.0	35.3	367.2	2 B		1・1・0 イ
57	F 4	III	凝灰岩	111.7	89.0	60.6	780.5	2 D		2・2・0 ア
58	F 4	III	凝灰岩	64.2	57.4	23.9	106.0	2 B		ザラつく磨痕
59	F 4	III	凝灰岩	103.2	( 72.5)	56.4	( 540.9)	2 B		ザラつく磨痕
60	F 4	III	凝灰岩	103.3	95.2	66.9	825.7	2 B		ザラつく磨痕
61	F 4	III	凝灰岩	110.3	99.6	62.2	854.0	2 B		ザラつく磨痕
62	F 4	III	凝灰岩	(100.8)	( 88.2)	(49.8)	( 500.7)	2 B		ザラつく磨痕
63	F 4	III	凝灰岩	(108.1)	( 99.2)	(73.9)	( 882.6)	2 B		ザラつく磨痕
64	F 4	III	凝灰岩	118.4	97.4	54.8	727.1	2 B		0・2・0 ア
65	F 4	III	凝灰岩	122.1	102.5	52.8	902.8	2 B		ザラつく磨痕
66	F 4	III	凝灰岩	132.8	103.4	52.6	957.2	2 D		1・2・0 ア
67	F 4	III	凝灰岩	94.7	83.5	58.5	553.2	2 B		ザラつく磨痕
68	F 5	III	凝灰岩	78.2	64.9	42.0	241.9	2 B	59-131	1・1・0 イ
69	F 6	III	凝灰岩	123.6	89.4	47.6	669.9	2 B		ザラつく磨痕
70	F 7	III	凝灰岩	111.4	98.2	47.5	651.0	2 B		ザラつく磨痕
71	F 7	III	凝灰岩	106.1	70.9	56.3	532.4	3 D		ザラつく磨痕
72	F 7	III	凝灰岩	108.8	89.9	51.0	603.4	2 B		ザラつく磨痕
73	F 7	III	凝灰岩	105.4	74.7	48.3	487.7	2 D		ザラつく磨痕
74	G 3	III	凝灰岩	105.9	92.4	60.2	654.9	2 B		ザラつく磨痕
75	G 4	III	凝灰岩	93.1	81.5	54.7	499.5	2 B		1・1・0 ア
76	G 4	III	凝灰岩	99.3	84.5	57.2	612.8	2 B		2・1・0 ウ
77	G 4	III	凝灰岩	149.6	77.7	62.2	1,112.4	4	59-133	長軸一端に敲打痕
78	G 4	III	凝灰岩	132.3	115.0	52.5	998.0	2 B		ザラつく磨痕
79	G 4	III	凝灰岩	86.4	77.4	58.4	466.7	2 B		1・1・0 ア
80	G 4	III	凝灰岩	99.3	59.2	43.4	342.9	2 B		1・1・0 ウ
81	G 4	III	凝灰岩	113.6	104.4	42.8	554.3	2 D	59-132	2・2・0 ア

82	G 4	III	凝灰岩	100.5	64.5	44.1	381.9	2 B		2・2・0 ア
83	G 4	III	凝灰岩	119.1	106.4	62.0	1,041.8	2 B		ザラつく磨痕
84	G 4	III	凝灰岩	111.5	79.2	54.2	574.2	2 B		2・0・0 ア
85	G 4	III	凝灰岩	95.8	67.1	39.4	340.6	2 B		1・1・0 ウ
86	G 4	III	凝灰岩	76.1	59.6	43.7	205.4	2 B		1・1・0 アイ
87	G 5	III	凝灰岩	119.7	53.6	36.2	312.0	2 B	60-134	2・3・4 アイ
88	G 4	III	凝灰岩	80.3	58.1	45.7	265.1	2 B		1・0・0 ウ
89	G 5	III	凝灰岩	122.6	115.7	54.4	1,077.1	2 B		ザラつく磨痕
90	G 5	III	凝灰岩	111.4	99.6	77.8	1,280.0	3 B	60-135	ザラつく磨痕
91	G 5	III	凝灰岩	85.4	58.3	41.4	259.1	2 B		1・1・0 ア
92	G 5	III	凝灰岩	(132.9)	108.3	67.2	(1,036.1)	2 B		ザラつく磨痕
93	G 5	III	凝灰岩	96.8	75.8	47.8	404.5	2 B		3・1・0 ア
94	G 5	III	凝灰岩	140.8	106.5	88.4	1,500.0	2 B		3・1・0 ア
95	G 5	III	凝灰岩	76.6	61.8	45.7	233.7	2 B		1・1・0 アイ
96	G 5	III	凝灰岩	(74.3)	79.5	52.6	(329.8)	2 B		2・2・0 アウ
97	G 5	III	凝灰岩	(134.6)	82.7	42.2	(595.0)	2 D		2・2・0 アイ
98	G 5	III	凝灰岩	129.4	80.6	47.2	554.5	2 B	60-136	2・2・2 イ
99	G 5	III	凝灰岩	(87.3)	81.2	46.2	(401.6)	2 B		1・1・0 ア
100	G 5	III	凝灰岩	104.1	79.2	61.7	605.7	2 B		1・0・0 ア
101	G 5	III	凝灰岩	115.9	80.3	40.5	460.9	2 C		1・1・0 ア
102	G 5	III	凝灰岩	107.7	96.5	67.5	907.5	2 B		2・2・0 ウ
103	G 5	III	凝灰岩	97.8	66.9	54.4	371.1	2 B		2・2・0 ア
104	G 5	III	凝灰岩	96.5	89.2	73.6	765.8	2 B		滑らかな磨痕
105	G 5	III	凝灰岩	106.7	71.9	52.5	501.8	2 B		2・2・0 ア
106	G 5	III	凝灰岩	131.9	80.7	51.3	779.8	2 B		2・2・0 ア
107	G 5	III	凝灰岩	134.0	105.8	62.1	1,099.7	2 B		ザラつく磨痕
108	G 5	III	凝灰岩	128.1	94.6	55.7	827.8	2 B		ザラつく磨痕
109	G 5	III	凝灰岩	87.4	68.6	48.2	345.2	2 B		1・1・0 ア
110	G 5	III	凝灰岩	83.5	68.9	43.3	259.8	2 B		2・2・2 アイ
111	G 5	III	凝灰岩	(97.3)	(61.0)	(60.3)	(323.7)	2 B		ザラつく磨痕
112	G 5	III	凝灰岩	(69.2)	83.5	33.8	(243.4)	2 C		ザラつく磨痕
113	G 5	III	凝灰岩	141.2	80.2	53.3	698.2	2 D	60-137	2・3・0 アウ
114	G 5	III	凝灰岩	174.0	150.6	86.0	2,940.0	2 B		ザラつく磨痕
115	G 5	III	凝灰岩	124.0	102.2	76.1	1,250.0	2 B		1・0・0 ア
116	G 5	III	凝灰岩	101.1	81.6	63.7	666.9	2 D		1・1・0 ア
117	G 5	III	凝灰岩	111.3	97.0	69.9	1,011.4	2 B		ザラつく磨痕
118	G 5	III	凝灰岩	104.52	94.0	59.3	749.7	2 B		2・1・0 ウ
119	G 5	III	凝灰岩	110.3	94.7	53.3	666.6	2 B		ザラつく磨痕
120	G 5	III	凝灰岩	150.4	87.3	53.5	1,017.7	2 D	60-138	2・1・0 ア
121	G 6	III	凝灰岩	108.6	95.0	54.7	598.6	2 B		1・2・2 ア
122	G 6	III	凝灰岩	118.9	96.4	54.6	814.3	2 D		1・0・0 ア
123	G 7	III	凝灰岩	127.3	89.5	44.1	696.4	2 C		ザラつく磨痕
124	H 3	III	凝灰岩	108.6	89.2	55.9	741.3	2 B		2・2・0 ア
125	H 4	III	凝灰岩	120.7	92.8	71.6	996.6	2 B		ザラつく磨痕
126	H 4	III	凝灰岩	94.5	69.3	30.5	218.4	2 D		ザラつく磨痕
127	H 4	III	凝灰岩	112.9	(82.7)	52.5	(541.0)	2 D		ザラつく磨痕
128	H 4	III	凝灰岩	69.6	51.8	33.2	154.5	2 B	60-142	ザラつく磨痕
129	H 4	III	凝灰岩	99.8	77.4	44.5	368.8	2 B		ザラつく磨痕
130	H 4	III	凝灰岩	115.8	80.5	50.8	603.2	2 B		ザラつく磨痕
131	H 4	III	凝灰岩	174.0	100.9	57.4	1,550.0	2 B	60-141	ザラつく磨痕
132	H 4	III	凝灰岩	117.2	77.5	51.1	585.2	2 B		ザラつく磨痕ウ
133	H 4	III	凝灰岩	119.5	78.9	36.9	412.5	2 B	60-139	3・2・0 アウ

134	H 4	III	凝灰岩	135.2	86.4	64.2	1,193.2	2 D		2・2・0 ウ
135	H 4	III	凝灰岩	105.8	61.0	43.8	299.7	2 B		ザラつく磨痕
136	H 4	III	凝灰岩	99.3	70.8	26.1	232.4	2 C		1・1・0 イ
137	H 4	III	凝灰岩	102.6	77.9	57.6	616.2	2 B		1・0・0 ウ
138	H 4	III	凝灰岩	123.0	( 66.8)	49.6	( 501.4)	2 B		2・1・0 ウ
139	H 4	III	凝灰岩	86.2	59.9	54.5	274.2	2 B		1・1・2 ア
140	H 4	III	凝灰岩	81.9	59.2	34.3	210.1	2 B		1・0・0 ア
141	H 4	III	凝灰岩	96.3	79.5	46.3	459.0	2 B		2・2・0 アイ
142	H 4	III	凝灰岩	186.0	163.0	71.8	2,450.0	2 B	60-140	ザラつく磨痕
143	H 5	III	凝灰岩	(123.3)	( 68.9)	(37.7)	( 358.4)	2 B		2・2・0 ア
144	H 5	III	凝灰岩	88.4	73.3	37.6	314.3	2 B		ザラつく磨痕
145	H 5	III	凝灰岩	95.8	65.7	29.6	235.8	2 B		1・2・0 イ
146	H 5	III	凝灰岩	60.1	75.8	39.3	207.3	2 B		1・0・0 ア
147	H 5	III	凝灰岩	169.0	89.1	55.6	1,100.8	2 D		2・1・0 ウ
148	H 5	III	凝灰岩	97.7	86.5	56.0	499.1	2 B		ザラつく磨痕
149	H 5	III	凝灰岩	( 88.8)	72.5	46.6	( 357.5)	2 B		1・1・0 ア
150	H 5	III	凝灰岩	79.8	62.6	45.6	260.3	2 B		1・2・0 ア
151	H 5	III	凝灰岩	(133.5)	74.7	45.1	( 533.3)	2 B		ザラつく磨痕
152	H 5	III	凝灰岩	104.5	( 67.2)	65.8	( 588.6)	2 B		ザラつく磨痕
153	H 5	III	凝灰岩	( 62.5)	47.1	37.8	( 123.1)	2 B		ザラつく磨痕
154	H 5	III	凝灰岩	( 99.7)	74.4	52.5	( 513.1)	2 B		2・2・0 アウ
155	H 5	III	凝灰岩	93.6	72.8	31.6	225.5	2 C	60-143	1・2・0 イ
156	H 5	III	凝灰岩	103.5	72.4	37.2	314.9	2 B		ザラつく磨痕
157	H 5	III	凝灰岩	(110.2)	62.1	54.6	( 377.2)	2 B		3・2・0 ア
158	H 5	II	凝灰岩	111.5	78.0	57.9	598.8	2 B		2・2・0 ウ
159	H 5	III	凝灰岩	122.3	96.2	64.8	892.3	2 B		ザラつく磨痕
160	H 5	III	凝灰岩	122.5	110.9	56.3	939.6	2 B		ザラつく磨痕
161	I 4	III	凝灰岩	97.7	85.5	51.7	489.9	2 B		ザラつく磨痕
162	I 4	III	凝灰岩	67.8	55.3	34.9	152.8	2 B		ザラつく磨痕
163	D 4	III	凝灰岩	112.8	61.5	40.3	375.4	4	59-122	長軸一端に敲打痕
164	G 3	V	凝灰岩	98.5	87.1	45.2	486.7	2 B	60-144	ザラつく磨痕
165	G 3	V	凝灰岩	130.3	(108.4)	75.8	(1,250.0)	2 B		ザラつく磨痕
166	G 3	V	凝灰岩	124.5	60.2	46.7	487.4	4		長軸一端に敲打痕
167	G 3	V	流紋岩	( 92.7)	75.2	54.5	( 568.7)	4		長軸一端に敲打痕
168	G 3	V	凝灰岩	134.5	67.1	57.7	571.8	4		長軸一端に敲打痕
169	G 4	V	凝灰岩	99.6	( 74.8)	45.5	( 431.7)	2 B	60-145	1・1・0 ア
170	I 4	V	凝灰岩	(118.6)	74.2	64.4	( 649.2)	2 B		ザラつく磨痕
171	F 4	—	凝灰岩	84.8	68.4	55.6	354.3	2 B		ザラつく磨痕
172	表採	—	凝灰岩	(105.8)	87.0	51.1	( 616.0)	2 B		ザラつく磨痕
173	SB 1	III	凝灰岩	101.5	63.1	61.6	519.9	2 A	50-14	ザラつく磨痕
174	SB 1	III	凝灰岩	( 70.8)	97.9	50.3	( 415.0)	2 B		ザラつく磨痕
175	SB 1	III	凝灰岩	208.0	128.0	79.0	2,400.0	2 B	50-15	ザラつく磨痕
176	SB 1	IV	凝灰岩	91.2	66.8	40.3	321.1	2 C		長軸一端に敲打痕

## 石皿

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号	備考
1	G 5	II	凝灰岩	206.0	181.0	66.0	3,350.0	61-146	
2	H 4	III	凝灰岩	(238.0)	215.0	83.0	(4,550.0)	61-147	
3	H 5	III	凝灰岩	228.0	191.0	90.0	5,000.0	61-148	
4	G 3	V	凝灰岩	395.0	261.0	122.0	(15,300.0)	61-149	

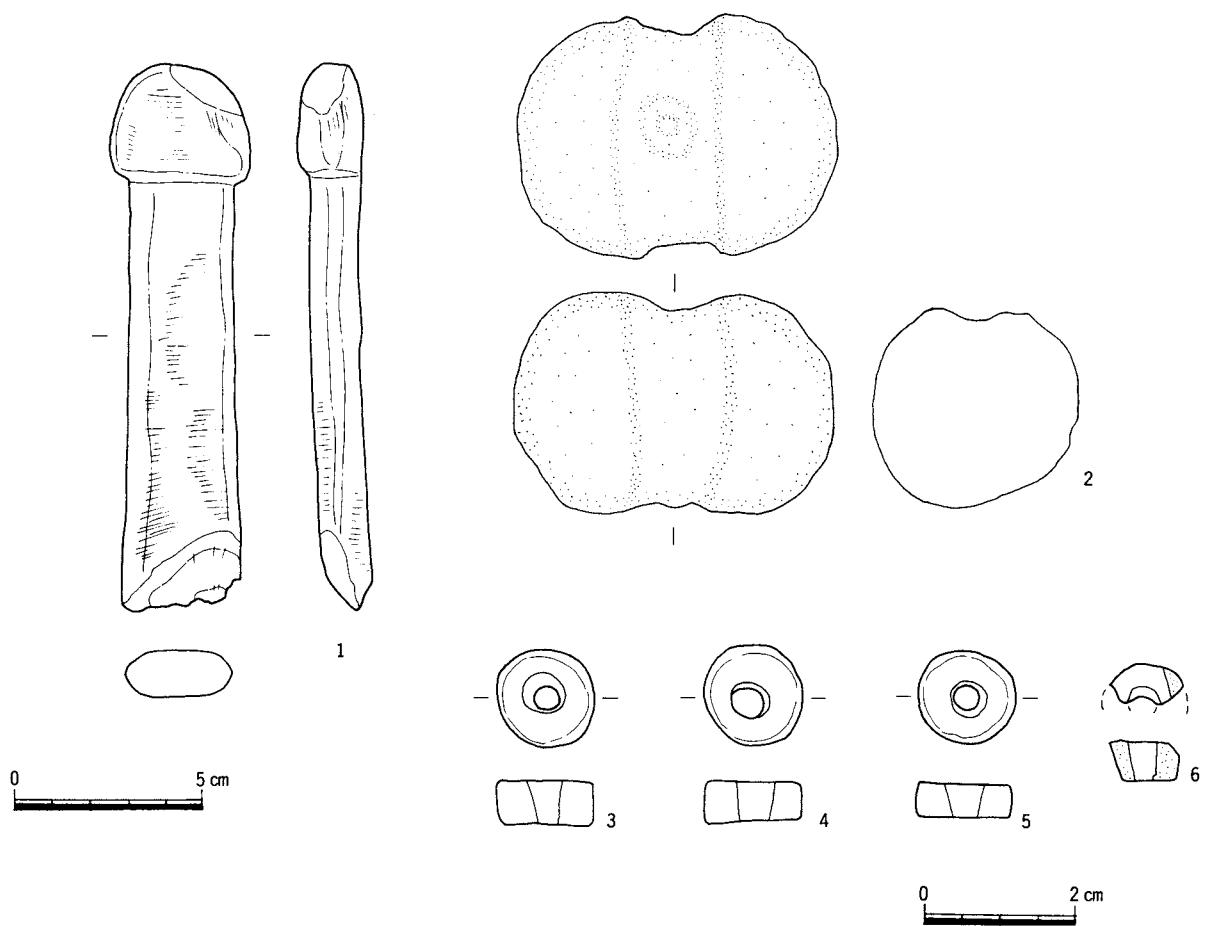
## 4 石製品

石製品としては、石剣1点、独鉛石1点、玉4点である。

石剣は、D5区で出土した。縄文晩期後半の土器がまとまって出土した地点で、土器の出土層よりやや下層である。身は真直で先が欠損している。長さは14.4cmである。柄頭部は幅3.7cm、厚さ1.8cmで、柄部は幅2.8cm、厚さ1.4cmである。擦痕が全面に見られる。石材は粘板岩製である。

独鉛石は凝灰岩製で、形態は、中央部に隆起がなく、両頭部が半球状をなすI—3型である（鈴木1981）。

玉はF6・F7区で4個出土しているが、1個は欠損していて3分の1ほどである。いずれも滑石製で、外径13mm、厚さ4～6mmで、直径5mmから3mmの孔が片面穿孔されている。出土状況、形態等から見て、4個は関連性の高いものであろう。



第62図 A地点出土の石製品

## 5 土製品

縄文時代の土製品は、土偶および土製円盤が出土している。いずれも時期の明確な遺構にともなうものはない。形態からみてそれぞれ晚期、中期の時期が考えられる。

### 土偶（第63図1～3、図版18）

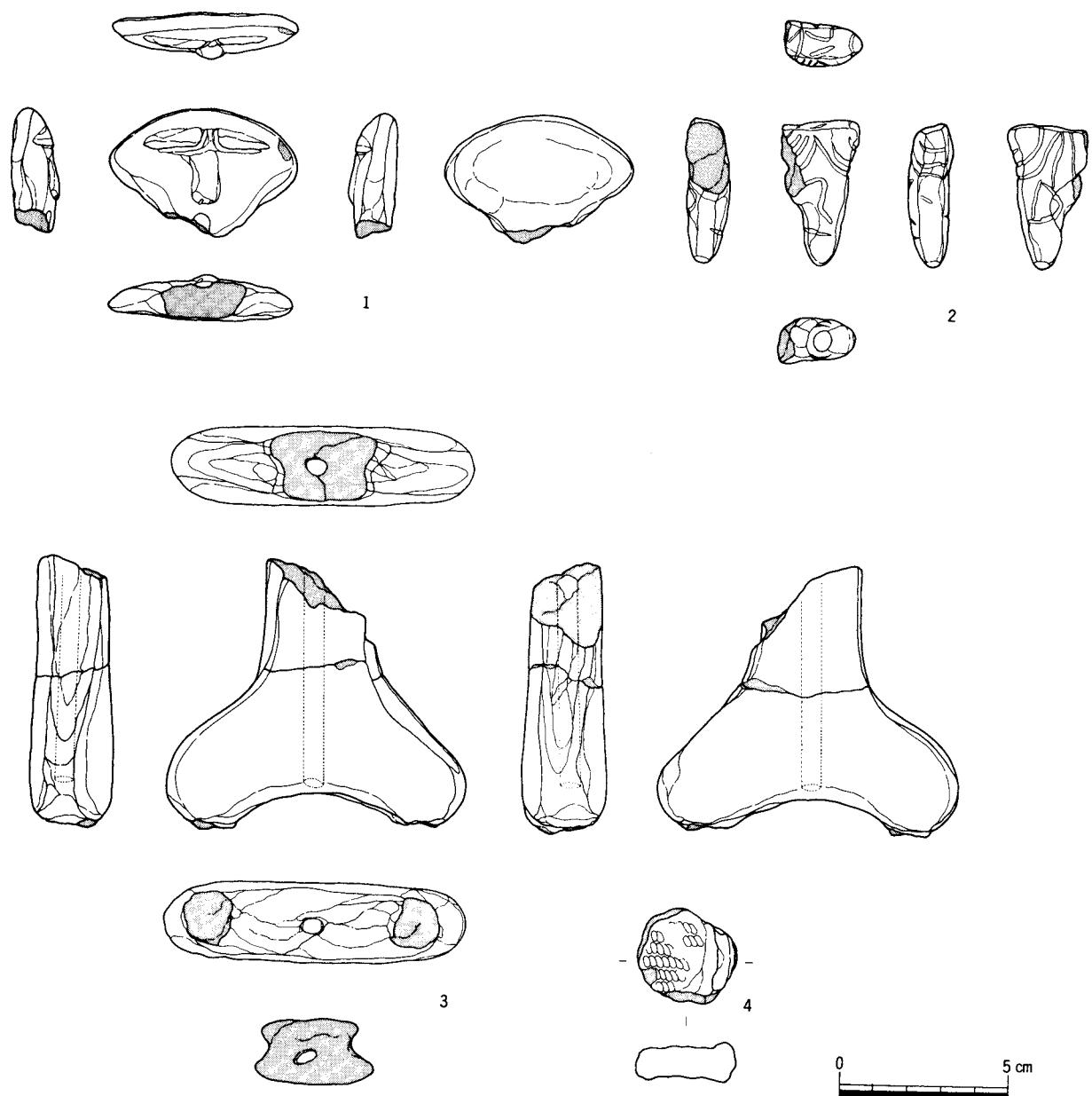
1はピット（P19）を掘削中に、ピットの壁面よりやや奥に入り込んだ状態で出土しており、もともとは包含層に含まれていた可能性がある。ピットからは時期を確定できる資料は出土していない。また同一グリッド（F7）内で、胎土等の観察からこれと同一個体とみられる土偶腕部片（2）が出土している。にぶい黄橙色を呈し、胎土にごく細かい植物纖維を含む。頭部は逆三角に近い横長の楕円形である。口は浅い凹で表される。目は当初一文字に貼付されていたらしい横位の隆帯を切る形で、L字状の沈線で表されている。横位の隆帯は眉を強調したものと思われるが、眉間の粘土の盛り上がりは、沈線をはさんで両側のそれに比べて低くなっている。製作上ひとつづきの粘土紐を貼付しているが、意図的に左右の眉を独立して表出せしめんとしている。鼻はさほど高さがなく、稜も曖昧でのっぺりしている。この部分の粘土は、眉の部分のそれに先んじて貼付されている様子が観察できる。後頭部の左右の端よりに指で軽く押されたようなへこみが認められる他、その部分を通って楕円形に浅くヒビが一周している。頸部の破損面では観察できないが、頭部の製作方法を示すものかもしれない。

2は土偶の左肩から胸の部分に相当する破片である。1の土偶と同一個体と考えられるが、接合はない。やや突出した感のある肩部が特徴的であり、これを巡るように沈線がひかれている。背面の沈線は表のものに比べて浅い傾向にあり、厳格な規則性を欠くが表裏の相関性を意識した構成を有する。

3は体内に貫通孔を有する土偶の胴部以下の部分であり、2つの破片からなる。これらはほぼ同じ高さで約3～4cm離れた地点から出土している。脚部の先端を欠くが、1～2cmくらいの短い足がつくりと推測される。黄灰色を呈し、無文である。焼成は良好。全体に丁寧な整形がなされているが、左右側面および股間の溝状の浅い凹には、ヘラ状の工具を用いて成形がなされた痕が認められる。貫通孔は直径0.5cm程の円形で、孔内の擦痕の観察より股間から上にむかって穿孔されたことが判る。孔内には赤色顔料が付着しており、元は孔全面に塗朱されていたのではないかと思われる。現時点ではこれ以外に赤色顔料の残留は確認できなかった。孔はちょうど胴が括れるあたりで横につぶれた形になっている。前後を軽く押すなどした最終的な整形によるものかとも考えられる。このことは少なくとも焼成時に於いて、土偶の体内に棒状工具あるいは木芯は残っていなかったことを示し、孔内に赤色顔料が付着していることと合わせて、この貫通孔はより精神的、象徴的な意味を持つと思われる。

### 土製円盤（第63図4、図版18）

1点出土している。直径3cm程で、周辺に研磨された箇所が認められるが、全体に不整形である。利用されている土器片は中期のものと考えられる。隆帯が貼付され、RLの縄文が施文されている。



第63図 A地点出土の土製品

## 第5節 自然科学的分析

A地点においては、自然科学的分析として、水さらし場遺構の底部により出土したクルミによる年代測定と、水さらし場遺構内の堆積物および周辺の4か所の花粉分析と、同じく遺構内の大型植物遺体の同定、さらに昆虫遺体の検出を行った。以下、(株)パレオ・ラボに委託した年代測定と自然科学的分析の結果および昆虫遺体について記述する。

### 放射性炭素年代測定

#### 1. 放射性炭素年代測定について

試料は、酸・アルカリ処理を施して不純物を取り除き、炭化リチウム（カーバイド）の生成後、加水分解によりアセチレンを生成した。

測定は、約一ヶ月放置した後、精製したアセチレンを比例計数管(400cc)を用いて、 $\beta$ -線を計数して年代値を算出した。その結果は下記に示す。

なお、年代値の算出には $^{14}\text{C}$ の半減期として Libby の半減期5570年を使用した。また、付記した年代誤差は、計数値の標準偏差 $\sigma$ に基づいて算出し、標準偏差 (One sigma) に相当する年代である。

暦年代の補正は、CALIB3.0(Stuiver and Reimer, 1993:IBM-PC用:Reference(Pearson and Stuiver, 1993))を使用した。

#### 2. 放射性炭素年代測定結果

測定No.	試 料	$^{14}\text{C}$ 年代値 (1950年よりの年数)	暦 年 代 ( $1\sigma$ )
PLD-108	オニグルミ殻片 (A地点水さらし場)	2,730±90 yrBP (BC 780年)	BC 840年 BC 980-970 BC 940-810

### 〈引用文献〉

Stuiver, M. and Reimer, P.J. (1993) Extended $^{14}\text{C}$  database and revised CALIB3.0  $^{14}\text{C}$  Age Calibration Program.

山形 秀樹 (パレオ・ラボ)

## カクシクレ遺跡（A地点）の自然科学分析

新山雅広（パレオ・ラボ）

### 1. はじめに

カクシクレ遺跡は丹生川村折敷地に所在し、荒城川左岸の段丘上に立地する。本遺跡は、A、B、Cの3地点で発掘調査が行われ、A地点では縄文時代中期の竪穴住居跡や出土遺物から縄文時代晩期と推定される（放射性炭素年代測定では $2,730 \pm 90$ yrBPの年代が得られている）水さらし場遺構が検出されている。今回は、水さらし場遺構内の堆積物などを用いて花粉化石群集および大型植物化石群集の検討を行い、遺跡周辺の古植生復元を試みた。

### 2. 花粉化石

#### a. 試料と方法

花粉化石群集の検討を行った試料は、試料1～4の計4試料である。各試料を採取した地点は次の通りである。試料1は水さらし場遺構内堆積物、試料2はオニグルミが集中して多量に出土した地点（クルミ集中地点、F4区）の覆土、試料3は水さらし場遺構下流部（F4区）の木材遺体直上の覆土、試料4はその木材遺体の直下の堆積物。

花粉化石の抽出は、試料約2gを10%水酸化カリウム処理（湯煎約15分）による粒子分離、傾斜法による粗粒砂除去、フッ化水素酸処理（約30分）による珪酸塩鉱物などの溶解、アセトトリシス処理（氷酢酸による脱水、濃硫酸1に対して無水酢酸9の混液で湯煎約5分）の順に物理・化学的処理を施すことにより行った。なお、フッ化水素酸処理後、重液分離（臭化亜鉛を比重2.15に調整）による有機物の濃集を行った。プレパラート作成は、残渣を蒸留水で適量に希釈し、十分に攪拌した後マイクロピペットで取り、グリセリンで封入した。検鏡は、プレパラート全面を走査し、花粉化石の産出個数が十分な試料については樹木花粉総数が200個以上になるまで同定・計数した（試料1、2についてはプレパラート2枚分について同定・計数した）。その計数結果をもとにして樹木花粉総数が100個以上の試料については、各分類群の出現率を樹木花粉は樹木花粉総数を基数とし、草本花粉・シダ植物胞子は花粉・胞子総数を基数として百分率で算出した。ただし、クワ科は草本と樹木のいずれをも含む分類群であるが、区別が困難なため、ここでは便宜的に草本花粉に含めた。なお、複数の分類群をハイフンで結んだものは分類群間の区別が困難なものである。

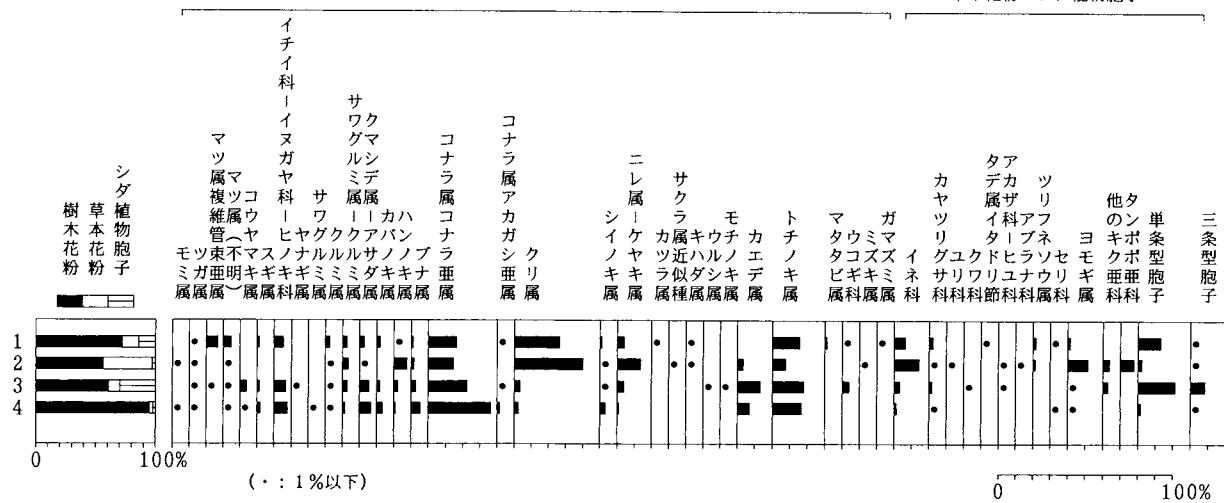
#### b. 結果

##### [水さらし場遺構内堆積物（試料1）の花粉化石群集]

同定された分類群数は樹木花粉22、草本花粉6、形態分類で示したシダ植物胞子2である。樹木花粉の占める割合は約76%と高率である。その中でクリ属が約27%で最も高率を占め、次いでコナラ属コナラ亜属、トチノキ属が約16%で出現する。他に、マツ属複維管束亜属（約7%）、イチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科（約5%）、ニレ属—ケヤキ属（約4%）などが比較的目立った出現をし、カツラ属、キハダ属、マタタビ属、ウコギ科、ガマズミ属などが低率で出現する。草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科、タデ属、ツリフネソウ属、セリ科、ヨモギ属が低率で出現する。単条型胞子は約13%とやや目立った出現をする。

第5表 花粉化石一覧表

和名	学名	1	2	3	4
樹木					
モミ属	<i>Abies</i>	-	1	-	1
ツガ属	<i>Tsuga</i>	1	1	2	1
マツ属複管束亞属	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxyylon</i>	10	-	1	-
マツ属(不明)	<i>Pinus</i> (Unknown)	7	1	2	1
コウヤマキ属	<i>Sciadopitys</i>	-	-	8	2
スギ属	<i>Cryptomeria</i>	2	-	3	5
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	T.- C.	8	-	14	20
ヤナギ属	<i>Salix</i>	-	-	1	-
サワグルミ属	<i>Pterocarya</i>	-	-	-	2
クルミ属	<i>Juglans</i>	4	1	1	1
サワグルミ属-クルミ属	<i>Pterocarya-Juglans</i>	4	4	6	4
クマシデ属-アサダ属	<i>Carpinus - Ostrya</i>	4	1	11	17
カバノキ属	<i>Betula</i>	3	-	4	9
ハシノキ属	<i>Alnus</i>	1	9	5	3
ブナ属	<i>Fagus</i>	2	2	6	14
コナラ属コナラ亜属	<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	24	17	46	93
コナラ属アカガシ亜属	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	1	-	1	4
クリ属	<i>Castanea</i>	39	47	7	7
シイノキ属	<i>Castanopsis</i>	2	1	2	8
ニレ属-ケヤキ属	<i>Ulmus - Zelkova</i>	6	16	8	3
カツラ属	<i>Cercidiphyllum</i>	1	-	-	-
サクラ属近似種	cf. <i>Prunus</i>	-	1	-	-
キハダ属	<i>Phellodendron</i>	1	1	-	-
ウルシ属	<i>Rhus</i>	-	-	2	-
モチノキ属	<i>Ilex</i>	-	-	1	-
カエデ属	<i>Acer</i>	-	4	27	18
トチノキ属	<i>Aesculus</i>	23	9	37	43
マタタビ属	<i>Actinidia</i>	2	-	-	-
ウコギ科	<i>Araliaceae</i>	1	-	8	-
ミズキ属	<i>Cornus</i>	-	1	-	-
ガマズミ属	<i>Viburnum</i>	1	-	-	-
草本					
イネ科	<i>Gramineae</i>	13	30	11	4
カヤツリグサ科	<i>Cyperaceae</i>	5	1	6	1
ユリ科	<i>Liliaceae</i>	-	1	-	-
クワ科	<i>Moraceae</i>	-	-	1	-
タデ属イタドリ節	<i>Polygonum</i> sect. <i>Reynoutria</i>	1	-	-	-
アカザ科-ヒュウ科	<i>Chenopodiaceae - Amaranthaceae</i>	-	1	1	-
アブラナ科	<i>Cruciferae</i>	-	1	-	-
ツリフネソウ属	<i>Impatiens</i>	4	3	-	-
セリ科	<i>Umbelliferae</i>	2	-	-	1
ヨモギ属	<i>Artemisia</i>	3	24	3	2
他のキク亜科	other <i>Tubuliflorae</i>	-	8	10	-
タンボボ亜科	<i>Liguliflorae</i>	-	16	-	-
シダ植物					
单条型胞子	Monolete spore	27	5	71	5
三条型胞子	Trilete spore	2	1	28	1
樹木花粉	Arboreal pollen	147	117	203	256
草本花粉	Nonarboreal pollen	28	85	32	8
シダ植物胞子	Spores	29	6	99	6
花粉・胞子总数	Total Pollen & Spores	204	208	334	270
不明花粉	Unknown pollen	13	12	21	5



第64図 花粉化石分布図

1: 水さらし場遺構内堆積物 2: オニグルミ集中出土地点覆土  
3: 下流部木材遺体直上覆土 4: 下流部木材遺体直下堆積物

#### [オニグルミ集中出土地点覆土（試料2）の花粉化石群集]

同定された分類群数は樹木花粉17、草本花粉9である。樹木花粉の占める割合は約56%である。その中でクリ属が約40%と最も高率を占め、次いでコナラ属コナラ亜属が約15%、ニレ属一ケヤキ属が約14%で出現する。他に、ハンノキ属、トチノキ属が約8%と比較的目立った出現をし、サクラ属近似種、ミズキ属などが1%未満の低率で出現する。草本花粉では、イネ科(約15%)、ヨモギ属(約12%)、タンポポ亜科(約8%)がやや目立った出現をし、ユリ科、アブラナ科などが1%未満の低率で出現する。

#### [下流部木材遺体直上覆土（試料3）の花粉化石群集]

同定された分類群数は樹木花粉23、草本花粉6、形態分類で示したシダ植物胞子2である。樹木花粉の占める割合は約61%である。その中でコナラ属コナラ亜属が約27%と最も高率を占め、次いでトチノキ属(約18%)、カエデ属(約13%)が出現する。他に、イチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科(約7%)、クマシデ属—アサダ属(約5%)が比較的目立った出現をする。草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科、クワ科、アカザ科—ヒュ科、ヨモギ属、他のキク亜科が低率で出現する。シダ植物胞子は約30%と比較的高率である。

#### [下流部木材遺体直下堆積物（試料4）の花粉化石群集]

同定された分類群数は樹木花粉20、草本花粉4、形態分類で示したシダ植物胞子2である。樹木花粉の占める割合は、約95%と高率である。その中でコナラ属コナラ亜属が約36%で最も高率を占める。次いでトチノキ属が約17%で出現する。他に、スギ属(約8%)、カエデ属(約7%)、クマシデ属—アサダ属(約7%)、ブナ属(約5%)などが目立った出現をする。草本花粉では、イネ科、カヤツリグサ科、セリ科、ヨモギ属が低率で出現する。

### C. 考察

縄文時代晚期の遺跡周辺には、落葉広葉樹のコナラ属コナラ亜属、クリ属を主とした森林が成立していたものと思われる。他に、クマシデ属—アサグ属(大型植物化石ではサワシバが出土)、カバノキ属、ニレ属—ケヤキ属などの落葉広葉樹や針葉樹のイチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科なども混じっていた。サワグルミ属—クルミ属、ハンノキ属(大型植物化石ではハンノキ属ヤシャブシ亜属が出土)、カエデ属、トチノキ属などは主として谷底から谷筋といった所に生育していたものと思われる。遺跡付近には、幾分湿った所にイネ科、カヤツリグサ科、ツリフネソウ属(大型植物化石ではツリフネソウが出土)、セリ科などが生育しており、幾分乾き気味の所にはタデ属イタドリ節、アカザ科—ヒュ科、ヨモギ属などが生育していたものと思われる。

### 3. 大型植物化石

#### a. 試料と方法

大型植物化石の検討に用いた試料は、水さらし場内堆積物試料である。大型植物化石の採集は堆積物試料約300ccを0.25mm目の篩を用いて水洗篩分けをすることにより行った。

#### b. 結果

出土した大型植物化石は、木本4分類群、草本7分類群であった。木本ではサワシバ、ハンノキ属ヤシャブシ亜属、タラノキ、ニワトコが出土し、タラノキ、ニワトコは比較的多産した。草本ではスゲ属A、スゲ属B、タデ属、ヘビイチゴ属、オランダイチゴ属、またはキジムシロ属、ツリフネソウ、シロネ属、シソ科が出土し、スゲ属B、タデ属は比較的多産した。これら出土した大型植物化石の一覧を第6表に示す。

#### C. 考察

縄文時代晚期の遺跡周辺には、サワシバ、ハンノキ属ヤシャブシ亜属(ヒメヤシャブシ、ヤシャブシなど)、タラノキ、ニワトコが生育していた。サワシバは谷沿いなどに、タラノキ、ニワトコは遺跡付近の開かれた場所に生育していたものと思われる。水さらし場遺構付近の湿った所には、ツリフネソウ、シロネ属などが生育していた。

#### d. 大型植物化石の形態記載

##### サワシバ *Carpinus cordata* Blume 果実

果実は淡褐色、やや扁平な卵形から楕円形で10~12本の縦線がある。

##### ハンノキ属ヤシャブシ亜属 *Alnus* subgen. *Alnaster* 果実

果実は扁平な両凸レンズ形で縁片は翼状となり、柱頭は2本ある。

##### タラノキ *Aralia elata* (Miq.) Seemann 核

核は褐色ないし茶褐色、側面観は半月状で上面観は扁平。背軸側にはやや明瞭な溝が2~3本ある。

##### ニワトコ *Sambucus sieboldiana* (Miq.) Blume ex Graebn. 種子

種子は黄褐色、側面観、上面観とも楕円形、表面には波状の凹凸が密にある。

##### スゲ属A *Carex* A 果実

果実は黒色で2面形、表面には網目模様がある。

##### スゲ属B *Carex* B 果実

果実は褐色で3稜形。

タデ属 *Polygonum* 果実

第6表 水さらし場遺構内堆積物から出土した大型植物化石

数字は300cc当りの個数、( )内は破片の数

分類群	部位	個数
木本		
サワシバ <i>Carpinus cordata</i> Blume	果実	1
ハンノキ属ヤシャブシ亜属 <i>Alnus</i> subgen. <i>Alnaster</i>	果実	2
タラノキ <i>Aralia elata</i> (Miq.) Seemann	核	7(3)
ニワトコ <i>Sambucus sieboldiana</i> (Miq.) Blume ex Graebn.	種子	4(1)
草本		
スゲ属A <i>Carex</i> A	果実	1
スゲ属B <i>Carex</i> B	果実	10
タデ属 <i>Polygonum</i>	果実	6
ヘビイチゴ属、オランダイチゴ属、またはキジムシロ属 <i>Duchesnea, Fragaria, and/or Potentilla</i>	核	1
イチゴ属、またはキジムシロ属		
ツリフネソウ <i>Impatiens textori</i> Miq.	種子	2
シロネ属 <i>Lycopus</i>	果実	1
シソ科 <i>Labiatae</i>	果実	2

果実は光沢のある褐色で2面の倒卵形。

ヘビイチゴ属、オランダイチゴ属、またはキジムシロ属 *Duchesnea, Fragaria, and/or Potentilla* 核  
核は淡褐色、側面観は歪んだ狭倒卵形、上面観は狭楕円形。

ツリフネソウ *Impatiens textori* Miq. 種子

種子は黒色で光沢がある。側面観は長倒卵形、上面観は楕円形。表面には不規則な不連続な網目模様がある。

シロネ属 *Lycopus* 果実

果実は淡褐色、側面観は長倒卵形、上面観は三角状広倒卵形。向軸面には三角形の大きなへそがある。果実の周囲はコルク質の最外層で覆われる。

シソ科 *Labiatae* 果実

果実は茶褐色でやや扁平な球形。下端はやや尖り、小さなへそがある。

#### 4. おわりに

縄文時代晩期の遺跡周辺には、落葉広葉樹のコナラ属コナラ亜属、クリ属を主とした森林が成立していたものと考えられ、ニレ属—ケヤキ属や針葉樹のイチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科なども混じっていた。また、谷底から谷筋などにはサワグルミ属—クルミ属、サワシバ、ハンノキ属、カエデ属、トチノキ属なども生育しており、開かれた場所には、タラノキ、ニワトコなどが生育していた。水さらし場遺構付近の湿った所には、ツリフネソウ、セリ科、シロネ属などが生育していた。

## 水さらし場遺構から出土した昆虫遺体群集について

千藤 克彦

### 1. はじめに

昆虫は、生物の中で最も多くの種類数を誇り、多様な環境に棲み分けている。昆虫の大部分は年1化ないし2化性で、世代交代が早く移動能力が高いために、環境に対する適応性が早く、環境の変化に敏感である。そのため遺跡周辺の狭い地域の古環境の復元に有効である。

カクシクレ遺跡の水さらし場遺構（縄文時代晚期）の泥炭質シルトからは、大量の植物遺体とともに、昆虫遺体が発見された。本報告では産出した昆虫化石と、それから推定される古環境について考察する。

### 2. 分析方法

分析試料は、水さらし場遺構内に堆積していた泥炭質シルトを採取し、室内においてブロック割り法によって昆虫を抽出した。抽出に用いた試料の量はおよそ60リットルである。

抽出した昆虫は実体顕微鏡下でクリーニングの後、現生標本と比較しながら同定を行った。

標本は、岐阜県文化財保護センターで保管している。

### 3. 分析結果

カクシクレ遺跡、水さらし場遺構より発見された昆虫の抽出・分析作業は未完であるが、これまでに同定した昆虫遺体（節片ないしは破片数）や筒巣は計208点であった。

産出した昆虫遺体のうち、種まで同定された昆虫や、古環境を考える上で指標となると思われる昆虫について、同定理由や生態、指標性について簡単に述べたい。なお生態や指標性は、林ほか（1984）、日浦ほか（1984）、黒沢ほか（1984）、森（1994）、谷田（1985）、上野ほか（1985）によった。

**ハグロトンボ** *Caropteryx atrata*：緑色の金属光沢があり、表面に特徴的な細かなしわがあることから本種の腹部と同定した。幼虫は渓流の抽水植物の根の部分などに棲息し、成虫は渓流の周辺で見られる。

**携巣型トビケラ**：2種検出された。1種は全体が砂粒で作られており、円筒形で、少し曲がっており、内張りらしきものがないことからヨツメトビラケ属 *Perissoneura* sp. と同定した。もう1種は、全長10mmほどで小型の翼部石を持ち、筒巣は後方に向かって狭くなっていることからコエグリトビケラ属 *Apatania* sp. と同定した。どちらも渓流や細流に棲息するトビケラである。他にもトビケラ目と思われる頭部の破片が1点出土している。

**クロマルエンマコガネ** *Onthophagus ater*：胸部と前翅がくっついた状態で検出された。前胸背板の隆起の形状や点刻の形状から本種と同定された。糞人糞、腐肉、腐敗した野菜、キノコなどにくる。

**クロアシナガコガネ** *Hoplilia moerens*：前胸背板が特徴的な多角形をしており、点刻の形状が現生標本と同一であることから本種と同定した。昼間活動性で山地の花に集まる。

**ヒメコガネ** *Anomala rufocuprea*：金属光沢を帯びた緑色をしており、前胸背板の幅は7mm弱とあまり大きくななく、点刻の形状等から本種と同定した。畑作害虫の指標性昆虫の一つである。

**クシコメツキ** *Melanotus legatus*：翅鞘の間室や翅端部の形状から本種と同定した。

ホソネクイムシ *Donacia vulgaris*：緑色の金属光沢を持ち、間室や点刻の形状から本種と同定した。水辺のガマやミクリを食草とする。

ドウガネツヤハムシ *Oomorphoides cupreatus*：青灰色で金属光沢のある翅鞘で、全長2mmと小型で点刻の形状から本種と同定された。タラノキを食草とする。

クワハムシ *Fleutiauxia armata*：翅鞘の全長が4mmほどで、翅鞘の表面が細かな網状の構造の中に大きな点刻が散在することから、本種と同定した。クワ・ヤマノイモ・コウゾなどを食草とする。

キクビアオハムシ *Agelasa nigriceps*：翅鞘の全長が6mmほどで、その形状や粗い点刻が全体にあることなどから本種と同定した。サルナシを食草とする。

ユスリカ科 Chironomidae gen sp.：幼虫の頭部が検出されており、頭部や口唇部の形状から本種と同定した。全長が0.4mmと小さく、1点しか検出されていないが、水洗選別や浮遊選別法をしていたらもっと検出点数が増えるものと思われる。ユスリカ科の幼虫は、ありとあらゆる水域に棲息している。

クロオオアリ *Camponotus japonicus*：32点頭部が検出された。全体が黒く、頭部の幅が3～4mmと大きいことや、頭部の形態からクロオオアリと同定された。クロオオアリは、開放的な草地に棲む。しかも草の密度が高いと棲息できない（山内氏教示）ことから人為度の高い環境を好む昆虫と考えられる。

そのほか、種レベルまで同定できなかったものも、第7表に示した。ただし、カワトンボ科と同定したものについては再検討が必要である。

発見された昆虫は、そのほとんどが鞘翅目(COLEOPTERA)よりなり、それ以外では、トンボ目(ODONATA 5点、トビケラ目(TRICHOPTERA) 10点、膜翅目(HYMENOPTERA) 35点、双翅目(DIPTERA) 3点であった。不明昆虫(INSECTA)としたものは、そのほとんどが薄いキチシ板で、毛を有しているものもある。これらのことからトビケラ等の水生昆虫の幼虫の胸部の背板や腹部の一部と思われるが、はっきりと確定できず、不明とした。

出現した昆虫のうち、科レベルまで同定できたものは、11科42点(20.2%)、1族5点(2.4%)。属レベルまで同定できたものは、5属10点(4.8%)、種レベル10種54点(26.0%)であった。

生息環境及び生態による分類では、生息環境・生態がわかっている試料計112点のうち、水生のものが6点(5.4%)、水際に棲息するもの9点(7.6%)、地表性53点(44.5%)、陸生のもの41点(37.0%)であった。

また、汚物集積の指標性昆虫である、コガネムシ科食糞群、双翅目团蛹、エンマムシ科は4点(3.4%)であった。

#### 4. 推定される古環境

検出された水生昆虫のうち、ヨツメトビケラ属やコエグリトビケラ属は、渓流や細流といった流水に棲息する種である。これらの種は、流水環境が存在したことを表していることから、水さらし場遺構が実際に機能していた当時に水さらし場遺構内か、その上流で棲息していたものと思われる。他のトビケラ目やユスリカ科の幼虫も、その当時のものである可能性が高い。

地表性昆虫は、クロオオアリを多産したことが特筆される。アリはしばしば地中深くまで巣を造るので、地中深くから現生個体が出土することもある。しかし今回昆虫遺体を検出した水さらし場遺構

は、埋積してから現在まで絶えず水にかん養されていたと考えられることから、現生個体の混ざりこみとは考えにくい。水さらし場遺構から検出されたクロオオアリは、体節がバラバラの状態であった。そのため、水さらし場遺構が埋没する過程で流れ込んできたものであろう。

クロオオアリや汚物集積の指標性昆虫であるエンマムシの仲間やクロマルエンマコガネ、畑作害虫の指標性昆虫であるヒメコガネが検出されていることから、水さらし場遺構周辺は、開けた人為的環境が広がったいたものと考えられる。

陸生の食植性の昆虫は、地表性昆虫に次いで多く検出された。特にハムシ科に多様な種類が出現しており、周辺にそれらが餌とするタラノキ・クワ・ヤマノイモ・コウゾ・サルナシなどの樹木や草本が存在していたと考えられる。また、クロアシナガコガネやコメツキムシ科が検出されたことから、付近に落葉広葉樹林が存在したと考えられる。

この水さらし場遺構の底の試料で行われた花粉分析では、樹木花粉が70%近くと圧倒的に多く、草本類の花粉は少ないという結果が出ている(新山1997)。しかし、昆虫遺体の分析では人為的に開けた環境を好む昆虫が出土している。両者の結果を併せて考えると、当時カクシクレ遺跡の周辺には、ブナ、ミズナラ、トチなど自然度の高い落葉広葉樹林が広がっており、そして水さらし場遺構のある周辺のあまり広くない部分に、人為度の高い開けた空間が広がっていたものと推定される。

#### 謝辞

本報告にあたり、昆虫遺体の同定や生態的知見については岐阜大学教育学部生物学教室の山内克典氏(膜翅目)、三重大学生物資源学部昆虫学教室の森勇一氏(鞘翅目)にご教示いただいた。森氏には、研究を進めるにあたって有益な助言をいただいたほか、文献の手配や現生標本も借用させていただいた。昆虫遺体の抽出については、本センター補助調査員の河村千寿氏にお世話をになった。これらの方々に厚くお礼申し上げる。

#### 〈引用文献〉

- 林 匡夫ほか (1984) 原色日本甲虫図鑑 (IV) 保育社
- 日浦 勇ほか (1984) 昆虫遺体群集による遺跡環境の復元に関する基礎的研究 古文化財に関する保存科学と人文・自然科学——総括編 同朋舎
- 黒沢 良彦ほか (1984) 野外ハンドブック12 甲虫 山と渓谷社
- 森 勇一 (1994) 昆虫化石による先史～歴史時代における古環境の変遷と復元 第四紀研究33
- 新山 雅広 (1997) カクシクレ遺跡(A地点)の自然科学分析 カクシクレ遺跡 (財)岐阜県文化財保護センター
- 谷田 一三 (1985) トビケラ目 日本産水生昆虫検索図説 東海大学出版会
- 上野 俊一ほか (1985) 原色日本甲虫図鑑 (II) 保育社

第7表 カクシクレ遺跡 水さらし場遺構出土昆虫遺体

目	種名	学名	出土部位	総点数	生態等
トンボ目	カワトンボ科 ハグロトンボ	<i>Caropterygidae</i> gen. sp. <i>Caropteryx atrata</i>	部位不明4* 腹部1	4	水際(肉食) 水際(肉食)
トビケラ目	ヨツメトリビケラ属 コエグリビケラ属 トビケラ目幼虫	<i>Perisonneura</i> sp. <i>Apatania</i> sp. <i>Trichoptera</i> gen. sp.	筒巢1 筒巢3 頭部1	1 3 1	水生(溪流・細流) 水生(溪流) 水生
鞘翅目	ツヤヒラタゴミムシ族 ヒラタゴミムシ族 ゴミムシ科 エンマムシ科 ハネカクシ科 クロマランマコガネ クロアシナガコガネ ヒメコガネ サクラコガネ属 コガネムシ科 クシコメツキ コメツキムシ科 ホソネクイハムシ ネクイハムシ属 ドウガネツヤハムシ クワハムシ キクビアオハムシ ハムシ科 オトシブミ科 ゾウムシ科 不明甲虫	<i>Synuchus</i> spp. <i>Platynim</i> gen. sp. <i>Harpalidae</i> gen. spp. <i>Histeridae</i> gen. sp. <i>Staphylinidae</i> gen. spp. <i>Onthophagus atey</i> <i>Hoplia moerens</i> <i>Anomala infocrirea</i> <i>Scarabaeidae</i> gen. spp. <i>Melanotus legatus</i> <i>Elateridae</i> gen. sp. <i>Donacia vulgaris</i> <i>Donacia</i> sp. <i>Oomorphoides cupreatus</i> <i>Fleutiauxia armata</i> <i>Agelasa nigriceps</i> <i>Chrysomelidae</i> gen. spp. <i>Attelabidae</i> gen. sp. <i>Curculionidae</i> gen. spp. <i>Coleoptera</i> gen. spp.	右鞘翅2、鞘翅1 前胸部背板5 頭部1、胸部3、前胸背板1、左鞘翅2 前胸部背板1 左鞘翅2、腹部1 胸部1 頭部1、前胸背板1、胫腿節1 鞘翅1、腿胫節1 鞘翅8、腿胫節1、部位不明2 鞘翅8、腿胫節1、前胸背板1 右鞘翅1、前胸背板1 左鞘翅2、鞘翅1 前胸部背板1 左鞘翅1 鞘翅2、右鞘翅4、左鞘翅2 右鞘翅2、左鞘翅1 鞘翅1、右鞘翅5、左鞘翅2 前胸背板1 頭部5、鞘翅1、右鞘翅1 頭部1、前胸背板2、腹部服板2、鞘翅8	3 5 7 1 3 1 1 3 2 11 1 2 3 1 1 8 3 8 1 3 13	地表性 地表性 地表性 地表性 地表性 地表性 地表性 地表性 地表性 地表性 地表性 地表性 地表性 地表性 地表性 地表性 地表性 地表性 地表性 地表性 地表性 地表性 地表性 地表性 地表性 水生(食養性) 水生(食養性)
膜翅目	クロオオアリ アリ科 膜翅目(ハチ類)	<i>Camponotus japonicus</i> <i>Formicidae</i> gen. sp. <i>Hymenoptera</i> gen. sp.	頭部32 胸部1 頭部2	32 1 2	地表性(開けた草地) 地表性
双翅目	ユスリカ科 双翅目	<i>Chironomidae</i> gen. sp. <i>Diptera</i> gen. sp. <i>Insecta</i>	頭部1 囲輪2	1 2	水生(食養性)
その他	不明昆虫		部位不明75、頭部4	79	
合計				208	

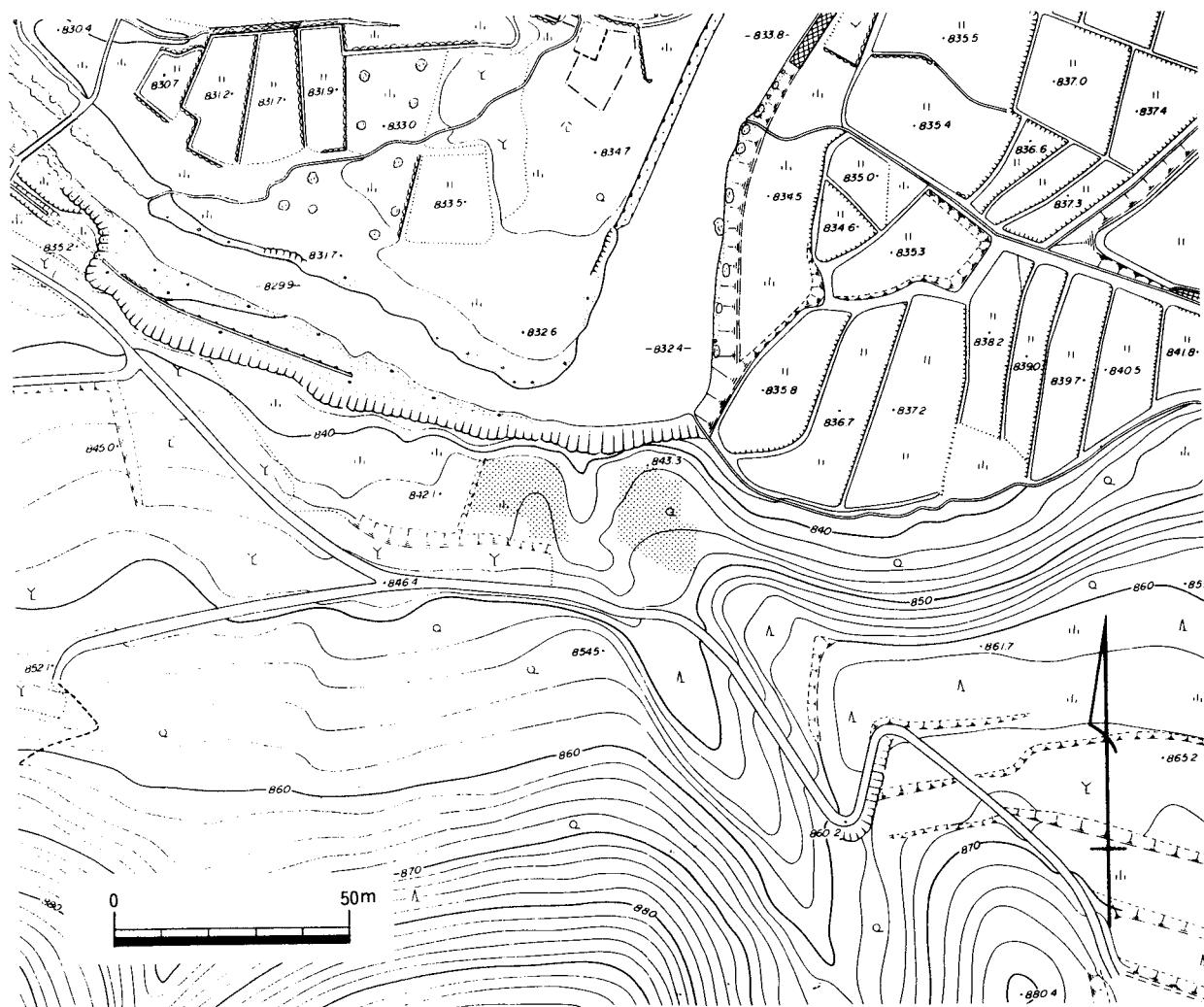
## 第4章 B 地点の調査

### 第1節 調査の概要

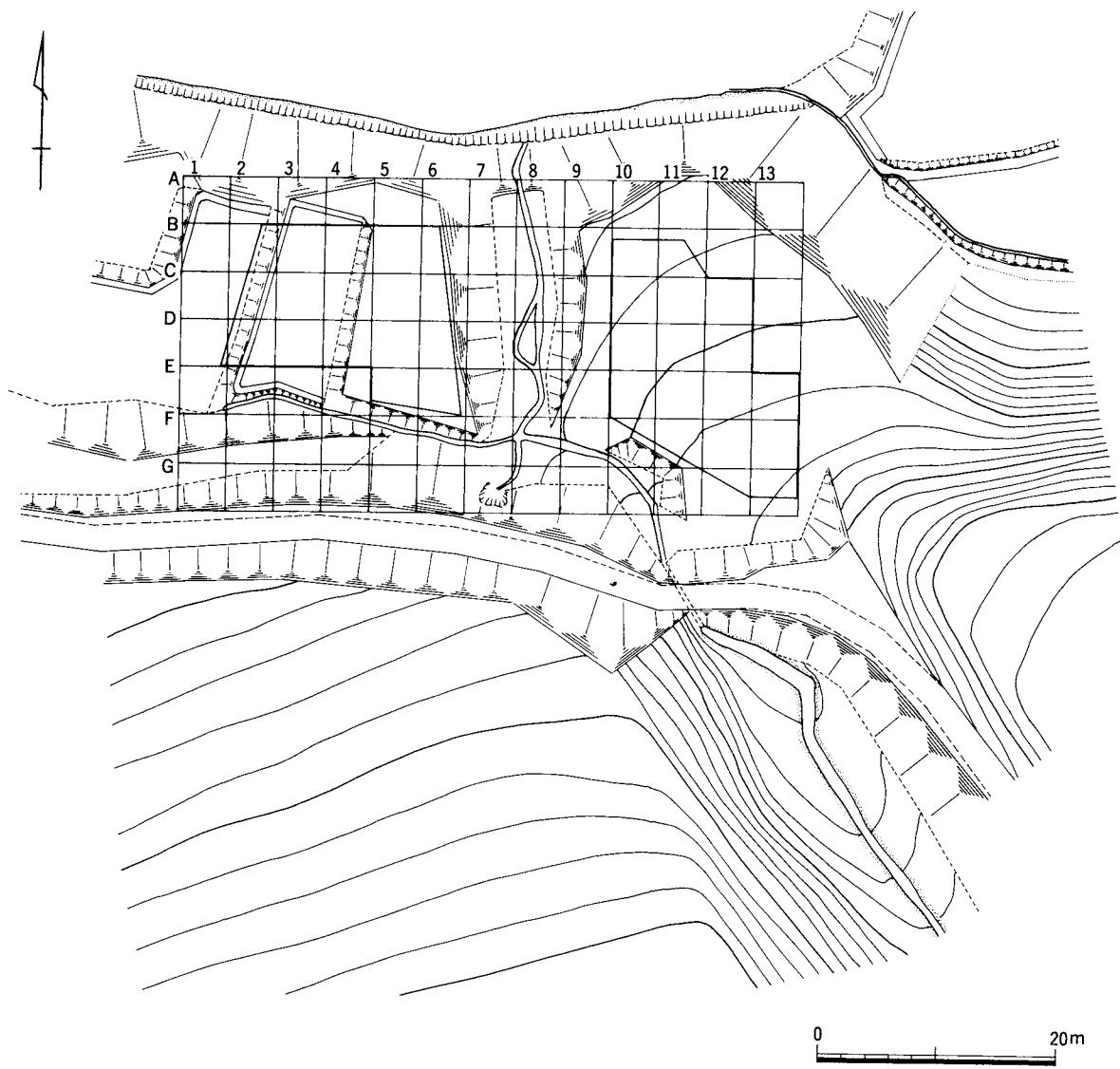
B地点は、小さな川が荒城川に合流する地点に位置する。川の東西に平坦地がわずかにあり、東側は南東から北西にかけてゆるく傾斜している。西側は、かつて畠地として利用されており造成されている。調査地点の付近は、南側の背後の山からの崩落により地形が形成されている。北側に荒城川があり、切り立った崖になっている。荒城川が曲流している所であり、旧地形は大きく削られている。遺物包含層がまだ北へ続くようであったが、危険防止のため掘削地点はやや南側に控えた所にした。

発掘調査にあたっての地区の設定は、国土座標に合わせて第66図のように、 $4 \times 4$ mの区画を設けた。A列は、国土座標第VII系のX=23674、1列は、同じくY=19064となっている。表土は重機を利用して除去した。

遺物包含層は大きく2層からなる。遺構としては、上層より、ピット1基、石組み遺構1基、下層よりピット群、黒曜石集中出土地点が検出された。遺物は縄文土器・石器など約1,600点である。



第65図 B地点周辺地形図



第66図 B地点地区設定図

## 第2節 基本的層序

川の東西で土層の状況がやや異なり複雑な堆積をしている。全体には、北側の荒城川方面に向かって傾斜しており、東側では、中央の谷に向かって傾斜した地形になっている。基本的には次の第Ⅰ層から第Ⅵ層に分けられる。第Ⅳ層と第Ⅴ層は谷の東西で様相が異なる。

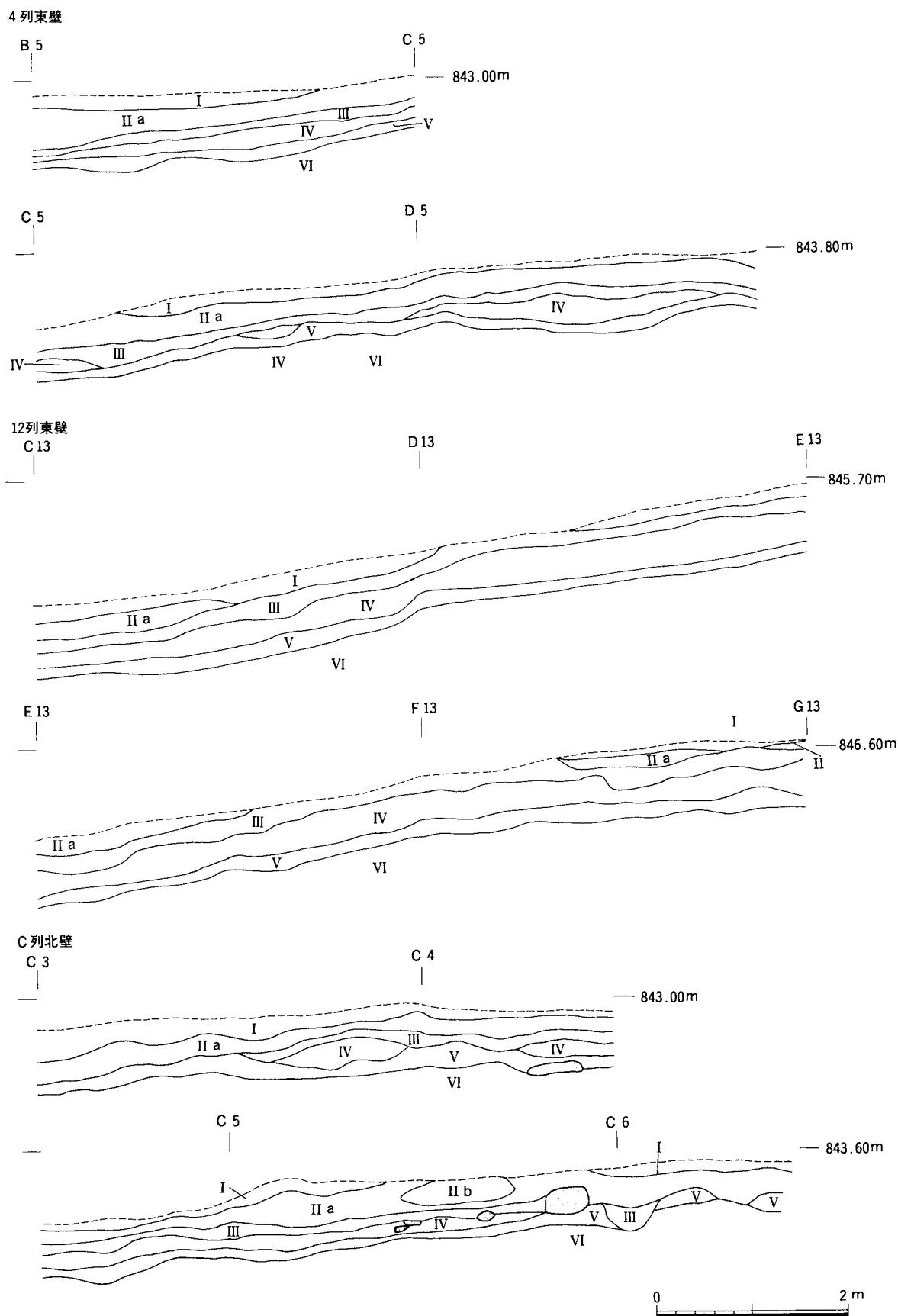
第Ⅰ層 表土は、にぶい黄褐色（10YR4/3）の砂質土でしまりがない。

第Ⅱ層 第Ⅰ層につづくこの層は地点によっては薄い所もある。

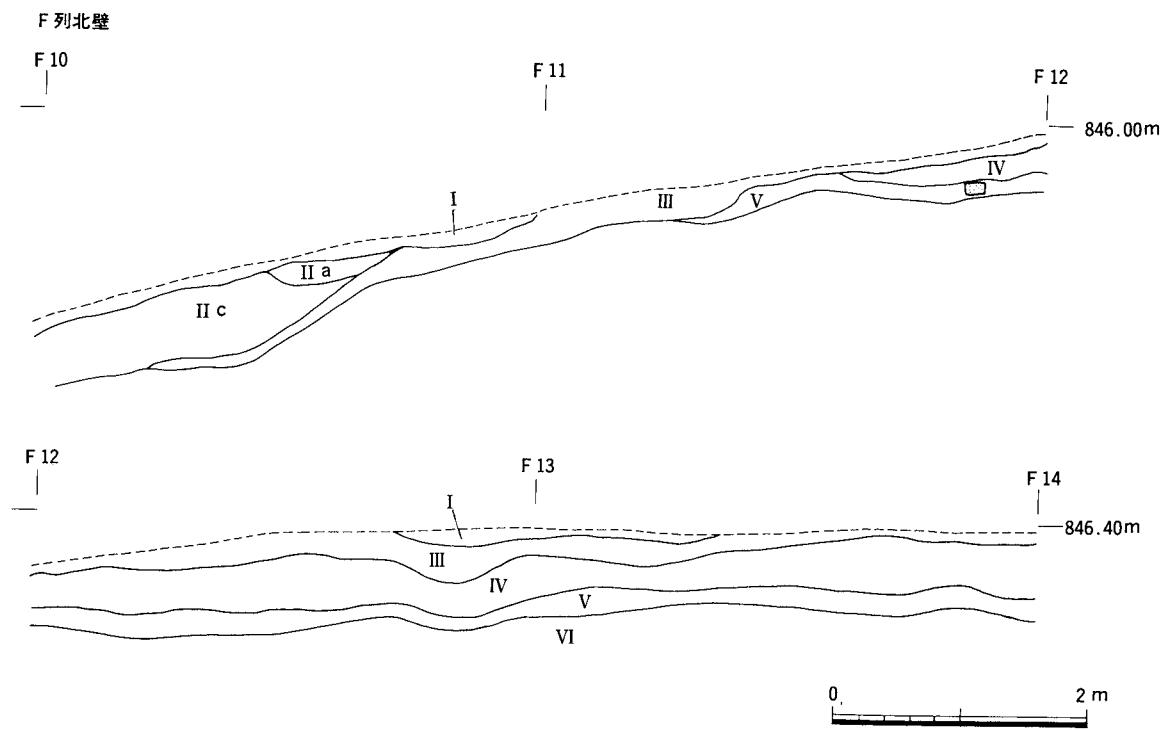
II a 暗灰黄色（2.5Y4/2）の砂質土で拳大の礫を含む。縄文土器やクルミの炭化物を含む。約10~30cmの厚さで、北の方へ行くほど厚くなっている。

II b 明黄褐色（10YR7/6）の砂質土でしまりがある。B 5 ~ C 5 区にレンズ状に貫入している。

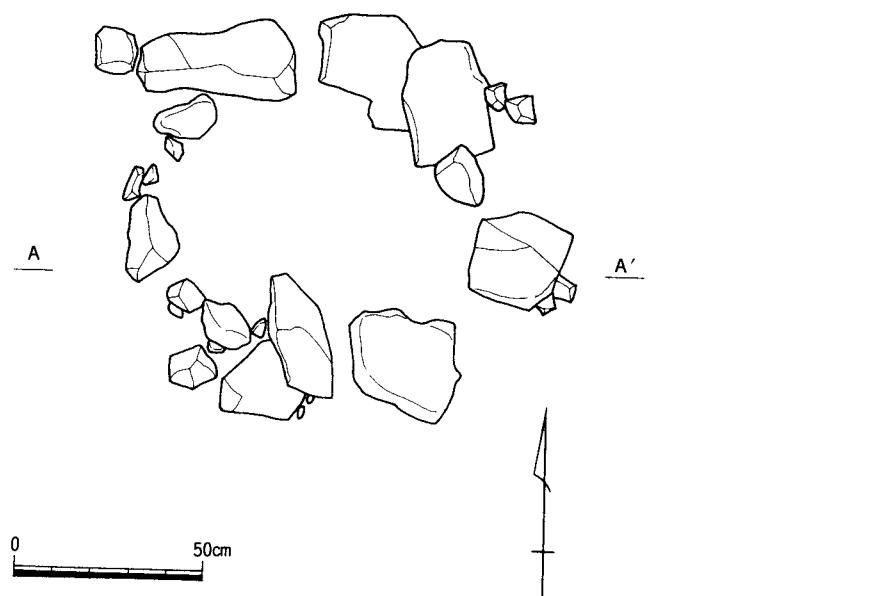
II c 崖錐で搅乱された層である。川の東側で中央の谷に向かって流れ込んでいる。



第67図 B地点土層図(1)



第68図 B地点土層図(2)



第69図 B地点石組み遺構

第III層 黒色土 (10YR2/1) で、砂質であるが粘性がややある。厚さは約10~20cmである。遺物はほとんどない。

第IV層 谷の西側は、オリーブ褐色 (2.5Y4/2) の砂質土で礫を多く含む。厚い所では約30cmあるが、西の方は薄くなっている。谷より東側では、明黄褐色 (2.5Y7/6) の砂質土で礫を多く含んでいる。約40cmの厚さの所もあるが、谷に向かうほど薄くなっている。

第V層 谷の西側は、黒褐色 (10YR2/2) の砂質土でややしまりがある。厚さ約20cm前後の層である。遺物をわずかに含む。谷より東側では、灰黄褐色 (10YR4/2) の砂質土で小礫を含む。縄文早期の遺物がわずかであるが出土する。

第VI層 黄褐色 (2.5Y5/4) の砂質土で拳大の礫を多く含んでいる。地山である。

### 第3節 遺構

遺構としては、第II層を掘削中にピットおよび石組み遺構を検出し、さらに第V層を掘削中にピット群および黒曜石チップ集中出土地点を検出した。前者を上層の遺構、後者を下層の遺構として記述する。

#### 1 上層の遺構

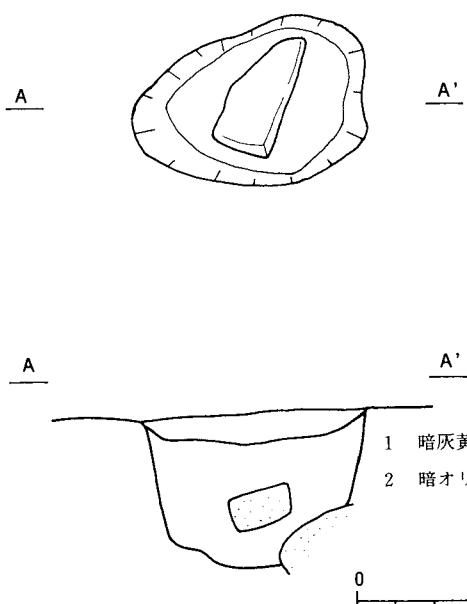
遺物包含層である第II層を掘削中に、ピットと石組み遺構を各1基検出した。

#### ピット（第70図）

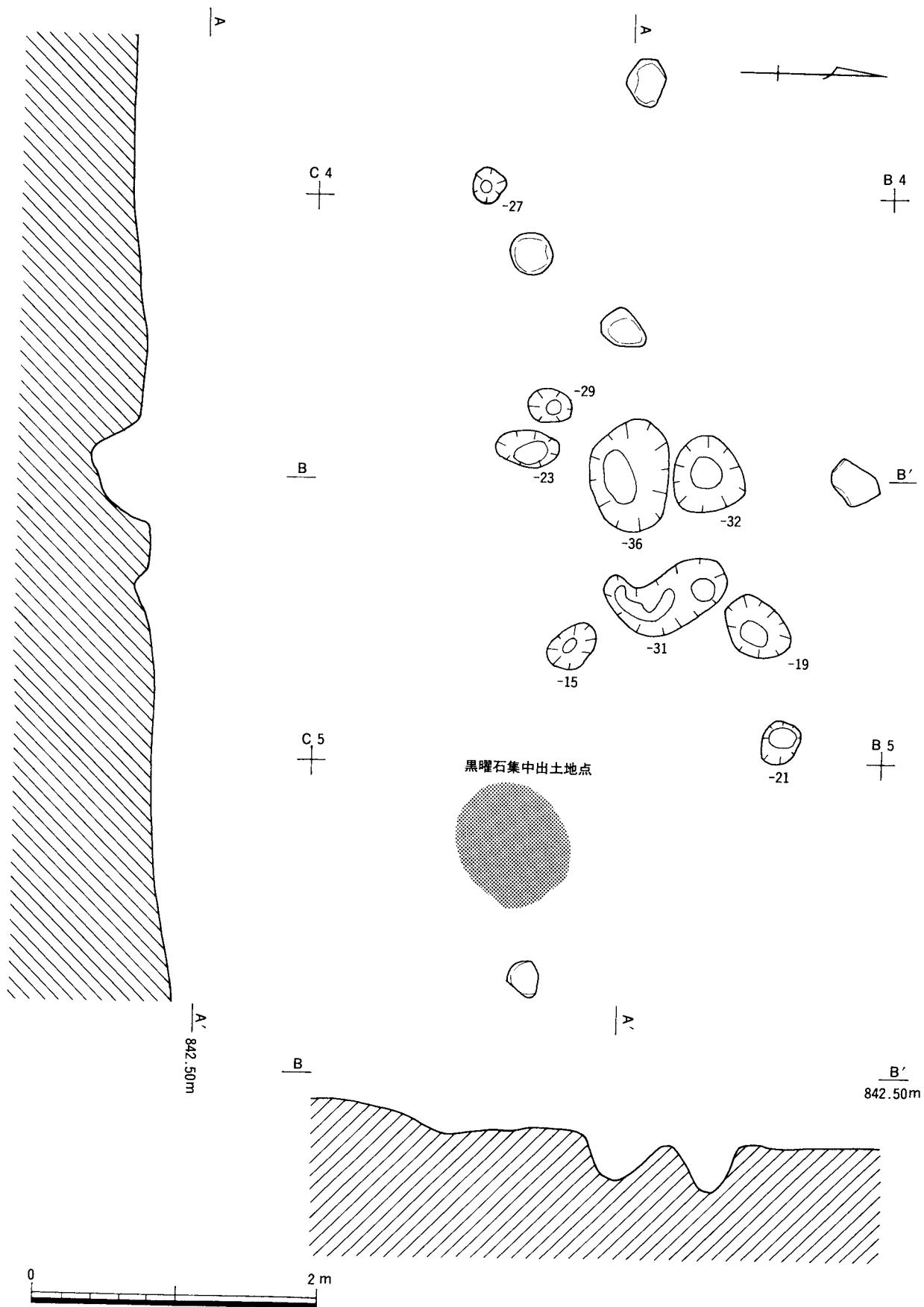
B5区の西寄りの地点で検出された。楕円形のプランで大きさは65×40cm、深さは約40cmである。覆土中に、長さ約30cm、幅約20cm、厚さ約10cmの平らな台状の石が埋まっていた。遺物としては、第72図のような土器が出土した。縄文後期中葉から後葉にかけてのものであろう。

#### 石組み遺構（第69図、図版25）

B3区で検出された。角礫を径約110cmの範囲に円形に据えるように並べてあった。石の大きさは10cm位の小さいものと、20~40cm程の大きいものの2種類からなる。炉の可能性も検討したが、焼土など



第70図 B地点ピット



第71図 B地点ピット群

はなく否定された。用途など遺構の性格は不明である。

## 2 下層の遺構

遺物包含層である第V層を掘削中に、ピット群と黒曜石集中出土地点を検出した。

### ピット群（第71図）

B 4 区にピットが9基集中して分布していた。小さいものは、径が約25cmのもので、大きいものは、80×55cmである。深さは15cmから30cm前後のものまで多様である。特に配列されているものではなく、遺構の性格は不明である。

### 黒曜石集中出土地点（第71図）

前述のピット群の東側B 5 区の西寄りの地点で、黒曜石のチップ97点が90×80cmの範囲に集中して出土した。製品は特に見当たらなかった。黒曜石製の石器類としては、D 3 区第II層より石核が1点、C 2 区第V層より石鏃が1点、B 3 区第V層より、使用痕のある剝片が1点出土している。出土地点等から見て関連性が薄く、また、見た目からも同質ではないようである。

## 第4節 遺物

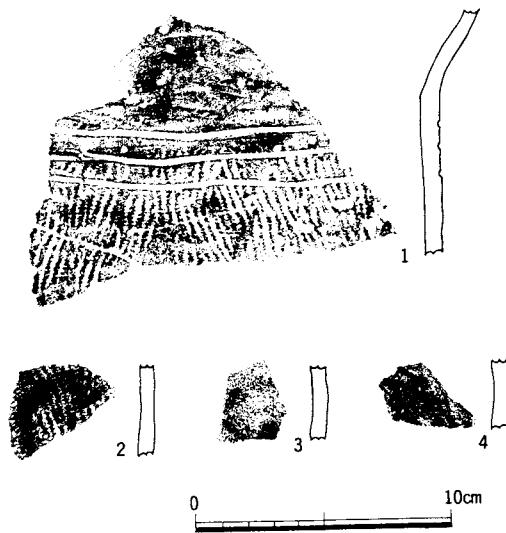
遺物点数は約1,600点でそのうち土器が約1,400点、石器類などが約200点である。また、B 5 区の第II層中より炭化したクルミがまとめて出土した。遺物のほとんどは谷の西側から出土したものである。第II層出土の遺物は、B 2 ~ B 6 区、C 3 ~ C 5 区、D 2 区に多く、遺物点数では約半数がB 5 · B 6 区で出土している。D 2 区では、第76図105のような縄文晩期の土器が出土している。第IV~V層出土の遺物は、B 2 ~ B 3 区に多く見られた。北の荒城川方面に遺跡の広がりが想定されるが、川によつて大きく削り取られていると考えられる。

### 1 縄文土器

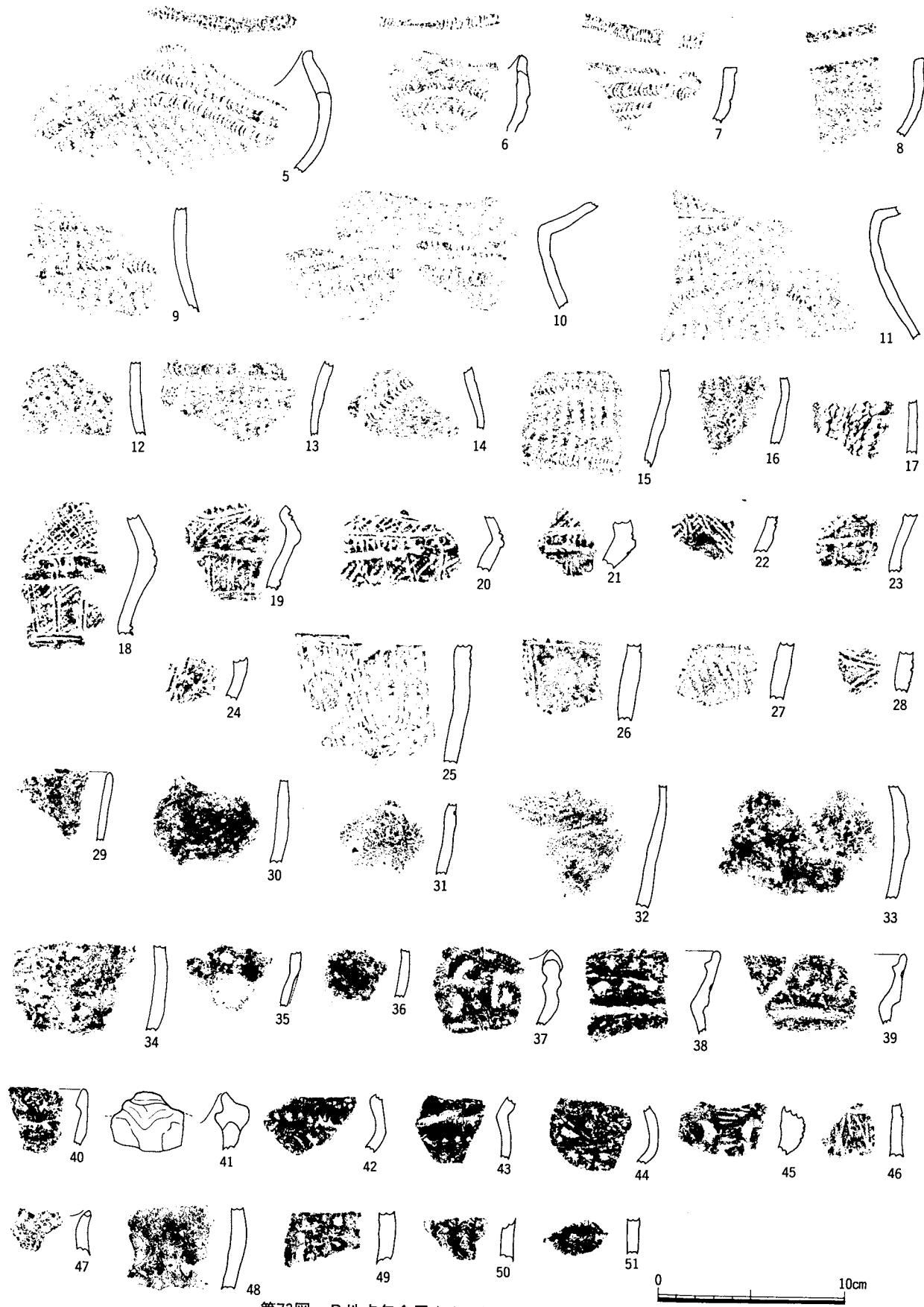
ほとんどが第II層の遺物包含層から出土したものである。第IV層から第V層にかけては約190点で、谷より西側では、中期初頭のものが比較的まとまって出土しているが、中期後葉のものも一部ある。谷より東側はほとんど遺物がないが、早期末のものが出土している。遺構出土の土器と第IV~V層出土の土器を記述した後、第II~III層出土の土器については分類して記述する。

### 遺構出土の縄文土器（第72図、図版26）

図示したのはすべてB 5 区の上層で検出したピットから出土したものである。1は頸部でやや括れてやや外反する。沈線が3本横走し、胴部に縦縄文が施される。2



第72図 B 地点遺構出土の縄文土器



第73図 B地点包含層出土の縄文土器(1)第IV～V層

はRLの縄文が施されている。3・4はいずれも無文の土器である。1の土器から見て縄文後期中葉から後葉にかけてのものであろう。

#### 第IV～V層出土の縄文土器（第73・74図、図版26）

第V層出土の土器はB2～5区に集中している。縄文中期初頭のものと考えられる。第IV層出土の土器は時期不明ながらほぼ中期前葉までのものであろう。ただし、D6区では中期後葉の土器が出土し、谷より東側のF11区では早期末の土器が出土している。

5～17はキャリパー形の器形で波状口縁を呈する。口唇部に連続爪形文が施されている。器厚は約5mmと薄手で、粗い縄文を地文とし、低い隆帯に連続爪形文が施されている。文様は、口縁に沿って2本波状に展開し、頸部にも横走する。胴部には上向きに波状に施文されている。西日本系のもので船元I式に類似する（倉敷考古館1971）。

18～24は同一個体である。口縁部は外傾し上部が立ち上がる。波状口縁を呈すると思われる。口縁部には、斜格子目の文様が施され、口唇部と括れ部には連続刺突が施されている。括れ部の下には縄文地に半截竹管による区画文が施されている。胴部は不明である。北陸の新保式に類縁性が求められる土器であろう（加藤1988）。

25～28は同一個体である。器形および口縁部は不明である。RLの縄文を地文とし、半截竹管で区画された中に下向きの弧線状の文様が施されている。

29～36はいずれも砂粒を多く含む粗い胎土で、磨耗が激しい。かすかに縄文が観察される。

第IV層から出土した土器は磨耗が激しいものが多く、時期の判定がむつかしい。37～45はB3区のIV層下部から出土した。磨耗が激しく施文の状況など判断しにくいが、外傾する口縁で内面に隆帯が施され、外面には刺突文が交互に施されおり、把手状に隆起する部位が見られる。42および45の把手部には短沈線状の文様が施されている。

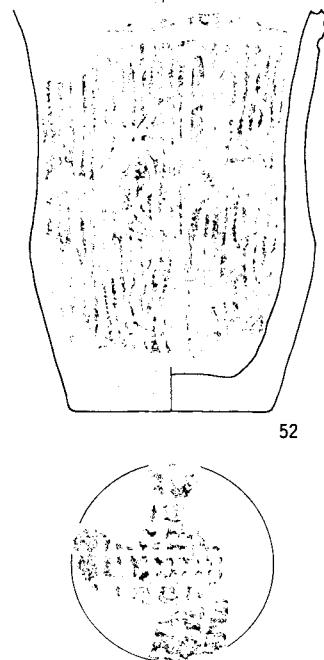
46はB5区のIV層下部から出土した。沈線が施されているが文様の展開は不明である。

52はD6区のIV層出土のものである。口縁部は不明であるが、ややくびれている。地文として縄文を縦に施し、胴部上部に2本の沈線が横走し、下部は縦に長橋円状の文様と蛇行沈線文が交互に施されている。底部の網代圧痕は1本越え1本潜り1本送りである。中期後葉のものであろう。

以上はいずれも谷より西側の地点から出土したものである。それに対して、谷より東側では、47～51がF11区で出土した。纖維を含み無文である。口縁端部に指押さえが見られる。胎土などから見て縄文早期の末葉のものであろう。

#### 第II～III層出土の縄文土器（第75～78図、図版27・28）

第II層から第III層にかけての遺物包含層出土の縄文土器は、一



第74図 B地点包含層出土の縄文土器(2)  
第IV層

括して記述する。全体的には、後期中葉から後葉にかけてのものが多く、わずかに晚期のものを含む。以下、有文土器をI群（後期の土器）、II群（晚期の土器）に分け、無文土器をIII群として、分類ごとに記述する。

#### I群 後期の土器（第75図、第76図92～104、図版27）

後期中葉から後葉にかけてのものが主体である。以下、時期および施文方法により分類して記述する。

##### 1類 後期前葉土器（第75図54、図版27）

1点のみである。口縁部が肥厚し沈線が2本施されている。縁帶文的な土器である。

##### 2類 後期中葉の土器（第75図54～62、図版27）

###### a類（54～57）

外反する口縁が内屈する器形で、口縁部に短い隆帯が並び、それに縄目がつくもの（54・55）と、口縁部に円筒状の刺突が二段にわたって連続して施されるもの（57）がある。56と57は同一個体で、頸部の無文部に横位ものと区画するような組み合わせの沈線が施されている。

###### b類（58～62）

羽状沈線を施すものである。58は口縁に沿って2本の沈線が施される。62は縄文施文の土器である。加曾利B II式段階のものであろう。

###### c類（63）

頸部がやや括れやや外反する鉢形土器である。頸部に沈線が3本横走し、胴部には入り組み弧線文が施され、中を羽状縄文が埋めている。北陸の酒見式に類似する要素も見られる。加曾利B III式併行と考えられる。

###### d類（64・65）

曲線的な沈線文が施されている。65には、浅い円形の刺突状の文様がある。

###### e類（66～75）

直線的な沈線文が施されている。いずれも横位に展開する。66～73には縄文が施されている。66の口唇部には刺突が施されている。73は屈曲して内湾する器形で胴部下半は無文である。74は真っ直ぐ立ち上がる器形で口縁に沿って沈線が施され、下は無文である。

###### f類（76～78）

比較的細い沈線で施文されたものである。78には円筒状の刺突が施されている。

###### g類（79）

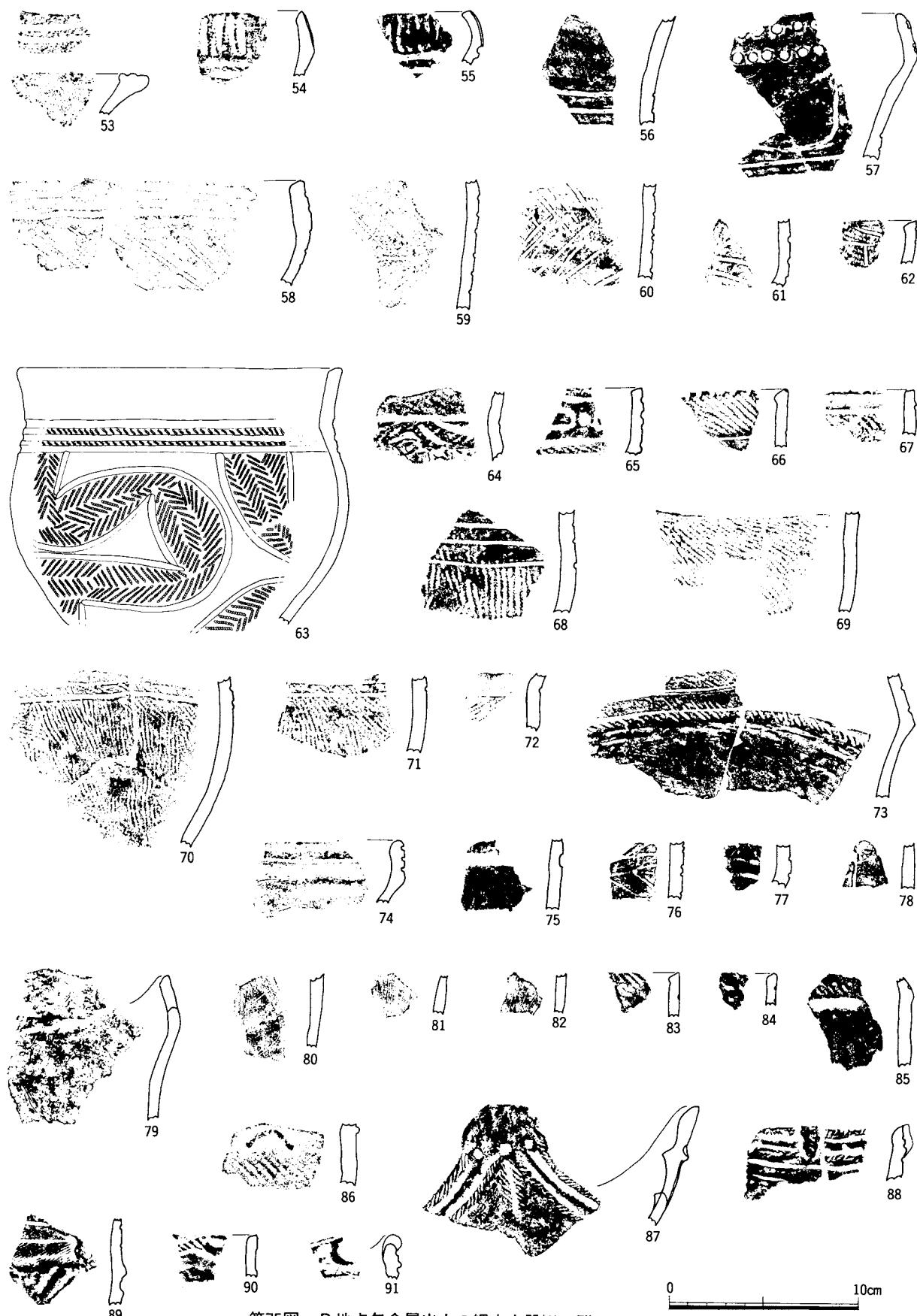
内湾する波状口縁で無文であるが、屈曲部に小突起が見られる。

###### h類（80～82）

同一個体である。細い沈線が数本組み合せたように曲線的に展開する。

###### i類（83～85）

口縁部に縄文が施され、そこに刺突が連続する。口縁端部は内面が面取りされている。



第75図 B地点包含層出土の縄文土器(3) I群1・2類

## j類 (86~91)

隆帯状の文様が施文されているものを本類とした。86は縄文地に弧線状に隆帯が施されている。87は波状口縁で刺突と沈線を組み合わせ、隆帯上に縄文が施される。88は貼り付けた隆帯があり、沈線が横走する。

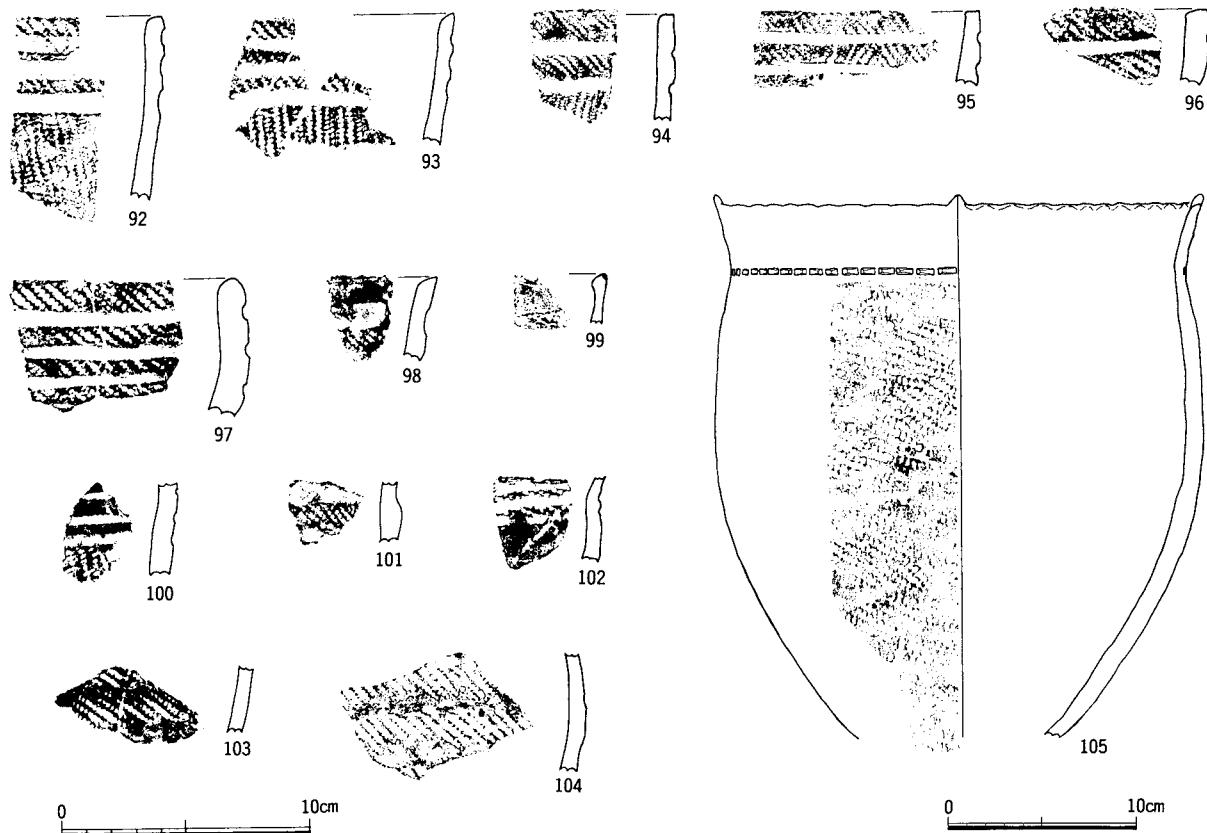
90・91は、波状口縁で、刺突と沈線が組み合わさっている。

## 3類 後期後葉の土器 (第76図92~104、図版27)

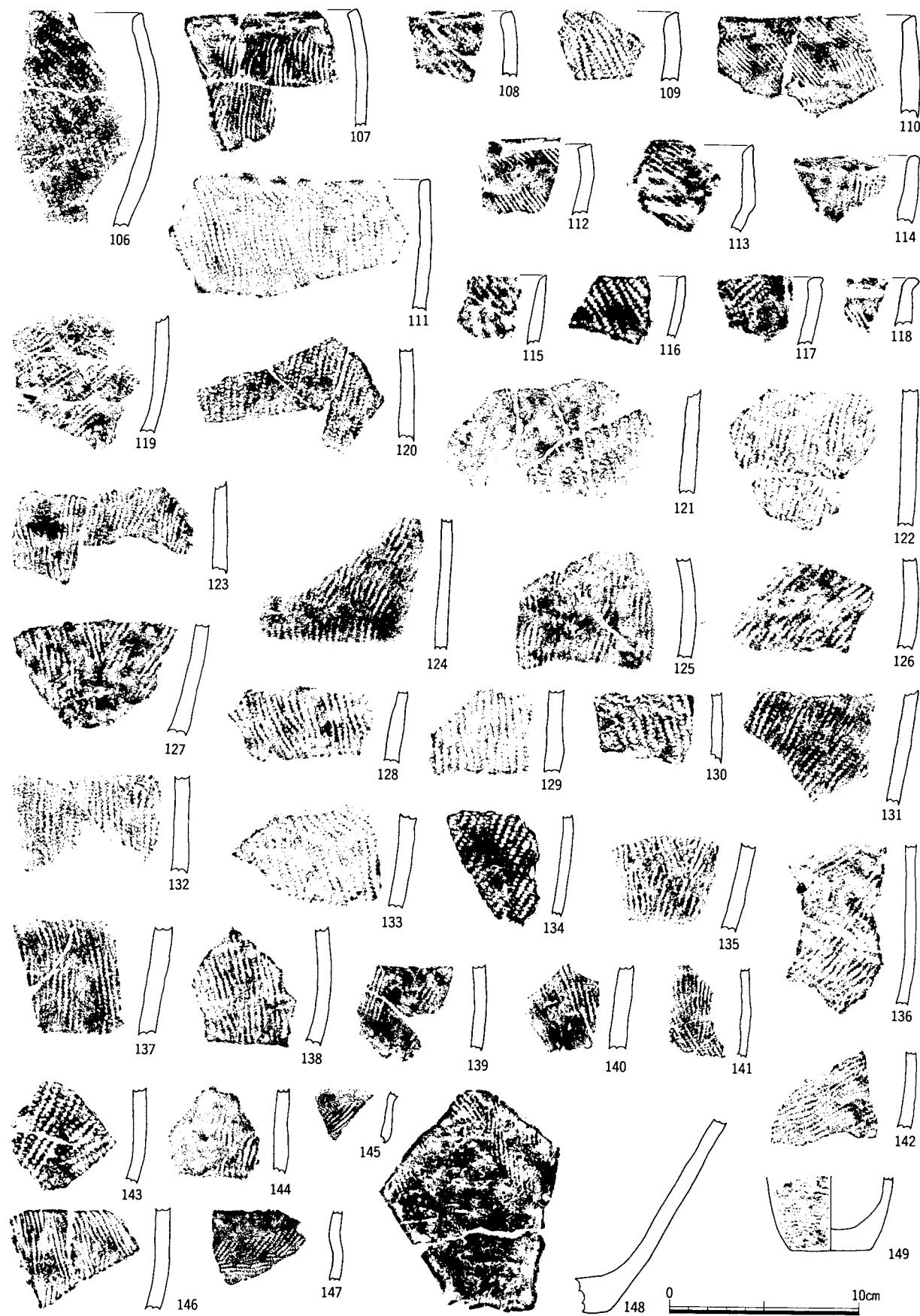
幅の広い沈線が横走する。凹線と表現してよいかも知れない。92~99は平口縁で直立する器形である。地文は縄文で口縁部に沿って幅の広い沈線が3本程横走する。103・104は指でなでたような浅い沈線であるが、本類に含めた。

## II群 晩期の土器 (第76図105)

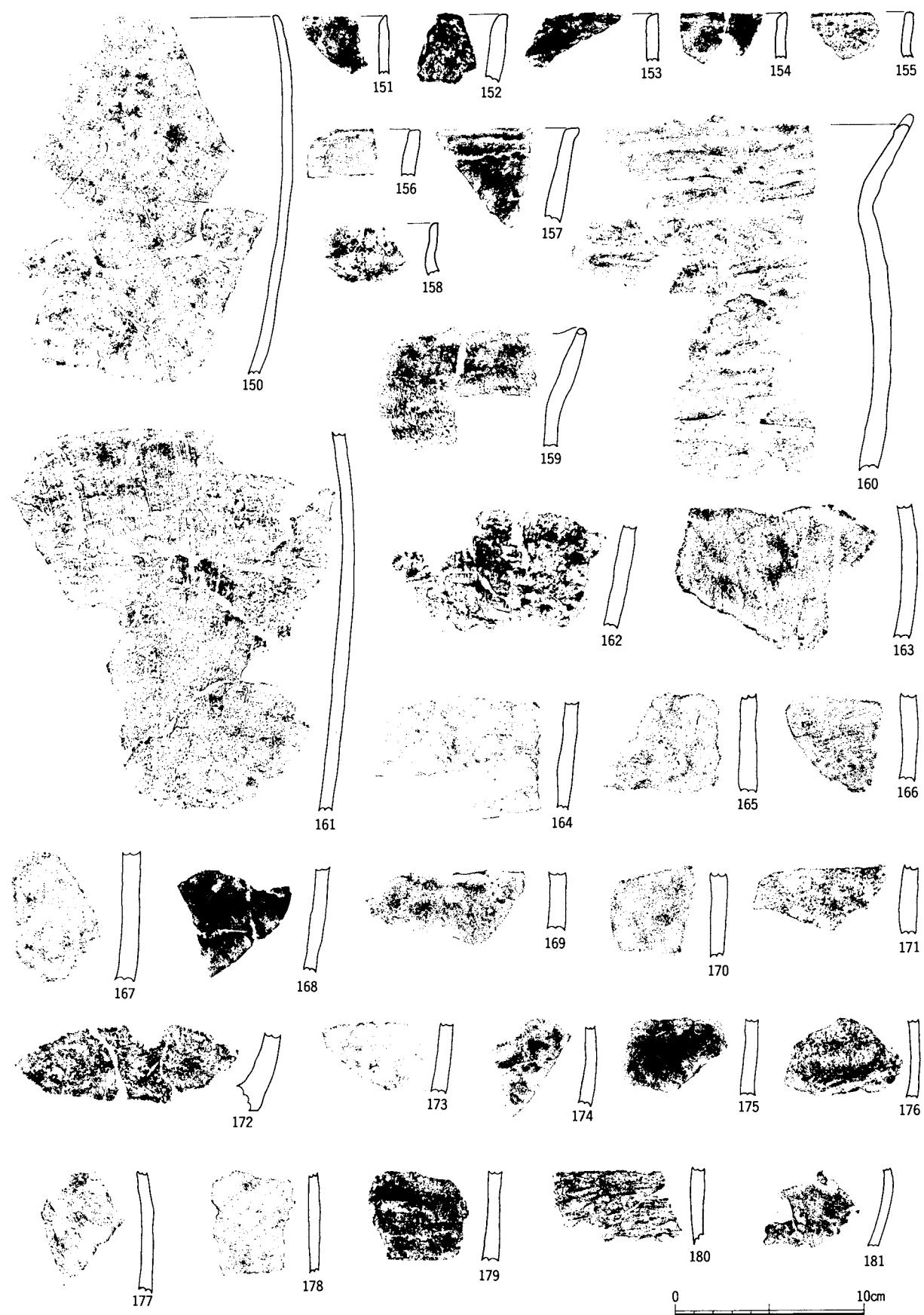
D2区でまとめて出土した。底部は欠失しているが、3分の1程度復元できた。ゆるく括れて外反する器形の鉢形土器で、頸部に方形の刺突が連続する。口縁に突起が見られる。図では4単位にしてあるがあくまでも推定である。胴部には、RLの縄文が施されている。北陸の中屋式段階のものであろう。



第76図 B地点包含層出土の縄文土器(4) I群 3類、II群



第77図 B地点包含層出土の縄文土器(5)III群 1類



第78図 B地点包含層出土の縄文土器(6)III群 2類

## III群 無文土器（第77・78図、図版28）

有文以外の土器を本群とした。出土状況から見て、縄文後期中葉から後葉にかけてのものが多いと思われる。

## 1類 縄文施文の土器（第77図、図版28）

口縁部はやや内湾あるいは直立するもの（106～114）とやや開き気味のもの（115～118）がある。

139～149のように縄目の細かいものがある。149は底部の直径が約4cmで小型のものである。

時期は、後期から晩期にかけてのものであろう。

## 2類 無文の土器（第78図、図版28）

150はゆるく内湾する器形で器厚が約5mmと薄手である。151～156は直立する平口縁の土器である。157～160はくの字状に折れて外反する器形で、159には口唇部に連続刺突が施され、160には、いわゆるB突起が見られる。105と同時期と考えられる。

## 底部

25点出土している。分類に関してはA地点に準ずる。器形については、Aが4点、Bが5点、Cが12点、Dが1点、不明3点となっている。網代圧痕は、A1が1点、A3が1点、網代の不明圧痕が5点、不明であるが、葉脈痕と組み合わせたものが1点である。葉脈痕は網状脈が1点、平行脈が2点である。その他、丁寧なナデ仕上げが8点、不明6点である。

第8表 B地点縄文土器観察表

番号	地区	層	器種	残存度	文様・調整	焼成	胎土	色調
1	P 1	—	A	b	沈線・縄文	b	b	2.5Y7/4 浅黄色
2	P 1	—	A	b	縄文	b	b (白色砂粒)	2.5Y6/4 にぶい黄色
3	P 1	—	A	b	無文	b	b (黄白色砂粒)	2.5Y5/2 暗灰黄色
4	P 1	—	A	b	無文	b	b	10YR7/4 にぶい黄橙色
5	B 3	V	A	a	爪形文	b	b	5YR4/4 にぶい赤褐色
6	B 3	V	A	a	爪形文	b	b	7.5YR4/4 褐色
7	B 3	V	A	a	爪形文	b	b	7.5YR2/2 黒褐色
8	B 2	V	A	a	爪形文	b	b	5YR3/3 暗赤褐色
9	B 3	V	A	b	爪形文	b	b	7.5YR4/3 褐色
10	B 3	V	A	b	爪形文	b	b	7.5YR4/3 褐色
11	B 3	V	A	b	爪形文	b	b	7.5YR4/4 褐色
12	B 2	V	A	b	爪形文	b	b	7.5YR4/4 褐色
13	B 3	V	A	b	爪形文	b	b	7.5YR4/4 褐色
14	B 3	V	A	b	爪形文	b	b	7.5YR4/2 灰褐色
15	B 2	V	A	b	爪形文	b	b	10YR5/4 にぶい黄褐色
16	B 2	V	A	b	爪形文	b	b	7.5YR4/3 褐色
17	B 5	V	A	b	爪形文	b	b	7.5YR4/3 褐色
18	B 2	V	A	b	沈線・縄文	b	b	5YR3/4 暗赤褐色
19	B 2	V	A	a	沈線・縄文	c	b	5YR5/8 明赤褐色
20	B 2	V	A	b	沈線・縄文	c	b (1～5mmの砂粒)	5YR4/8 赤褐色
21	B 2	V	A	b	沈線・縄文	b	b (1～5mmの砂粒)	5YR4/6 赤褐色
22	B 3	V	A	b	沈線・縄文	b	b (1～3mmの砂粒)	5YR4/6 赤褐色
23	B 3	V	A	b	沈線・縄文	c	b (1～2mmの砂粒)	5YR5/6 明赤褐色
24	B 2	V	A	b	沈線・縄文	d	b (1～5mmの砂粒)	5YR6/8 橙色
25	B 2	V	A	b	沈線	b	b	7.5Y4/1 灰色
26	B 3	V	A	b	沈線・縄文	c	b (1～2mmの砂粒)	2.5Y3/1 黒褐色
27	B 2	V	A	b	沈線・縄文	c	b	5YR6/2 灰オリーブ色
28	B 2	V	A	b	沈線	c	b (1～5mmの砂粒)	5YR4/2 灰オリーブ色
29	B 5	V	A	a	無文	c	b	7.5YR6/4 にぶい橙色
30	B 4	V	A	b	縄文	c	b	5YR5/6 明赤褐色
31	B 5	V	A	b	無文	c	b	7.5YR5/6 明褐色
32	B 5	V	A	b	縄文	c	b	7.5YR5/6 明褐色

番号	地区	層	器種	残存度	文様・調整	焼成	胎土	色調
33	B 4	V	A	b	縄文	c	b	7.5YR5/6 明褐色
34	B 4	V	A	b	縄文	c	b	5YR5/6 明赤褐色
35	B 4	V	A	b	刺突	c	b (1~5mmの白色砂粒)	7.5YR5/6 明褐色
36	B 4	V	A	b	無文	c	b	7.5YR5/6 明褐色
37	B 3	IV	A	a	隆帯	b	b (1~3mmの砂粒)	7.5YR3/4 暗褐色
38	B 3	IV	A	a	刺突	b	b (1~3mmの砂粒)	7.5YR4
39	B 3	IV	A	a	刺突	b	b (1~3mmの砂粒)	7.5YR4/4 褐色
40	B 3	IV	A	a	隆帯	b	b (1~3mmの砂粒)	7.5YR3/3 暗褐色
41	B 3	IV	A	a	隆帯	b	b (1~3mmの砂粒)	7.5YR4/4 褐色
42	B 3	IV	A	b	刺突	b	b (1~3mmの砂粒)	7.5YR3/4 暗褐色
43	B 3	IV	A	b	刺突	b	b (1~3mmの砂粒)	7.5YR5/4 にぶい褐色
44	B 3	IV	A	b	刺突	b	b (1~3mmの砂粒)	7.5YR3/4 暗褐色
45	B 3	IV	A	b	隆帯	b	b (1~3mmの砂粒)	7.5YR3/4 暗褐色
46	B 5	IV	A	b	沈線	b	b	10YR7/4 にぶい黄橙色
47	F 11	IV	A	a	口縁端部に指おさえ	b	(繊維)	2.5Y4/1 黄灰色
48	F 11	IV	A	b	無文	b	(繊維)	10YR7/3 にぶい黄橙色
49	F 11	IV	A	b	無文	b	(繊維)	10YR6/4 にぶい黄橙色
50	F 11	IV	A	b	無文	b	(繊維)	10YR5/2 灰黄褐色
51	F 11	IV	A	b	無文	b	(繊維)	10YR5/4 にぶい黄褐色
52	D 6	IV	A	b	口縁部無	b	b (1~2mmの砂粒)	7.5YR5/6 明褐色
53	B 5	II	A	a	沈線・縄文	b	b	2.5Y6/4 にぶい黄色
54	B 3	II	A	a	隆帯	b	b	10YR5/3 にぶい黄橙色
55	D 5	—	A	a	隆帯・沈線	b	b	2.5Y6/2 灰黄色
56	B 5	II	A	b	沈線	b	b (1~2mmの白色砂粒)	10YR2/2 黒褐色
57	B 5	II	A	a	沈線・刺突	b	b	2.5Y5/3 黄色褐色
58	B 6	II	A	a	沈線	b	b	7.5YR5/4 にぶい赤褐色
59	B 5	II	A	b	沈線	b	b	5YR5/4 にぶい赤褐色
60	B 5	II	A	b	沈線	b	b	5YR4/1 褐灰色
61	C 5	II	A	b	沈線	b	b	5YR4/3 にぶい赤褐色
62	B 6	II	A	a	沈線・縄文	b	b	5YR4/3 にぶい赤褐色
63	B 5	II	B	1/5	沈線・縄文	a	a	10YR6/4 にぶい黄橙色
64	B 3	II	A	b	沈線	b	b	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色
65	B 5	II	A	a	沈線・縄文	b	b	5YR6/4 にぶい橙色
66	B 6	II	A	a	沈線・縄文	b	b	2.5Y6/3 にぶい黄色
67	B 4	II	A	a	沈線・縄文	b	b	7.5YR6/4 にぶい褐色
68	B 4	II	A	a	沈線・縄文	b	b	7.5YR6/3 にぶい褐色
69	B 5	II	A	b	沈線・縄文	b	b	2.5Y6/4 にぶい黄色
70	B 6	II	A	b	沈線・縄文	b	b	7.5YR6/6 橙色
71	B 6	II	A	b	沈線・縄文	b	b	7.5YR6/3 にぶい褐色
72	C 5	II	A	b	沈線・縄文	b	b	7.5YR6/3 にぶい褐色
73	B 6	II	A	b	沈線・縄文	b	b	7.5YR6/3 にぶい褐色
74	B 2	II	A	a	沈線	b	b	10YR7/4 にぶい黄橙色
75	C 5	II	A	b	沈線	b	b	10YR6/4 にぶい黄橙色
76	B 5	II	A	b	沈線	b	b	7.5YR5/3 にぶい褐色
77	B 5	II	A	b	沈線	b	b	7.5YR5/4 にぶい褐色
78	B 5	II	A	b	沈線	b	b	2.5Y4/1 黄灰色
79	C 5	II	A	a	隆帯	b	b	7.5YR5/2 灰褐色
80	B 5	II	A	a	沈線	b	b	10YR2/1 黒色
81	B 5	II	A	a	沈線	b	b	10YR1.7/1 黑色
82	B 5	II	A	a	沈線	b	b	10YR3/1 黑褐色
83	表採	—	A	a	刺突・縄文	b	b	2.5Y2/1 黒色
84	表採	—	A	a	刺突・縄文	b	b	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色
85	B 5	II	A	b	刺突・縄文	b	b	7.5YR7/2 明褐色
86	B 5	II	A	b	隆帯・縄文	b	b	10YR5/4 にぶい黄褐色
87	B 4	II	A	b	沈線・隆帯	b	b	7.5YR7/3 にぶい橙色
88	C 6	II	A	a	隆帯	b	b	10YR2/1 黒色
89	C 5	II	A	a	隆帯	b	b (1~2mmの白色砂粒)	10YR5/4 にぶい黄褐色
90	B 2	II	A	a	沈線・刺突	b	b	2.5Y6/1 黄灰色
91	B 6	II	A	a	沈線・縄文	b	b	10YR7/2 にぶい黄橙色
92	B 5	II	A	a	沈線・縄文	b	b	10YR7/4 にぶい黄橙色
93	B 5	II	A	a	沈線・縄文	b	b	10YR7/3 にぶい黄橙色
94	B 6	II	A	a	沈線・縄文	b	b	2.5Y6/1 黄灰色
95	B 6	II	A	a	沈線・縄文	b	b	10YR6/2 灰黄褐色
96	B 5	II	A	a	沈線・縄文	b	b	7.5YR5/1 褐灰色
97	C 6	II	A	a	沈線・縄文	b	b	10YR6/4 にぶい黄橙色
98	B 5	II	A	a	沈線・縄文	b	b	7.5YR6/4 にぶい橙色
99	C 6	II	A	a	沈線・縄文	b	b	10YR5/3 にぶい黄褐色
100	D 5	—	A	b	沈線・縄文	b	b (白色砂粒)	10YR7/4 にぶい黄橙色
101	C 4	II	A	b	沈線・縄文	b	b	7.5YR4/2 灰褐色
102	C 4	II	A	b	沈線・縄文	b	b	2.5Y3/2 黑褐色
103	C 5	II	A	b	沈線・縄文	b	b	10YR7/4 にぶい黄橙色
104	B 5	II	A	b	沈線・縄文	b	b	10YR6/3 にぶい黄橙色
105	D 2	II	A	1/3	刺突・縄文	b	b (1~5mmの砂粒)	2.5Y7/4 浅黄色
106	B 6	II	A	a	縄文	c	b (1~3mmの砂粒)	2.5Y7/4 浅黄色
107	E 5	II	A	a	縄文	b	b	2.5Y6/3 にぶい黄色

番号	地区	層	器種	残存度	文様・調整	焼成	胎土	色調
108	C 5	II	A	a	縄文	b	b	2.5Y4/4 褐色
109	B 4	II	A	a	縄文	b	b	10YR5/3 にぶい褐色
110	B 3	II	A	a	縄文	b	b	10YR5/3 にぶい黄橙色
111	C 5	II	A	a	縄文	b	b (1~5mmの白色砂粒)	2.5Y4/6 オリーブ褐色
112	D 5	II	A	a	縄文	b	b	10YR6/3 にぶい黄橙色
113	表採	—	A	a	縄文	b	b	2.5Y4/1 黄灰色
114	D 3	—	A	a	縄文	c	b	10YR6/4 にぶい黄橙色
115	C 3	II	A	a	縄文	b	b	10YR5/3 にぶい褐色
116	B 4	II	A	a	縄文	b	b	10YR5/4 にぶい黄褐色
117	C 5	II	A	a	縄文	b	b (1~2mmの砂粒)	5Y3/1 オリーブ黒色
118	C 5	II	A	a	縄文	b	b	10YR6/2 灰黄褐色
119	B 5	II	A	b	縄文	b	b (1~5mmの砂粒)	7.5YR7/8 黄橙色
120	B 5	II	A	b	縄文	c	b	2.5Y7/3 浅黄色
121	B 5	II	A	b	縄文	b	b	10YR6/6 明黄褐色
122	C 5	II	A	b	縄文	b	b	10YR8/3 浅黄橙色
123	B 6	II	A	b	縄文	b	b	2.5Y7/4 浅黄色
124	B 6	II	A	b	縄文	b	b	2.5Y4/3 オリーブ褐色
125	B 5	II	A	b	縄文	b	b	2.5Y6/4 にぶい黄色
126	B 5	II	A	b	縄文	b	b	10YR4/2 灰黄褐色
127	B 5	II	A	b	縄文	b	b (1~3mmの砂粒)	2.5Y6/4 にぶい黄色
128	C 5	III	A	b	縄文	b	b (1~6mmの砂粒)	10YR7/4 にぶい黄橙色
129	B 3	II	A	b	縄文	c	b (1~2mmの砂粒)	5YR6/8 橙色
130	B 5	II	A	b	縄文	b	b	2.5Y6/4 にぶい黄色
131	C 5	II	A	b	縄文	b	b	2.5Y7/3 浅黄色
132	B 5	II	A	b	縄文	b	b	10YR7/2 にぶい黄橙色
133	B 5	II	A	b	縄文	b	b	10YR5/3 にぶい黄橙色
134	C 5	II	A	b	縄文	b	b	2.5Y6/3 にぶい黄色
135	B 2	II	A	b	縄文	b	b	7.5YR6/6 橙色
136	B 5	—	A	b	縄文	b	b	2.5Y6/4 にぶい黄色
137	B 6	II	A	b	縄文	b	b	10YR5/8 黄褐色
138	B 5	II	A	b	縄文	b	b	10YR4/2 灰黄褐色
139	B 5	II	A	b	縄文	b	b (1~2mmの砂粒)	10YR7/4 にぶい黄橙色
140	C 5	II	A	b	縄文	b	b	2.5Y5/3 黄褐色
141	B 2	II	A	b	縄文	b	b	7.5YR7/3 にぶい橙色
142	C 4	II	A	b	縄文	b	b	10YR6/4 にぶい黄橙色
143	B 3	II	A	b	縄文	b	b	7.5YR5/2 灰褐色
144	C 5	II	A	b	縄文	b	b	10YR5/2 灰黄色
145	B 5	II	A	b	縄文	b	b	10YR7/3 にぶい黄橙色
146	C 5	II	A	b	縄文	b	b	5YR5/8 明褐色
147	B 5	II	A	b	縄文	b	b	10YR8/3 浅黄色
148	B 6	II	A	b	縄文	b	b	10YR7/6 明黄褐色
149	B 6	II	D	c	縄文	b	b (1~3mmの砂粒)	7.5Y6/4 にぶい橙色
150	C 4	II	A	a	無文	c	b (1~3mmの砂粒)	2.5Y6/2 灰黄色
151	B 5	II	A	a	無文	a	b	10YR4/2 灰黄褐色
152	C 4	II	A	a	無文	b	b	7.5YR5/3 にぶい褐色
153	B 6	II	A	a	無文	b	b	10YR4/2 灰黄褐色
154	B 5	II	A	a	無文	b	b (1~2mmの砂粒)	10YR5/4 にぶい黄褐色
155	B 2	II	A	a	無文	c	b (1~2mmの砂粒)	10YR5/4 にぶい黄褐色
156	B 5	II	A	a	無文	b	b	10YR7/6 明黄褐色
157	D 3	II	A	a	無文	c	b	7.5YR4/2 灰褐色
158	B 5	II	A	a	無文	b	b	2.5Y7/4 浅黄色
159	D 2	II	A	a	無文	c	b	7.5YR7/5 にぶい橙色
160	D 2	II	A	a	無文	b	b (1~3mmの砂粒)	7.5YR4/2 灰褐色
161	B 3	II	A	b	無文	c	(1mmの灰色砂粒)	10YR7/3 にぶい黄橙色
162	B 4	II	A	b	無文	b	b	10YR7/4 にぶい黄橙色
163	B 5	II	A	b	無文	b	b	10YR6/4 にぶい黄橙色
164	B 5	II	A	b	無文	a	b (1~2mmの砂粒)	10YR4/4 褐色
165	C 4	II	A	b	無文	b	b	10YR8/4 浅黄橙色
166	B 5	II	A	b	無文	b	b	5YR6/2 灰褐色
167	B 5	II	A	b	無文	b	b	10YR7/3 にぶい黄橙色
168	B 6	II	A	b	無文	b	b	10YR5/3 にぶい黄褐色
169	B 6	II	A	b	無文	b	b	10YR4/4 褐色
170	B 5	II	A	b	無文	b	b	10YR6/4 にぶい黄橙色
171	C 5	II	A	b	無文	b	b	10YR7/4 にぶい黄橙色
172	B 6	II	A	b	無文	b	b	7.5YR7/3 にぶい橙色
173	B 5	II	A	b	無文	b	b	5YR5/3 にぶい赤褐色
174	B 5	II	A	b	無文	b	b	10YR4/2 灰黄褐色
175	B 5	II	A	b	無文	b	b	10YR6/4 にぶい黄橙色
176	B 6	II	A	b	無文	a	b	10YR4/2 灰黄褐色
177	B 5	II	A	b	無文	b	b	5YR2/2 オリーブ黒色
178	B 5	II	A	b	無文	b	b	7.5YR5/3 にぶい褐色
179	B 5	II	A	b	無文	b	b	2.5YR5/6 明赤褐色
180	C 5	II	A	b	無文	b	b	7.5YR6/4 にぶい橙色
181	D 3	—	A	b	無文	b	b	10YR5/3 にぶい黄褐色

## 2 石器類

石器類は、約200点出土している。ほとんどが調査区中央の谷より西側からの出土である。

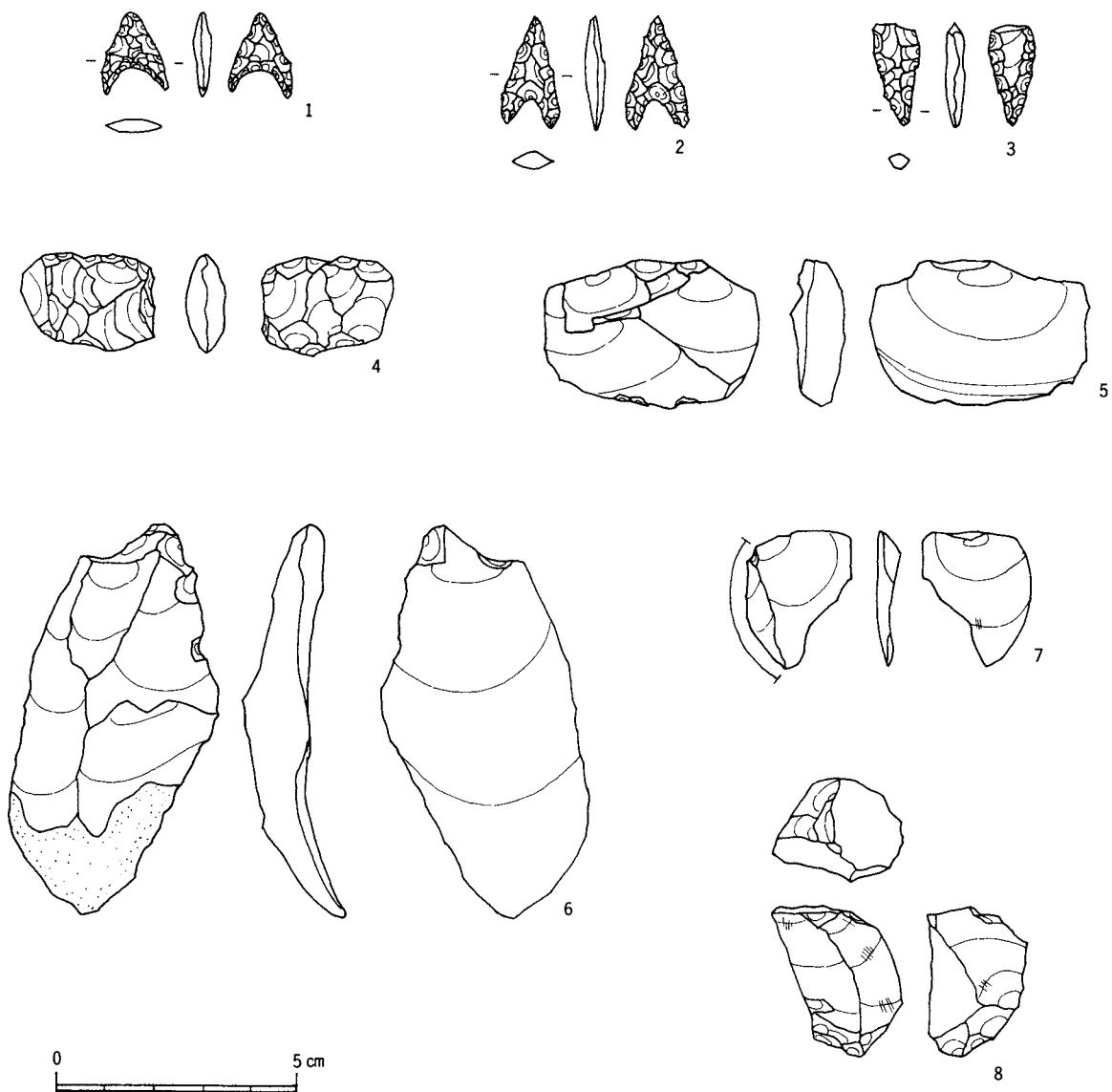
以下、器種別に記述する。器種ごとの分類はA地点の項に準ずる。

## 石鏃（第79図1・2、図版29）

石鏃は第II層から1点、第V層から2点の計3点出土している。石材は下呂石・チャート・黒曜石が各1点である。形態は、いずれも1C類で、鋭角な尖頭部を持ち基部の中央部がU字型に深くえぐられているものである。

## 石錐（第79図3、図版29）

石錐は2点出土している。第III層出土のものは下呂石製の2B類、第V層出土のものはチャート製の4B類である。



第79図 B地点出土の石器(1)

### 両極剝離痕のある石器（第79図4、図版29）

第II層から1点、第V層から2点の計3点が出土している。いずれもチャート製である。第II層出土のものは1類で、第V層出土のものは、1類と2類が各1点である。

### 使用痕のある剝片（第79図5～7、図版29）

8点出土している。層位別に見ると、第II層2点、第IV層1点、第V層5点であり、石材別では、下呂石2点、チャート4点、黒曜石1点、凝灰岩1点である。

### 石核（第79図8、図版29）

黒曜石のものが1点出土している。出土地点・層位から見て黒曜石チップ集中出土地点のものとは関連性がないと判断する。

### 剝片

第II層からは、下呂石17点、チャート2点、黒曜石4点、その他4点の計27点あり、第III層からは黒曜石が1点出土している。第V層からはチャート4点、黒曜石1点、その他4点の計9点が出土している。黒曜石集中出土地点出土の97点を含めると計134点である。剝片石器で見られる傾向と同じであるが、第V層からはチャートが多く、下呂石がないのに対して、第II層では、下呂石が多い点が注目される。

### 石錘（第80図9、図版29）

B5区第V層より礫石錘が1点出土している。砂岩製で、重さ38.8gとややこぶりである。同じ五味原遺跡群の西田遺跡でも1点しか出土していない。

### 磨製石斧（第80図10、図版29）

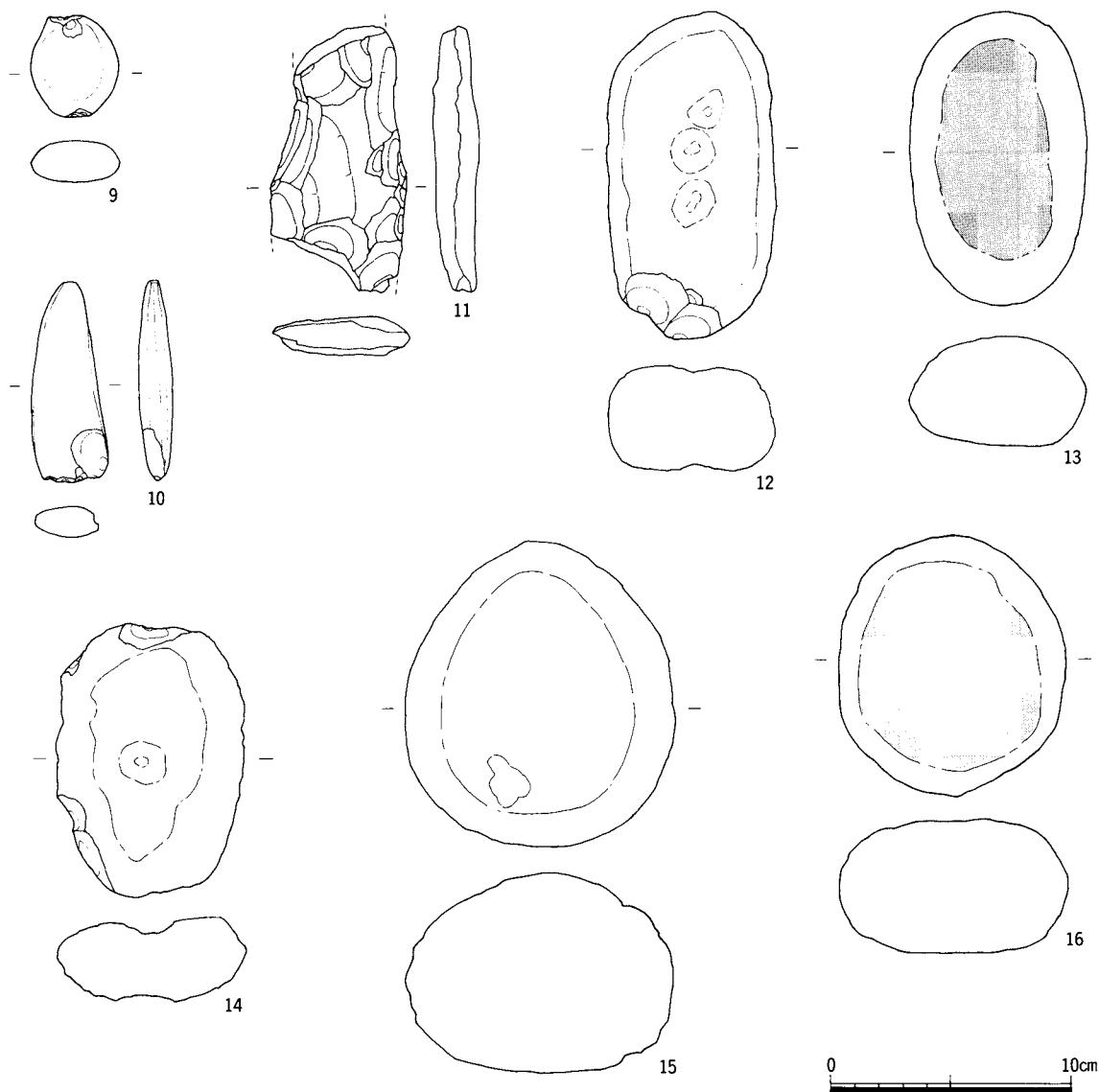
B3区第V層よりいわゆる擦切石斧が1個出土している。蛇紋岩製で、片方の側縁に切り込みの溝の痕跡が残っている。刃部が一部欠失している。

### 打製石斧（第80図11、図版29）

1993（平成5）年の試掘調査の際に、E11区から出土している。凝灰岩製で、いわゆる短冊形であるが、刃部が一部欠失している。

### 磨石・凹石・敲石類（第80図12～16、図版30）

いずれも谷より西側の地点から22点出土している。第II層15点、第III層1点、第IV層2点、第V層4点である。石材はすべて凝灰岩がある。形態による分類では、1B類が1点、2B類が18点、2C類が2点、2D類が1点である。15には、短軸の一端に敲打痕が見られる。



第80図 B地点出土の石器(2)

## 3 土製品

縄文時代の土製品は、土偶および不明土製品が出土している。

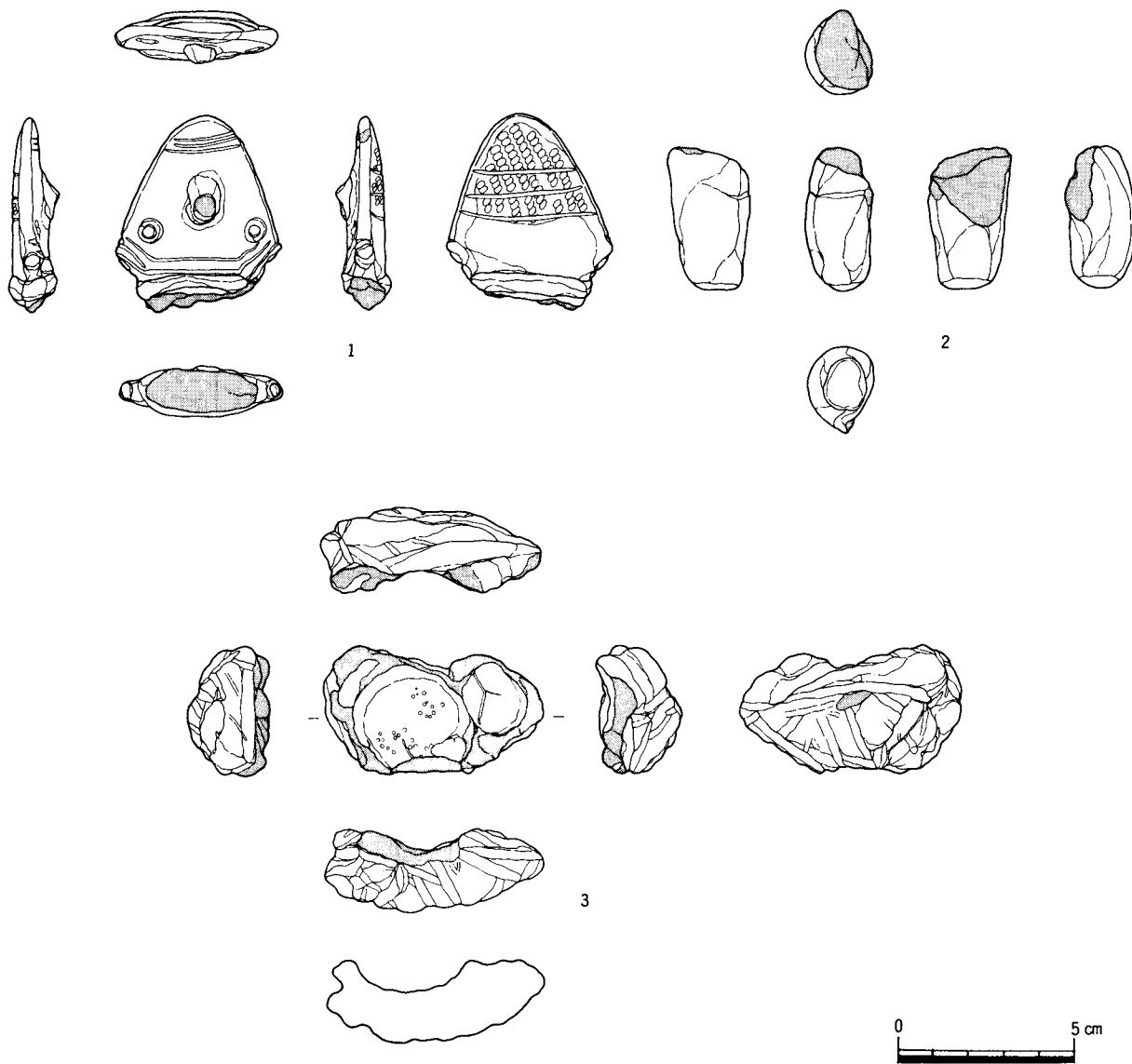
## 土偶（第81図1・2、図版30）

1は土偶頭部片である。搅乱層から出土している。時期の正確な比定はできない。形態からは後期末～晩期の時期が考えられる。頭部は二等辺三角形に近い山形である。灰黄褐色を呈し、焼成やや良好で、全体になで調整痕が認められる。目と口の表現は不明であるが、頭頂部付近にひかれた3本の沈線は眉および目の、また頸部付近にひかれた不規則な3本の沈線は顎を抽象的に表すものかもしれない。鼻頭と両頬と思われるあたりになる円は竹管状の工具を右回りに回しながら刺突して表出されている。頸部に隆帯が貼付されている他、沈線により耳朶が円く作出されている。後頭部にはRLの縄文が施文されている。この縄文は条や節が曖昧であり、比較的粘土が軟らかい状態で回転押捺されたと考えられる。縄文施文の後3本の沈線をひき、最下位の沈線以下の縄文をなでて消失させている。

2は土偶の右腕部と思われる破片であるが、脚部の可能性も否定できない。灰黄褐色を呈する。整形、調整ともにあまり丁寧でない。沈線が実測図上の右側から左側にむかって先細りにひかれている。後期の土器に伴出。

#### 不明土製品（第81図3、図版30）

植物圧痕を有する焼成粘土塊とでもいべきものであり、この場合の植物圧痕は意図的な行為の結果生じたものをさす。土製品という名称では語弊があるようにも思われるが、現段階では用途等について不明な点が多く、適切な語彙をあてることが難しいため敢えて不明土製品として記載することにした。もともとの大きさは現存する部分の2倍程度と考えられる。内側に3か所浅い凹があり、このうち真ん中と右側の凹に植物圧痕が認められる。真ん中の凹は堅果類の圧痕のようであり。トチの実程の大きさのくぼみである。外面にはちょうど紐で巻いた時にできるような圧痕が残る。紐状のもので巻いたとすれば、それは均一な太さのものではなく、個々の圧痕を観察すると最大幅約8mm～最小幅約1mmまでの太さが認められることから、蔓状の植物を利用しているのかもしれない。この他に外面には葉の圧痕も認められる。後期の土器に伴出。



第81図 B地点出土の土製品

第9表 B地点石器一覧表

## 石鎚

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	折損	挿図番号	備考
1	B 4	II	下呂石	(11.0)	(8.7)	(1.2)	(0.1)	1 C	e		
2	B 3	V	チャート	17.6	12.7	2.2	0.4	1 C		79-1	
3	C 2	V	黒曜石	23.0	12.4	2.7	0.6	1 C		79-2	

## 石錐

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	折損	挿図番号	備考
1	B 4	II	下呂石	(29.0)	17.6	10.3	(4.2)	2 B	尖端		未製品
2	B 3	V	チャート	(17.6)	12.7	2.2	(0.4)	4 B	基部	79-3	

## 両極剝離痕のある石器

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	挿図番号	備考
1	B 4	II	チャート	22.6	16.1	7.7	3.9	1		
2	C 4	V	チャート	26.7	19.0	7.7	5.6	2	79-4	
3	C 5	V	チャート	28.5	19.3	7.6	5.5	1		

## 使用痕のある剝片

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号	備考
1	B 3	II	下呂石	23.6	28.1	7.7	3.5		
2	B 4	II	凝灰岩	38.5	81.5	13.0	34.0	79-6	
3	B 3	V	黒曜石	20.0	14.5	2.6	0.8		
4	B 3	V	チャート	17.6	25.2	3.5	1.8		
5	B 4	V	チャート	19.1	1.7	5.1	2.1		
6	B 4	V	チャート	28.0	20.6	3.9	1.9	79-7	
7	C 4	V	チャート	30.1	44.2	10.1	13.0	79-5	
8	E11	IV	チャート	19.9	27.1	6.5	3.4		

## 石錘

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号	備考
1	B 5	V	砂岩	41.2	36.2	17.4	38.8	80-9	

## 磨製石斧

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号	備考
1	B 3	V	蛇紋岩	82.9	30.0	13.0	46.8	80-10	擦切石斧

## 打製石斧

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号	備考
1	E11		凝灰岩	108.8	55.8	18.9	134.5	80-11	平成5年試掘時に出土

## 磨石・凹石類

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	挿図番号	備考
1	B 2	II	凝灰岩	57.5	57.1	34.2	138.4	1 B		ザラつく磨痕
2	B 3	II	凝灰岩	136.6	122.9	64.1	1,450.0	2 B		ザラつく磨痕
3	B 4	II	凝灰岩	94.0	75.1	42.3	382.8	2 B		3・3・0 ウ
4	B 5	II	凝灰岩	111.9	63.0	46.4	969.0	2 B		3・4・1 ウ
5	B 5	II	凝灰岩	116.8	90.8	43.1	555.3	2 B		ザラつく磨痕
6	B 5	II	凝灰岩	(133.3)	69.3	44.4	(582.9)	2 D	80-12	3・3・0 ウ
7	B 5	II	凝灰岩	97.7	55.9	38.3	219.8	2 B		1・2・0 ア・イ
8	B 5	II	凝灰岩	112.2	100.7	51.6	700.8	2 B		2・0・0 ア・ウ
9	B 5	II	凝灰岩	84.7	69.7	46.2	348.4	2 B		2・1・0 ウ
10	B 5	II	凝灰岩	115.4	93.9	58.6	846.7	2 B		ザラつく磨痕
11	B 5	II	凝灰岩	120.5	72.1	44.7	488.8	2 B	80-13	ザラつく磨痕
12	C 5	II	凝灰岩	103.5	90.6	52.5	581.7	2 B		2・2・0 ウ
13	C 5	II	凝灰岩	101.5	75.9	49.2	469.4	2 B		2・3・0 ア・ウ
14	C 5	II	凝灰岩	113.7	78.1	50.6	375.8	2 C	80-14	1・1・0 イ
15	B 6	II	凝灰岩	138.9	96.1	57.2	974.2	2 B		ザラつく磨痕
16	B 5	III	凝灰岩	77.8	54.9	33.4	155.3	2 B		ザラつく磨痕
17	B 3	IV	凝灰岩	119.6	72.4	58.6	563.0	2 B		2・2・0 ア
18	B 3	IV	凝灰岩	39.2	31.0	13.2	19.3	2 C		ザラつく磨痕
19	B 4	V	凝灰岩	125.9	111.5	84.0	1,310.0	2 B	80-15	短軸一端に敲打痕
20	B 4	V	凝灰岩	95.9	84.6	52.0	504.9	2 B		2・1・0 イ・ウ
21	B 5	V	凝灰岩	106.7	96.4	55.9	670.6	2 B	80-16	1・0・0 ウ
22	B 5	V	凝灰岩	83.6	73.3	42.7	331.8	2 B		1・1・0 ア

#### 4 植物遺体

B5区の第II層中より炭化したクルミがまとまって出土した。年代測定を㈱パレオ・ラボに委託した。以下はその報告であるが。暦年代でBC.900年代の数字が出ている。

#### 放射性炭素年代測定

山形 秀樹（パレオ・ラボ）

##### 1. 放射性炭素年代測定について

試料は、アルカリ・酸処理を施して不純物を取り除き、炭化リチウム（カーバイド）の生成後、加水分解によりアセチレンを生成した。

測定は、約1ヶ月放置した後、精製したアセチレンを比例計数管(400cc)を用いて、 $\beta$ -線を計数して年代値を算出した。その結果は下記に示す。

なお、年代値の算出には $^{14}\text{C}$ の半減期としてLibbyの半減期5570年を使用した。また、付記した年代誤差は、計数値の標準偏差 $\sigma$ に基づいて算出し、標準偏差(One sigma)に相当する年代である。

暦年代の補正は、CALIB3.0(Stuiver and Reimer, 1993; IBM-PC用:Reference(Pearson and Stuiver, 1993))を使用した。

##### 2. 放射性炭素年代測定結果

測定No.	試料	$^{14}\text{C}$ 年代値(1950年よりの年数)	暦年代(1 $\sigma$ )
PLD-100	炭化オニグルミ殻片 (B地点)	2,820±170 yrBP (BC 870年)	BC 980年 BC 1,250-1,240
			BC 970年 BC 1,210- 810
			BC 940年

#### 〈引用文献〉

Stuiver, M. and Reimer, P.J. (1993) Extended  $^{14}\text{C}$  database and revised CALIB3.0  $^{14}\text{C}$  Age Calibration Program.

以上

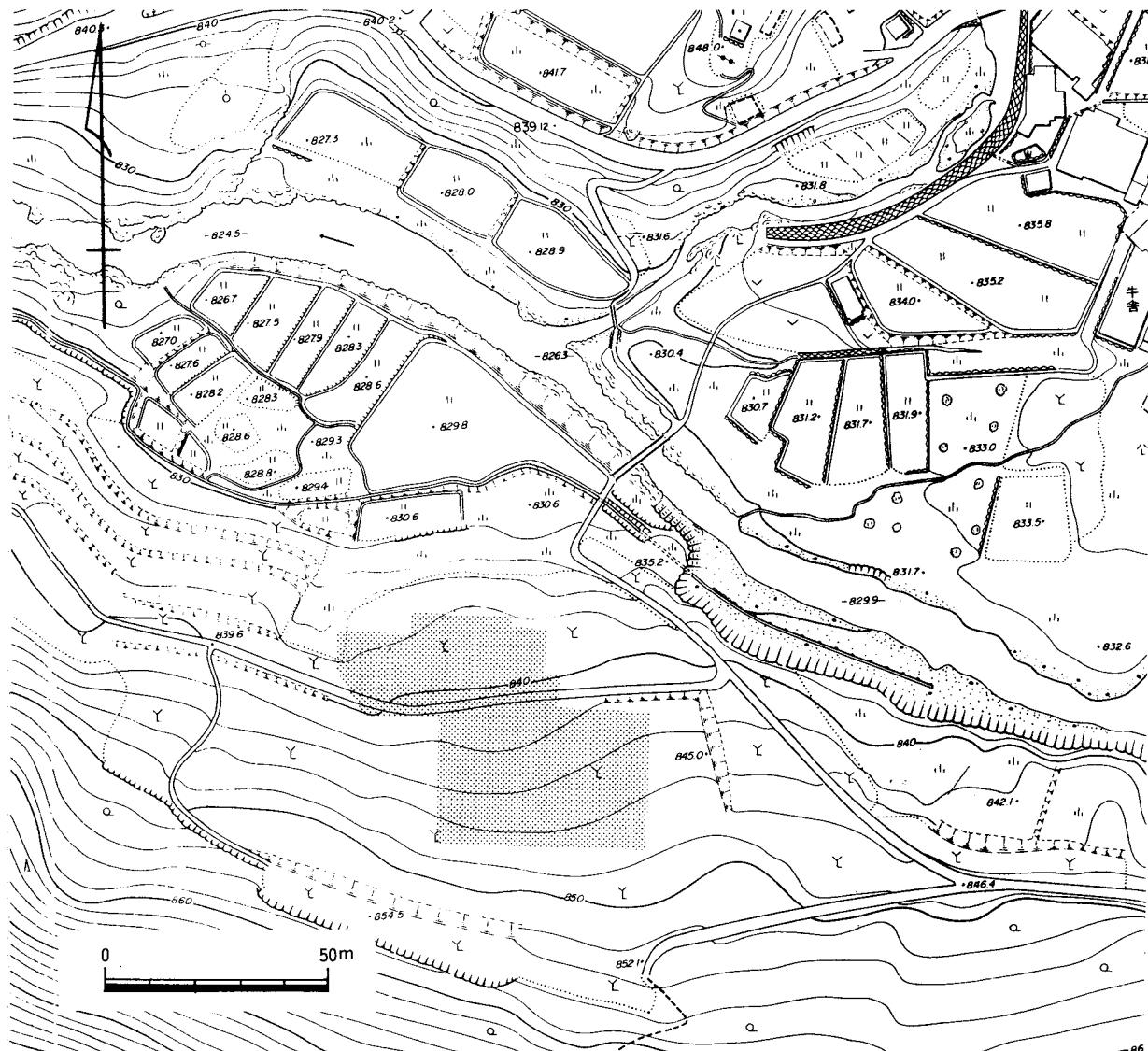
## 第5章 C地点の調査

### 第1節 調査の概要

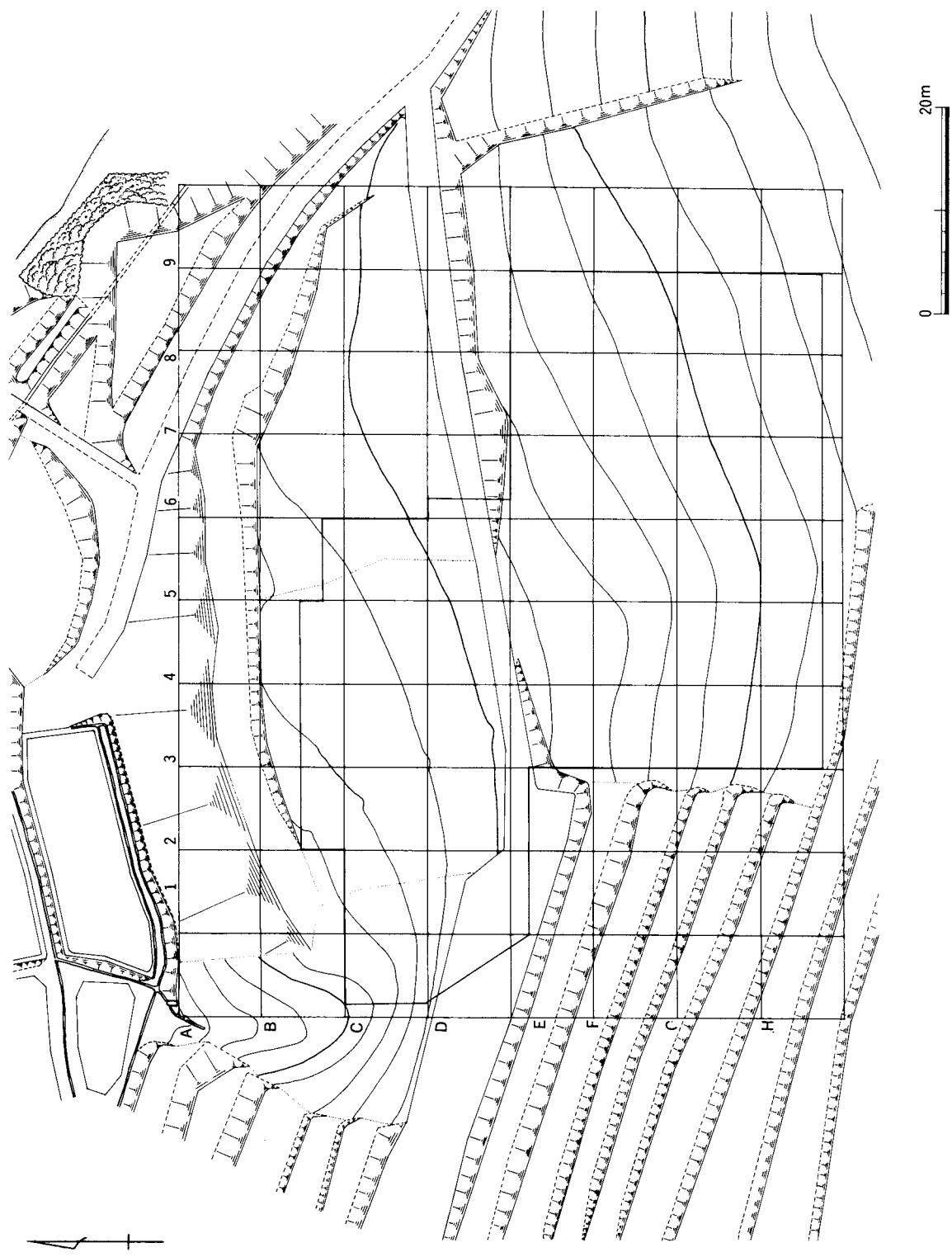
C地点は、北向きの扇状地に立地する。南東から北西方向に緩く傾斜している。調査区の北東部は荒城川に面して崖になっており、北西部には低位の段丘がある。現況は荒れ地で、北側は牧草地になっていた。全体的には、後世の開墾により削平された部分が目立ち遺構の検出は困難であった。

発掘調査にあたっての地区の設定は、国土座標に合わせて第83図のように、 $8 \times 8\text{ m}$ の区画を設けた。A列は、国土座標第VII系のX=23708、1列は、同じくY=18918となっている。発掘前に想定していた遺跡の広がりが西方へ移ったので、新たに0列を設けた。表土は重機を利用して除去した。

遺構としては、土坑5基、巨大炭化木と炭化材集中出土地点がある。遺物は、縄文土器約3,400点、石器類約200点であり、縄文時代以外のものとしては、須恵器・陶磁器類が約100点出土している。



第82図 C地点周辺地形図



第83図 C地点地区設定図

## 第2節 基本的層序

南から北へ傾斜した地形である。層位はI～V層に分けられるが、表土である第I層は重機を利用して除去したので、第II層から記述する。

**第II層** 縄文時代の遺物を出土するが、後世の物の混入も目立ち、不安定な遺物包含層である。

II a 黒褐色土(10YR3/1)で礫など非常に少ない。調査区の中央部の厚い所で約60cm程である。

縄文後晩期の遺物を含む。

II b 黒褐色土(10YR3/1)でII a層に比べて炭化物を多く含んでいる。厚さは約20cmであるが、調査区の中央部でのみ観察できる。

**第III層** 黒色土(10YR2/1)で、亜角礫混入が見られる。厚い所では約60cmあるが、調査区の高い地点では見られない。低い地点に厚く堆積している。縄文後晩期の遺物を含んでいる。

**第IV層** 砂質土の層である。厚さは約10cm程で、調査区の北側に一部見られる。

IV a にぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する砂層である。

IV b 黒褐色(10YR3/2)の砂質土で、亜角礫が混じっている。

**第V層** 調査区の一部であるが、第IV層の下に粘土質の層が見られる所がある。

V a 灰白色土(10YR8/2)で粘土質である。堅くしまっている。

V b 明黄褐色土(10YR7/6)で粘土質である。亜角礫が混入している。

V c 灰黄褐色土(10YR6/2)で粘土質である。地山の漸移層とも考えられる。

## 第3節 遺構

遺構としては、土坑(SK)5基と巨大炭化木(SX4)、炭化材集中出土地点(SX6)がある。掘り込みがあった場所など性格不明の遺構として、発掘調査当初、遺構記号SXを付けたものが1～6まであったが、その後の調査で遺構として認定したものが、上記のSX4とSX6のみである。

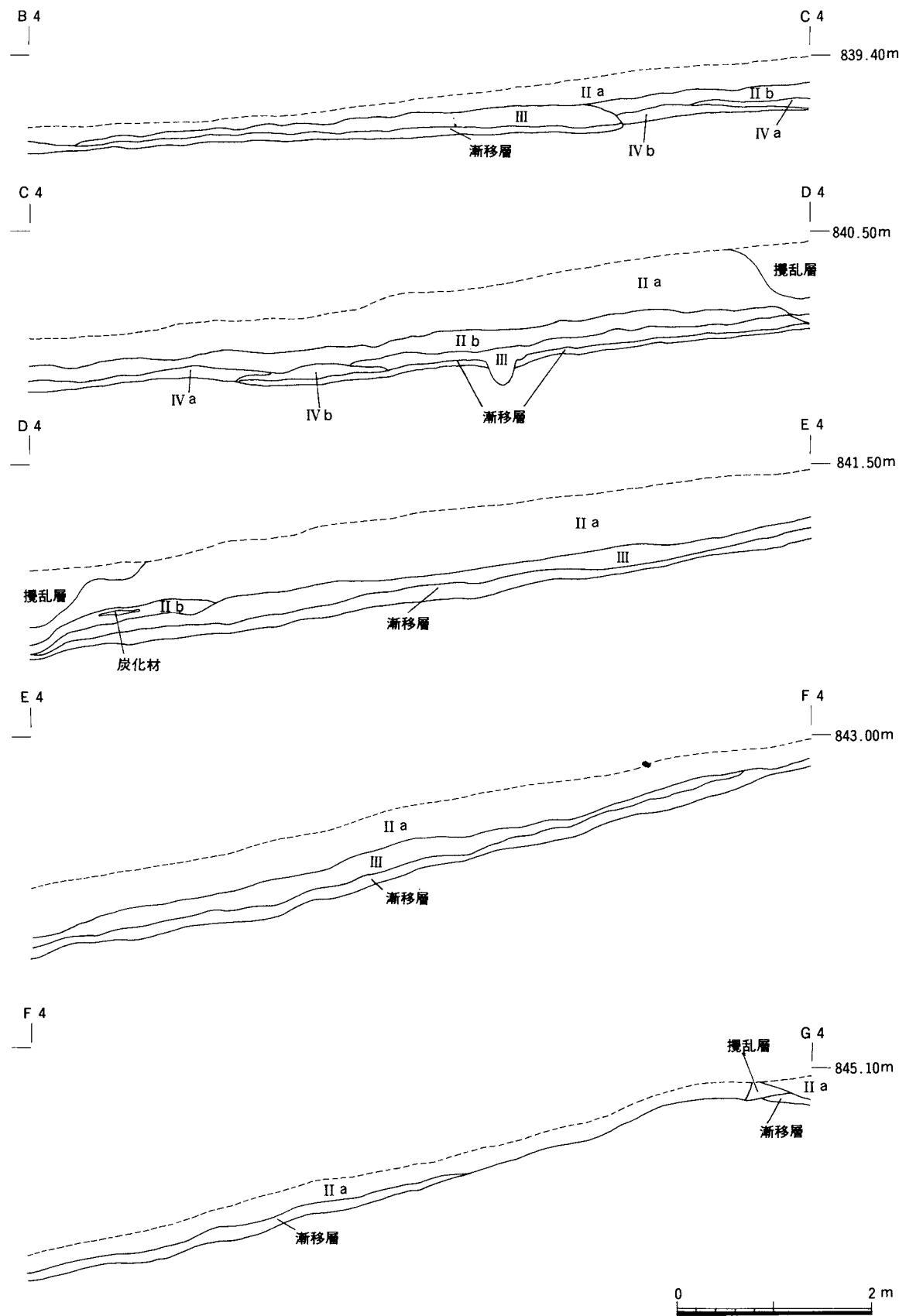
### SK1(第88図)

H6区で検出された。3.0×1.7mの大きさで、深さは約70cmである。最下部の黒色土の層から土器、石器類が出土した。第92図1～9に見られるように無文の土器が多いが、時期は縄文後期であろう。

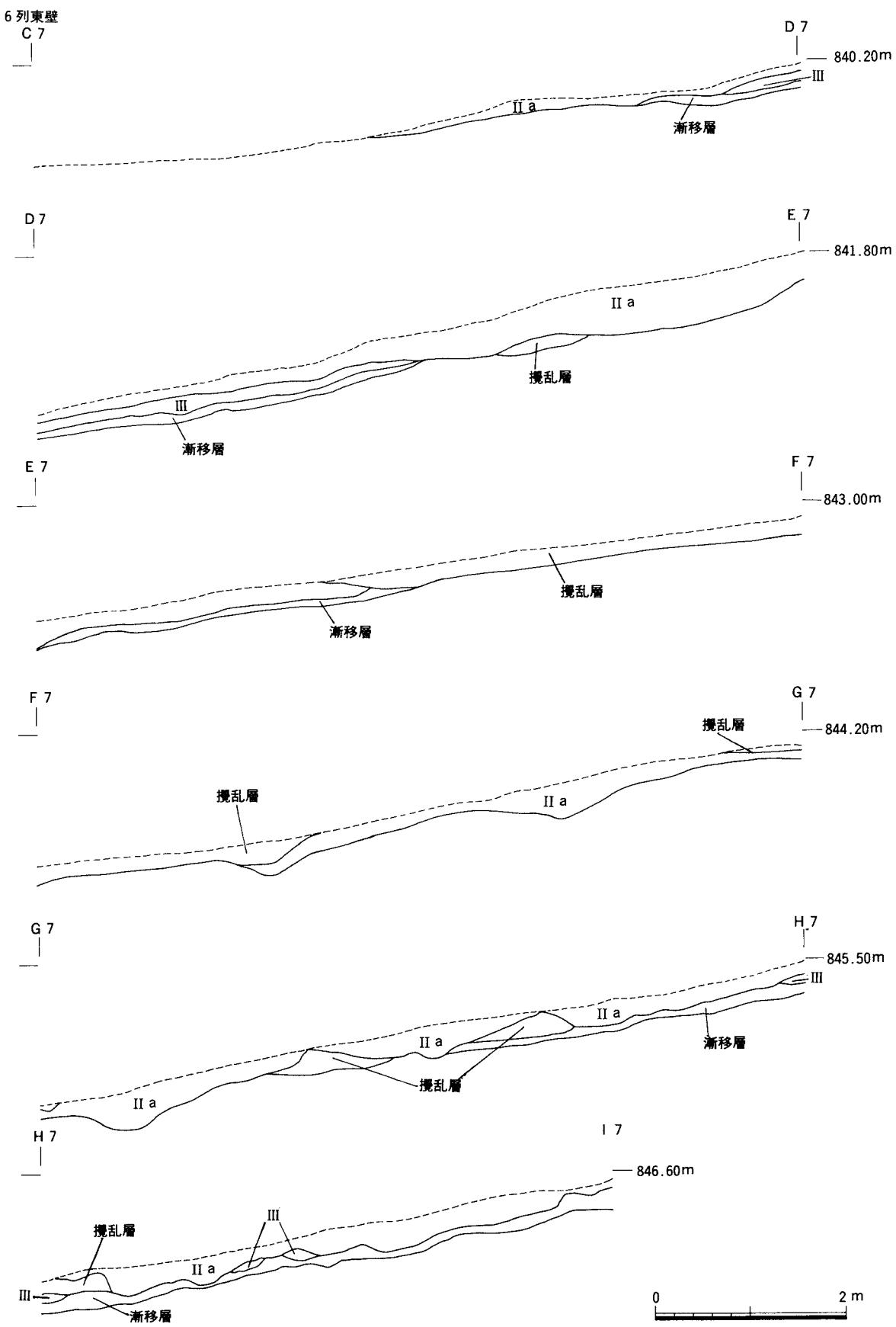
### SK2(第88図)

H8区で検出された。2.3×1.0mの大きさで、深さは約60cmである。長さ約30cmの石が覆土中にあつた。無文の土器が出土している(第92図10)。

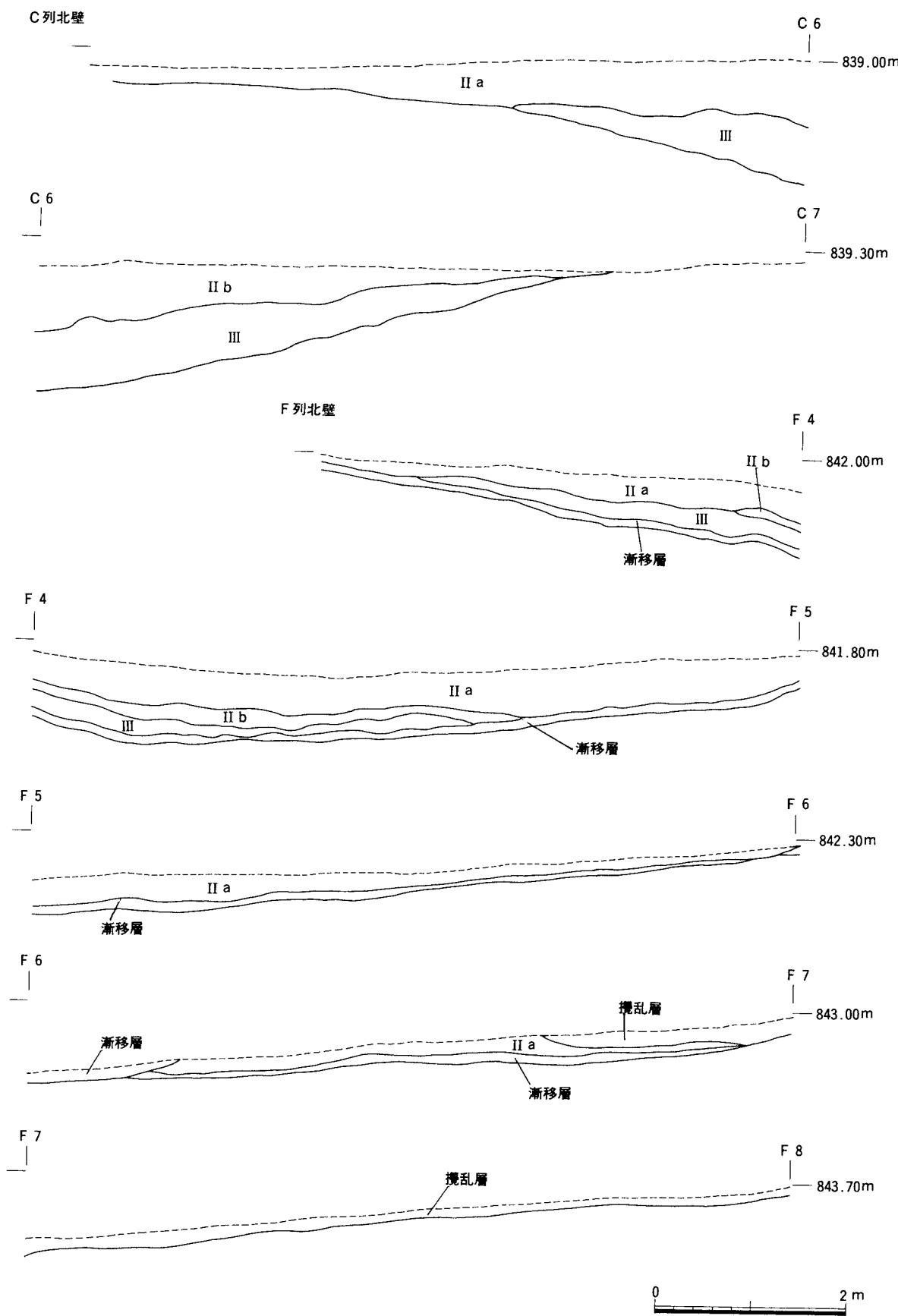
3列東壁



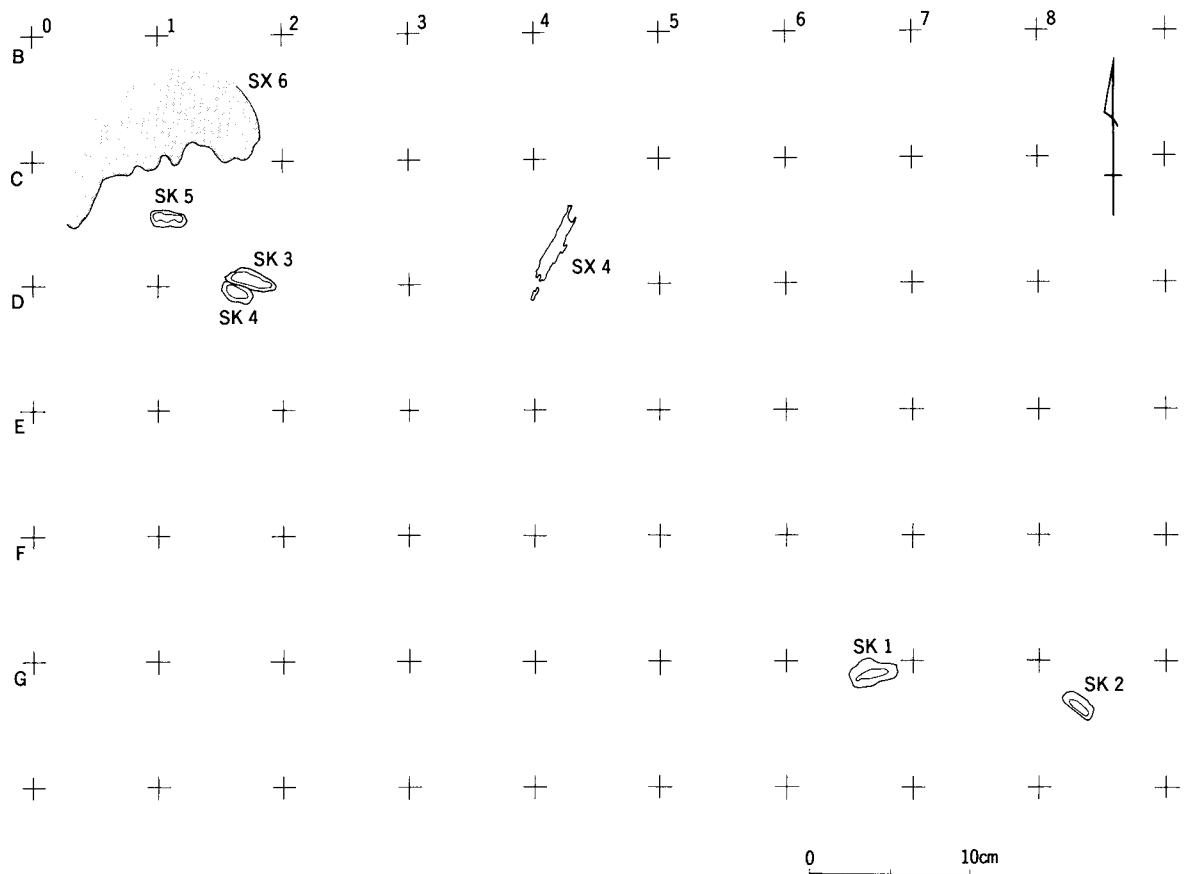
第84図 C地点土層図(1)



第85図 C地点土層図(2)



第86図 C地点土層図(3)



第87図 C地点遺構配置図

**SK 3 (第88図)**

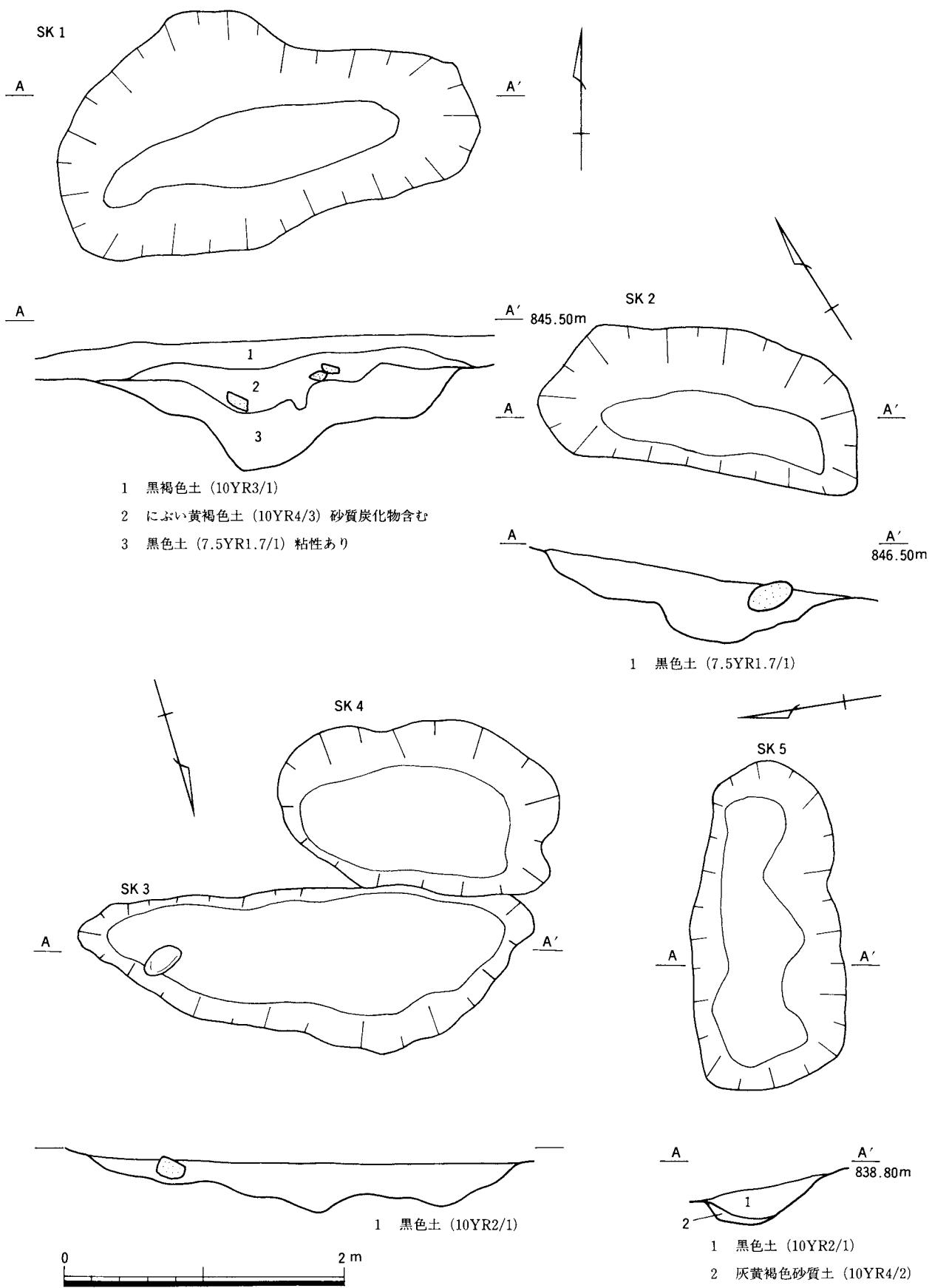
D 1区からE 1区にかけて位置する。3.3×1.2mの大きさで、深さは約35cmである。SK 4と接している。長さ約30cmの石が覆土中にあった。縄文後期中葉の土器片（第92図11～22）が出土している。

**SK 4 (第88図)**

E 1区にあり、SK 3と接している。2.0×1.2mの大きさであるが、プランは一部推定を含む。第92図23～25のような土器が出土している。時期は縄文後期であろう。

**SK 5 (第88図)**

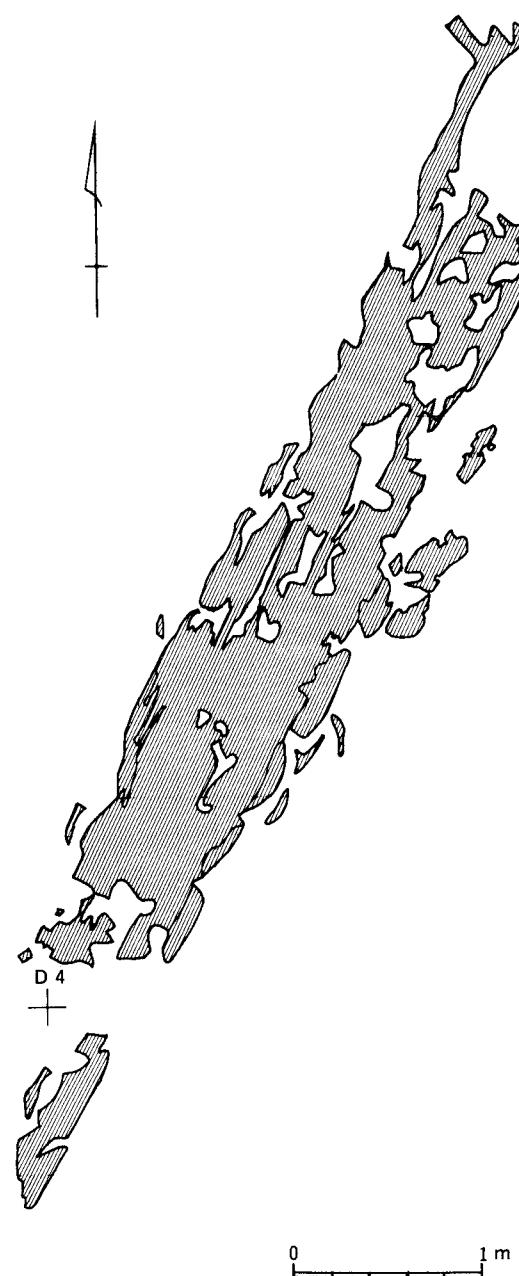
D 1区で検出された。2.3×1.1mの大きさで、深さは約40cmである。第92図26の土器などから見て、時期は縄文後期中葉であろう。



第88図 C地点土坑

## 巨大炭化木 (SX 4) (第89図、図版32)

D 4 区のII層掘削中に炭化木を検出した。長さ6.72m、幅0.8mの板状を呈しており、厚さは2mmから10mm程度で取り上げは困難であった。加工痕が観察されたが、工具は不明である。樹種はヒノキ科で、年代測定の結果は後述するように暦年代で AD1200年代の数字が出ている。



第89図 C地点巨大炭化木

## 炭化材集中出土地点 (SX 6) (第90図、図版32)

C 0区の當時湧水する地点から炭化木片や小丸太、板状木片さらに加工痕のある竹片が集中的に出土した。周辺から縄文土器片も出土しているが、いずれも磨耗が激しい。取り上げた材の樹種同定と年代測定の結果は後述するが、暦年代は AD 1,290年という数字が出ている。



第90図 C 地点炭化材集中出土地点

## 第4節 遺 物

遺物は、全体には散漫な状況で出土したが、上記の炭化材集中地点付近で、多くの土器、石器が出土した。ただし、土器片は磨耗が激しく流れ込みのものであろう。

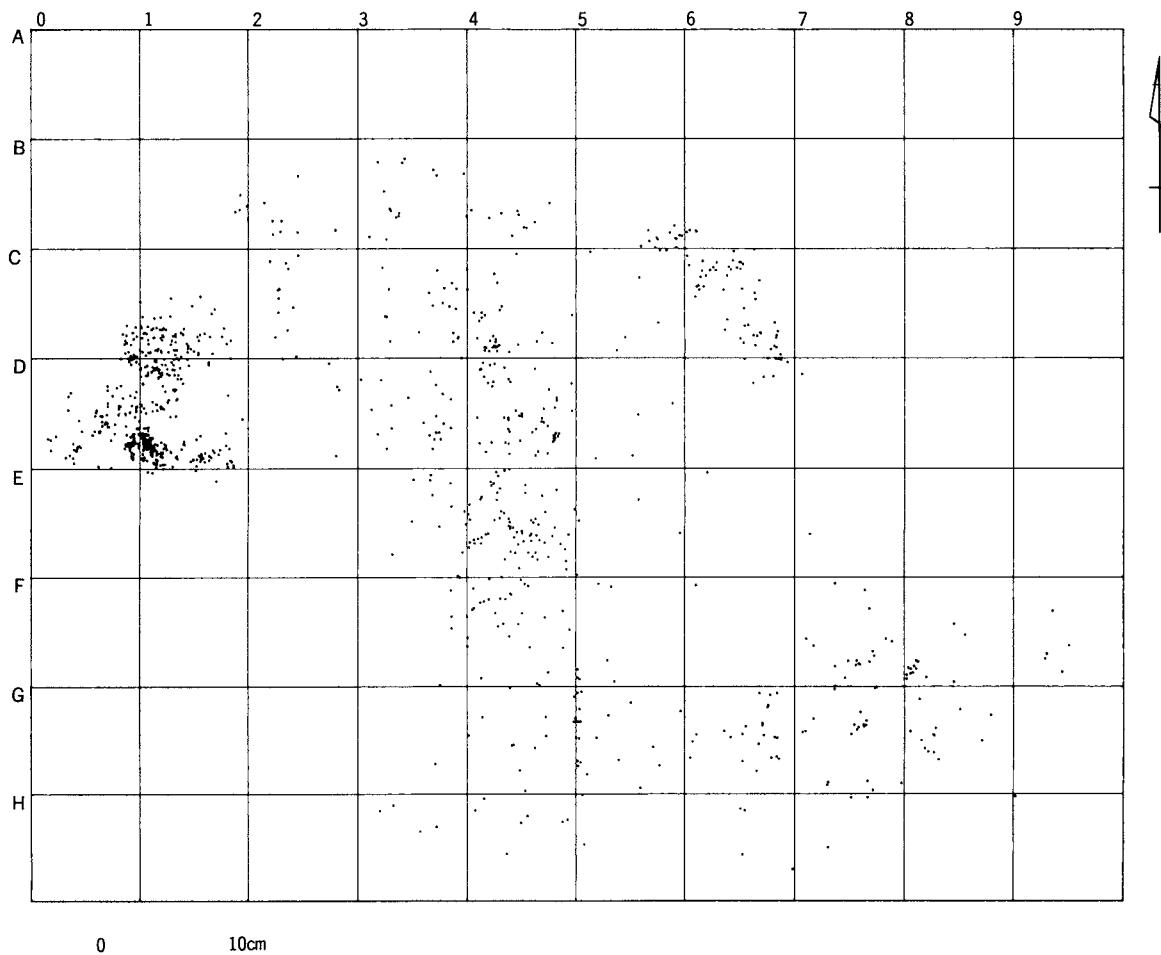
遺物点数は、縄文土器片約3,400点、石器類約200点、須恵器・陶磁器類約100点の計約3,700点出土している。須恵器は図示し得ないが、甕の破片が数点出土している。SX 4・SX 6など歴史時代の遺構もあるので、その関連性が予想される。

### 1 縄文土器

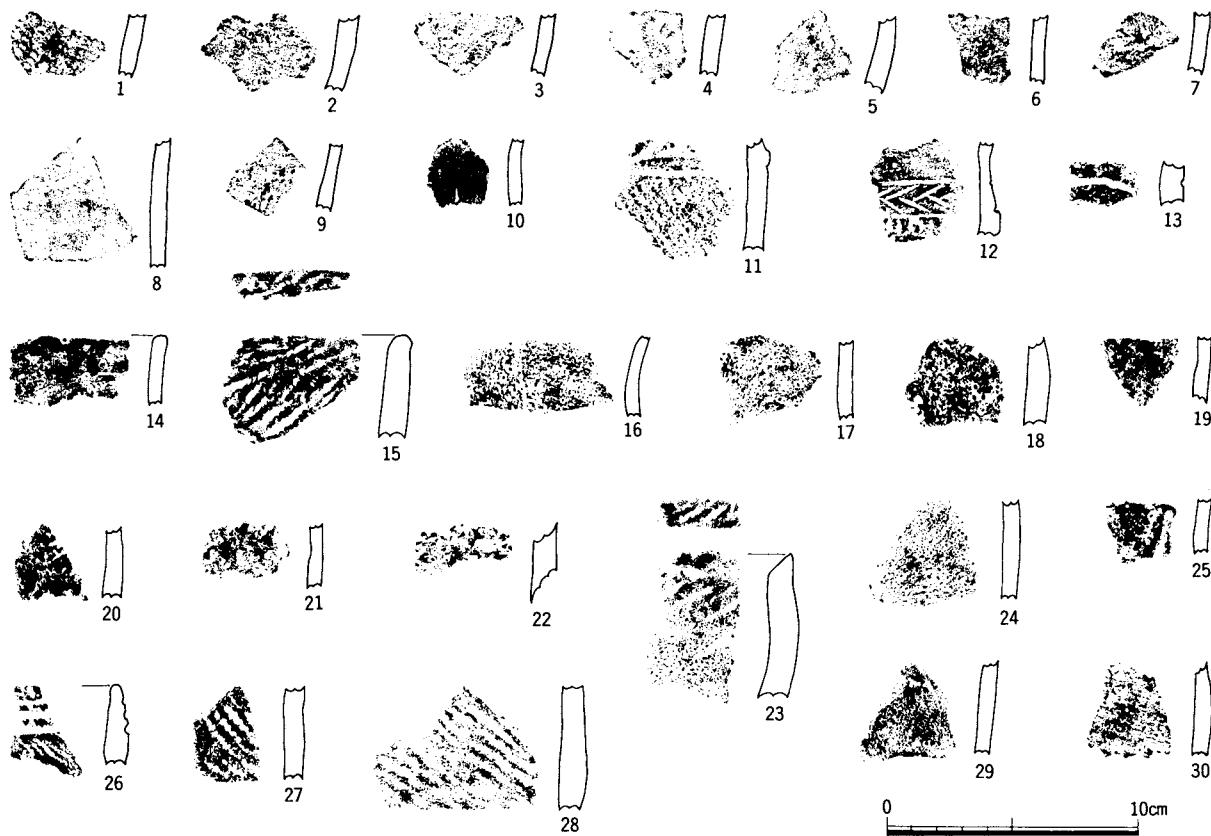
ほとんどが第II層から第III層にかけての遺物包含層から出土したものである。第IV層から第V層にかけては、部分的にわずかに出土しているにすぎない。

#### 遺構出土の縄文土器（第92図、図版33）

図示したのは、いずれも土坑(SK)出土のものである。無文の土器片が多いが、一部の有文土器や、



第91図 C地点遺物出土状況



第92図 C地点遺構出土の縄文土器

まわりの土器の出土状況から見て、縄文後期中葉から後葉にかけてのものであろう。

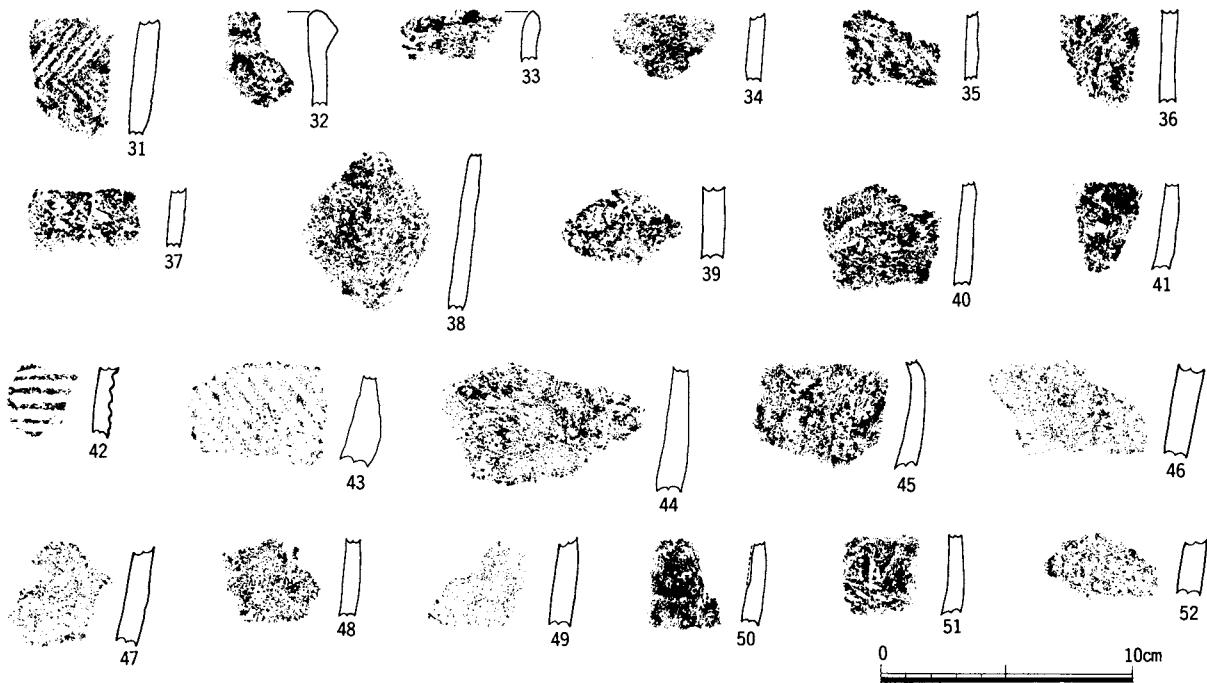
1～9はSK 1出土のものである。1はLRの縄文が施されている。他は無文である。10はSK 2出土である。にぶい赤褐色を呈する無文の土器である。11～22はSK 3出土のものである。11は縄文地に沈線が横走する。12は2本の沈線間に矢羽根状沈線が施されている。その下のややふくらんだ所に連続刺突文がある。13は沈線が1本横走する。14・15は口縁部である。磨耗が激しい。15には表面と口唇部に縄文が施されている。16～22は無文である。23～25はSK 4出土である。23はゆるやかに内湾する口縁部で、面取りされた口縁端部と表面に縄文が施されている。24・25は無文である。26～30はSK 5出土のものである。26は直立する口縁部で、口縁に沿って沈線が3本横位に施されている。27・28はいずれもLRの縄文が施されている。29・30は無文である。

#### 第V層出土の縄文土器（第93図31～41、図版33）

発掘当初、D 4区の北西杭の周辺に落ち込みがあり、SX 5として調査を進めた地点で、最下層の第V層より出土したものである。いずれも、水がつき磨耗が激しい。31には羽状縄文が認められる。32・33は口縁部である。前者は肥厚した口縁が直立しており、後者はやや外反している。32～39はいずれも無文である。

#### 第IV層出土の縄文土器（第93図42～52、図版33）

第V層と同様に磨耗が激しい。上記のSX 5の地点とD 1・D 4区出土のものが図示してある。42は



第93図 C地点包含層出土の縄文土器(1)第V層、第IV層

沈線が5本横位に施されている。43はLRの縄文が施文されている。44~52はいずれも無文の土器である。

#### 第II~III層出土の縄文土器（第94~99図、図版34~36）

第II層から第III層にかけての遺物包含層出土の縄文土器は、一括して記述する。全体的には、後期中葉から後葉にかけてのものが多く、わずかに晩期のものを含む。以下、有文土器をI群（後期の土器）、II群（晩期の土器）とし、無文の土器をIII群として、分類ごとに記述する。

##### I群 後期の土器（第94・95図、図版34）

後期中葉から後葉にかけてのものが主である。以下、時期および施文により分類して記述する。

###### 1類 後期前葉の土器（第94図53、図版34）

口縁端部に沈線が2本施されている。縁帶文系土器と考えられる。

###### 2類 後期中葉から後葉の土器（第94図54~83、第95図84~137、図版34）

###### a類 (54~56)

同一個体である。内湾する口縁部に縦に短くて細い隆帯が連続的に施され、隆帯間に2列対になつた刺突が4個ずつ施されている。

###### b類 (57・58)

短沈線が斜位に施されている。58は浅鉢である。加曾利B I式段階であろう。

###### c類 (59~65)

矢羽根状沈線が施されているものである。60はやや開きながら立ち上がる器形で、口縁部に縄文が施され、2本の横位の沈線の下に矢羽根状沈線がある。59・61~63にも縄文が施文されている。

#### d類 (66)

船形を呈する浅鉢形土器である。磨消縄文が施され、沈線は、大小の渦巻きが対をなし、数本単位の弧線文で結ばれている。

#### e類 (68)

くの字に折れて内湾する鉢形土器である。口辺部には、上下に沈線が2本ずつ横走し、その間には沈線が曲線的に展開する。基本的には横に長い日の字状の文様が単位になっており、3段にわたって施文されている。その単位の間に円筒状の刺突が2個ずつ施されている。口縁部と胴部には、無節の縄文が施されている。補修孔も見られる。

#### f類 (70~83)

縄文地に沈線が施されている。70~82は沈線が横位に施される。70~76は口縁部である。真っ直ぐあるいはやや内湾しながら立ち上がる平口縁である。口縁に沿って1~4本の沈線が施されている。83は沈線が縦位に施されている。

#### g類 (84~89)

磨消縄文が施されるものである。84はやや内湾する平口縁で、沈線が3粗本ずつ2段にわたって施されている。85・87はやや外反する。

#### h類 (90~123)

沈線文の土器である。90~108は沈線が横位に施される。94は浅鉢である。109~123は沈線が曲線的に施される。109~112は同一個体である。

#### i類 (124~127)

幅が広くて深い沈線が施されている。124~125は口縁部でやや外反している。127は幅広の沈線の下部に細い沈線が斜位に3本単位で施されている。

#### j類 (128~133)

隆帯が施されている。128~129は口縁部で真っ直ぐ立ち上がる。133には隆帯上には刺突が連続的に施されている。

#### k類 (134~137)

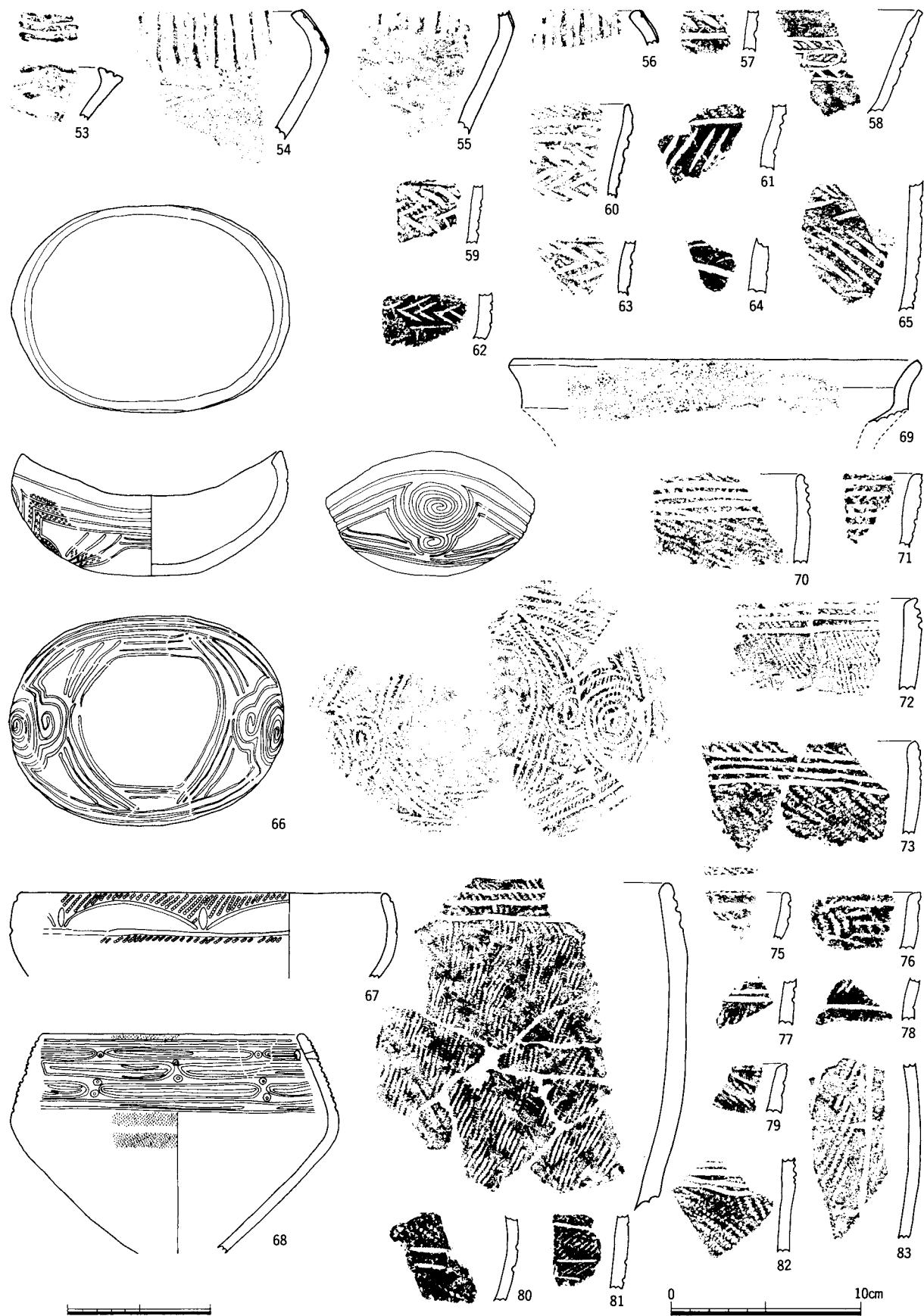
刺突が施されるものである。134はやや肥厚した小波状口縁の土器で、沈線が横走し、小さい刺突が連続する。135~137は沈線間に刺突が施されている。136は2列の刺突列と、縄文の組み合わせである。

## II群 晩期の土器 (第95図138~144、図版34)

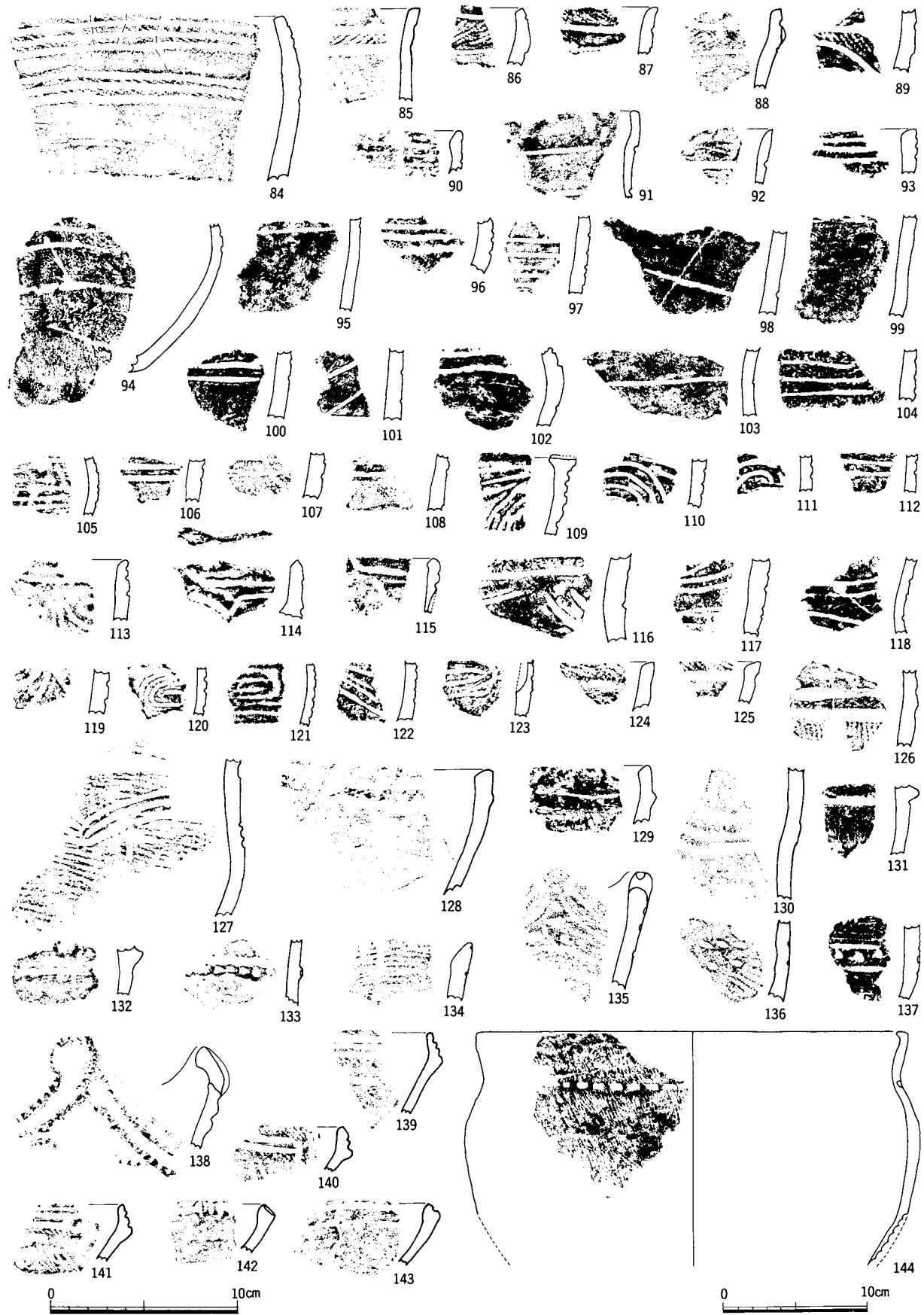
北陸の御経塚式から中屋式にかけてものである。

#### 1類 御経塚式段階に相当するもの (第95図138~143、図版34)

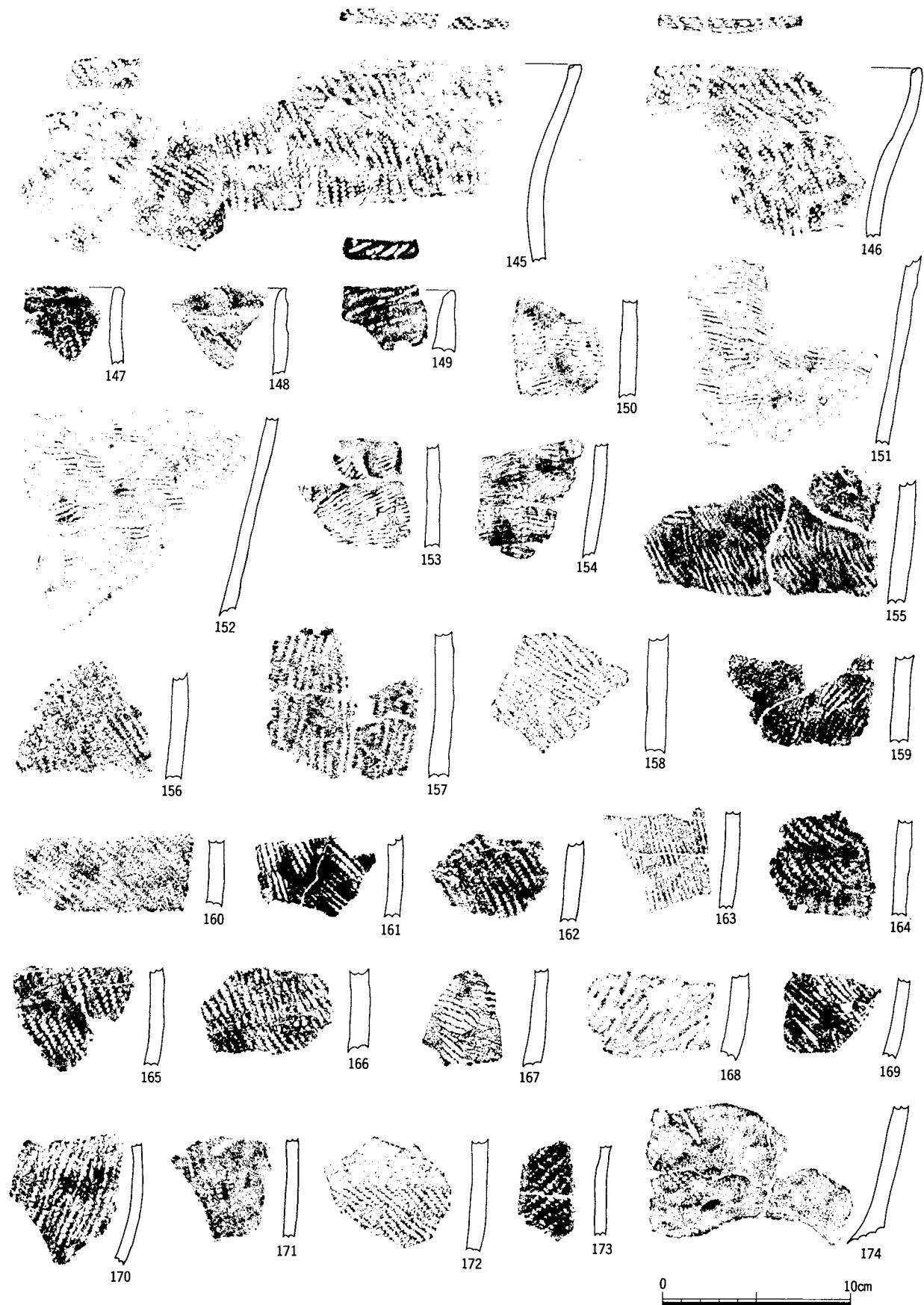
138は、波状口縁で2本1組の隆帯が口縁部に沿って展開し、刺突が施されている。139~141は同一固体で、外反しながら直立する口縁で、口辺部に平行沈線と縦位の沈線が施され、頸部に斜位に沈線が施されている。142は口縁部に区切りの沈線と横位の沈線が施されている。



第94図 C地点包含層出土の縄文土器(2) I群1・2類



第95図 C地点包含層出土の縄文土器(3) I群2類、II群



第96図 C地点包含層出土の縄文土器(4)III群 1類

## 2類 中屋式段階に相当するもの（第95図144、図版34）

1個体のみである。B3区に集中的に出土した。非常にやすく接合・復元が困難であった。頸部のくびれは弱い。くびれ部に方形の刺突が連続的に施文されている。地文は条痕である。

## III群 無文土器（第96～99図、図版35・36）

## 1類 繩文施文の土器（第96図、図版35）

145・146は同一個体である。やや外反しながら立ち上がる。平口縁で口縁端部にも縩文が施される。147は口縁端部は丸く148は細くなっている。149は内側に面取りされ、そこに縩文が施文される。151～174は胴部片である。151～154は短い単位の縩文が浅く施文される。

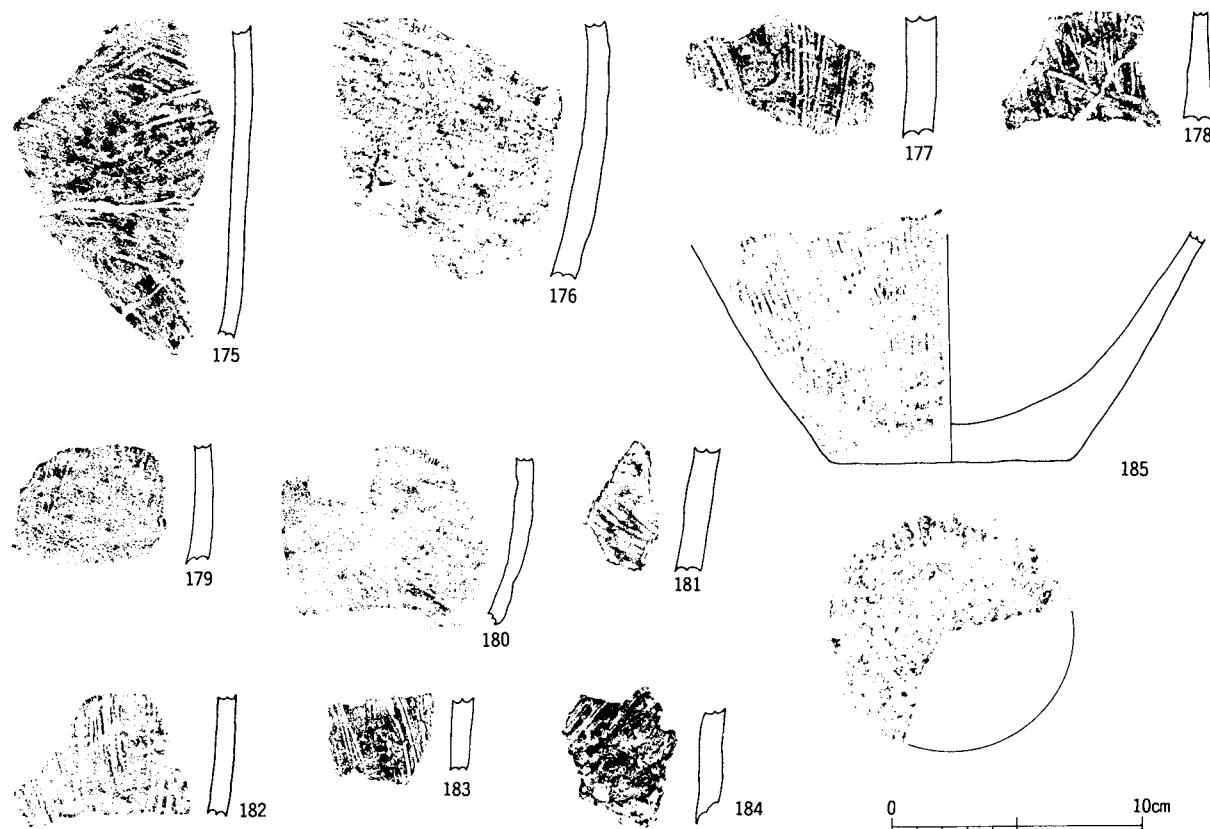
## 2類 条線文施文の土器（第97図、図版35）

かすかに条線が観察されるものである。185の底部の網代压痕は、1本越え1本潜り1本送りである。

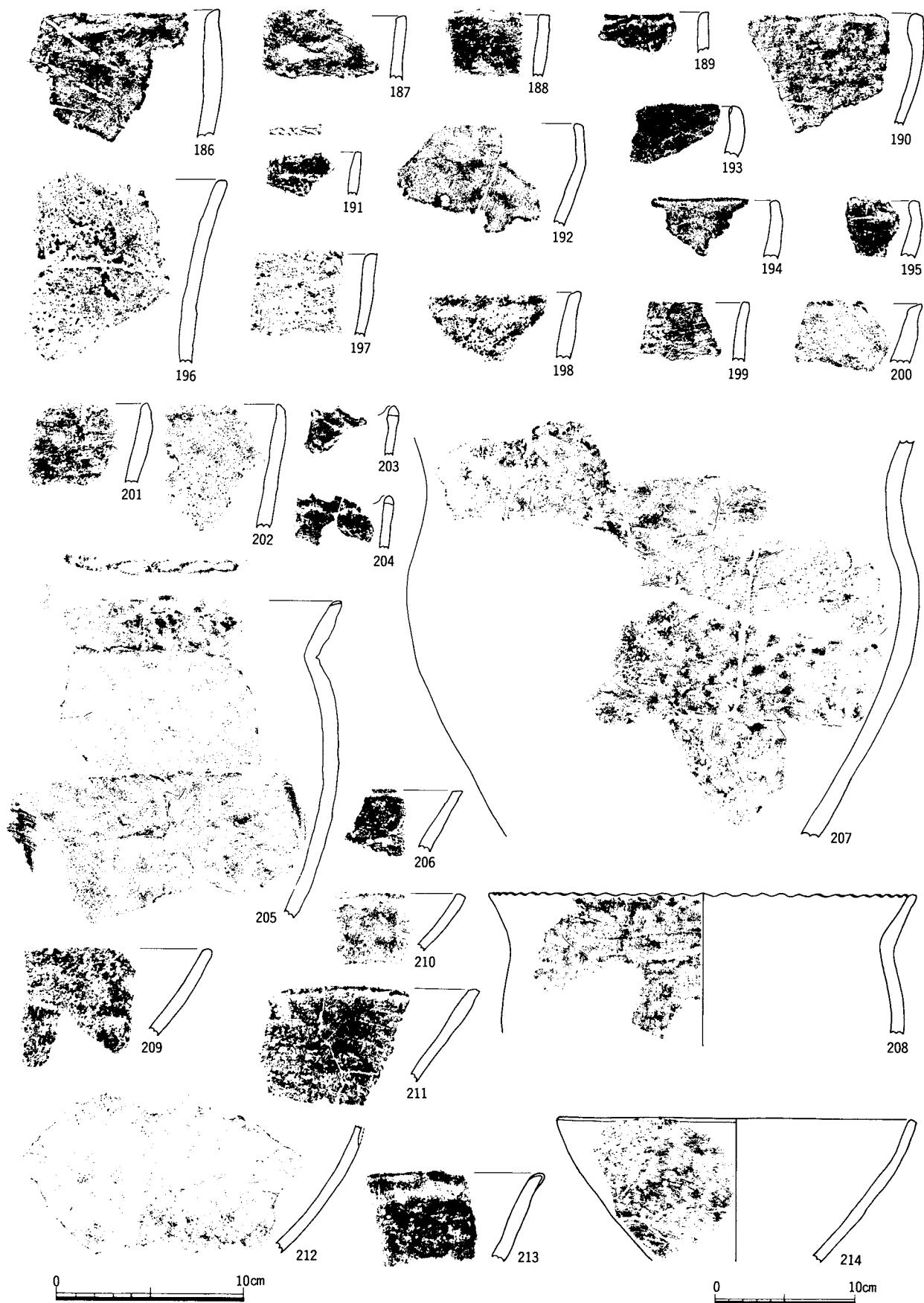
## 3類 無文の土器（第98・99図、図版36）

鉢形土器の口縁部の形態から見ると、直立あるいはやや内湾するもの（186～195）と外反するもの（196～206・208）がある。後者のうち、203～206・208はくの字状に折れて、口縁端部に指押さえや連続刺突が見られるものがある。207も器形的に見て同じ類になる。

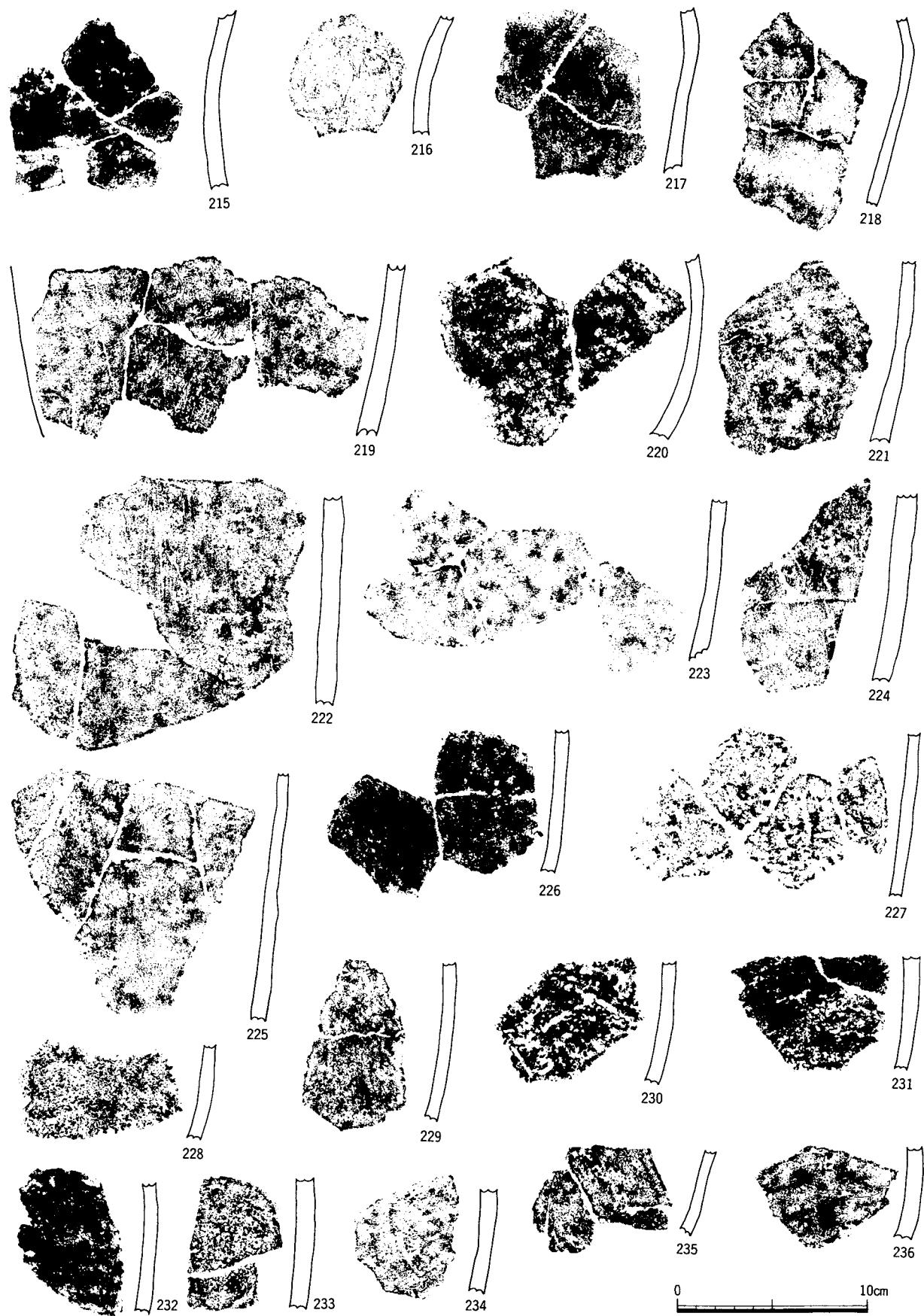
209～214は浅鉢であり、215～236は器形不明の胴部片である。



第97図 C地点包含層出土の縩文土器(5)III群2類



第98図 C地点包含層出土の縄文土器(6)III群 3類



第99図 C 地点包含層出土の縄文土器(7)III群 3類

## 底部

底部は48点出土している。分類はA地点に準ずる。器形については、Aが5点、Bが22点、Cが11点、不明10点である。網代圧痕は、A1が2点、A2が6点、A3が2点、A5(「3本越え2本潜り、1本送り」)が1点、B(「4本越え1本潜り1本送り」)が1点、網代不明15点である。葉脈痕は、網状脈が5点出土している。その他は、ナデ仕上げが8点、不明4点である。

第10表 C地点縄文土器観察表

番号	地区	層	器種	残存度	文様・調整	焼成	胎土	色調
1	SK1	—	A	b	縄文	b	2.5Y6/2	灰黄色
2	SK1	—	A	b	無文	b	2.5Y7/3	浅黄色
3	SK1	—	A	b	無文	b	2.5Y7/4	浅黄色
4	SK1	—	A	b	無文	b	10YR5/4	にぶい黄褐色
5	SK1	—	A	b	無文	b	5YR5/6	明赤褐色
6	SK1	—	A	b	無文	b	2.5Y7/3	浅黄色
7	SK1	—	A	b	無文	b	10YR7/3	にぶい黄橙色
8	SK1	—	A	b	無文	b	2.5Y7/4	浅黄色
9	SK1	—	A	b	無文	b	2.5Y7/3	浅黄色
10	SK2	—	A	b	無文	b	5YR5/4	にぶい赤褐色
11	SK3	—	A	b	隆帶・縄文	c	10YR5/4	にぶい黄橙色
12	SK3	—	A	b	沈線	b	5YR6/8	橙色
13	SK3	—	A	b	沈線	c	7.5YR3/1	黒褐色
14	SK3	—	A	b	無文	b	10YR8/4	浅黄橙色
15	SK3	—	A	b	縄文	b	2.5Y8/3	淡黄色
16	SK3	—	A	b	無文	c	7.5YR6/8	橙色
17	SK3	—	A	b	無文	c	2.5Y7/1	灰白色
18	SK3	—	A	b	無文	c	7.5YR6/8	橙色
19	SK3	—	A	b	無文	b	5YR5/6	明赤褐色
20	SK3	—	A	b	無文	c	5YR5/4	にぶい赤褐色
21	SK3	—	A	b	無文	c	10YR6/4	にぶい黄橙色
22	SK3	—	A	b	無文	c	10YR7/4	にぶい黄橙色
23	SK4	—	A	b	縄文	b	2.5Y8/3	淡黄色
24	SK4	—	A	b	無文	b	7.5YR7/6	橙色
25	SK4	—	A	b	無文	b	7.5YR7/8	黄橙色
26	SK5	—	A	b	沈線・縄文	c	10YR6/2	灰黄褐色
27	SK5	—	A	b	縄文	b	7.5YR6/4	にぶい橙色
28	SK5	—	A	b	縄文	b	7.5YR7/4	にぶい橙色
29	SK5	—	A	b	無文	b	10YR8/2	灰白色
30	SK5	—	A	b	無文	b	10YR7/3	にぶい黄橙色
31	D 4	V	A	b	縄文	b	7.5YR7/4	にぶい橙色
32	D 4	V	A	a	隆帶	b	7.5YR7/4	にぶい橙色
33	D 4	V	A	a	無文	b	10YR8/3	浅黄橙色
34	D 4	V	A	b	無文	b	2.5Y6/2	灰黄色
35	D 4	V	A	b	刺突	c	2.5Y7/3	灰黄色
36	D 4	V	A	b	無文	b	10YR7/3	にぶい黄橙色
37	D 4	V	A	b	無文	b	7.5YR6/4	にぶい橙色
38	D 4	V	A	b	無文	b	10YR7/3	にぶい黄橙色
39	D 4	V	A	b	無文	b	10YR6/3	にぶい黄橙色
40	D 4	V	A	b	無文	b	10YR7/3	にぶい黄橙色
41	D 4	V	A	b	無文	b	10YR5/2	灰黄褐色
42	D 4	IV	A	b	無文	d	2.5Y6/2	灰黄色
43	D 1	IV	A	b	縄文	b	7.5YR6/6	橙色
44	D 4	IV	A	b	縄文	b	10YR7/3	にぶい黄橙色
45	D 4	IV	A	b	縄文	b	10YR8/3	浅黄橙色
46	D 4	IV	A	b	無文	d	10YR6/4	にぶい黄橙色
47	D 4	IV	A	b	無文	d	10YR6/3	にぶい黄橙色
48	D 4	IV	A	b	無文	b	10YR7/3	にぶい黄橙色
49	D 4	IV	A	b	無文	d	10YR7/3	にぶい黄橙色
50	D 4	IV	A	b	無文	b	7.5YR6/4	にぶい橙色
51	D 4	IV	A	b	無文	b	10YR6/2	灰黄褐色
52	D 4	IV	A	b	無文	d	10YR7/4	にぶい黄橙色
53	G 6	II	A	a	沈線	b	10YR6/3	にぶい黄橙色
54	D 0	II	A	a	隆帶	b	10YR5/2	灰黄褐色
55	D 0	II	A	a	隆帶	b	10YR5/2	灰黄褐色
56	D 0	II	A	a	隆帶	b	10YR5/2	灰黄褐色
57	E 5	II	A	b	沈線・縄文	b	7.5YR4/2	灰褐色
58	B 5	II	A	a	沈線・縄文	b	7.5YR6/4	にぶい橙色
59	D 1	III	A	b	沈線・縄文	b	7.5YR6/2	灰褐色
60	D 0	III	A	a	沈線・縄文	b	10YR5/1	褐灰色
61	D 1	III	A	b	沈線	b	7.5YR4/2	灰褐色
62	D 1	II	A	b	リ	b	5YR6/8	橙色
63	D 0	III	A	b	沈線・縄文	b	10YR6/3	にぶい黄橙色
64	D 1	III	A	b	沈線	b	5YR5/3	にぶい赤褐色
65	D 1	III	A	b	沈線	b	5YR5/3	にぶい赤褐色
66	D 0	III	C	1/2	沈線・縄文	b	10YR6/6	明黄褐色
67	D 1	II	B	a	沈線・縄文	b	7.5YR6/4	にぶい橙色
68	D 1	II	B	2/3	沈線・縄文	b	10YR6/3	にぶい黄橙色
69	D 1	II	A	a	沈線	d	2.5Y7/4	浅黄色
70	C 0	II	A	a	沈線・縄文	b	10YR6/6	明黄褐色

番号	地区	層	器種	残存度	文様・調整	焼成	胎 土	色 調
71	D 1	II	A	a	沈線・縄文	b	b	10YR7/4 明黄褐色
72	C 1	II	A	a	沈線・縄文	b	b	10YR7/2 にぶい黄橙色
73	D 0	II	A	a	沈線・縄文	b	b	10YR6/3 にぶい黄橙色
74	D 1	III	A	a	沈線・縄文	b	b	7.5YR6/4 にぶい橙色
75	D 1	III	A	a	沈線・縄文	b	b	7.5YR5/3 にぶい褐色
76	C 1	II	A	a	沈線・縄文	b	b	10YR6/3 にぶい黄橙色
77	H 5	II	A	b	沈線・縄文	b	b	7.5YR8/2 灰褐色
78	D 1	III	A	b	沈線・縄文	b	b	7.5YR7/6 橙色
79	H 6	III	A	a	沈線・縄文	b	b	7.5YR7/4 にぶい橙色
80	H 7	II	A	b	沈線・縄文	b	b	10YR6/6 明黄褐色
81	E 6	II	A	b	沈線・縄文	b	b	7.5YR6/8 橙色
82	D 1	III	A	b	沈線・縄文	b	b	10YR6/4 にぶい黄橙色
83	G 7	II	A	b	沈線・縄文	b	b	2.5Y7/4 浅黄色
84	D 6	III	A	a	沈線・縄文	b	b	2.5Y6/1 黄灰色
85	D 0	III	A	a	沈線・縄文	b	b	10YR4/2 灰黄褐色
86	D 1	III	A	a	沈線・縄文	b	b	2.5Y7/4 浅黄色
87	C 4	II	A	a	沈線・縄文	b	b	10YR6/3 にぶい黄橙色
88	D 0	III	A	a	沈線・縄文	b	b	10YR6/2 灰黄褐色
89	C 4	II	A	b	沈線・縄文	b	b	5YR4/4 にぶい赤褐色
90	D 1	III	A	a	沈線	b	b	10YR7/4 にぶい黄橙色
91	D 1	III	A	a	沈線	c	b	2.5Y6/3 にぶい黄色
92	H 4	II	A	a	沈線	b	b	5YR6/6 橙色
93	C 1	II	A	a	沈線	b	b	10YR6/4 にぶい黄橙色
94	C 6	III	A	b	沈線	b	b	7.5YR6/4 にぶい褐色
95	B 5	III	A	b	沈線	b	b	10YR6/4 にぶい黄橙色
96	C 1	II	A	b	沈線	c	b	7.5YR5/4 にぶい褐色
97	B 3	II	A	b	沈線	b	b	10YR6/4 にぶい黄橙色
98	D 1	II	A	b	沈線	b	b	10YR7/3 にぶい黄橙色
99	D 0	II	A	b	沈線	b	b	5YR6/4 にぶい橙色
100	D 6	III	A	b	沈線	c	b	7.5YR6/4 にぶい橙色
101	D 1	III	A	b	沈線	b	b	5YR3/3 暗赤褐色
102	D 1	III	A	b	沈線	b	b	5YR5/6 明赤褐色
103	D 1	III	A	b	沈線	b	b	10YR7/4 にぶい黄橙色
104	B 3	II	A	b	沈線	c	b	7.5YR7/6 橙色
105	D 1	III	A	b	沈線	b	b	10YR6/2 灰黄褐色
106	E 3	II	A	b	沈線	b	b	7.5YR6/4 にぶい橙色
107	C 6	III	A	b	沈線	c	b	7.5YR3/3 暗褐色
108	E 3	—	A	b	沈線	b	b	10YR6/3 にぶい黄橙色
109	F 4	III	A	a	沈線	b	b	7.5YR8/3 浅黄橙色
110	F 4	II	A	b	沈線	b	b	7.5YR8/3 浅黄橙色
111	F 3	III	A	b	沈線	b	b	7.5YR8/3 浅黄橙色
112	E 4	III	A	b	沈線	b	b	10YR8/3 浅黄橙色
113	E 4	III	A	a	沈線	b	b	5YR5/6 明赤褐色
114	F 9	II	A	a	沈線	b	b	5YR6/4 にぶい橙色
115	C 1	II	A	a	沈線	b	b	10YR7/3 にぶい黄橙色
116	D 1	II	A	b	沈線	b	b	2.5YR4/3 灰赤色
117	C 6	III	A	b	沈線	c	b	5YR5/4 にぶい赤褐色
118	H 3	—	A	b	沈線	b	b	5YR5/4 にぶい赤褐色
119	E 3	—	A	b	沈線	b	b	7.5YR6/4 にぶい橙色
120	G 6	II	A	b	沈線	b	b	7.5YR6/4 にぶい橙色
121	D 1	III	A	b	沈線	b	b	7.5YR6/2 灰褐色
122	B 6	III	A	b	沈線	c	b	5YR4/6 赤褐色
123	C 6	III	A	b	沈線	c	b	5YR6/6 橙色
124	C 6	—	A	a	沈線・縄文	b	b	7.5YR5/4 にぶい褐色
125	D 6	III	A	a	沈線・縄文	b	b	5YR6/2 灰褐色
126	E 9	—	A	b	沈線・縄文	b	b	2.5Y7/4 浅黄色
127	D 1	III	A	b	沈線	b	b	10YR6/3 にぶい黄橙色
128	D 1	III	A	a	沈線	b	b	10YR7/2 にぶい黄橙色
129	C 1	II	A	a	隆帶	c	b	2.5Y8/2 灰白色
130	D 1	III	A	b	隆帶	b	b	2.5Y7/4 浅黄色
131	F 3	III	A	b	隆帶	b	b	10YR7/2 にぶい黄橙色
132	E 3	II	A	b	隆帶	b	b	10YR6/3 にぶい黄橙色
133	D 0	III	A	b	隆帶	b	b	10YR6/4 にぶい黄橙色
134	B 2	III	A	a	沈線・刺突	b	b	5YR4/6 赤褐色
135	D 0	III	A	a	沈線・刺突	b	b	2.5Y6/4 にぶい黄色
136	D 1	III	A	b	刺突・縄文	b	b	2.5Y6/3 にぶい黄色
137	B 1	II	A	b	沈線・刺突	b	b	7.5YR6/4 にぶい橙色
138	D 1	III	A	a	隆帶	d	b	10YR5/4 にぶい黄橙色
139	D 1	III	A	a	(1 ~ 2 mmの砂粒)	b	b	2.5Y7/3 浅黄色
140	D 1	III	A	a	(1 ~ 2 mmの砂粒)	b	b	2.5Y7/3 浅黄色
141	D 1	III	A	a	(1 ~ 2 mmの砂粒)	b	b	2.5Y7/3 浅黄色
142	E 0	III	A	a	(1 ~ 2 mmの砂粒)	b	b	7.5YR5/4 にぶい褐色
143	D 1	III	A	a	(1 ~ 2 mmの砂粒)	b	b	7.5YR6/6 橙色
144	B 5	III	A	1 / 5	刺突・条痕	d	b	2.5Y6/3 にぶい黄色
145	D 0	III	A	a	縄文	b	b	7.5YR6/4 にぶい橙色
146	D 0	III	A	a	縄文	b	b	7.5YR6/4 にぶい橙色
147	D 1	—	A	a	縄文	b	b	7.5YR6/4 にぶい橙色
148	H 4	II	A	a	縄文	b	b	5YR5/6 明褐色
149	D 1	III	A	a	縄文	b	b	10YR7/2 にぶい黄橙色
150	G 6	II	A	b	"	b	b	2.5Y7/3 浅黄色
151	D 1	III	A	b	"	b	b	2.5Y7/2 灰黄色
152	D 0	III	A	b	"	b	b	2.5Y7/2 灰黄色
153	G 6	III	A	b	"	b	b	2.5Y7/2 灰黄色

番号	地区	層	器種	残存度	文様・調整	焼成	胎土	色調
154	G 5	II	A	b	縄文	b	b	10YR5/2 灰黄褐色
155	D 1	III	A	b	縄文	b	b	10YR6/4 にぶい黄橙色
156	C 1	II	A	b	縄文	b	b	10YR7/4 にぶい黄橙色
157	D 6	III	A	b	縄文	b	b	7.5YR5/6 明褐色
158	C 1	II	A	b	縄文	b	b	7.5YR6/4 にぶい橙色
159	C 1	II	A	b	縄文	b	b	7.5YR6/6 橙色
160	D 1	III	A	b	縄文	b	b	10YR7/4 にぶい黄橙色
161	H 5	II	A	b	縄文	b	b	10YR8/4 浅黄橙色
162	C 1	II	A	b	縄文	b	b	10YR7/4 にぶい黄橙色
163	F 9	III	A	b	縄文	b	b	10YR6/6 明黄褐色
164	C 4	III	A	b	縄文	b	b	7.5YR6/4 にぶい橙色
165	C 0	II	A	b	縄文	b	b	10YR6/2 灰黄褐色
166	C 6	III	A	b	縄文	b	b	7.5YR4/3 褐色
167	C 1	II	A	b	縄文	b	b	7.5YR5/4 にぶい褐色
168	D 1	II	A	b	縄文	b	b	2.5Y7/3 浅黄色
169	F 4	III	A	b	縄文	b	b	7.5YR6/4 にぶい橙色
170	F 9	III	A	b	縄文	b	b	2.5Y5/2 暗灰黄色
171	B 6	III	A	b	縄文	c	b	10YR6/3 にぶい黄橙色
172	H 6	II	A	b	縄文	b	b	2.5Y7/4 浅黄色
173	F 9	II	A	b	縄文	b	b	10YR6/3 にぶい黄橙色
174	G 6	II	A	b	縄文	b	b	10YR7/4 にぶい黄橙色
175	D 1	III	A	b	条痕	b	b	7.5YR6/4 にぶい橙色
176	G 3	—	A	b	条痕(外) 条痕(内)	b	b	7.5YR6/6 橙色
177	D 7	III	A	b	条痕	b	b	7.5YR7/4 にぶい橙色
178	G 4	II	A	b	条痕	b	b	10YR7/3 にぶい黄橙色
179	C 6	III	A	b	条痕	b	b	10YR7/4 にぶい黄橙色
180	D 0	III	A	b	条痕(外) 条痕(内)	b	b	10YR5/4 にぶい黄褐色
181	E 3	II	A	b	条痕(外) 条痕(内)	b	b	2.5Y5/1 黄灰色
182	C 0	III	A	b	条痕	b	b	10YR7/2 にぶい黄橙色
183	H 4	III	A	b	条痕	b	b	2.5Y7/4 浅黄色
184	C 6	III	A	b	条痕	b	b	10YR7/3 にぶい黄橙色
185	D 1	III	A	c	条痕	b	b	7.5YR7/4 にぶい橙色
186	D 1	III	A	a	無文	b	b	10YR7/3 にぶい黄橙色
187	D 4	III	A	a	無文	b	b	10YR7/4 にぶい黄橙色
188	E 4	III	A	a	無文	b	b	10YR4/1 褐灰色
189	D 1	II	A	a	無文	b	b	7.5YR6/6 橙色
190	C 6	III	A	a	無文	b	b	10YR4/2 灰黄褐色
191	G 6	—	A	a	無文	b	b	10YR6/4 にぶい黄橙色
192	D 1	III	A	a	無文	b	b	2.5Y3/2 黑褐色
193	D 1	II	A	a	無文	b	b	10YR4/2 灰黄褐色
194	F 3	II	A	a	無文	b	b	2.5Y7/4 浅黄色
195	F 3	—	A	a	無文	b	b	2.5Y7/4 浅黄色
196	D 1	III	A	a	無文	b	b	10YR6/6 明黄褐色
197	D 1	III	A	a	無文	b	b	10YR7/2 にぶい黄橙色
198	C 4	III	A	a	無文	b	b	10YR7/4 にぶい黄橙色
199	G 6	II	A	a	無文	b	b	10YR4/2 灰黄褐色
200	D 1	III	A	a	無文	c	b	7.5YR6/4 にぶい橙色
201	C 1	II	A	a	無文	b	b	10YR6/6 明黄褐色
202	D 0	III	A	a	無文	b	b	10YR6/4 にぶい黄橙色
203	G 6	II	A	a	無文	b	b	2.5Y6/2 灰黄色
204	F 6	II	A	a	無文	b	b	2.5Y6/3 にぶい黄色
205	G 7	II	A	a	輪積痕	b	b	10YR7/3 にぶい黄橙色
206	E 6	—	A	b	無文	b	b	2.5YR5/4 にぶい赤褐色
207	C 1	II	A	b	無文	b	b	10YR3/2 黑褐色
208	B 5	III	A	a	無文	d	b	7.5YR6/6 橙色
209	D 4	II	A	a	無文	b	b	7.5YR5/6 明褐色
210	F 4	III	C	a	無文	b	b	7.5YR5/4 にぶい褐色
211	D 1	II	C	a	無文	b	b	10YR6/4 にぶい黄橙色
212	D 1	III	C	b	無文	a	a	7.5YR5/4 にぶい褐色
213	D 1	III	C	a	無文	b	b	10YR7/3 にぶい黄橙色
214	D 1	II	C	1 / 5	無文	b	b	5YR6/6 橙色
215	D 1	III	A	b	無文	b	b	10YR5/4 灰黄褐色
216	D 0	III	A	b	無文	b	b	10YR5/3 にぶい黄褐色
217	D 1	III	A	b	無文	c	b	10YR6/4 にぶい黄橙色
218	D 1	III	A	b	無文	b	b	5YR4/1 褐灰色
219	D 1	III	A	b	無文	b	b	10YR7/4 にぶい黄橙色
220	D 1	II	A	b	無文	b	b	7.5YR6/4 にぶい褐色
221	D 0	III	A	b	無文	b	b	10YR7/4 にぶい黄橙色
222	D 0	III	A	b	無文	b	b	10YR5/3 にぶい黄褐色
223	C 6	III	A	b	無文	c	b	10YR6/3 にぶい黄橙色
224	D 0	III	A	b	無文	b	b	7.5YR4/4 褐色
225	D 0	III	A	b	無文	c	b	7.5YR4/3 褐色
226	D 1	III	A	b	無文	b	b	5YR5/4 にぶい赤褐色
227	B 5	III	A	b	無文	b	b	5YR7/6 橙色
228	D 1	II	A	b	無文	c	b	5YR4/2 灰褐色
229	D 1	III	A	b	無文	b	b	10YR5/4 灰黄褐色
230	D 1	III	A	b	無文	c	b	5YR6/2 灰褐色
231	B 5	III	A	b	無文	c	b	7.5YR7/4 にぶい橙色
232	B 5	III	A	b	無文	b	b	5YR6/2 灰褐色
233	E 4	III	A	b	無文	b	b	10YR6/3 にぶい黄褐色
234	D 0	III	A	b	無文	b	b	7.5YR5/4 にぶい褐色
235	B 5	III	A	b	無文	b	b	10YR6/3 にぶい黄褐色
236	D 1	III	A	b	無文	b	b	10YR5/3 にぶい黄褐色

## 2 石器類

石器類は、約200点出土している。ほとんどが上層（第II～III層）の出土のものである。

以下、器種別に記述する。器種ごとの分類はA地点に準ずる。

### 石鎌（第100図1～7、図版36）

14点出土している。下呂石2点、チャート6点、黒曜石6点である。分類ごとでは、1A類1点、1B類3点、1C類6点、1D類1点、1F類1点、不明2点である。5は鋸歯状の調整が見られる。

### 石錐

チャート製のものが2点出土している。いずれも欠損している。

### 両極剝離痕のある石器（第100図8、図版36）

D2区II層で下呂石製のものが1点出土している。1類である。

### 削器（第100図9・10、図版36）

チャート製のものが3点出土している。第II層2点、第III層1点である。前者のものは3類、後者は1類である。

### 抉入石器（第100図11～13、図版36）

抉入（ノッチ）状の加工を有するものを、抉入石器とした。3点出土しているが、いずれも第II層である。石材別ではチャートが1点、下呂石が2点である。

### 二次加工のある剝片（第100図14、図版36）

2点出土している。いずれも下呂石製である。

### 使用痕のある剝片（第100図15～16、図版36）

5点出土している下呂石4点、チャート1点である。

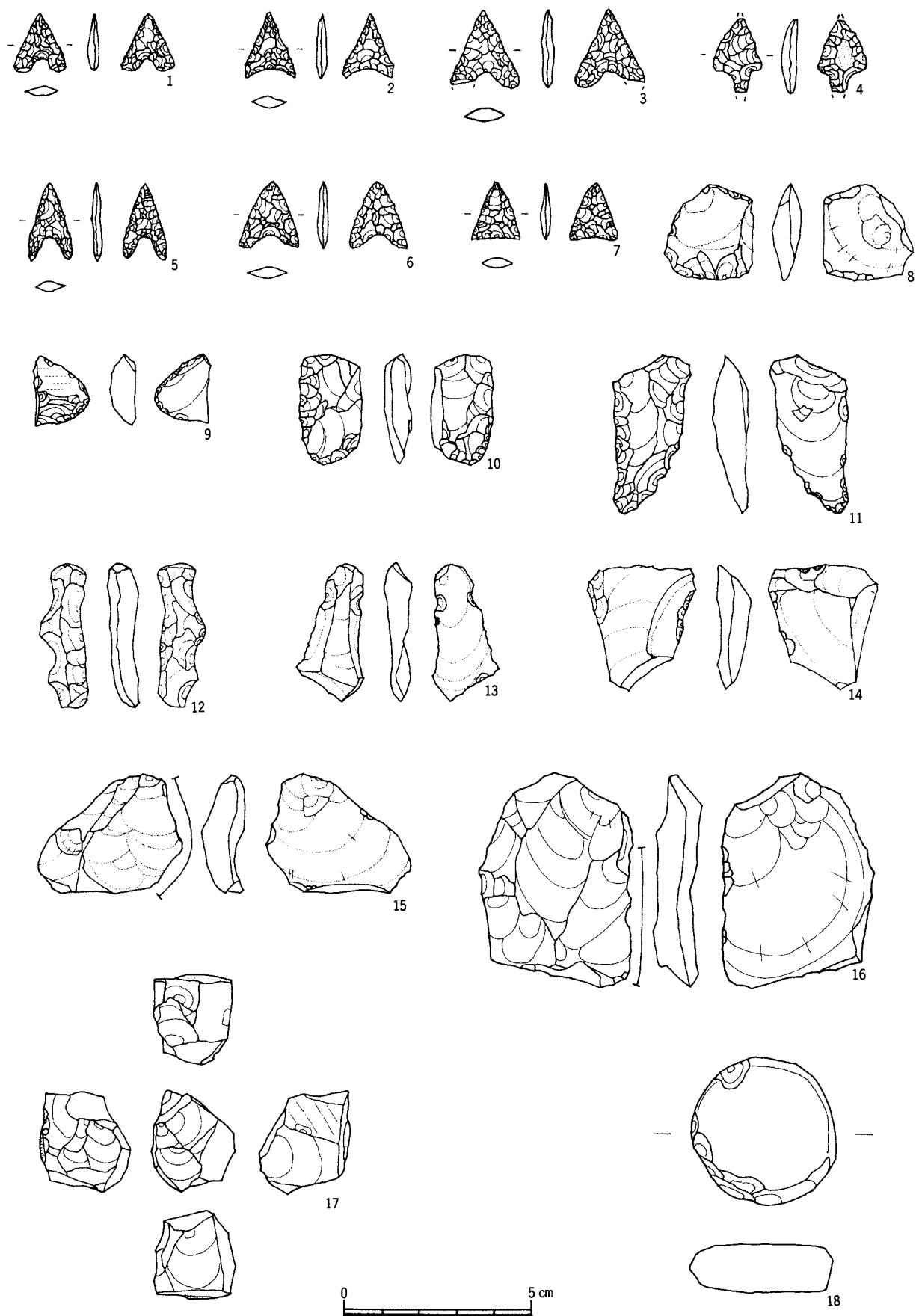
### 石核（第100図17、図版36）

1点出土している。石材は玉髓である。製品としては玉髓のものは出土していない。サイコロ状の形態で打面転位を行っている。

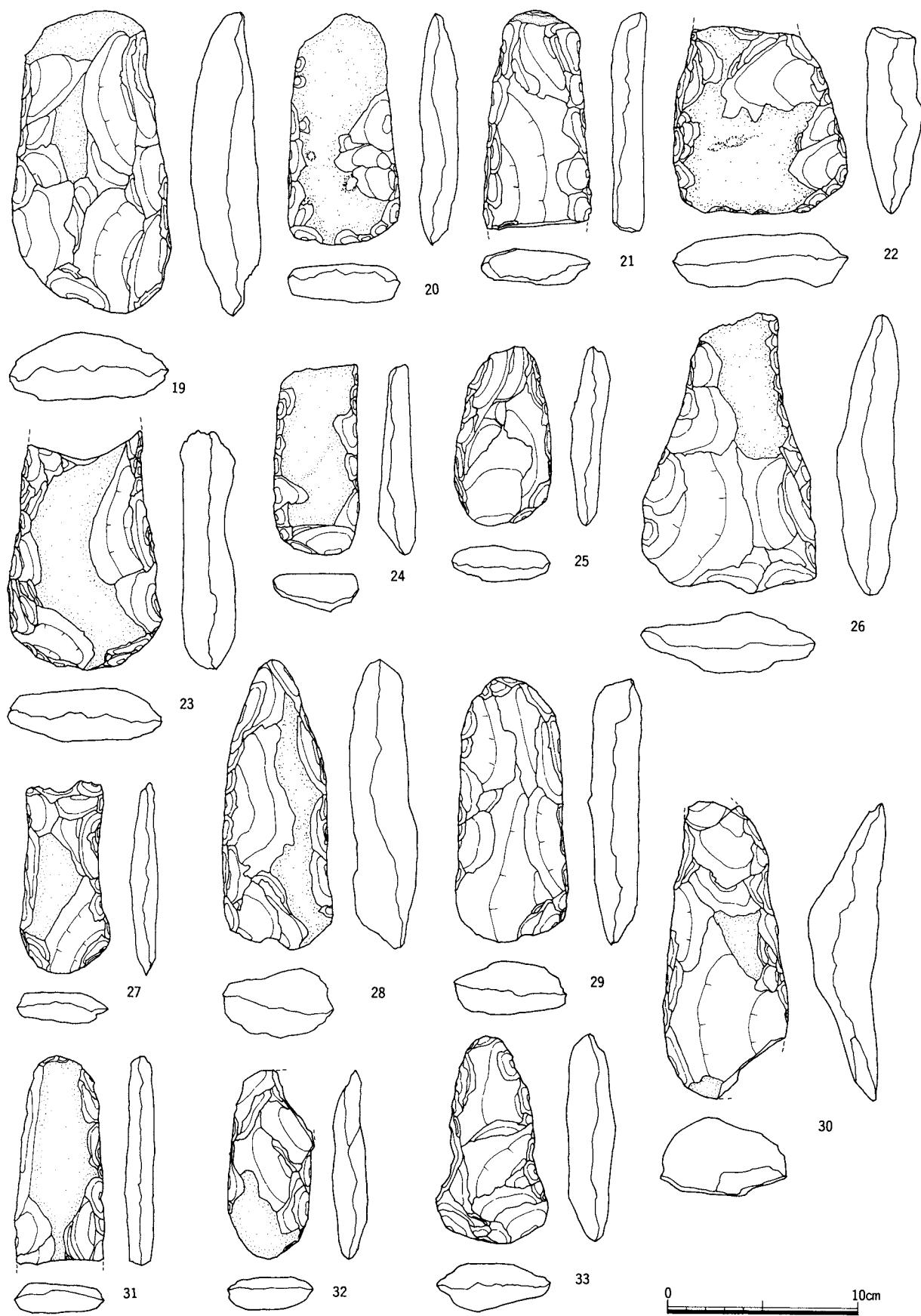
### 剝片

91点ある。第II層は下呂石26点、チャート7点、黒曜石3点、その他30点、打製石斧のフレイクが29点である。第III層は、下呂石5点、チャート2点、玉髓1点、打製石斧のフレイク16点である。

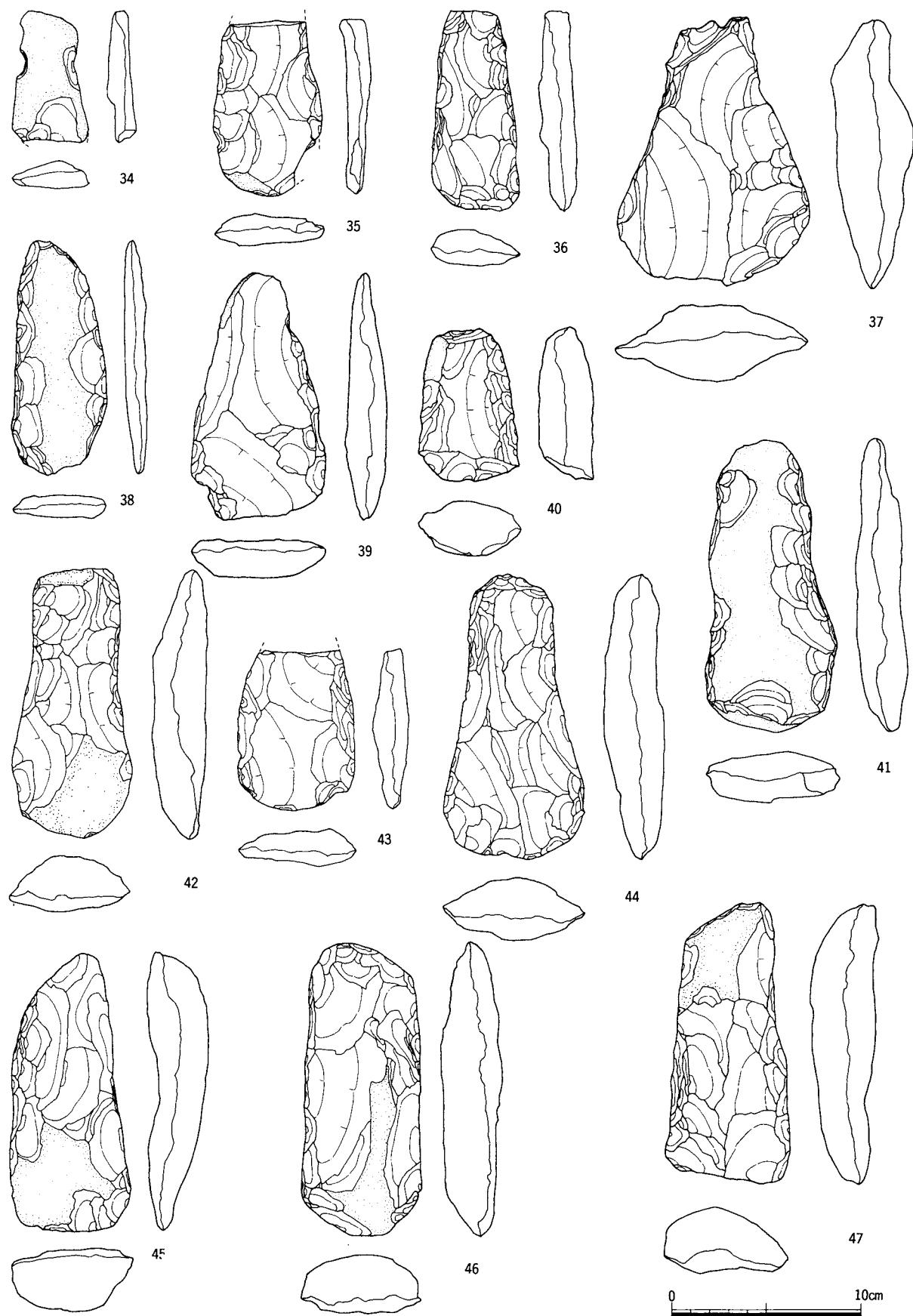
### 円盤状石製品（第100図18、図版36）



第100図 C地点出土の石器(1)



第101図 C地点出土の石器(2)



第102図 C地点出土の石器(3)

偏平な円盤状の形態で、両面が使用され周縁は加工されている。砥石の可能性もある。

#### 打製石斧（第101・102図、図版37）

74点出土している。石材は、凝灰岩68点、緑色片岩5点、砂岩1点である。形態は1類15点、2類1点、3類42点、不明16点である。

#### 磨石・凹石・敲石類（第103図48～53、図版37）

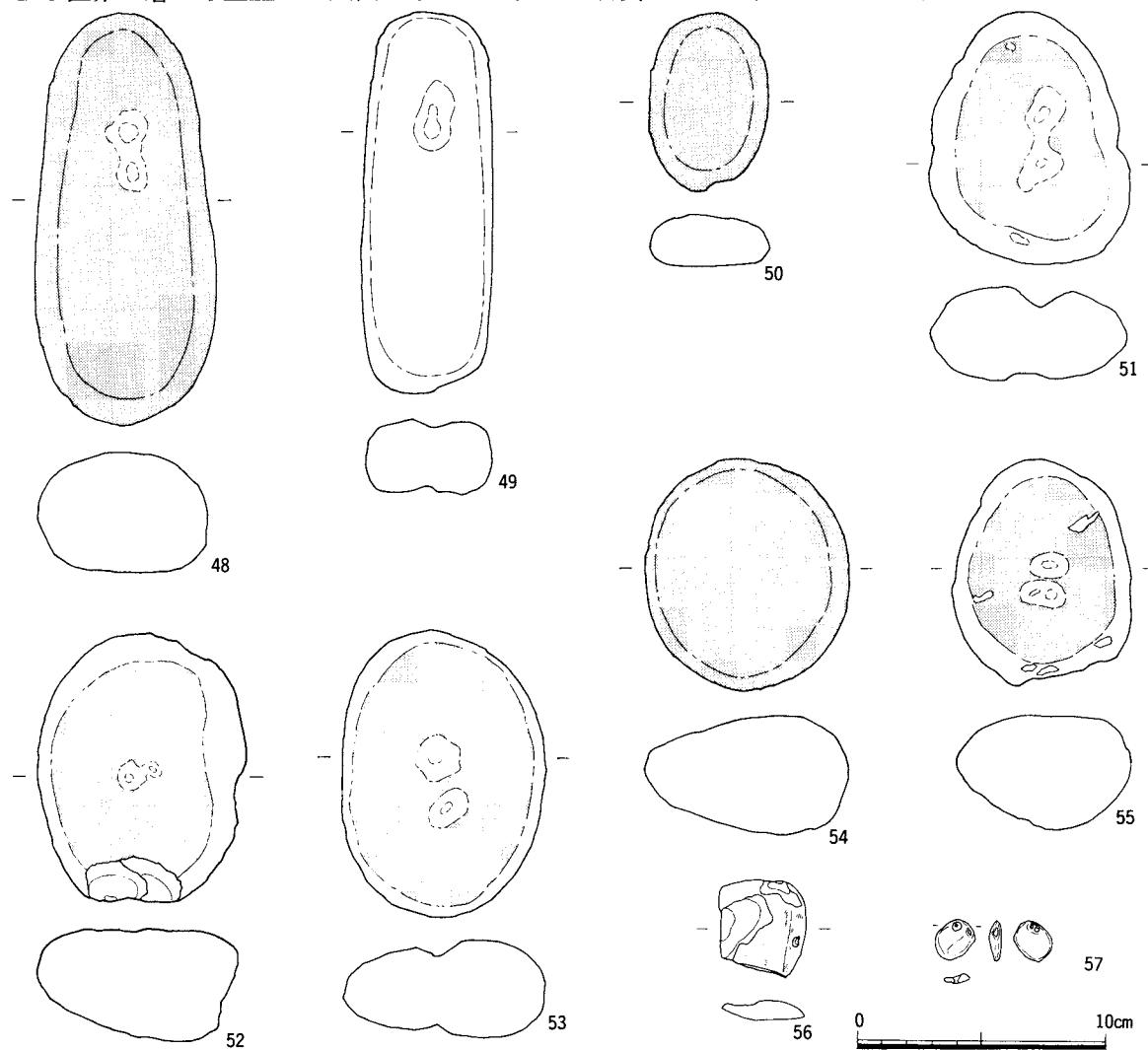
57点出土している。すべて凝灰岩である。形態は、2B類49点、2C類5点、2D類1点、3D類2点である。磨痕が見られるものはいずれもザラつく磨痕である。

#### 砥石（第103図56）

全部で8点出土しているが図示したのは1点のみである。後世のものが含まれているかもしれない。

#### 石製装身具（第103図57）

D5区第II層から垂玉が1点出土している。蛇紋岩質である。裏面に穿孔途中の孔が1つある。



第103図 C地点出土の石器(4)

第11表 C地点石器一覧表

## 石鏃

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	折損	挿図番号	備考
1	B 3	II	チャート	(21.2)	15.7	6.0	(2.4)	1 B	a		
2	B 5	II	チャート	4.1	13.5	2.3	0.4	1 A		100-1	
3	C 3	II	黒曜石	16.2	12.7	2.0	0.4	1 C		100-2	
4	D 3	II	下呂石	(17.5)	15.0	2.1	(0.8)	1 C	a		
5	D 4	II	黒曜石	(16.1)	15.1	2.4	(0.4)	1 D	a		
6	E 3	II	黒曜石	18.6	11.8	2.8	0.7	1 F		100-4	
7	F 5	II	黒曜石	(19.7)	17.5	2.3	(0.7)	1 C	b	100-3	
8	F 5	II	黒曜石	16.4	13.7	2.7	0.6	1 B			
9	G 5	II	チャート	(13.2)	(7.3)	(1.5)	(0.3)	—	c		
10	C 3	II	下呂石	(14.8)	(11.1)	(1.6)	(0.4)	—	g		
11	C 5	III	チャート	23.9	16.5	3.4	1.3	1 C			
12	C 6	III	黒曜石	19.1	11.1	1.3	0.2	1 C		100-5	鋸歯状
13	D 1	III	チャート	17.0	15.0	2.7	0.7	1 C		100-6	
14	E 3	III	チャート	14.4	11.9	2.0	0.4	1 B		100-7	

## 石錐

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	折損	挿図番号	備考
1	C 5	II	チャート	(19.8)	(14.6)	4.2	(1.5)	—	両端		
2	E 5	II	チャート	(31.0)	8.5	10.0	(2.7)	5	尖端		

## 両極石器

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	挿図番号	備考
1	D 2	II	下呂石	22.5	24.4	5.2	4.0	1	100-8	

## 削器

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	挿図番号	備考
1	B 5	II	チャート	(17.6)	(14.7)	(5.6)	(1.5)	3	100-9	欠損
2	E 4	II	チャート	27.3	15.5	6.0	3.5	3	100-10	
3	D 1	III	チャート	16.7	24.4	5.0	2.4	1		

## 抉入石器

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	挿図番号	備考
1	B 2	II	チャート	42.0	19.5	8.7	6.1	100-11		
2	B 6	II	下呂石	36.3	11.4	7.9	3.2	100-12		
3	D 5	II	下呂石	34.8	17.1	5.0	2.5	100-13		

## 二次加工のある剝片

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	挿図番号	備考
1	E 3	II	下呂石	(17.9)	22.8	6.0	3.2			
2	C 6	III	下呂石	32.0	27.2	8.3	6.1	100-14		

## 使用痕のある剝片

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	挿図番号	備考
1	D 1	III	下呂石	32.7	37.8	5.9	8.3			
2	D 1	III	下呂石	29.4	37.8	8.0	9.1	100-15		
3	D 1	III	下呂石	28.8	16.2	7.0	2.3			
4	D 1	III	チャート	51.7	38.8	8.6	24.4	100-16		
5	E 3	III	下呂石	31.8	21.3	6.2	4.9			

## 円盤状石製品

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	挿図番号	備考
1	B 3	V	蛇紋岩	82.9	30.0	13.0	46.8	100-18		擦切石斧

## 打製石斧

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	折損	挿図番号	備考
1	D 1	I	凝灰岩	150.9	82.4	35.5	515.6	3		101-19	
2	D 1	I	凝灰岩	119.4	58.9	19.7	175.2	3		101-20	
3	D 1	I	凝灰岩	115.1	52.7	17.5	127.4	3			
4	D 1	I	凝灰岩	140.7	60.1	25.8	263.5	1			
5	B 2	II	凝灰岩	(113.1)	56.8	15.6	(150.0)	3	a	101-21	
6	C 0	II	凝灰岩	(151.9)	60.6	27.8	(342.8)	1	c		
7	C 0	II	凝灰岩	(96.7)	90.6	28.3	(300.4)	3	b	101-22	
8	C 1	II	凝灰岩	(87.8)	53.4	18.8	(88.1)	3	b		
9	C 1	II	凝灰岩	(73.5)	62.5	20.9	(95.3)	—	b		
10	C 2	II	凝灰岩	(72.5)	59.4	26.0	(147.0)	—	a		
11	C 2	II	砂岩	99.2	44.6	19.0	104.1	1		101-24	
12	C 2	II	凝灰岩	68.2	54.6	10.6	48.9	3			
13	C 2	II	凝灰岩	(103.8)	68.3	19.4	(158.3)	3	a		
14	C 4	II	凝灰岩	95.7	51.1	15.2	100.7	3		101-25	

番号	出土区	層位	石 材	長 さ	幅	厚 さ	重 さ	分類	折損	挿図番号	備 考
15	C 4	II	凝灰岩	( 83.5)	67.7	28.8	(184.8)	—	a		
16	C 5	II	凝灰岩	(137.6)	59.0	31.0	(316.5)	3	b		
17	C 6	II	凝灰岩	(103.6)	49.2	19.2	(114.8)	3	c		
18	C 6	II	緑色片岩	( 64.6)	65.4	11.6	( 60.8)	—	b		
19	C 6	II	凝灰岩	146.7	90.1	27.3	360.5	3		101-26	
20	D 0	II	凝灰岩	(102.9)	47.7	14.4	78.7	1		101-27	
21	D 1	II	凝灰岩	151.0	59.5	32.9	334.1	3		101-28	
22	D 1	II	凝灰岩	138.7	60.1	25.1	284.7	1		101-29	
23	D 2	II	凝灰岩	(109.7)	48.5	15.3	(119.5)	3	a	101-31	
24	D 3	II	凝灰岩	129.1	72.2	24.8	218.8	3			
25	D 3	II	緑色片岩	98.7	45.1	16.5	( 93.6)	1	c	101-32	
26	D 3	II	凝灰岩	(170.0)	57.6	28.5	340.5	3			
27	D 3	II	凝灰岩	(150.5)	65.1	35.4	(342.7)	3		101-30	刃部の一部欠
28	D 3	II	凝灰岩	97.3	43.6	15.6	90.2	1			
29	D 3	II	凝灰岩	110.3	60.7	25.1	170.1	3		101-33	
30	D 4	II	凝灰岩	( 38.7)	33.4	12.2	(320.2)	—	a		
31	D 4	II	凝灰岩	122.4	65.1	17.3	207.1	2			
32	D 5	II	凝灰岩	128.8	71.7	35.7	377.2	3			
33	D 5	II	凝灰岩	97.5	46.6	18.9	98.6	1			
34	D 6	II	緑色片岩	67.7	33.9	11.4	37.7	—			
35	D 7	II	凝灰岩	( 66.8)	40.2	13.0	( 39.3)	3	a	102-34	
36	E 4	II	凝灰岩	(110.9)	67.5	19.2	(195.8)	3	a		
37	E 4	II	凝灰岩	( 70.3)	57.5	17.7	(101.6)	—	a		
38	E 4	II	凝灰岩	( 65.5)	45.1	16.4	( 74.6)	1	a		
39	E 5	II	凝灰岩	(106.8)	57.4	34.0	(218.4)		b		
40	F 4	II	凝灰岩	90.2	(58.7)	12.4	80.1	3	d	102-35	刃部の一部欠
41	F 5	II	凝灰岩	104.6	46.4	18.4	113.9	3		102-36	
42	F 7	II	凝灰岩	122.6	49.1	10.7	87.6	3		102-38	
43	F 8	II	凝灰岩	140.9	103.0	39.9	447.7	3		102-37	
44	F 8	II	緑色片岩	105.9	91.3	21.5	188.3	3			
45	F 8	II	凝灰岩	( 53.0)	50.3	18.3	( 56.5)	3	a		
46	G 5	II	凝灰岩	130.1	71.6	18.8	197.7	3		102-39	
47	G 6	II	凝灰岩	( 51.2)	80.2	14.4	( 75.8)	—	b		
48	G 6	II	凝灰岩	( 69.7)	58.7	28.0	(128.7)	—	b		
49	G 7	II	凝灰岩	129.1	50.2	18.7	145.9	1			
50	G 7	II	凝灰岩	( 82.6)	58.2	19.6	(127.0)	1	b		
51	G 8	II	凝灰岩	( 72.3)	58.2	21.4	(161.9)	—	a		
52	G 8	II	凝灰岩	( 71.0)	79.4	18.5	(127.5)	—	b		
53	H 9	II	凝灰岩	( 80.1)	54.0	27.9	(148.5)	—	a	102-40	
54	B 5	III	緑色片岩	( 74.1)	(45.5)	11.2	( 45.3)	3	a		
55	B 5	III	凝灰岩	( 70.4)	49.4	11.0	( 46.0)	3	b		
56	C 0	III	凝灰岩	152.4	68.3	24.2	284.9	3		102-41	
57	C 0	III	凝灰岩	(109.8)	69.2	15.8	(153.6)	3	d		
58	C 2	III	凝灰岩	( 53.8)	41.6	19.4	( 67.9)	—	a		
59	C 6	III	凝灰岩	(107.7)	50.0	16.4	(103.3)	1	a		
60	D 0	III	凝灰岩	140.7	63.8	28.2	280.4	3		102-42	
61	D 0	III	凝灰岩	149.7	73.8	32.4	336.4	3		102-44	
62	D 0	III	凝灰岩	( 83.7)	61.5	19.7	(108.7)	3	b	102-43	
63	D 1	III	凝灰岩	148.2	63.3	32.0	300.9	3		102-45	
64	D 1	III	凝灰岩	123.8	50.4	19.0	140.5	3			
65	D 4	III	凝灰岩	52.1	52.0	12.7	43.3	—	d		
66	D 4	III	凝灰岩	( 75.2)	47.5	11.9	( 44.5)	3	b		
67	D 6	III	凝灰岩	( 97.8)	(57.2)	17.6	(117.5)	3	a		
68	E 4	III	凝灰岩	150.6	64.0	28.5	357.4	1		102-46	
69	E 4	III	凝灰岩	( 76.3)	51.7	14.3	( 61.8)	1	a		
70	F 4	III	凝灰岩	( 64.5)	49.8	16.5	( 70.7)	—	a		
71	D 4	IV	凝灰岩	146.8	64.9	33.9	360.9	3		102-47	
72	C 2	V	凝灰岩	(124.6)	80.7	26.6	(352.6)	3	b		
73	C 4	—	緑色片岩	( 78.7)	54.2	23.0	(139.3)	1	a		
74	C 4	—	凝灰岩	134.6	56.1	26.1	214.0	1			
75	F 6	—	凝灰岩	( 61.5)	(39.2)	(14.6)	( 30.1)	3	a		
76	表採	—	凝灰岩	112.2	48.8	21.2	128.9	1			

## 磨石・凹石類

番号	出土区	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	分類	挿図番号	備考
1	C 0	II	凝灰岩	99.7	79.5	36.2	312.5	2 B		1・0・0 ウ
2	C 0	II	凝灰岩	104.1	90.7	61.0	713.6	2 B		ザラつく磨痕
3	C 0	II	凝灰岩	101.0	60.1	49.1	388.5	2 B		0・2・0 ア
4	C 0	II	凝灰岩	93.4	56.5	42.7	283.6	2 B		ザラつく磨痕
5	C 0	II	凝灰岩	132.9	97.8	48.0	708.0	3 D		2・2・0 ウ
6	D 0	II	凝灰岩	(123.7)	(74.5)	35.4	( 354.9)	2 C		ザラつく磨痕
7	D 0	II	凝灰岩	(118.6)	(86.7)	44.8	( 565.9)	2 B		2・2・0 ウ
8	C 1	II	凝灰岩	114.0	103.6	51.7	810.9	2 B		ザラつく磨痕
9	D 1	II	凝灰岩	69.8	48.5	21.1	77.9	2 C	103-50	ザラつく磨痕
10	D 1	II	凝灰岩	96.2	78.8	61.8	540.1	2 B		ザラつく磨痕
11	D 1	II	凝灰岩	60.8	52.5	26.3	101.0	2 B		ザラつく磨痕
12	B 2	II	凝灰岩	164.0	74.0	49.7	672.2	2 B	103-48	2・0・0 ア
13	C 2	II	凝灰岩	120.9	102.4	59.1	922.9	2 B		2・2・0 ウ
14	B 3	II	凝灰岩	152.0	52.0	34.5	420.3	3 D	103-49	1・1・0 ア
15	C 3	II	凝灰岩	90.7	65.2	37.0	280.0	2 B		ザラつく磨痕
16	D 3	II	凝灰岩	89.9	72.2	50.6	406.4	2 B		1・1・0 ア
17	D 3	II	凝灰岩	112.3	66.0	44.6	391.8	2 B		ザラつく磨痕
18	D 4	II	凝灰岩	(100.1)	(50.3)	(27.4)	( 157.9)	2 B		一・2・0 ア
19	G 4	II	凝灰岩	161.3	112.0	51.7	1,187.8	2 B		ザラつく磨痕
20	G 4	II	凝灰岩	120.1	94.5	67.4	1,000.0	2 B		ザラつく磨痕
21	G 4	II	凝灰岩	115.4	101.5	(40.3)	( 605.6)	2 B		0・--・0
22	H 4	II	凝灰岩	120.4	76.2	61.6	703.3	2 B		ザラつく磨痕
23	H 4	II	凝灰岩	105.9	96.7	71.1	935.3	2 B		ザラつく磨痕
24	F 5	II	凝灰岩	82.2	60.0	39.2	213.8	2 B		1・1・0 ウ
25	D 0	III	凝灰岩	84.0	83.7	47.2	451.7	2 B		1・0・0 ア
26	D 0	III	凝灰岩	100.9	(71.6)	49.5	( 431.9)	2 B		2・2・0 ア
27	D 0	III	凝灰岩	63.5	41.3	20.4	63.2	2 C		ザラつく磨痕
28	D 0	III	凝灰岩	109.7	71.1	46.9	456.1	2 D		ザラつく磨痕
29	D 0	III	凝灰岩	109.7	85.1	44.4	553.9	2 B	103-52	1・0・0 ア
30	D 0	III	凝灰岩	68.8	62.7	45.1	236.4	2 B		1・1・0 ア
31	E 0	III	凝灰岩	92.5	71.4	43.8	383.3	2 B		ザラつく磨痕
32	C 1	III	凝灰岩	113.8	96.7	61.5	887.8	2 B		2・3・0 ア
33	D 1	III	凝灰岩	115.4	79.8	37.7	421.1	2 B	103-53	2・2・0 イ
34	D 1	III	凝灰岩	92.1	81.1	44.8	403.4	2 B	103-54	ザラつく磨痕
35	D 1	III	凝灰岩	113.5	72.6	51.6	520.5	2 B		ザラつく磨痕
36	D 1	III	凝灰岩	109.5	70.9	42.0	455.6	2 B		ザラつく磨痕
37	D 1	III	凝灰岩	91.7	66.1	57.4	384.0	2 B		ザラつく磨痕
38	D 2	III	凝灰岩	150.9	125.3	56.0	1,850.0	2 B		1・0・0 ア
39	D 3	III	凝灰岩	75.1	59.8	30.6	159.4	2 B		ザラつく磨痕
40	D 3	III	凝灰岩	72.0	66.2	35.3	206.7	2 B		ザラつく磨痕
41	E 3	III	凝灰岩	94.5	49.7	31.9	185.9	2 B		ザラつく磨痕
42	D 4	III	凝灰岩	84.5	60.7	48.1	303.8	2 B		ザラつく磨痕
43	D 4	III	凝灰岩	99.5	77.1	43.1	442.3	2 B		ザラつく磨痕
44	E 4	III	凝灰岩	94.9	84.0	34.0	359.9	2 B		1・1・0 アウ
45	F 4	III	凝灰岩	( 92.3)	71.1	48.3	( 343.2)	2 B	103-55	0・2・0 ア
46	B 5	III	凝灰岩	(121.3)	88.3	56.1	( 699.4)	2 B		1・1・0 ウ
47	B 5	III	凝灰岩	85.6	64.5	16.5	102.7	2 C		ザラつく磨痕
48	B 5	III	凝灰岩	71.0	51.2	39.1	148.2	2 B		ザラつく磨痕
49	B 6	III	凝灰岩	94.0	67.3	46.5	331.9	2 B		ザラつく磨痕
50	C 6	III	凝灰岩	102.2	79.5	41.6	342.9	2 B	103-51	2・2・2 イ
51	C 6	III	凝灰岩	81.0	45.5	25.1	99.8	2 B		ザラつく磨痕
52	D 0	I	凝灰岩	102.7	( 64.6)	51.3	( 360.8)	2 B		2・2・0 アイ
53	E 0	—	凝灰岩	(145.9)	92.7	45.8	( 507.1)	2 B		3・3・2 アイ
54	F 3	—	凝灰岩	91.9	86.2	47.5	439.9	2 B		1・1・0 ウ
55	F 3	—	凝灰岩	119.8	104.2	55.5	872.7	2 B		ザラつく磨痕
56	F 3	—	凝灰岩	(107.1)	(100.1)	42.2	( 551.4)	2 C		ザラつく磨痕
57	表採	—	凝灰岩	98.0	60.0	46.6	341.2	2 B		2・1・0 ア

## 第5節 自然科学的分析

H 4 区第II層からヒスイ製の剝片が1点出土している。京都大学原子炉実験所の藁科哲男氏に産地分析を依頼した結果、飛驒産との判定を受けた。また、D 5 区第II層出土の垂玉に関しても、ヒスイの可能性を想定して同様に産地分析を行ったが、産地は特定できなかった。いずれも紙面の都合により結果のみを記述する。

その他に、巨大炭化木(SX 4)と、炭化材集中出土地点(SX 6)とその周辺から出土した炭化材等に関して、年代測定および樹種同定を僕パレオ・ラボに委託した。以下はその報告である。

### 放射性炭素年代測定

山形 秀樹(パレオ・ラボ)

#### 1. 放射性炭素年代測定について

試料は、アルカリ・酸処理を施して不純物を除去し、炭化リチウム(カーバイド)の生成後、加水分解によりアセチレンを生成した。

測定は、約一ヶ月放置した後、精製したアセチレンを比例計数管(400cc)を用いて、 $\beta$ -線を計数して年代値を算出した。その結果は下記に示す。

なお、年代値の算出には $^{14}\text{C}$ の半減期として Libby の半減期5570年を使用した。また、付記した年代誤差は、計数値の標準偏差 $\sigma$ に基づいて算出し、標準偏差(One sigma)に相当する年代である。

暦年代の補正は、CALIB3.0 (Stuiver and Reimer, 1993; IBM-PC用: Reference (Pearson and Stuiver, 1993)) を使用した。

#### 2. 放射性炭素年代測定結果

測定No.	試 料	$^{14}\text{C}$ 年代値 (1950年よりの年数)	暦年代 (1 $\sigma$ )
PLD-101	炭化材(ヒノキ科) D 4 III	820±140 yrBP (AD 1,130年)	AD 1,230年 (AD 1,040-1,300)
PLD-102	炭化材(カツラ) C 1 II L	780±110 yrBP (AD 1,170年)	AD 1,280年 (AD 1,170-1,300)
PLD-159	炭化材(竹) SX 6	720± 90 yrBP (AD 1,230年)	AD 1,290年 (AD 1,240-1,310) (AD 1,350-1,390)

#### 〈引用文献〉

Stuiver, M. and Reimer, P.J. (1993) Extended  $^{14}\text{C}$  database and revised CALIB3.0  $^{14}\text{C}$  Age Calibration Program.

## カクシクレ遺跡C地点出土の材の樹種

植田弥生・藤根 久 (パレオ・ラボ)

## 1. はじめに

当遺跡は岐阜県大野郡丹生川村折敷地字カクシクレに所在し、宮川上流の支流である荒城川左岸の標高約840mの扇状地に立地する。丹生川ダム建設にともない行われた発掘調査では、縄文時代後期から晩期の多くの遺物が出土している。発掘区 SX 6 からは竹と共に加工木と自然木が集積して出土し一部の材は火を受け焦げていた。ここでは SX 6 から出土した材の樹種を報告する。出土層位からは時期決定に結び付く考古遺物は出土しておらず、また当遺跡では後世の開墾などにより削平や攪乱された形跡があるため、SX 6 から出土した竹の放射性炭素年代測定が行われた。その結果は $720 \pm 90$ yrBP であった。また発掘区 D 4 III と C 1 II L から出土した炭化材の放射性炭素年代も測られ、それぞれ $820 \pm 140$ yrBP と $780 \pm 110$ yrBP であった。放射性炭素年代値からすると、当遺跡の出土材は縄文時代より新しく奈良時代から平安時代の遺物である可能性が高い。なお発掘区 D 4 III と C 1 II L の炭化材と SX 4 から出土した薄い板状の炭化材の樹種も報告する。

## 2. 方法

片刃の剃刀を用いて材の横断面（木口）・接線断面（板目）・放射断面（柾目）の3方向を薄く剥ぎ取りスライドグラスの上に並べ、ガムクロラールで封入し材組織標本を作成した後、光学顕微鏡を用いて観察し同定を行った。

炭化材は3方向の破断面の組織を走査電子顕微鏡で観察し行った。まず横断面（木口）を手で割り新鮮な面を出し、接線断面（板目）と放射断面（柾目）は片刃の剃刀を方向に沿って軽くあて弾くようにはめ面を出す。この3断面の試料を直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、その周囲に導電性ペーストを塗る。試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡（日本電子（株）製JSM T-100型）で観察・写真撮影を行った。

## 3. 結果

出土した樹種の材組織を以下に記載する。また同定結果を表にまとめた。

## 樹種組織の記載

イヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* (Knight) K. Koch イヌガヤ科 図版1 1 a.-1 c. (試料番号⑫)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材である。仮道管にらせん肥厚があり、分野壁孔は小さく1分野に1~2個であることからイヌガヤであることがわかる。

本州の岩手県以南・四国・九州の暖帯から温帯下部の山林の下に生育する常緑小木である。材は緻密で固く小型の器具や細工物などに使われる。種子からは油が取れるが悪臭がある。材は縄文時代から弓に用いられている。

サワラ *Chamaecyparis pisifera* (Sieb. et Zucc.) Endl. ヒノキ科 図版1 2 a.-2 c. (試料番号④)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材である。晩材の量は少なく、樹脂細胞は年輪の後半に接線状に分布する。分野壁孔は大きく、孔口は斜めにやや大きく開いたヒノキ型で1分野に2~4個あり、おもに2個が水平に整然と配列する。孔口の開口がヒノキより大きく水平に近いことからサワラと同定した。

ヒノキは本州の福島県以南・四国・九州の暖帯の山中に生育し、材は耐久性・切削性・割裂性にすぐれ現在では重要な植林樹である。サワラは本州の岩手県以西・四国・九州の温帯の山中に生育し、材はヒノキよりやや軽軟で劣るとされている。

ヒノキ属 *Chamaecyparis* ヒノキ科 図版3 7 a.-7 c. (SX 4)

当試料は炭化材で、仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材である。晩材の量は少ない。分野壁孔は大きく、孔口はやや斜めに細く開いた橢円形で1分野に2~4個ありヒノキ属であることがわかる。ヒノキまたはサワラであるが、炭化した場合に分野壁孔がどの様な違いとなつて見えるかはまだ充分に調べられていないので2種を区別することはできない。

ヒノキ科 Cupressaceae 図版3 8 a.-8 c. (PLD-101)

当試料は針葉樹の炭化材で、仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなり晩材の量は少ない。試料は材の中心部に近いこともあり、仮道管の径は小さい。分野壁孔も小さく、孔口はやや斜めから水平に開いた円形から橢円形で1分野に2~4個ありヒノキ科であることがわかる。炭化した場合に分野壁孔がどの様な違いとなつて見えるかはまだ充分に調べられていないので属を識別することはできなかつた。

カツラ *Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc. カツラ科 図版1 3 a.-3 c. (試料番号⑥)  
図版2 4 a.-4 c. (試料番号⑧)

小型で多角形の管孔が年輪内に密在し年輪界ではやや径を減じ、管孔の占有面積が多い散孔材である。道管の壁孔はまばらな交互状あるいは水平に開いた孔口の長さが不揃いな階段状、穿孔は横棒の数が非常に多い階段穿孔である。放射組織は異性、1~3細胞幅、多列部の上下端には1~3細胞高の方形・直立細胞からなる単列部がある。

北海道から九州の暖帯から温帯の渓谷に生育する落葉高木である。材は均質でやや軽軟、割裂性・切削性は良く、狂いは少ないが保存性はあまり良くない。

アジサイ属 *Hydrangea* ユキノシタ科 図版2 5 a.-5 c. (試料番号⑩)

非常に小型の管孔がおもに単独で散在し、年輪界の最後の管孔の径は小さい散孔材である。道管の壁孔は階段状、穿孔は横棒の数が非常に多い階段穿孔、内腔には水平のチロースがある。放射組織は異性、非常に背の高い直立細胞からなる単列のものと、2細胞幅の部分は平伏細胞からなりその上下端の単列部は直立細胞からなるものとがある。放射柔細胞と道管との壁孔は対列状・階段状である。

アジサイ属はおもに暖帯から温帯に生育する落葉性の低木である。福島県から中部地方に分布し山中の川岸に生育するタマアジサイ、関東以西の山林下に普通に見られるコアジサイ、東海道以西の山林下に生育するガクウツギ、北海道以南の日当たりのよい開けた土地や山中に普通に生育するノリウツギ・ツルアジサイなどがある。ツルアジサイはツル性で放射組織の高さが非常に高い点でほかの種の材と区別されるが、そのほかの種は材組織が似ており区別することはできていない。

ニワトコ *Sambucus racemosa* Linn. subsp. *sieboldiana* (Miquel) Hara スイカズラ科 図版2  
6 a.-6 c (試料番号①)

様々な方向に複合したやや小型の管孔が散在しており、年輪の始めは分布数が多く、年輪界では偏平で極めて小型の管孔が帶状に配列する散孔材である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一である。放射組織は異性、おもに3~5細胞幅の紡錘形で縁に鞘細胞がある。放射組織と道管の壁孔はやや大きく交互状である。

ニワトコは本州以南の暖帯から温帯の山野に普通の落葉低木である。材は軽軟で髓が太く、細工物に使われる。

出土した樹種は針葉樹のイヌガヤ・サワラ・ヒノキ属・ヒノキ科と、落葉広葉樹のカツラ・ニワトコ・アジサイ属であった。針葉樹ではヒノキ科に属するものが多く、広葉樹ではカツラが多いことが目立つ。どちらも山間部に普通に生育する樹種で、大木となり材もまとまって得られる上、材質もよいので利用されていたことが伺える。

第12表 カクシクレ遺跡C地点から出土した木材の樹種

試料番号	樹種	備考・形状
KC SX6	① ニワトコ	小丸太 (直径7cm)
KC SX6	② ニワトコ	小枝 (直径1.3cm)
KC SX6	③ カツラ	加工材 (片面炭化幅6cm)
KC SX6	④ サワラ	板材 (幅5cm)
KC SX6	⑤ サワラ	小分割材 (幅2cm)
KC SX6	⑥ カツラ	炭化材板 (幅6cm)
KC SX6	⑦ カツラ	小丸太 (一端炭化直径6.5cm)
KC SX6	⑧ カツラ	炭化木 (内部未炭化部あり幅6cm)
KC SX6	⑨ アジサイ属	炭化木 (一端未炭化幅6cm)
KC SX6	⑩ アジサイ属	炭化材 (一部炭化幅5cm)
KC SX6	⑪ カツラ	長い曲木 (直径4.5cm)
KC SX6	⑫ イヌガヤ	曲がった枝 (直径1.5cm)
KC SX6	⑬ カツラ	分割材 (幅15cm)
KC SX4	ヒノキ属	大型の薄い板状炭化材
PLD-101	ヒノキ科	発掘区D-4 III炭化材
PLD-102	カツラ	発掘区C-1 II L炭化材

## 第6章 まとめ

カクシクレ遺跡の発掘調査の概要は、前章までで述べた通りである。本章では、発掘調査の成果を簡単にまとめ、特にA地点で検出された水さらし場遺構と縄文晚期後半の土器に関して若干の考察を加えることとする<sup>1)</sup>。

### 第1節 発掘調査の成果

カクシクレ遺跡で検出された遺構のうち、竪穴住居址および竪穴住居址を想定させるピット、あるいは、水さらし場遺構などがA地点のみで検出された。A地点では、縄文中期後半と晚期前半・後半の大きく3時期の集落遺跡としてとらえることができる。また、縄文晚期前半の水さらし場遺構の検出は特筆すべきものである。ただし、当遺構の果たした役割やまわりの環境など、今後検討すべき課題は多い。

B・C地点では、縄文時代の集落遺跡を予想させる遺構は検出されなかったが、C地点では打製石斧が比較的多く出土しており、食料採集の場としての利用が予想される。時期的には、B・C地点は縄文後期中葉から後葉にかけてが主体であり、一部晚期前半の土器が見られる。また、B地点では縄文中期初頭の土器がまとまって出土している点が注目される。なお、C地点では巨大炭化木や炭化材集中出土地点が検出されたが、年代測定の結果、いずれもAD 1,200年代の数字が出ており、古代から中世にかけて、何らかの生産活動の痕跡が認められたことになる。

### 第2節 水さらし場遺構について

縄文時代の水場遺構の発掘調査例が近年増加している。代表的なものとしては、群馬県矢瀬遺跡、栃木県寺野東遺跡等がある。これらは、水の確保の場であると同時に堅果類の処理の場と考えられる場合が多い。当遺跡の例は、堅果類の処理をしたと考えられる遺構であるが、同じような性格の遺構が検出された代表的な例としては、埼玉県赤山陣屋跡遺跡、長野県栗林遺跡、新潟県寺前遺跡A-2地区、埼玉県後谷遺跡、北海道忍路土場遺跡等がある。また、石川県米泉遺跡では、河道跡とともに杭列や「トチ塚」が検出された。最近の発掘例としては、トチ・クルミ・ドングリ等が大量に出土した福井県四方谷富伏遺跡が注目される。

カクシクレ遺跡A地点の水さらし場遺構は、形態から見ると、栗林遺跡の例(第104図)に類似している。栗林遺跡の「水さらし場状遺構」について整理し、当遺跡のものと比較したい(岡村1992・1995、岡村ほか1994)。

栗林遺跡の場合、まずその立地は、「高位段丘崖の裾にある湧水から谷底部に向かって流れる小河川の谷を掘り込んで構築されている。」

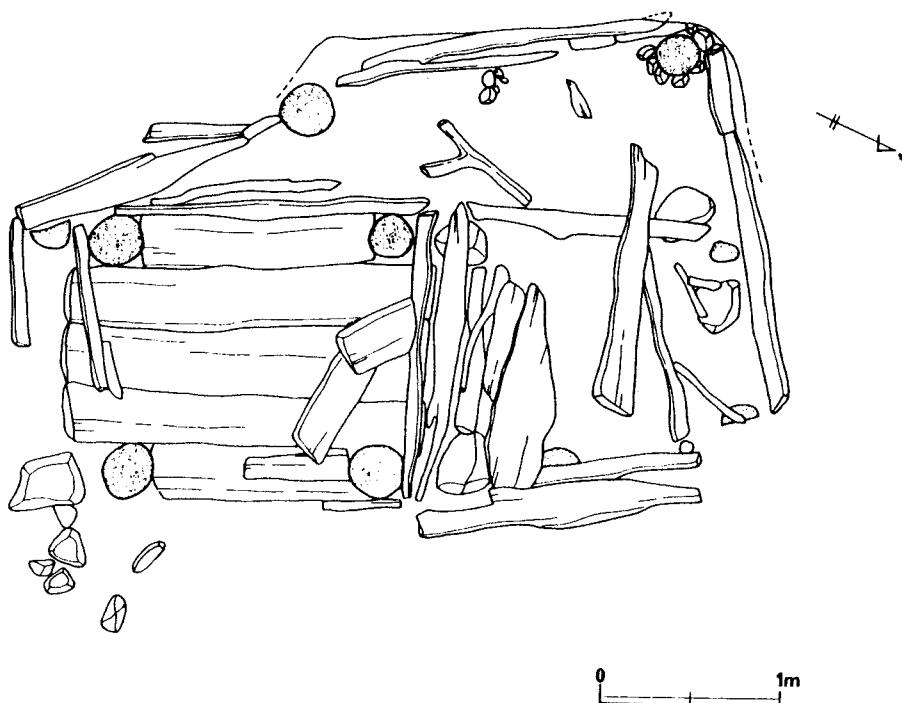
遺構は、「三つのほぼ方形の木枠が組み合わさった状態である。明確な形状を残す1号木枠は、2×1.6mの長方形に側板を組み、底板が敷かれる箱状を呈している。四隅に直径30cm弱の丸木材が打ち込まれ、底板が5枚、東西に隙間なく敷かれていた。遺構からはトチ1点と少量のクルミが板に付着するように出土した。」

遺構の性格については精緻な分析がなされている。まず、水を使う堅果類の作業として、トチに関しては、「虫殺し」と「アク抜きに関する水さらし」の2つの場面が考えられる。後者の場合、民俗例としては、ウタセ水を利用する場合と池の中で行う場合があるので、栗林例のように貯水することに重きが置かれた遺構でも不都合ではない。クルミに関しては、外皮を腐らせた段階後の水洗い時の利用が考えられる。さらに、根茎類の澱粉採取の際の水さらしも想定されるが、沈殿した澱粉を掬い上げるのが困難と考えられた。

そこで、本遺跡の例を検討すると、まず立地であるが、段丘崖の湧水地点からの小河川に伴う施設であるという点が類似している。

次に構造であるが、板材を方形に組んでいる点が酷似してしいる。隅に材が打ち込まれている点も同様である。ただし、栗林例が底板をしっかりと並べているのに対して、そのような部分がない点と、かなり小規模である点が大きく異なる。なお、複数の木枠はなかったが、木組みのまわりにある窪地は、栗林例の1号木枠と2号あるいは3号木枠との関係を彷彿させるものである。

遺構内は泥炭質の土が詰まっており、トチ、クルミ等の堅果類が多く出土している。やはり、トチ等の「虫殺し」および「アク抜き作業」の段階、クルミ等の「水洗作業」の段階での利用が想定できる。栗林例では堅果類の出土が少量であったが、これは、まわりの植生が大きく関与しているかもしれない。泥炭質の層と砂質土の層が互層をなしていたのは、遺構の使用時と未使用時の堆積状況の違いを反映しているとも考えられるが、遺構の廃棄後の堆積状況を示すものである可能性もある。なお、底部の状況から見て、栗林例と同様根茎類の澱粉採取には不適当であったと考えられる。



第104図 栗林遺跡の水さらし場状遺構

### 第3節 縄文晩期後半の土器について

A地点のD5区では、土器捨て場と推定される落ち込み部で、縄文晩期後半のまとまった土器の出土を見た。編年的位置付けについては今後の研究に期待するが、飛驒地方での該期の土器を比較して検討してみたい。

飛驒地方で縄文晩期後半の土器がまとめて出土した遺跡としては、次のような遺跡がある。

#### 阿弥陀堂遺跡（益田郡小坂町）

1951年および1958年に発掘され、調査結果が1965年に大江命によってまとめられた（大江1965）。出土した土器は、第1類（精製土器）、第2類（半精製土器）、第3類（粗製土器）の3種からなり、「阿弥陀堂式」が提唱された。

1993年には、当センターによって付近の道路の拡幅部が発掘調査された。出土遺物は少量であったが、いわゆる遠賀川系の土器や大地型の土器も出土した。報告書の中では、1951年・1958年・1993年の発掘地点をそれぞれ仮称であるが、A地点・B地点・C地点として、出土土器の比較検討を行っている。その中で、C地点出土のものは、大洞A～A'式段階の幅をもたせ、A地点出土のものを古い段階に位置付けている（藤田1994）。

#### 木谷遺跡（大野郡白川村）

1985年に発掘調査された。土器は縄文後晩期を中心に約2,000点出土しており、大洞C<sub>2</sub>末から大洞Aに並行する小型壺や鉢形土器が出土している。また、黒鉛を含むものも見られる（石原1988、吉田1991）。

#### 家ノ下遺跡（吉城郡宮川村）

1990年に発掘調査された。詳細については報告書の刊行を待つことになるが、出土土器は、縄文後期中葉から晩期後葉にかけてが主体で、浮線文系の土器も比較的まとめて出土している（岩花1991、林1995）。

#### 立石遺跡（吉城郡国府町）

1994年に発掘調査された。縄文晩期の祭祀場跡が見つかっており、浮線文系土器が大量に出土した。今後の整理・報告が期待される（飛驒国府シンポジウム実行委員会1994）。

#### 前平山稜遺跡（高山市）

異形部分磨製石器が4個配列して出土したことで知られる遺跡であるが、縄文晩期の埋設土器で、葺状突起がついた無文の深鉢形土器が出土している（田中1993）。

五味原遺跡群では、「牛垣内遺跡」および「たのもと遺跡」で該期の土器がまとめて出土しているが、現在整理作業中である。

阿弥陀堂遺跡出土のものと類似の土器は、飛驒の周辺地域でも見つかっているが、郡上郡八幡町の勝更白山神社周辺遺跡で比較的多くの出土を見ている（長屋1995）。

他地域の編年的研究については、ここでは深入りしない。北陸地方では、下野式以降、長竹式さらに柴山出村式と編年されている（久田1991）。東海地方では、五貫森式・馬見塚式・樅王式と条痕文系の土器がつづく。カクシクレ遺跡では、明確に北陸系あるいは東海系のものとみなされるものはほと

んど見当たらない。

信州では、かつて氷I式・II式が設定されていたが（永峯1969）、最近では、「女鳥羽川式の段階」・「離山段階」・「氷式の段階」の3時期に区分され（中沢1991）、浮線文の土器に関する研究（石川1985、設楽1990）でも、同様に3段階に区分されている。

カクシクレ遺跡A地点出土の土器で、第29図103～110や、第44図576など、長野県御社宮司遺跡のものと類似するものがあり、信州の浮線文土器との関連が予想される。ただし、施文方法など信州のものとは必ずしも一致しないので、単純に信州方面との比較ができない。

カクシクレ遺跡では、器形の復元できる土器が比較的多く見つかっている。器形から見て、内湾する鉢形土器（A）、直立する鉢形土器（B）、くびれて外反する深鉢形土器（C）、小型浅鉢（D）の4種に分類する。第105図で飛驒における縄文晩期後半の土器を器形ごとに並べてみた。

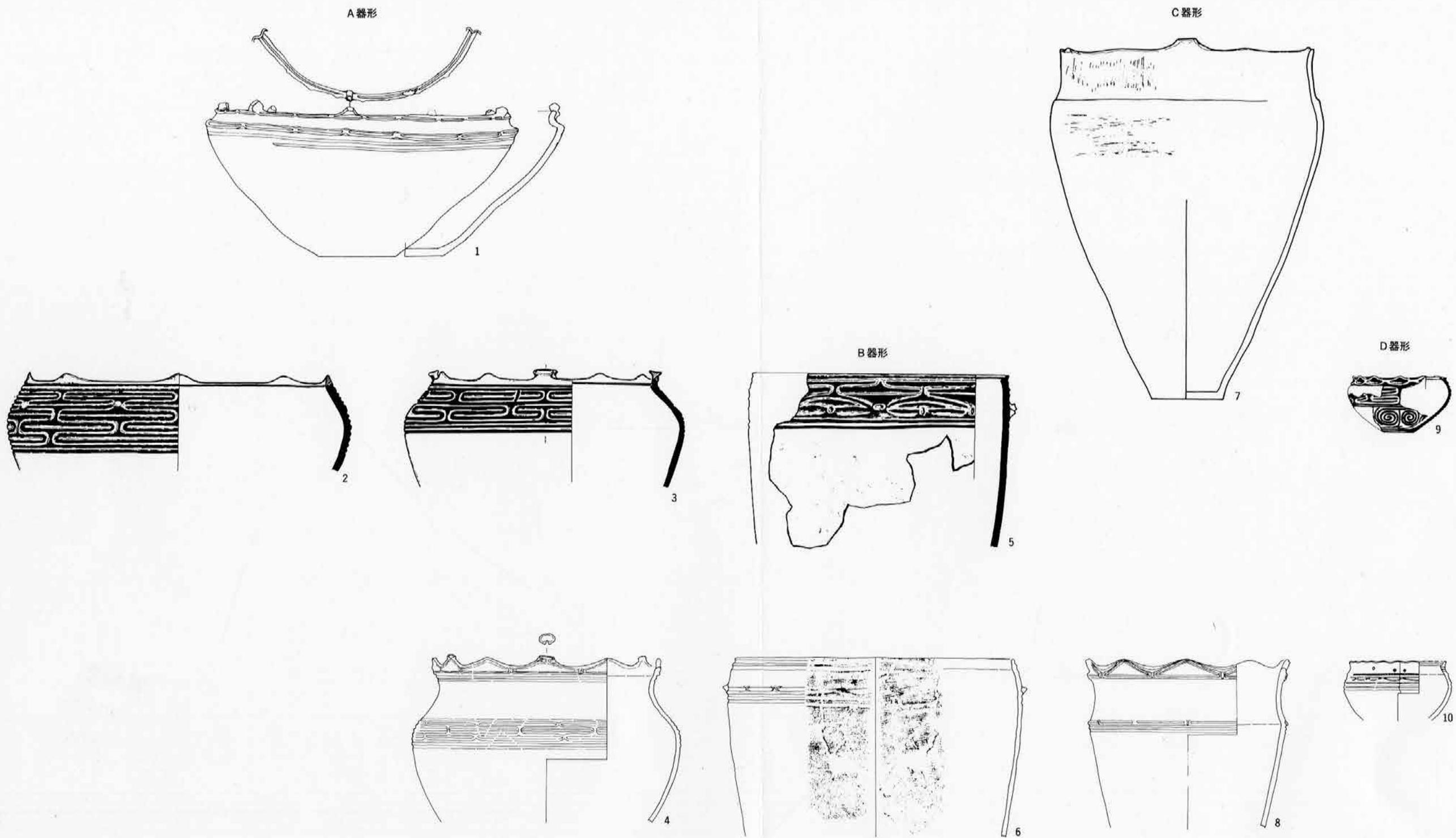
A器形では、木谷遺跡出土の1は、口縁部文様帯と胴上部の文様帯の間に無文部があり、古い様相を呈する（石川1985）。また、葺状突起の簡素なものが付く。阿弥陀堂遺跡A地点出土の2は山形の波状を呈し、同じく3は、葺状突起が付く。4はカクシクレ遺跡A地点出土のものであるが、D5区出土のものではない。葺状突起には、切り込みが入り、頸部が無文になっている。2～4の胴部文様は、比較的似ている流水文風の文様である。

B器形の5と6を比較すると、ともに突起がつくが、6の方が文様が簡素化している。

C器形の7は精製土器ではないが、葺状突起の簡素なものが付く点で1と同様の位置付けができる。8は、頸部の無文帯や文様構成から見て、4・6と対比できる。阿弥陀堂遺跡A地点の資料が同時期性が高く、また、カクシクレ遺跡A地点の土器も同様であるとすると、D器形においても、第105図で示したような9と10の序列が考えられる。

以上、簡略ではあるが、飛驒地方における縄文晩期後半の土器の変遷を3段階に設定した。その中で、阿弥陀堂遺跡A地点の資料とカクシクレ遺跡A地点の資料が、各器形において対比される点が注目される。また、他地域の編年との対応については、今後の研究に期待する。

1) 水さらし場遺構に関しては、『考古学ジャーナル』405に掲載したものとほぼ同じである（上嶋1996）。



第105図 飛驒における縄文晩期後半の土器 ( $S=1/6$ )

## 引用・参考文献

- 石川日出志 1985 「中部地方以西の縄文時代晚期浮線文土器」『信濃』37—4
- 石原哲彌 1988 『木谷遺跡発掘調査報告書』
- 岩花秀明 1991 「飛驒地域の概要」『東日本における稻作の受容』
- 岩花秀明ほか 1995 『南垣内遺跡』
- 大野郡丹生川村史編纂委員会 1962 『丹生川村史』
- 大參義一ほか 1972 『岐阜県史』通史編 原始
- 岡村秀雄 1992 「長野県栗林遺跡の貯蔵穴とさらし場」『考古学ジャーナル』No.354  
1995 「貯蔵穴と水さらし場—長野県栗林遺跡—」『季刊考古学』第50号
- 岡村秀雄ほか 1994 『県道中野豊野線バイパス志賀中野有料道路埋蔵文化財発掘調査報告書—長野県  
中野市内—栗林遺跡 七瀬遺跡』
- 岡谷市教育委員会 1986 『梨久保遺跡』
- 加藤三千雄 1988 「新保・新崎式土器様式」『縄文土器大観』3
- 角川日本地名大辞典編集委員会 1978 『角川日本地名大辞典』21岐阜県
- 金箱文夫 1989 『赤山』
- 唐木孝雄 1986 「中期後葉土器の分類と検討」『梨久保遺跡（本編）』  
1988 「上木戸遺跡」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書』2
- 河合村教育委員会 1987 『下田遺跡』
- 岐阜県教育委員会 1962 『岐阜県遺跡目録』  
1990 『改定版 岐阜県遺跡地図』
- 岐阜県博物館 1992 『飛驒のあけぼの』
- 倉敷考古館 1971 『里木貝塚』
- 紅村 弘 1979 『東海先史文化の諸段階（資料編II）』
- 財団法人岐阜県文化財保護センター 1994 『荒城神社遺跡』
- 潮見 浩 1977 「縄文時代の食用植物—堅果類の貯蔵庫群を中心として—」『考古論集』
- 説楽博己 1990 「第III章遺構と遺物 第3節上層の土器群について」『一津』
- 上嶋善治 1996 「岐阜県カクシクレ遺跡」『考古学ジャーナル』405
- 鈴木道之助 1981 『図録石器の基礎知識III』
- 高山市教育委員会 1987 『飛驒の考古学遺物集成』II  
1988 『寺東遺跡、西保木（対岸）遺跡発掘調査報告書』  
1991 『垣内遺跡発掘調査報告書』
- 田中 彰 1992 『垣内遺跡にみる飛驒の縄文集落』『飛驒のあけぼの』  
1993 『前平山稜遺跡・赤保木遺跡発掘調査報告書』
- 中部高地縄文土器集成グループ 1979 『中部高地縄文土器集成』第1集 縄文中期後半の部その1
- 戸沢充則 編 1994 『縄文時代研究事典』
- 戸田哲也 1982 「飛驒における晚期縄文土器の様相」『信濃』34—4

- 1993 「飛騨を中心とした縄文後期前半土器の様相」『先史考古学研究』第4号
- 中沢道彦 1991 「長野県の概要」「東日本における稻作の受容」
- 中島栄一・渡邊朋和 1988 「浮線網状文系土器様式」「縄文土器大観」
- 中野山越遺跡発掘調査団 1993 「中野山越遺跡発掘調査報告書」
- 長野県 1988 『長野県史』考古資料編
- 永峯光一 1969 「氷遺跡の調査とその研究」『石器時代』9
- 長屋幸二 1995 「西乙原遺跡・勝更白山神社周辺遺跡」
- 林 直樹 1995 「国道360号線バイパス改修工事に伴う発掘調査概報」
- 久田正弘 1991 「北陸地方西部の大洞C2式～大洞A、式直後の土器編年」  
『東日本における稻作の受容』
- 飛騨考古土俗学会 編 1935 『飛騨石器時代遺蹟地名表』
- 飛騨国府シンポジウム実行委員会 1988 『飛騨国府シンポジウム 古代の飛騨—その先進性を問う—』  
1991 『第2回飛騨国府シンポジウム 飛騨と文化—豊かな生活の再現—』  
1994 『第3回飛騨国府シンポジウム 日本歴史の中の飛騨—両面宿儺と新羅の僧「行心」—』
- 藤田英博 1994 「阿弥陀堂遺跡・深作裏垣内遺跡」
- 古田麻美 1991 「木谷遺跡」「東日本における稻作の受容」
- 増子康真 1981 「第3章 東海地方西部の縄文文化」「東海先史文化の諸段階」本文編 補足改定版
- 三上徹也 1988 「唐草文系土器様式」「縄文土器大観」第3巻
- 南 久和 1985 「北陸の縄文時代中期の編年 他9編」  
1989 「北陸晚期土器様式」「縄文土器大観」第4巻
- 吉朝則富 1988 「第6章遺物」「寺東遺跡、西保木（対岸）遺跡発掘調査報告書」
- 渡辺 誠 1984 「増補 縄文時代の植物食」

# 図 版

図版 1



3

1. 遺跡遠景 2. A地点遠景 3. A地点発掘前の状況

図版2



2

1



4

3



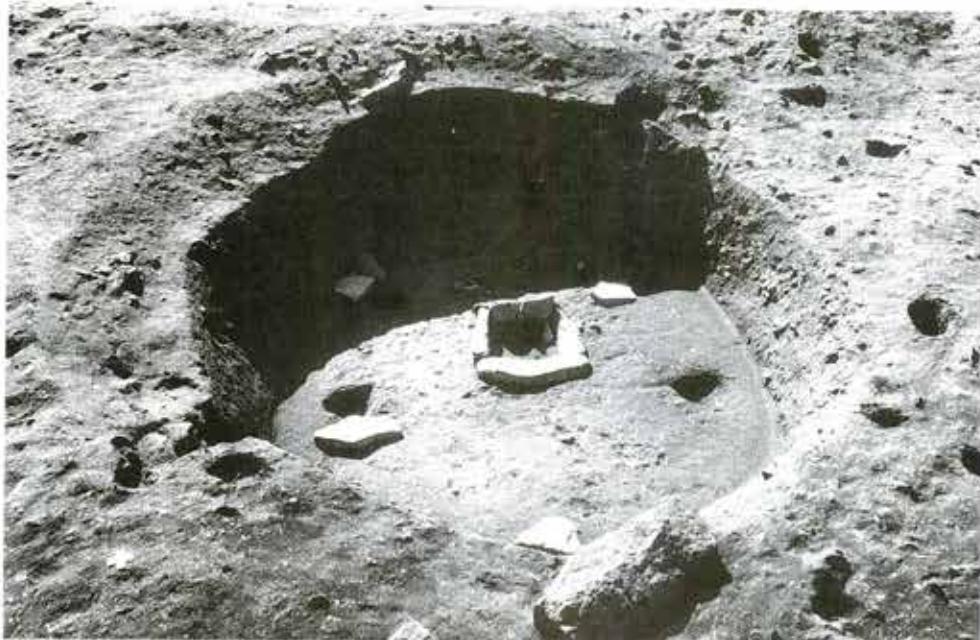
5



6

1. A地点全景 2. A地点作業風景 3. A地点H 5杭西側セクション

4. A地点G 3区東壁セクション 5. A地点第1トレンチ 6. A地点第2トレンチ



1



2



3



4

1. A 地点竪穴住居址

2. A 地点 SF 5 とその周辺

3. A 地点土坑

4. A 地点クルミ集中出土地点

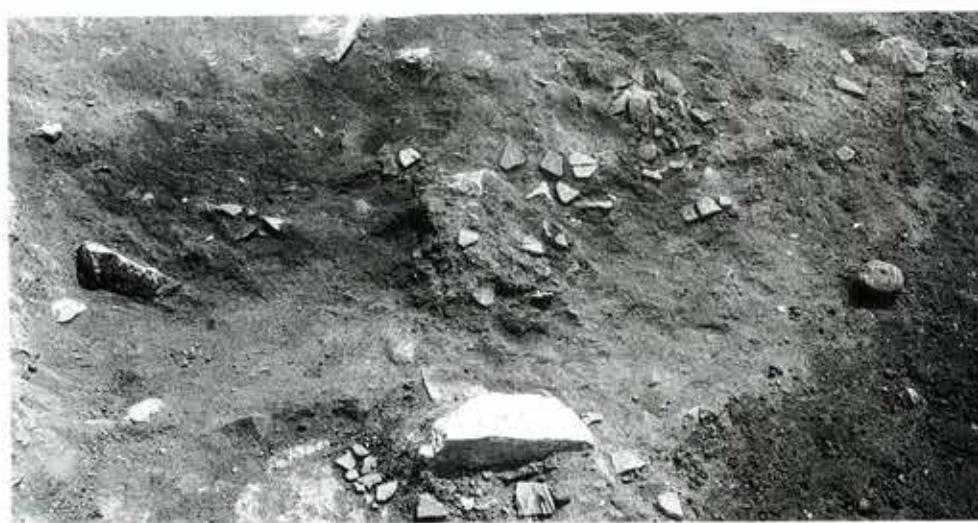
図版 4



1



2

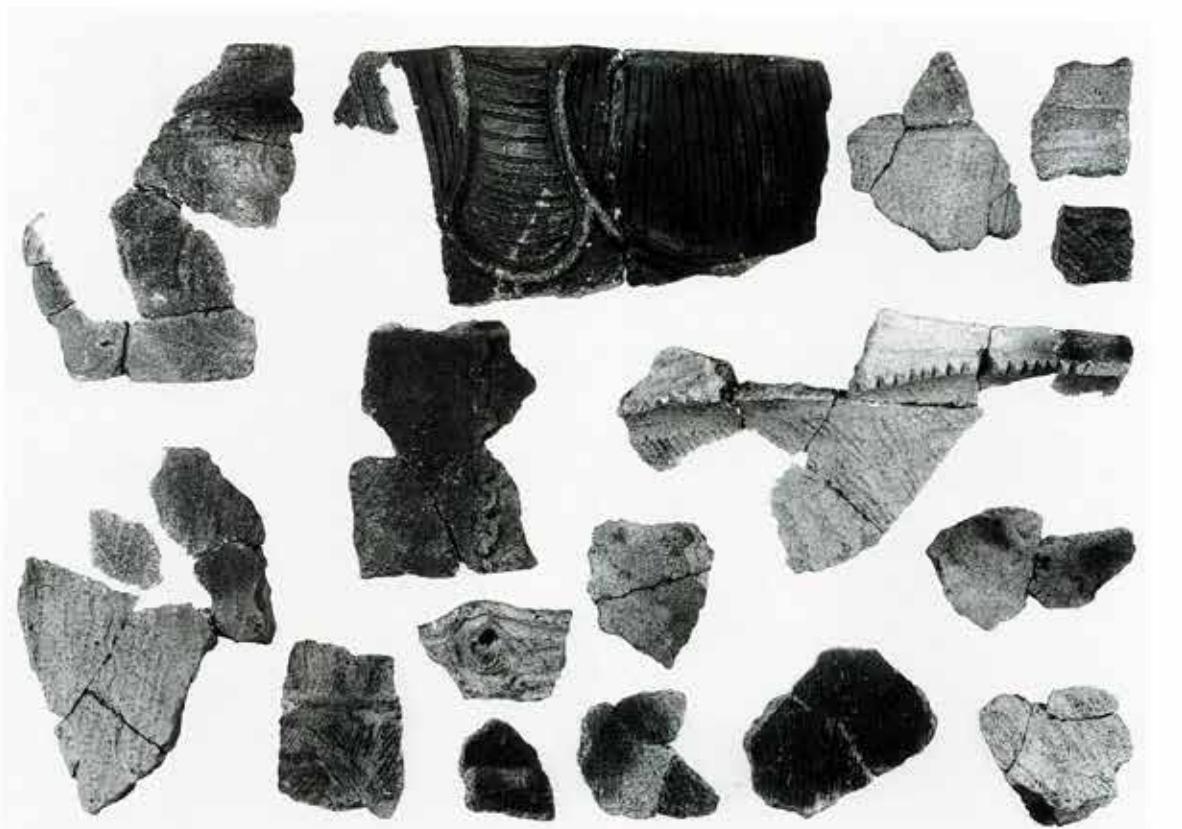


3

1. A地点水さらし場遺構

2. A地点水さらし場遺構セクション

3. A地点D 5区遺物出土状況



1



2



3



4

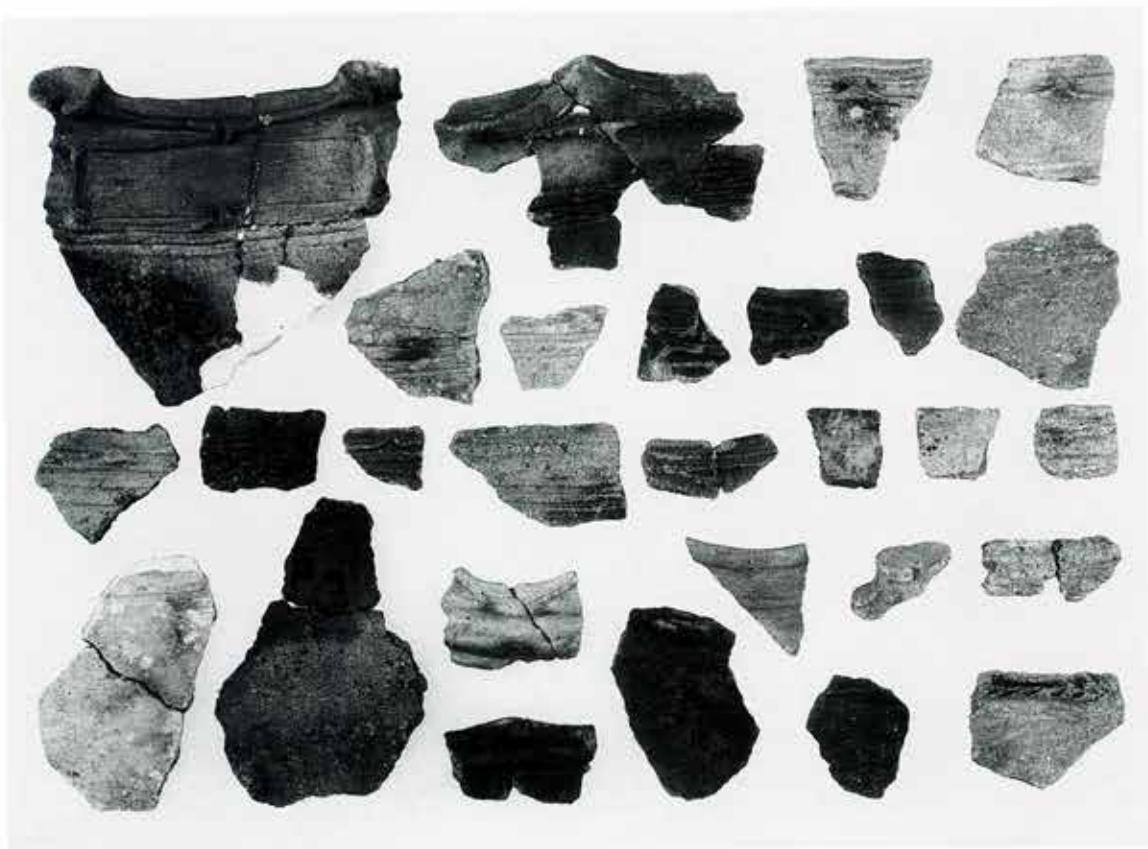


5

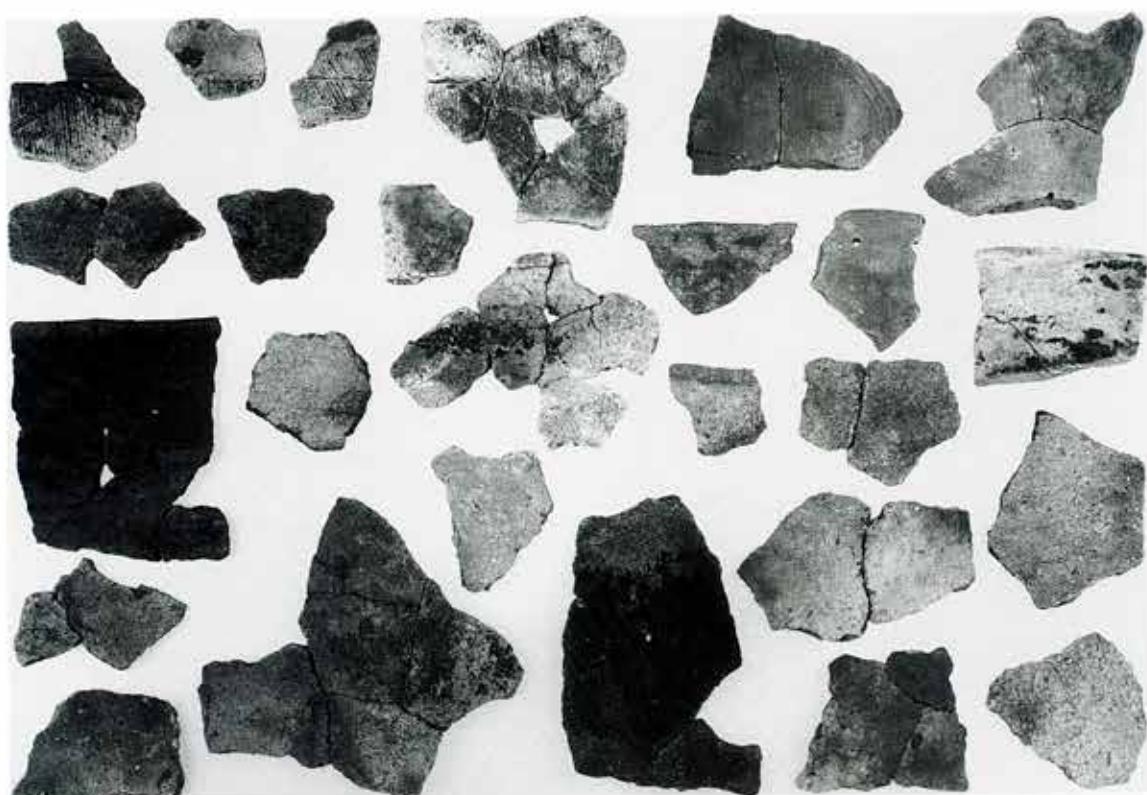
1・2. A地点竪穴住居址出土の縄文土器  
4・5. A地点D 5区出土の縄文土器

3. A地点水さらし場遺構出土の縄文土器

図版 6

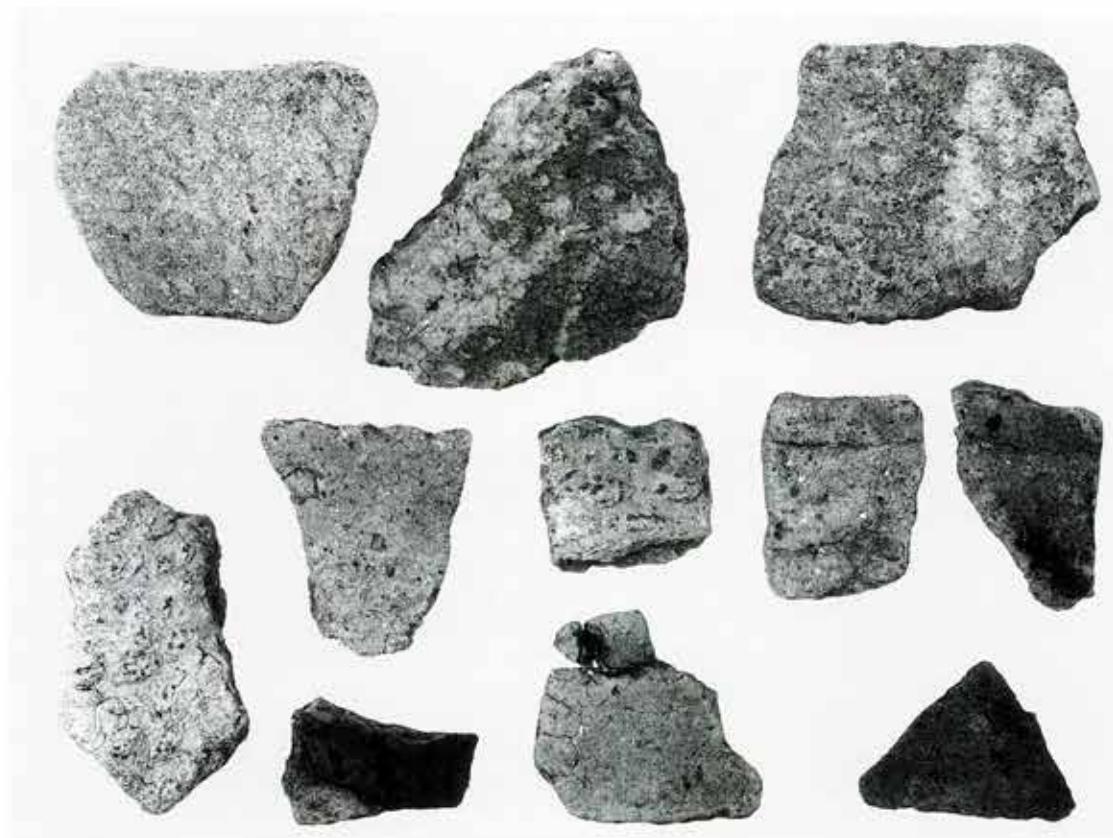


1

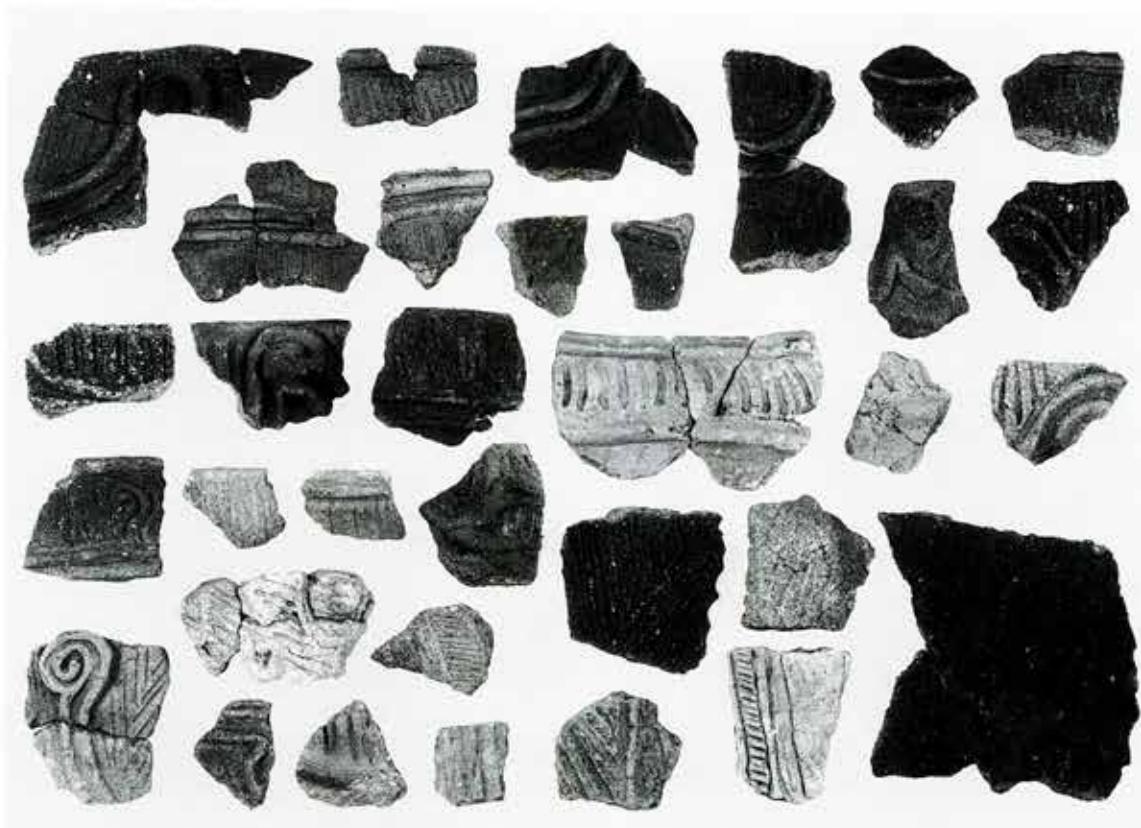


2

1・2. A地点D5区出土の縄文土器



1

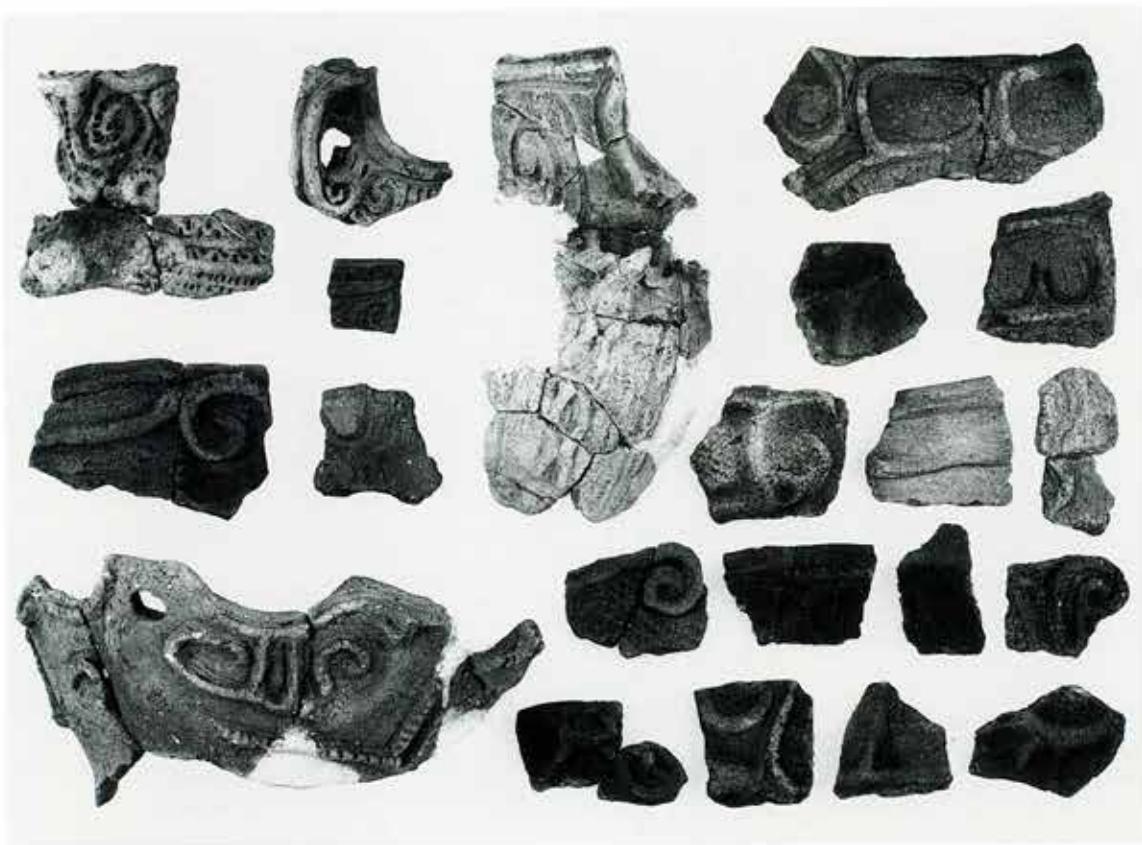


2

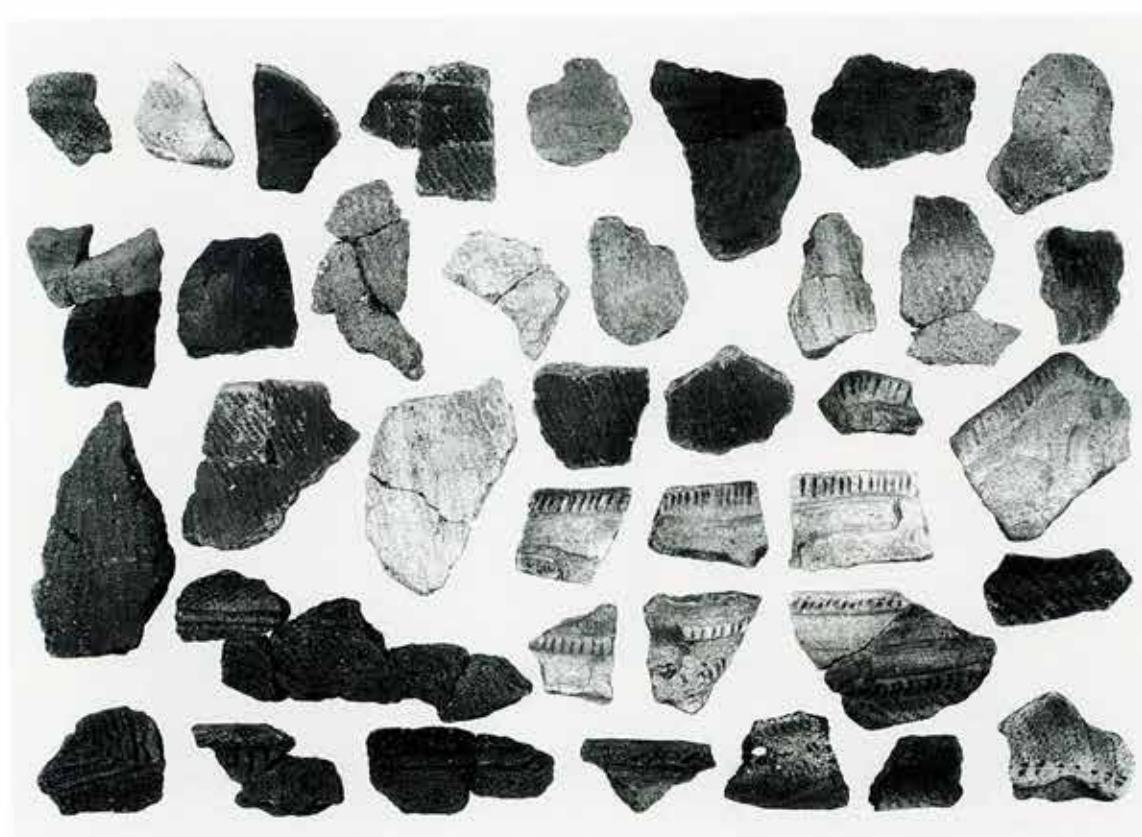
1. A 地点包含層出土の縄文土器（第V層）

2. A 地点包含層出土の縄文土器（C I群）

図版 8



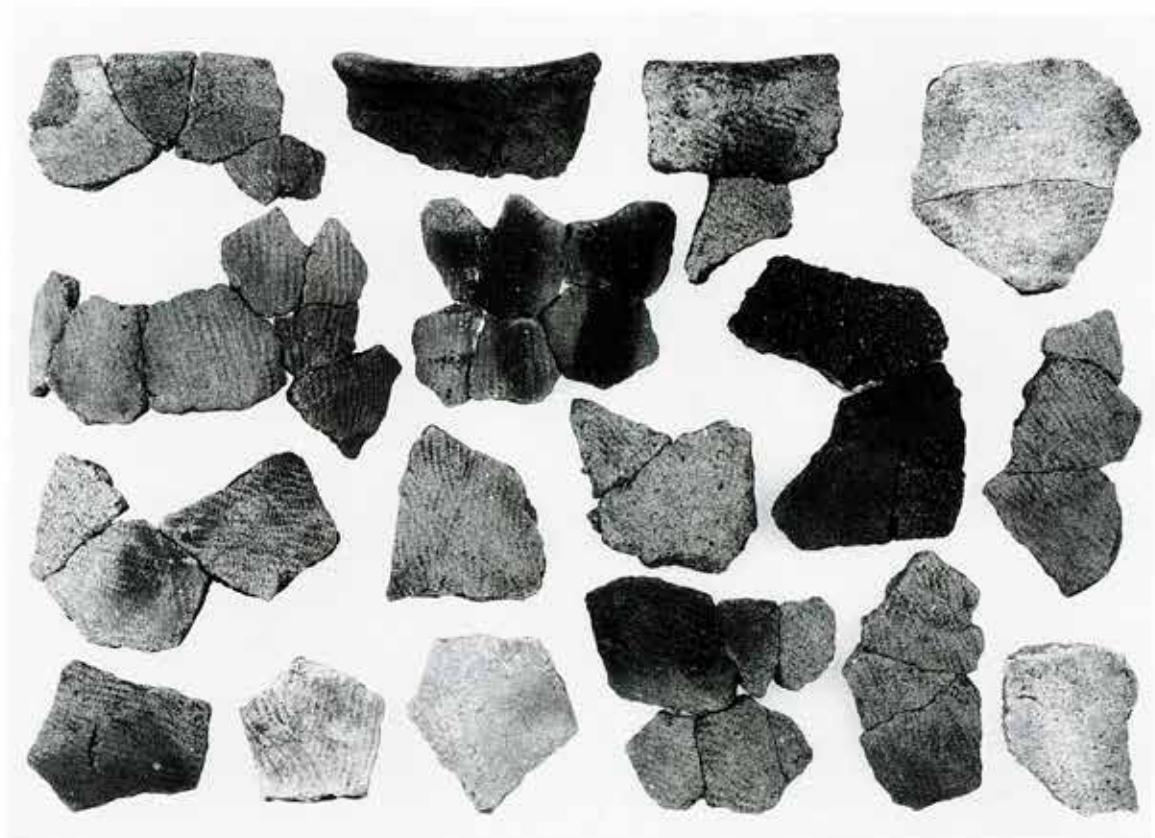
1



2

1. A 地点包含層出土の縄文土器 (C I 群)

2. A 地点包含層出土の縄文土器 (C II・C III群)



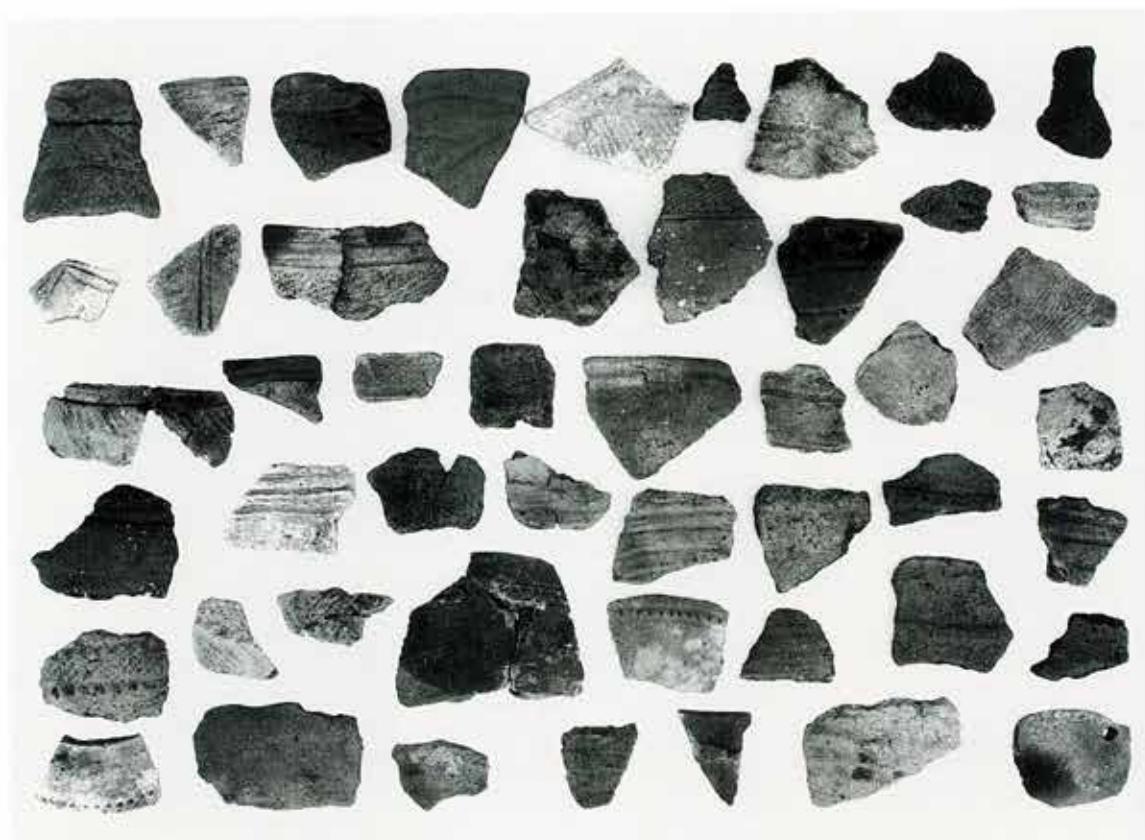
1



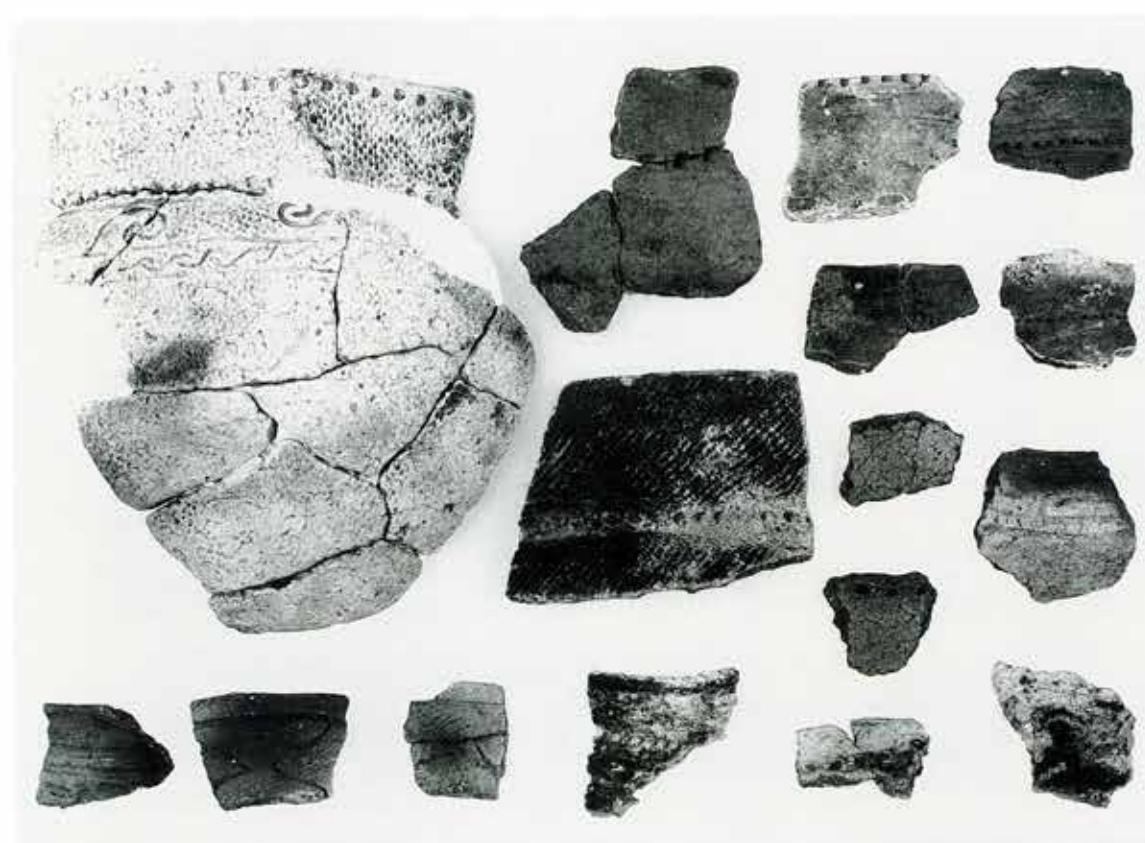
2

1・2. A地点包含層出土の縄文土器 (CIV群)

図版10



1



2

1. A地点包含層出土の縄文土器（B I群）

2. A地点包含層出土の縄文土器（B I群）

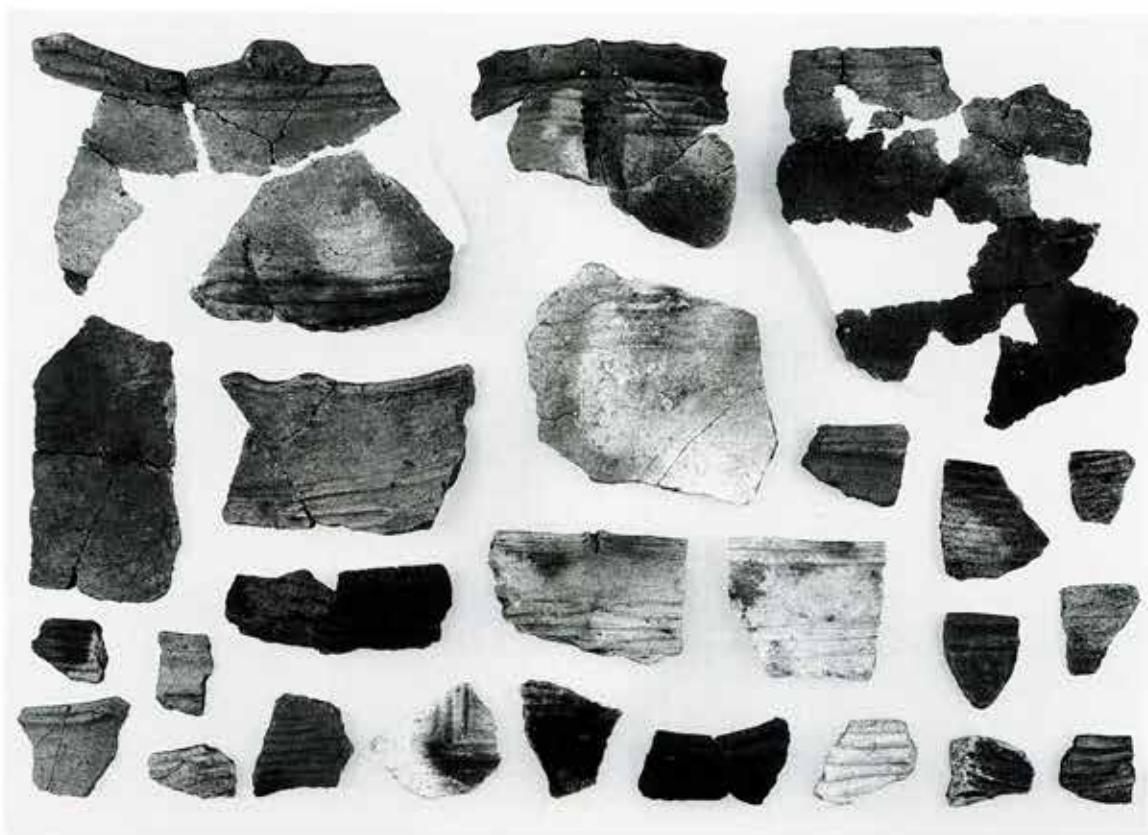


1

2



3

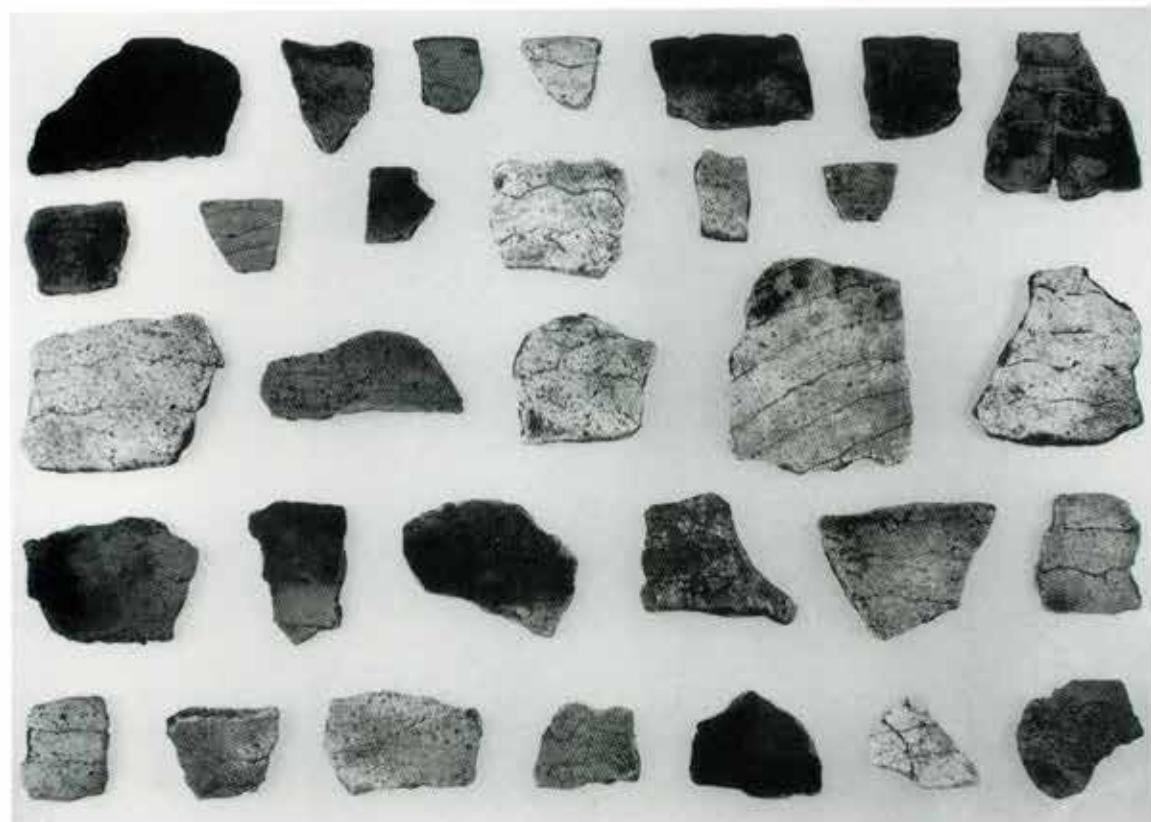


4

1～3. A地点包含層出土の縄文土器（B I群）

4. A地点包含層出土の縄文土器（B III群）

図版12



1



2



3

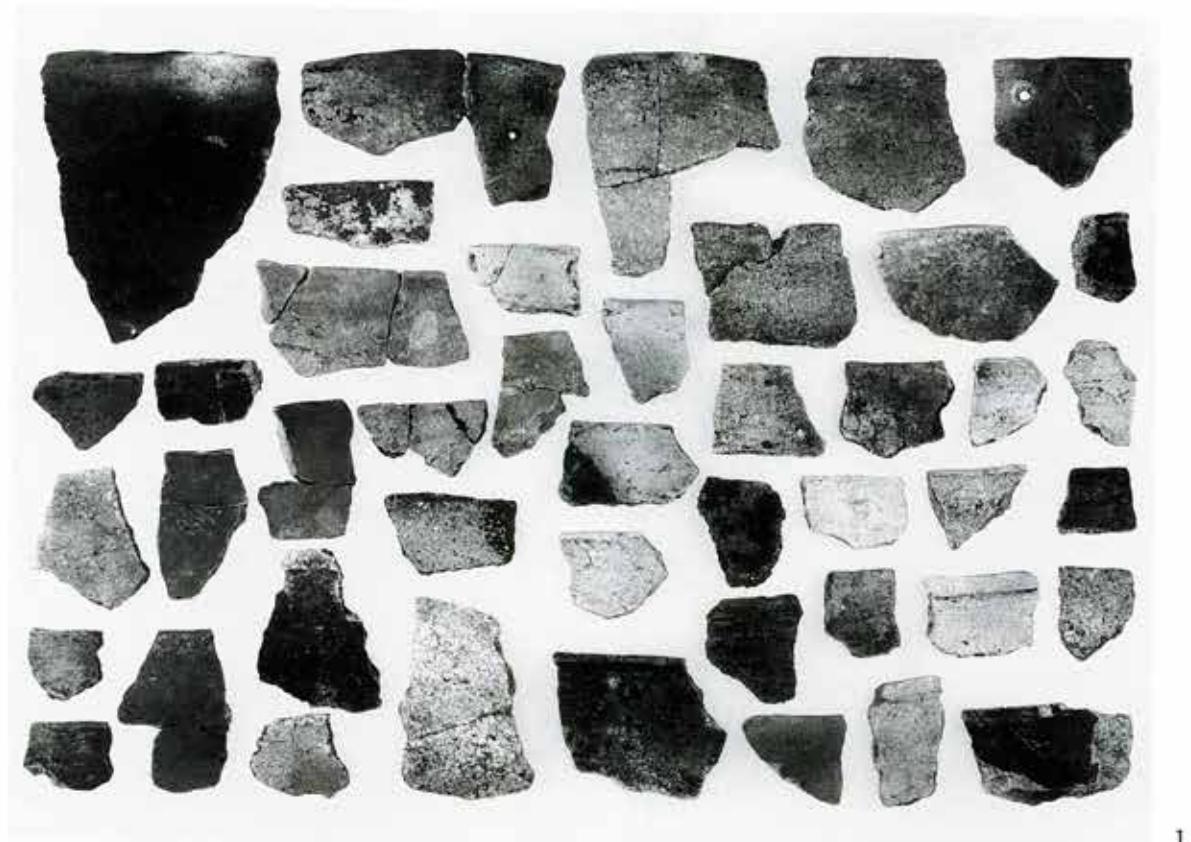


4

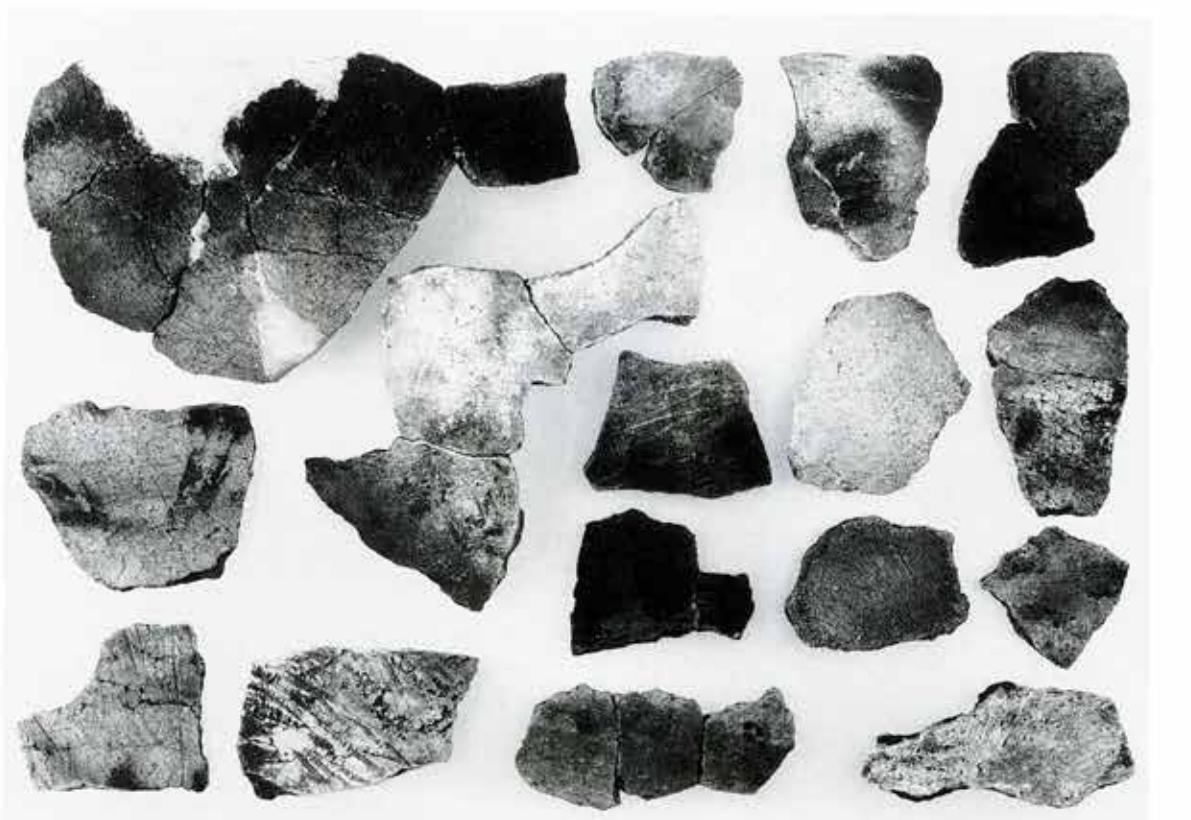


5

1～5. A地点包含層出土の縄文土器 (B III群)



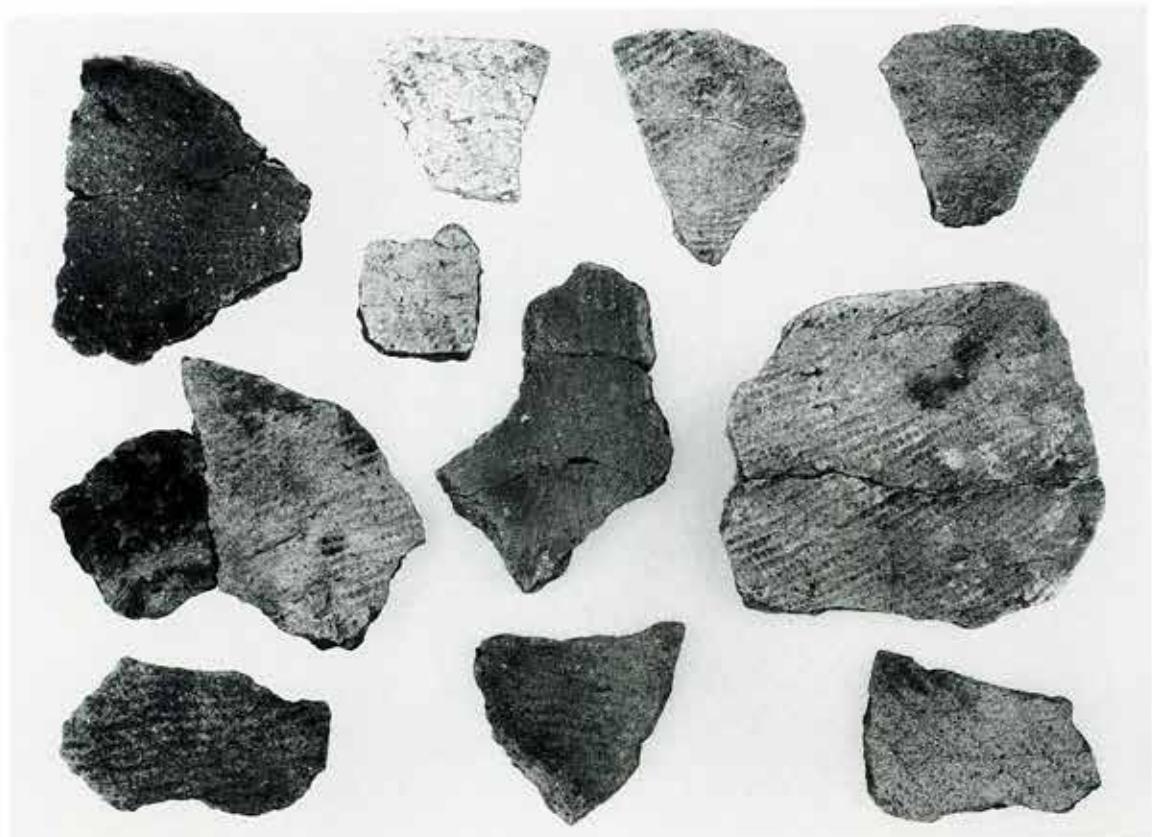
1



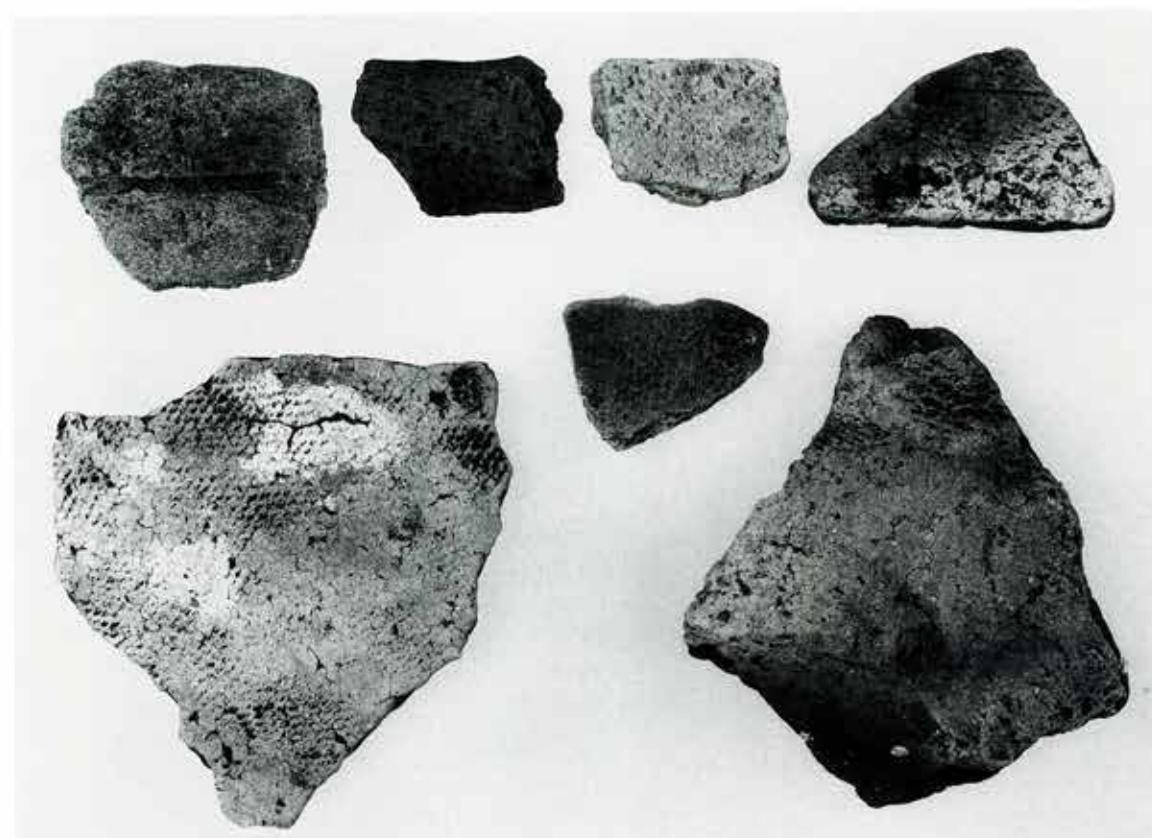
2

1・2. A地点包含層出土の縄文土器（B III群）

図版14



1



2

1・2. A地点包含層出土の縄文土器 (B III群)



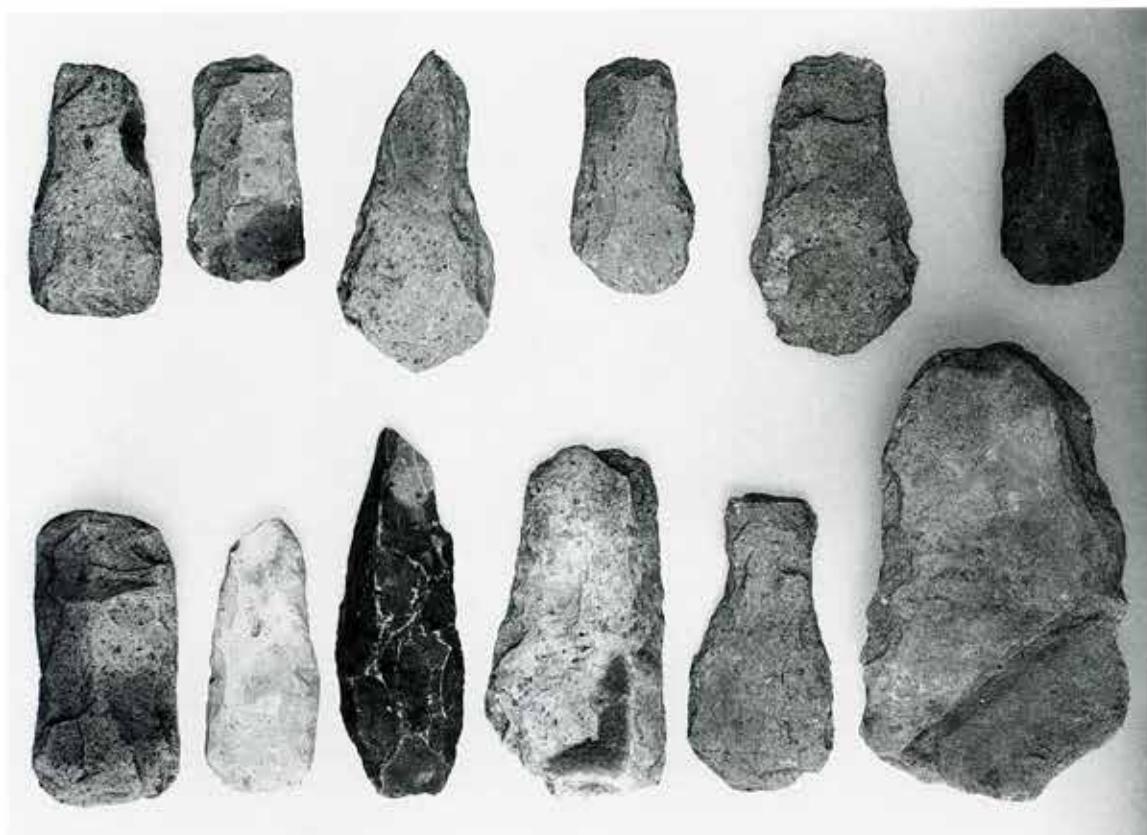
1



2

1・2. A地点包含層出土の石器類

図版16



1



2

1・2. A地点包含層出土の石器類



1



2



3



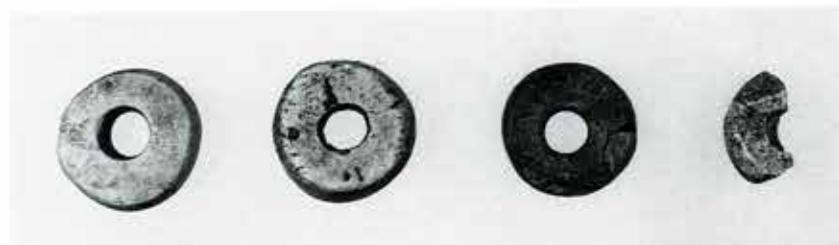
4



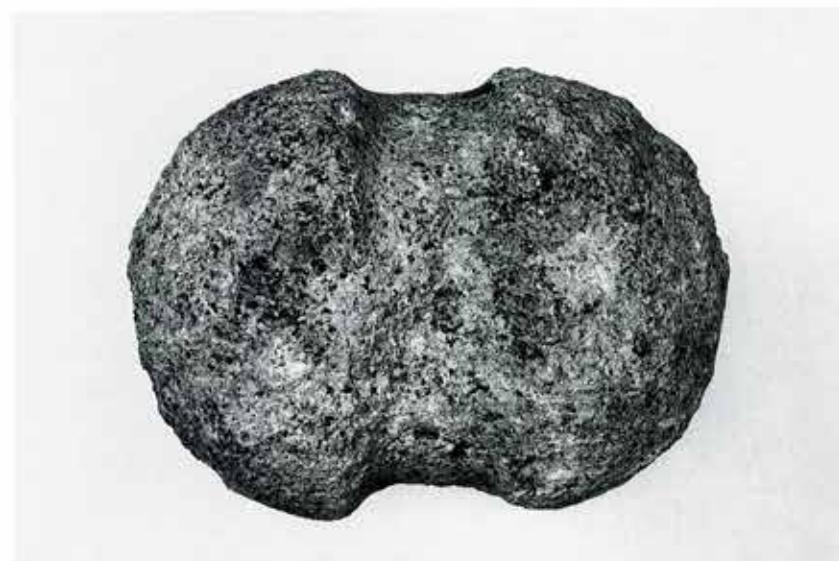
5

1～5. A地点包含層出土の石器類

図版18



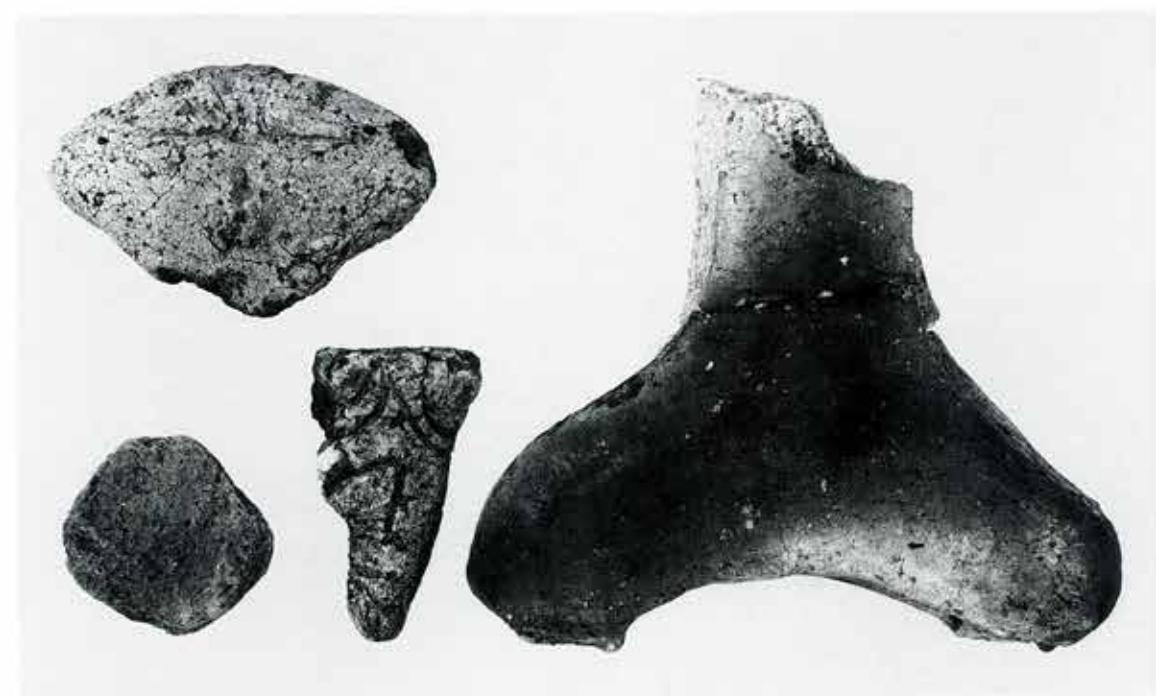
1



2

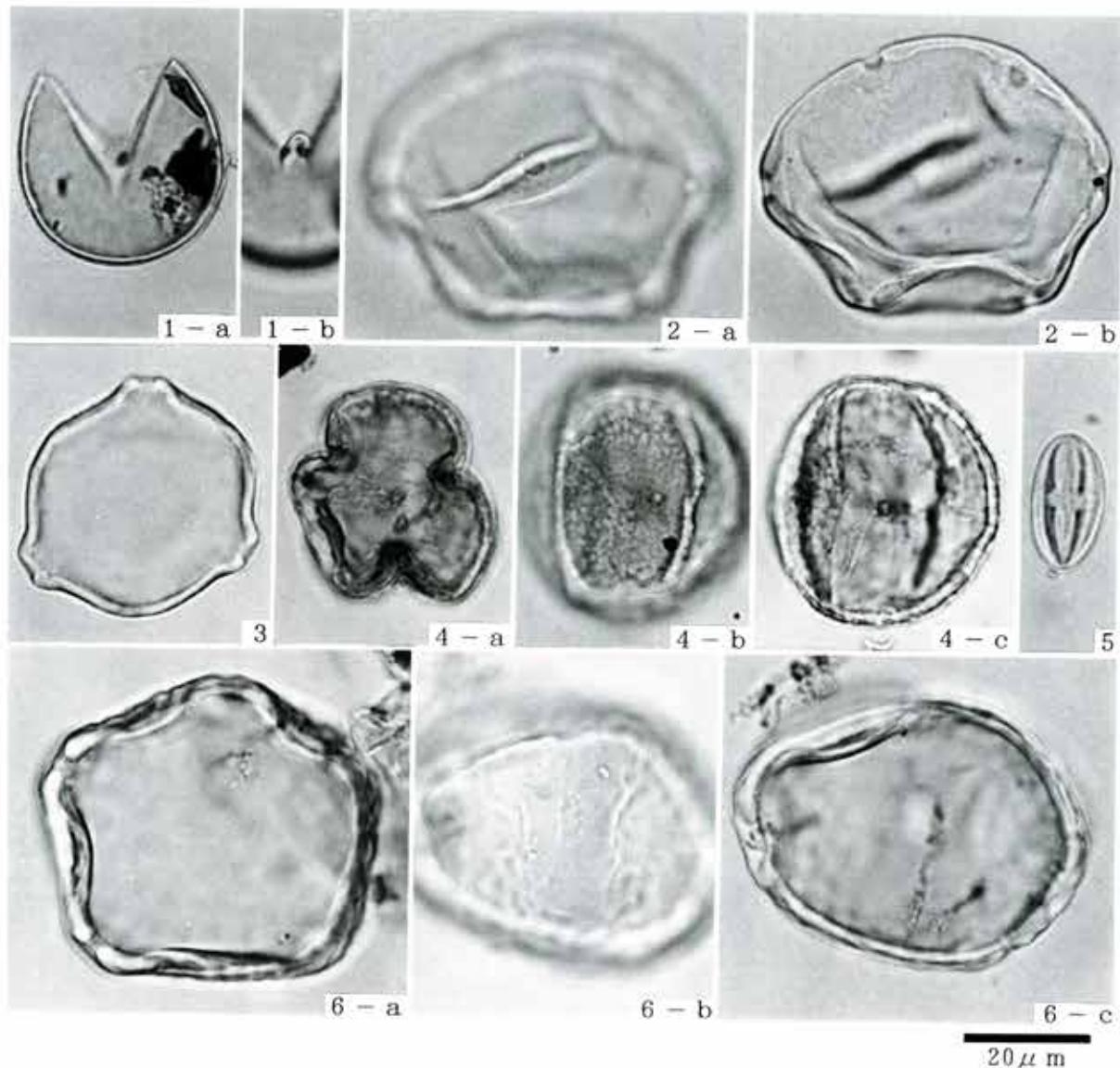


3



4

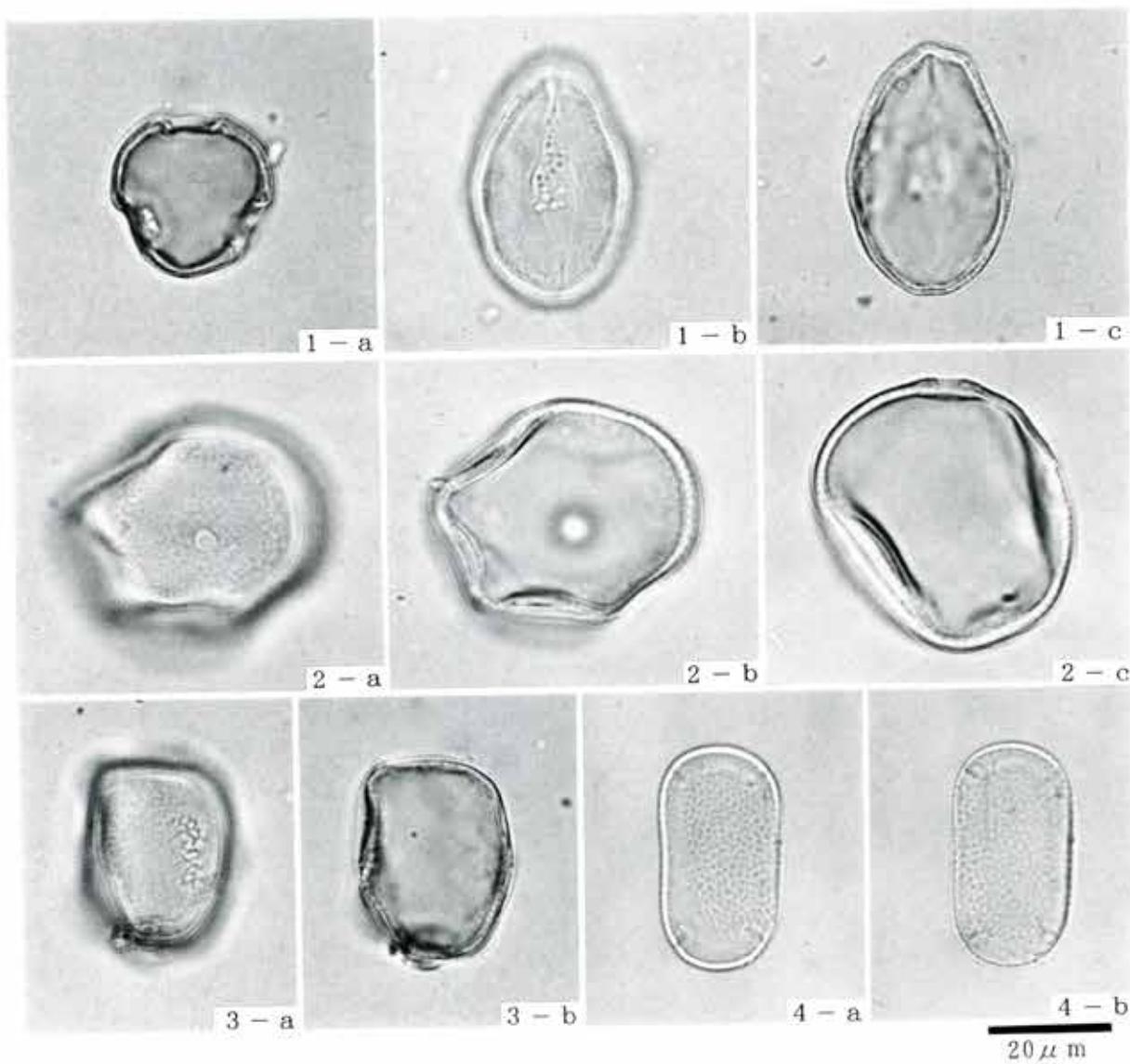
1～3. A地点出土の石製品 4. A地点出土の土製品



## 産出した花粉化石

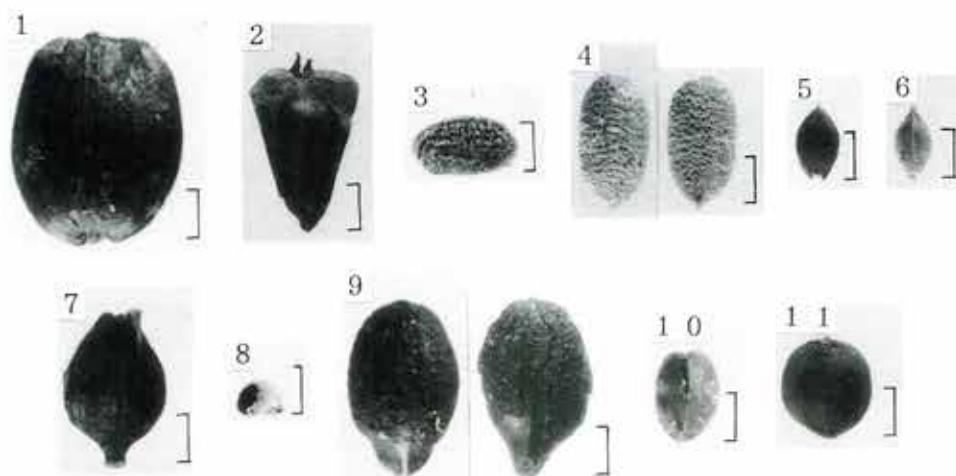
- 1 : スギ属、試料1、PAL. MN 905
- 2 : クルミ属、試料1、PAL. MN 906
- 3 : クマシテ属—アサグ属、試料1、PAL. MN 904
- 4 : コナラ属コナラ亜属、試料1、PAL. MN 902
- 5 : クリ属、試料1、PAL. MN 899
- 6 : ニレ属—ケヤキ属、試料1、PAL. MN 901

図版20



産出した花粉化石

- 1 : トチノキ属、試料1、PAL. MN 907
- 2 : イネ科、試料1、PAL. MN 900
- 3 : カヤツリグサ科、試料1、PAL. MN 908
- 4 : ツリフネソウ属、試料1、PAL. MN 903



出土した大型植物化石（スケールは 1 mm）

1. サワシバ、果実    2. ハンノキ属ヤシャブシ亜属、果実    3. タラノキ、核  
 4. ニワトコ、種子    5. スゲ属A、果実    6. スゲ属B、果実    7. タテ属、果実  
 8. ヘビイチゴ属、オランダイチゴ属、またはキジムシロ属、核    9. ツリフネソウ、種子  
 10. シロネ属、果実    11. シソ科、果実

図版22



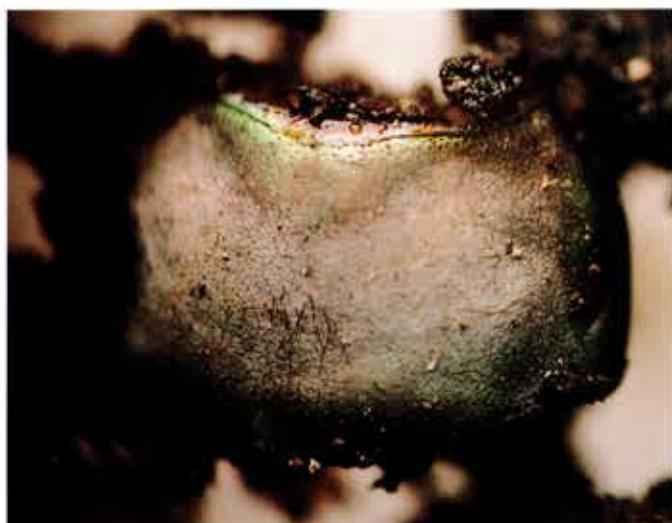
1. ヨツメトビケラ属 *Perissoneura* sp. 筒巢



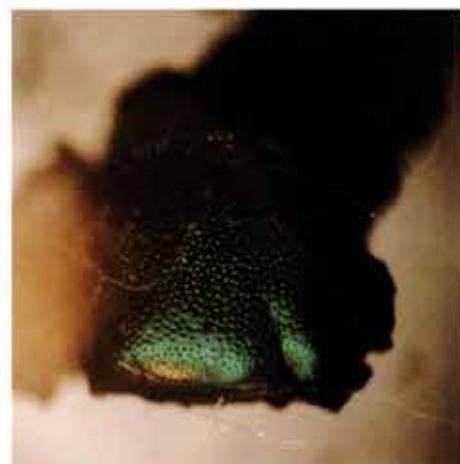
2. コエグリトビケラ属  
*Apatania* sp. 筒巢



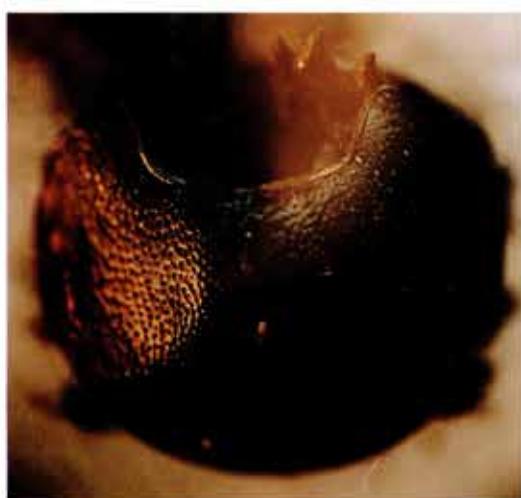
3. コエグリトビケラ属  
*Apatania* sp. 筒巢



5. ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY 前胸背板



4. ヒメコガネ *Anomala rufocuprea*  
MOTSCHULSKY 頭部



6. クロマルエンマコガネ  
*Onthophagus ater* WATERHOUSE 前胸背板と前肢



7. クロアシナガコガネ  
*Hoplia moerens* WATERHOUSE 前胸背板

スケール 1 ~ 3 ————— 1 mm  
4 ~ 7 ————— 1 mm



8. クシコメツキ  
*Melanotus legatus* CANDEZE 脼翅



9. キクビアオハムシ  
*Agelasta nigriceps*  
MOTTSCHULSKY 左鞘翅



10. クワハムシ 左鞘翅  
*Fleutiauxia armata* (BALY)



13. クロオオアリ 頭部  
*Camponotus japonicus* MAYR



11. ドウガネツヤハムシ  
*Oomorphoides cupreatus* (BALY)  
鞘翅



12. ホソネクイハムシ  
*Donacia vulgaris*  
ZSCHACH 脼翅



14. 双翅目 DIPTERA 地蛆

スケールすべて —— 1 mm

図版24



1. B地点遺景 2. B地点全景 3. B地点作業風景



1



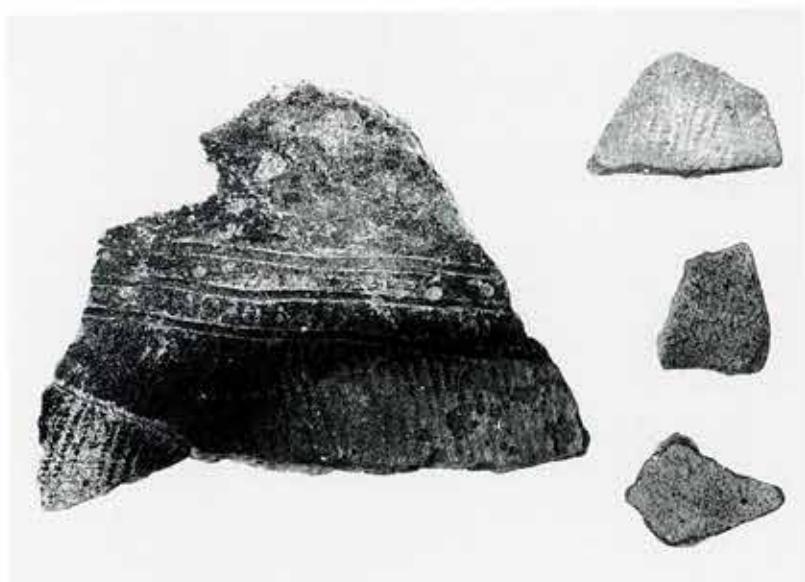
2



3

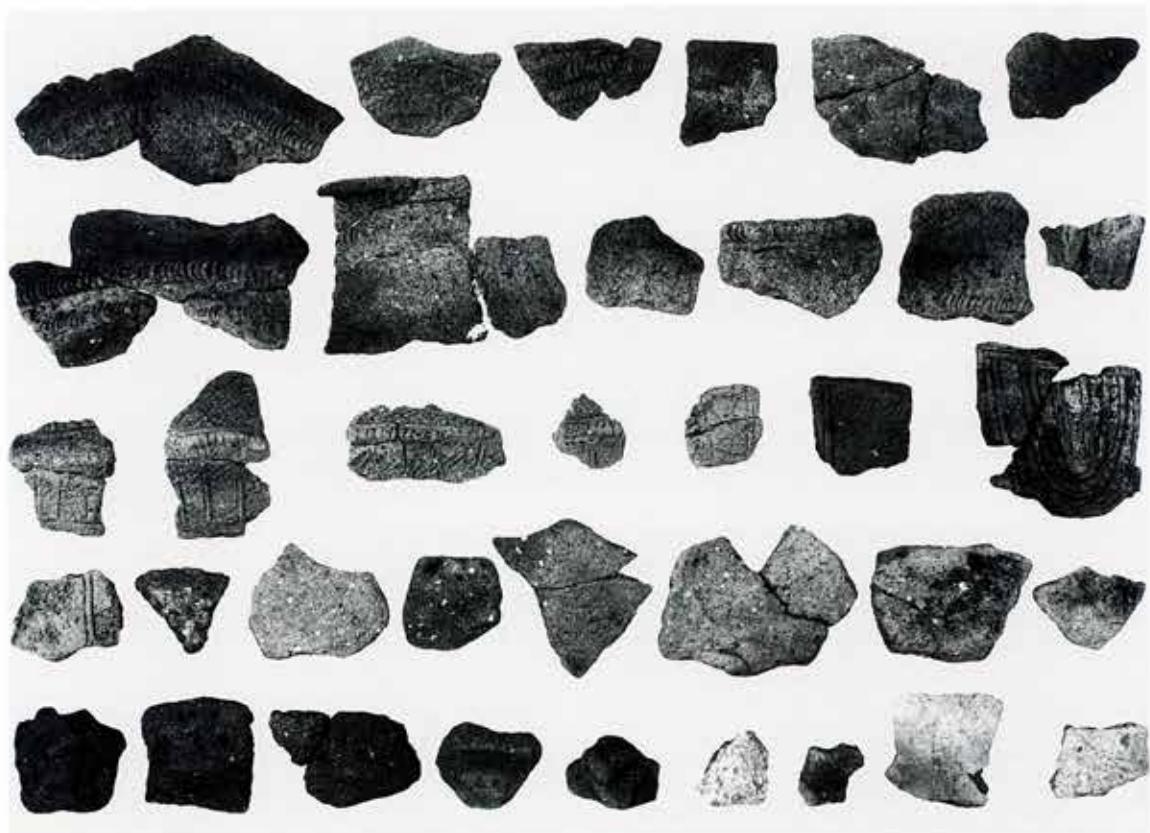
1. B地点F 12区東壁、2. B地点石組み遺構 3. B地点遺物出土状況

図版26



1

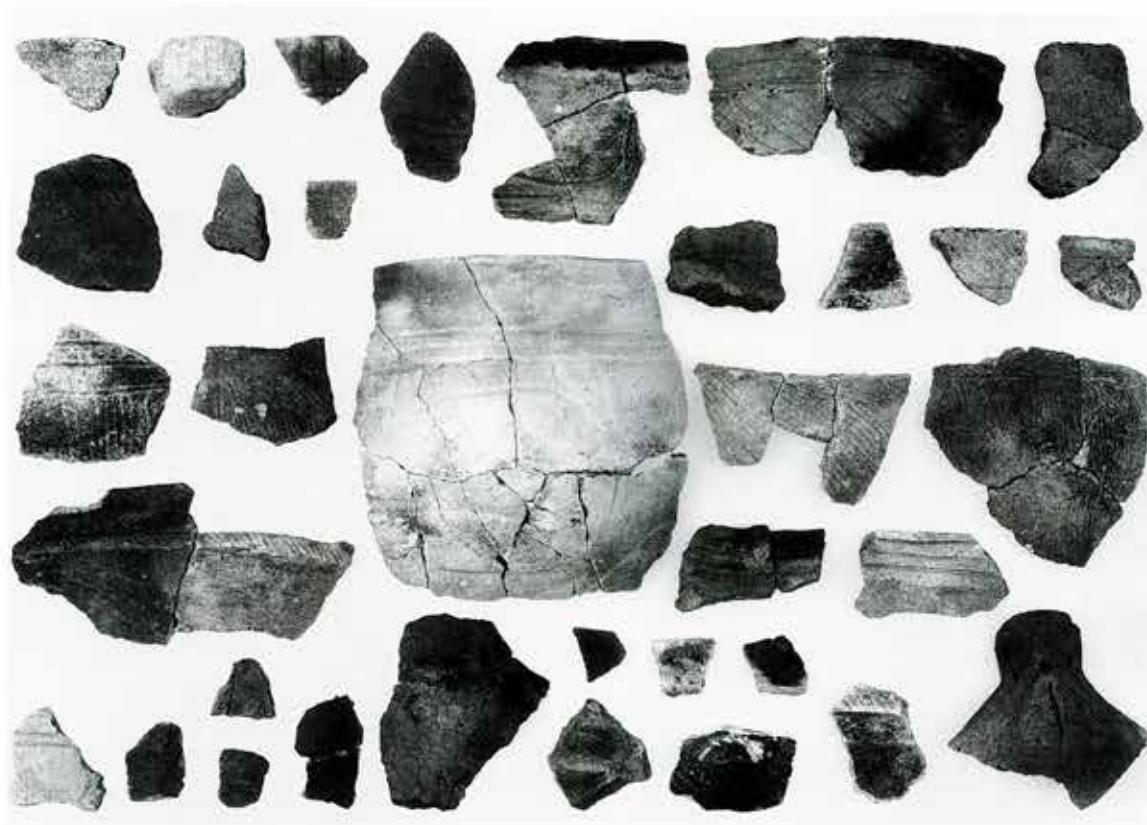
2



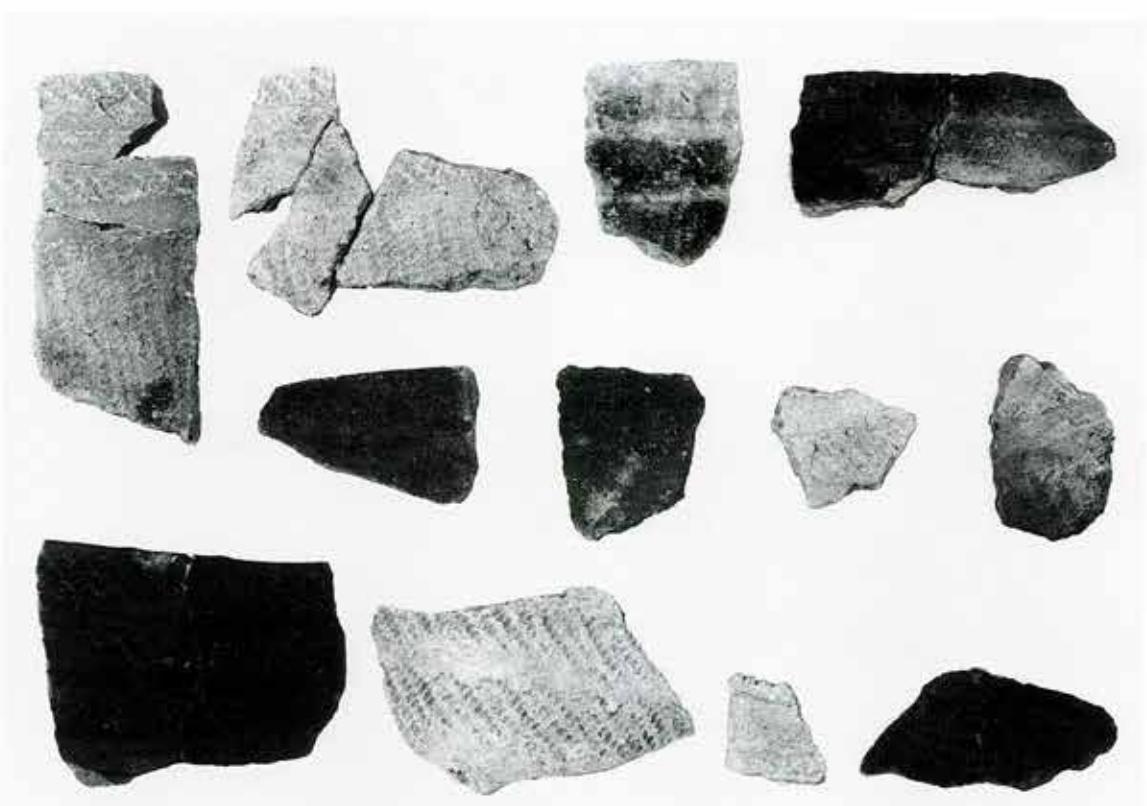
3

1. B 地点遺構出土の縄文土器

2・3. B 地点包含層出土の縄文土器（第IV～V層）



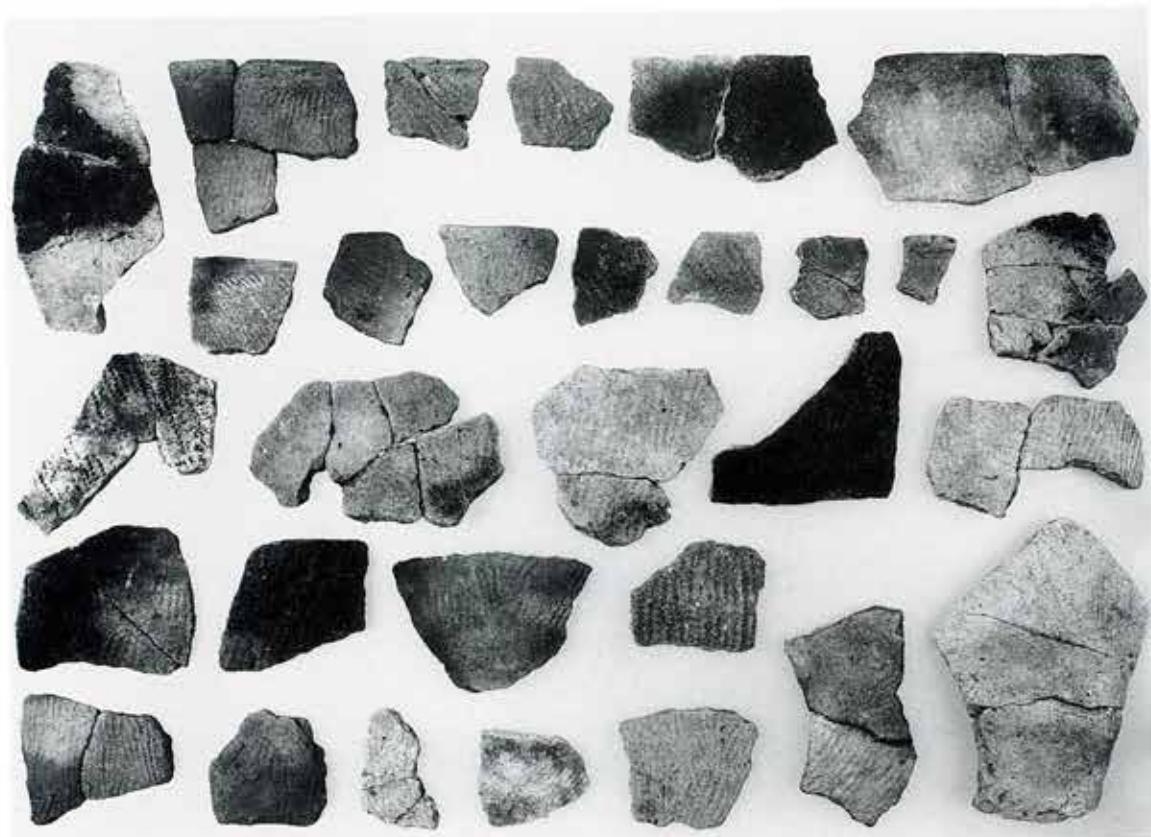
1



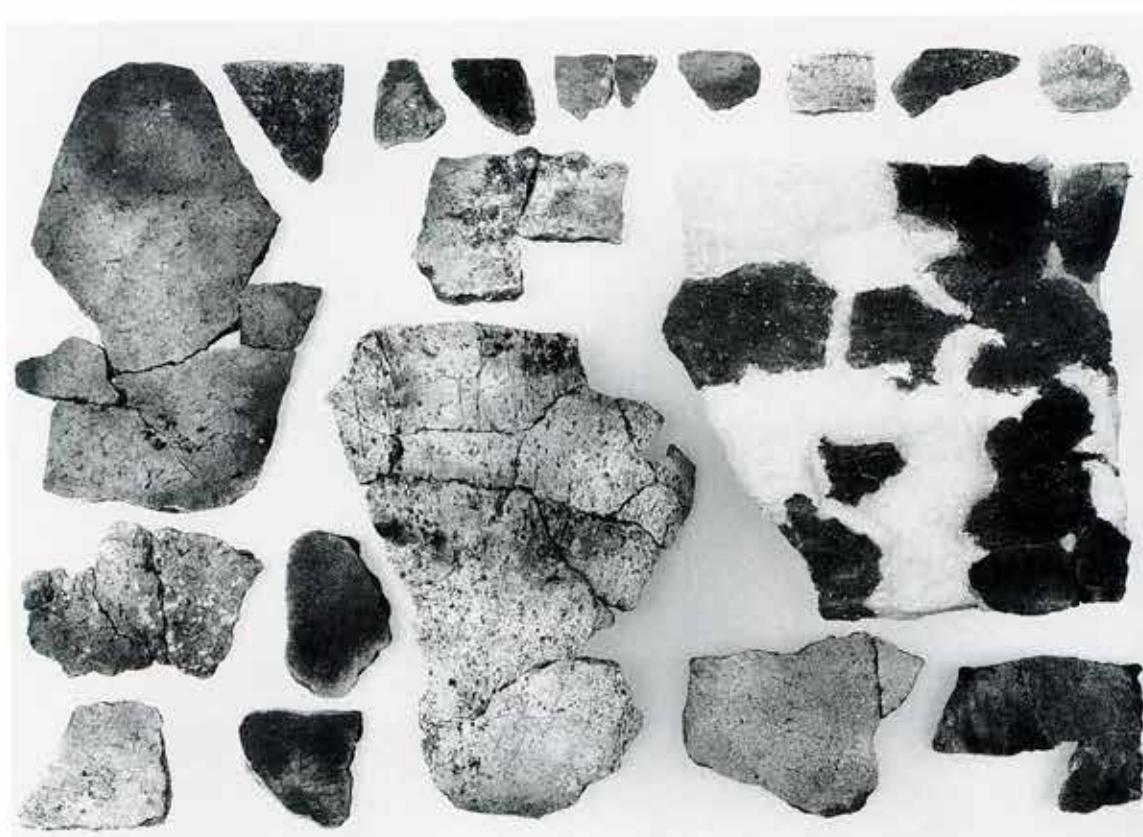
2

1・2. B 地点包含層出土の縄文土器

図版28

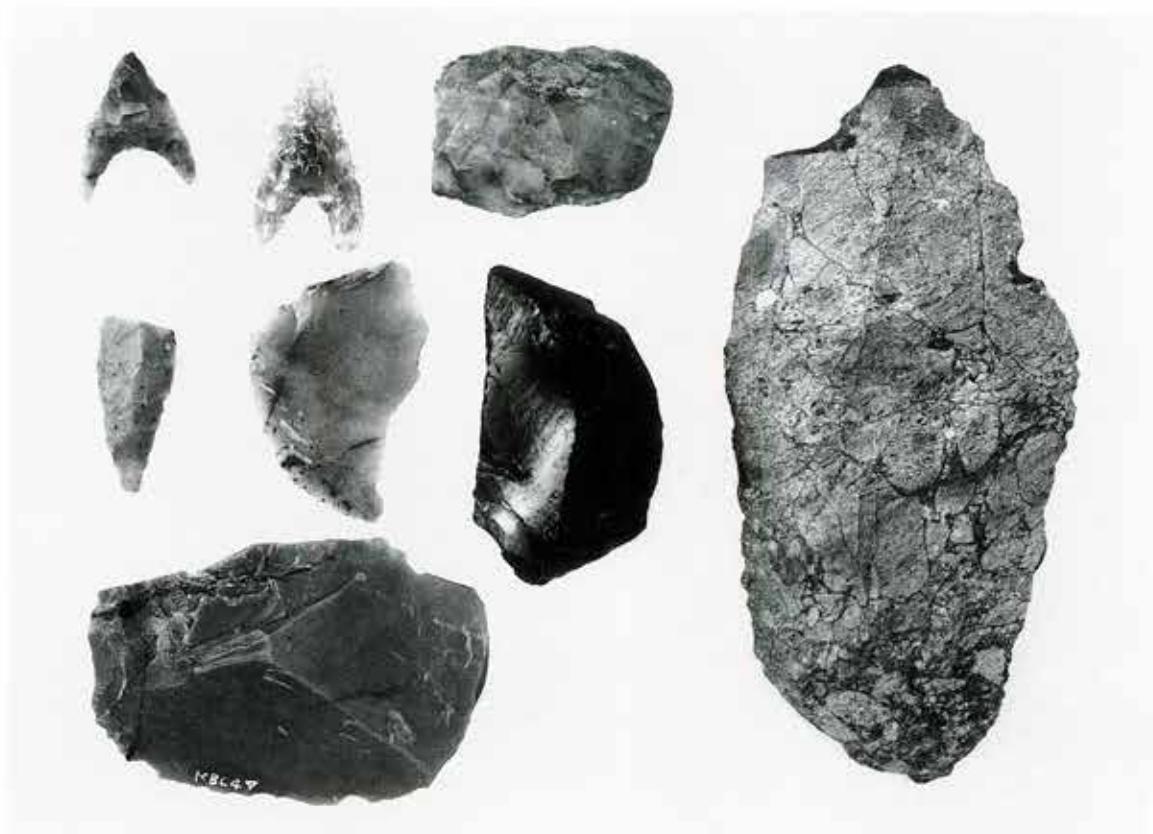


1



2

1・2. B地点包含層出土の縄文土器



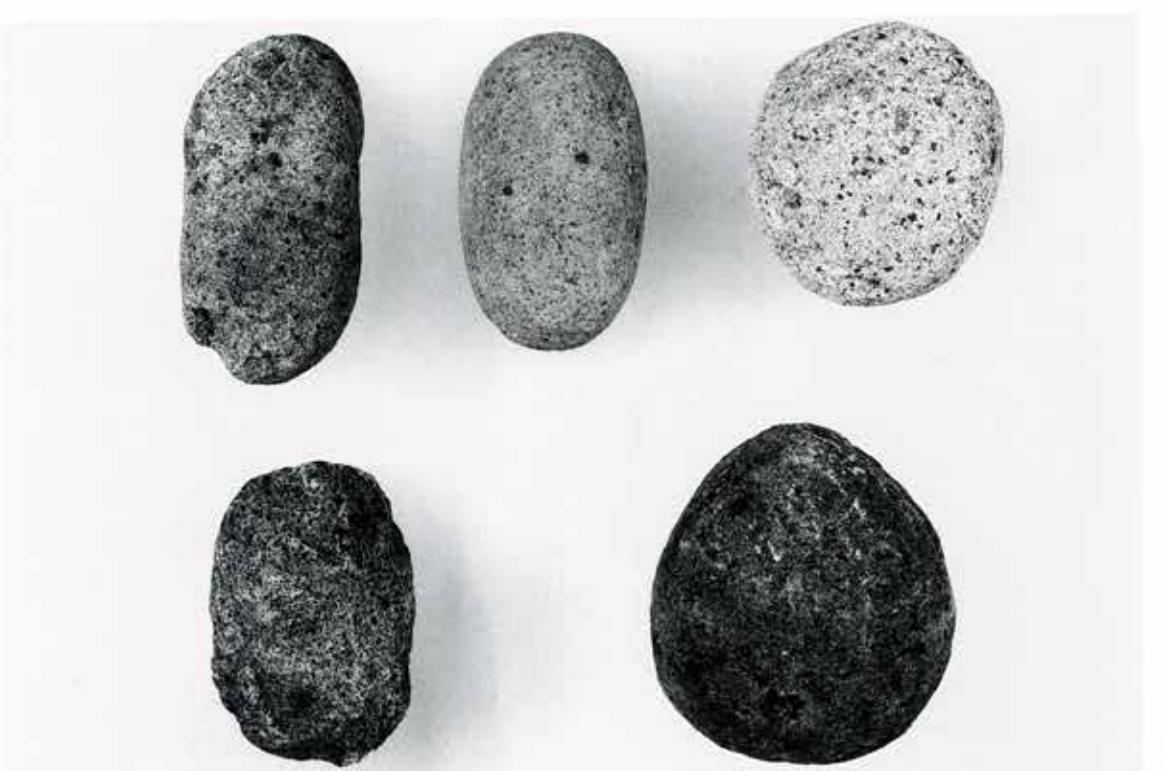
1



2

1・2. B地点出土の石器

図版30



1



2



3

1. B 地点出土の石器 2. B 地点黒曜石集中出土剥片類 3. B 地点出土の土製品



1



2



3

1. C 地点遠景 2. C 地点発掘前の状況 3. C 地点作業風景

図版32



1



2

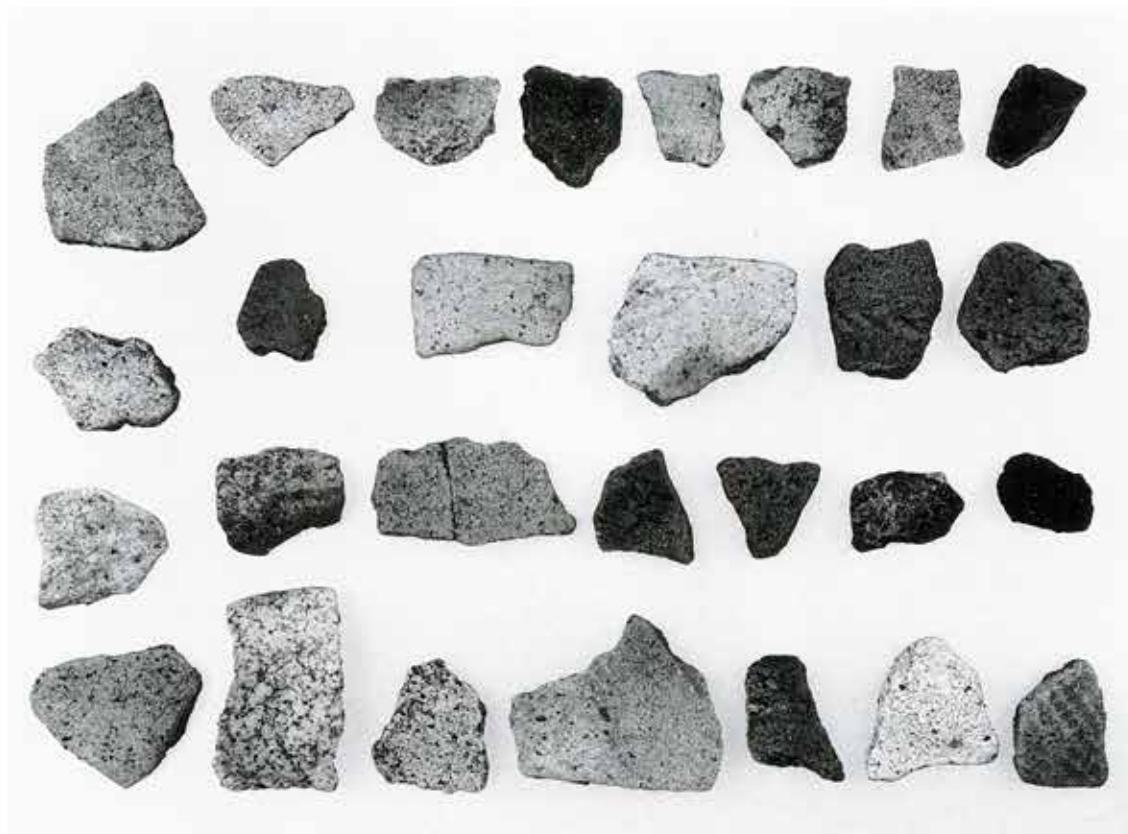


3



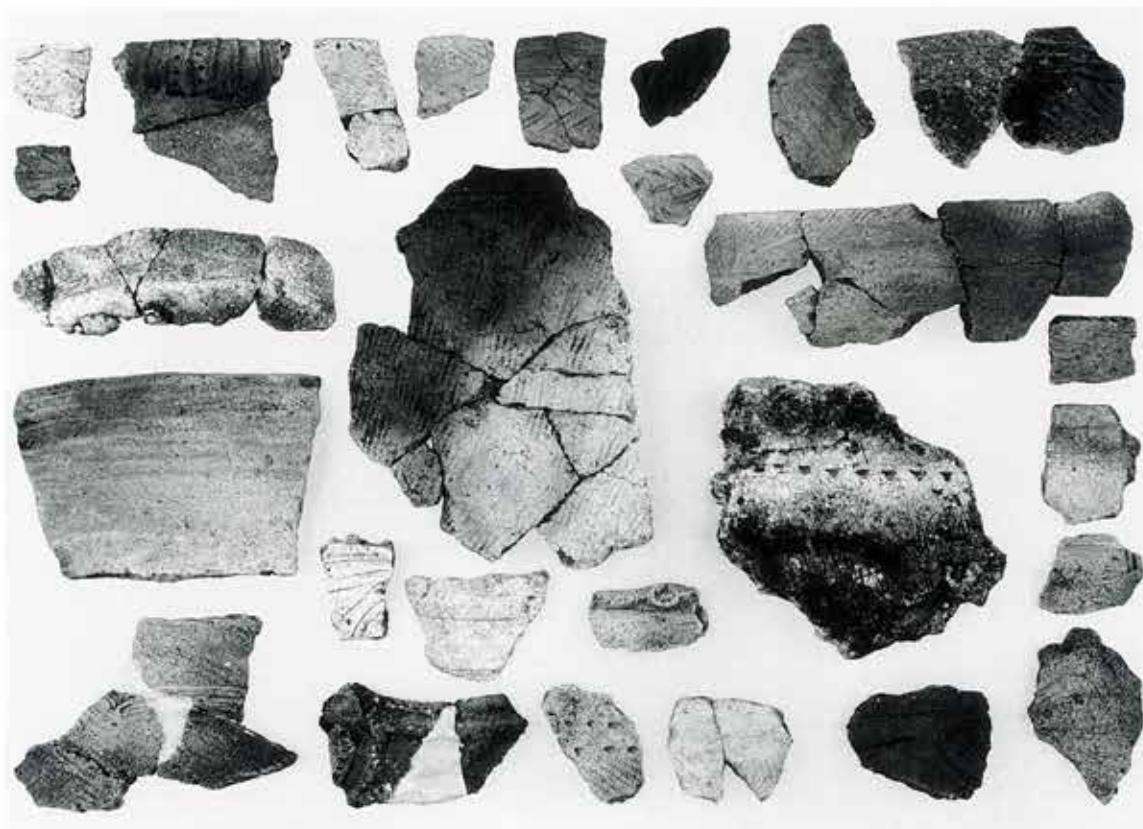
4

1. C地点全景 2. C地点炭化材集中出土地点 3. C地点巨大炭化木 4. C地点遺物出土状況



1. C 地点遺構出土の縄文土器 2. C 地点包含層出土の縄文土器

図版34



1

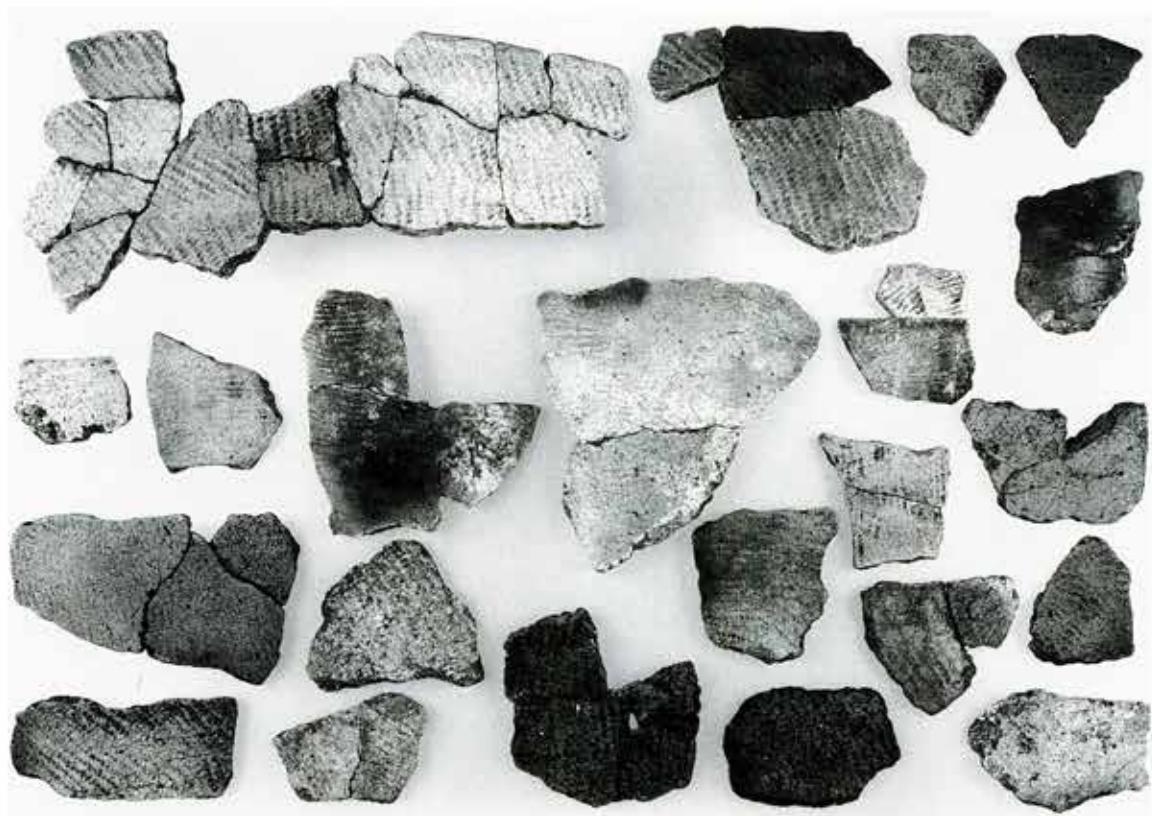


2

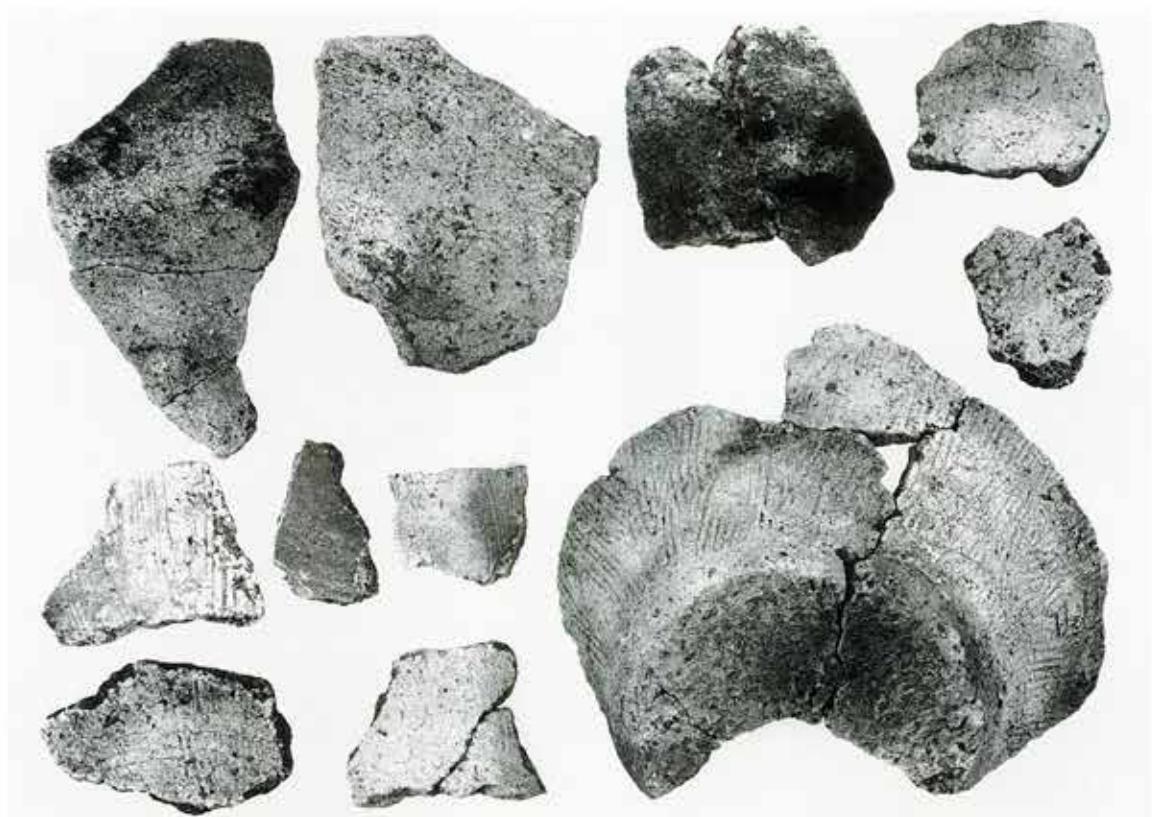


3

1～3. C地点包含層出土の縄文土器



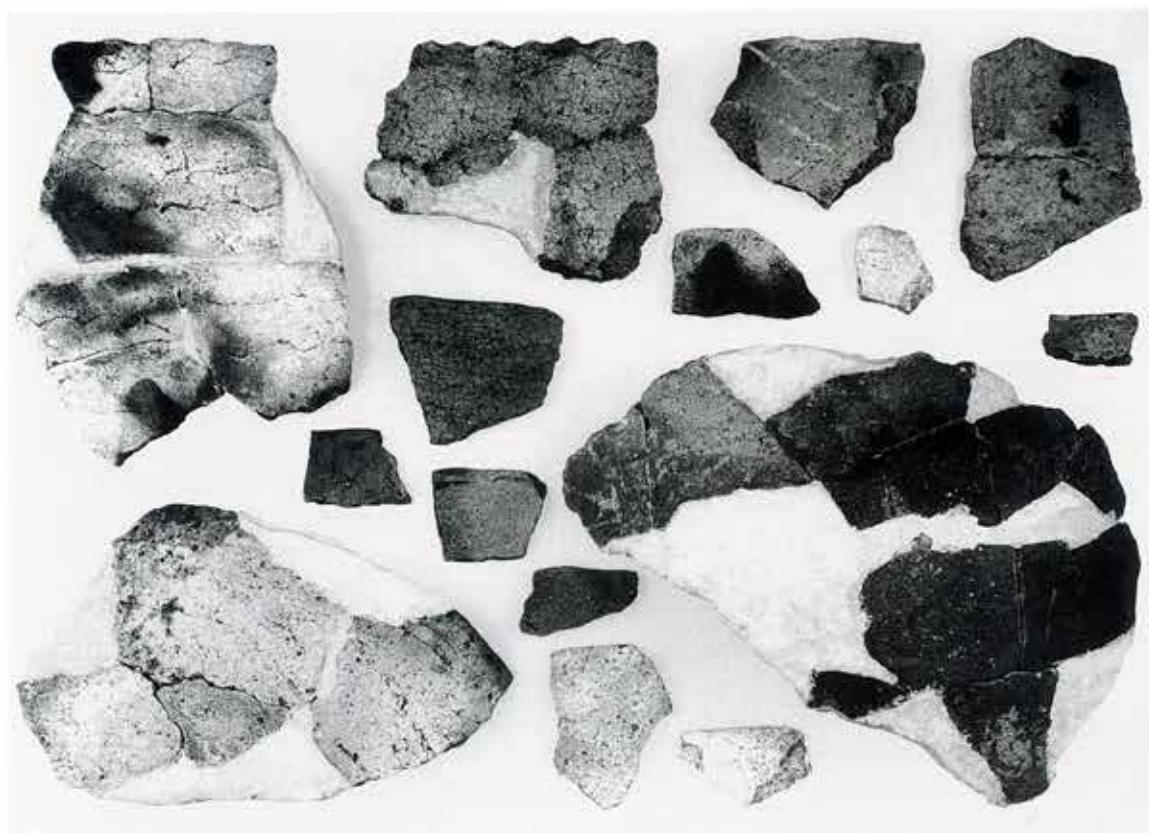
1



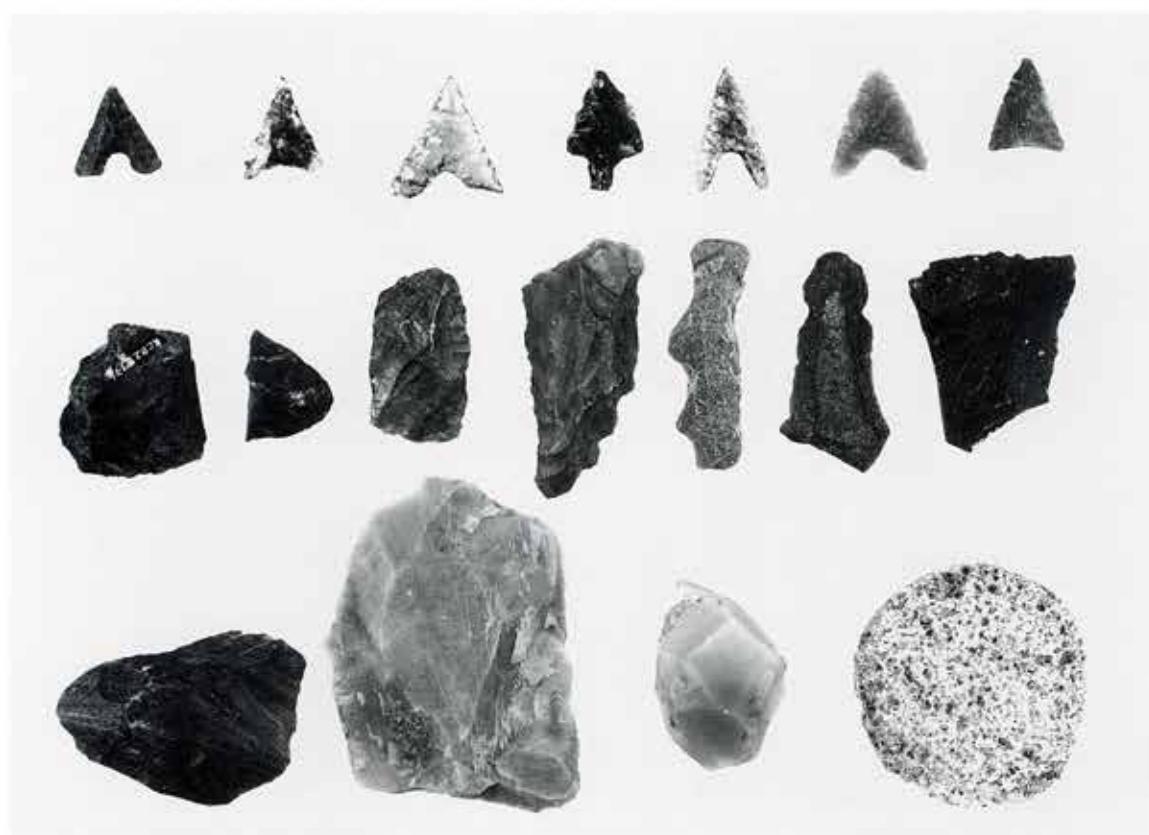
2

1・2. C地点包含層出土の縄文土器

図版36

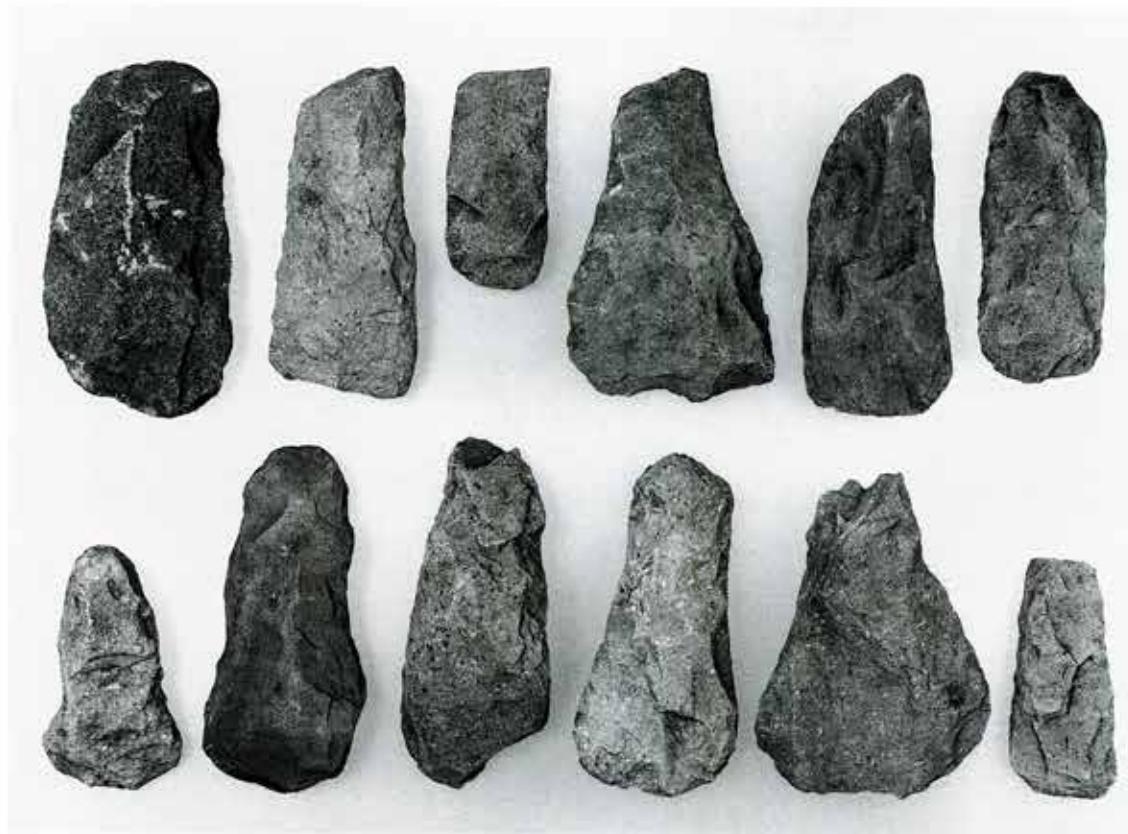


1

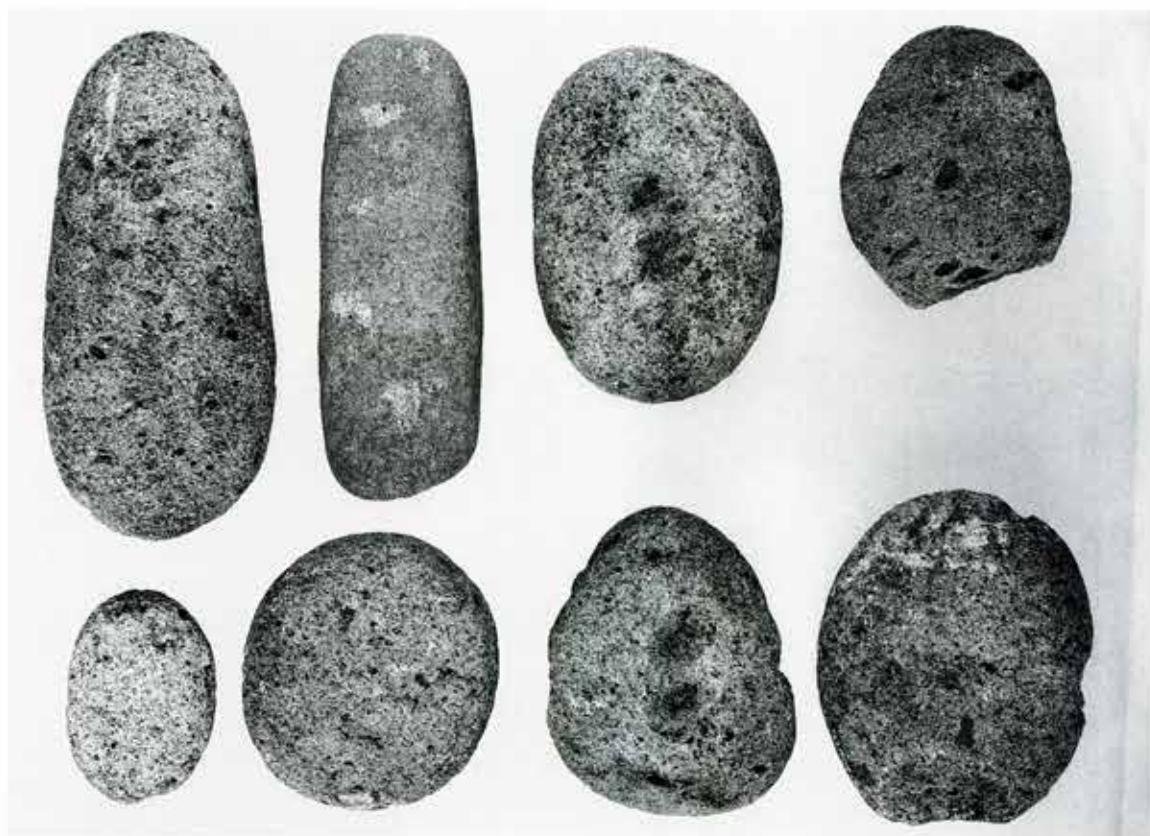


2

1. C 地点包含層出土の縄文土器 2. C 地点出土の石器



1

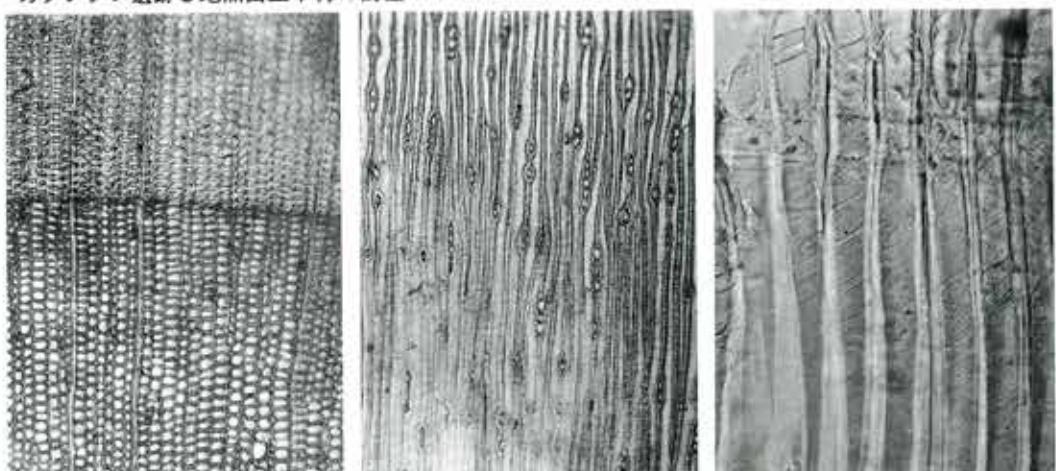


2

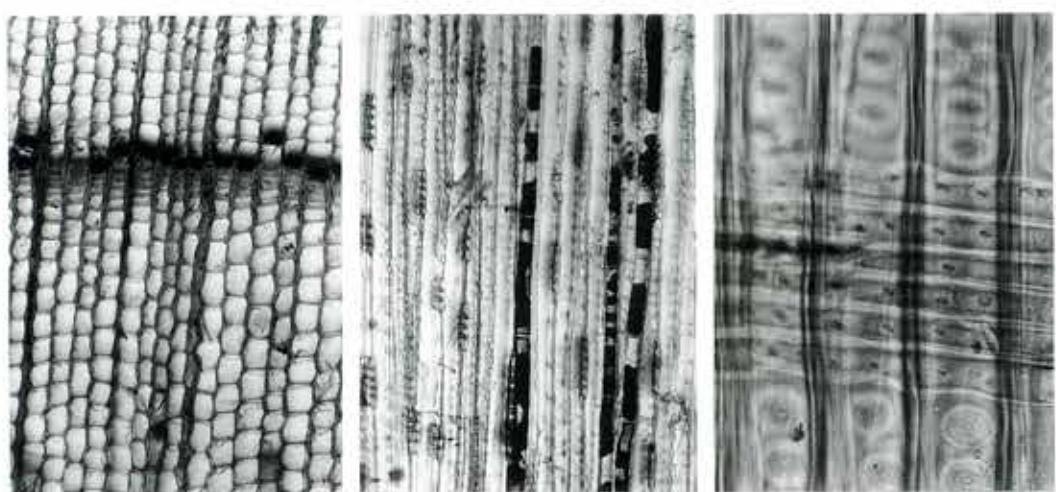
1・2. C 地点出土の石器

図版38

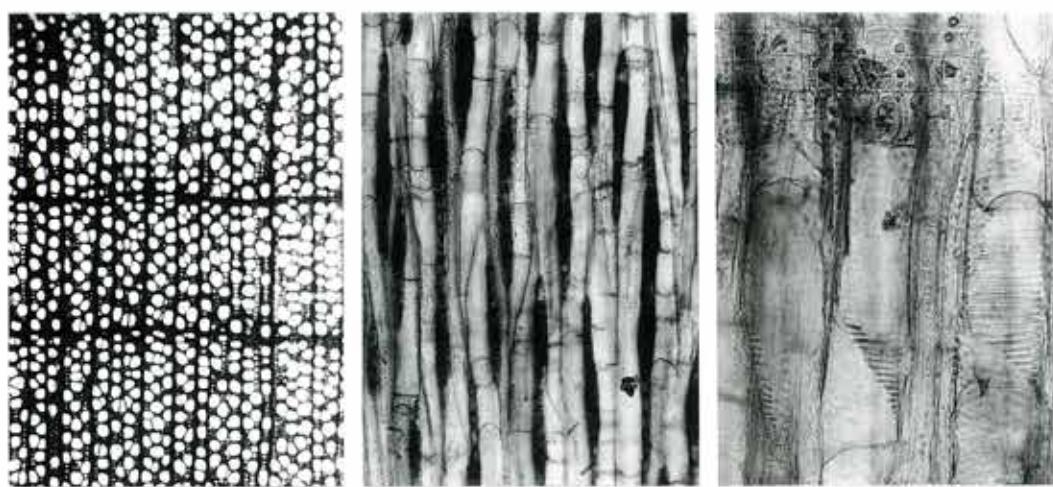
カクシクレ遺跡C地点出土木材の樹種



1 a. イヌガヤ (横断面) 1 b. 同左 (接線断面) bar:0.2mm 1 c. 同左(放射断面) bar:0.05mm  
試料番号⑫ bar:0.5mm

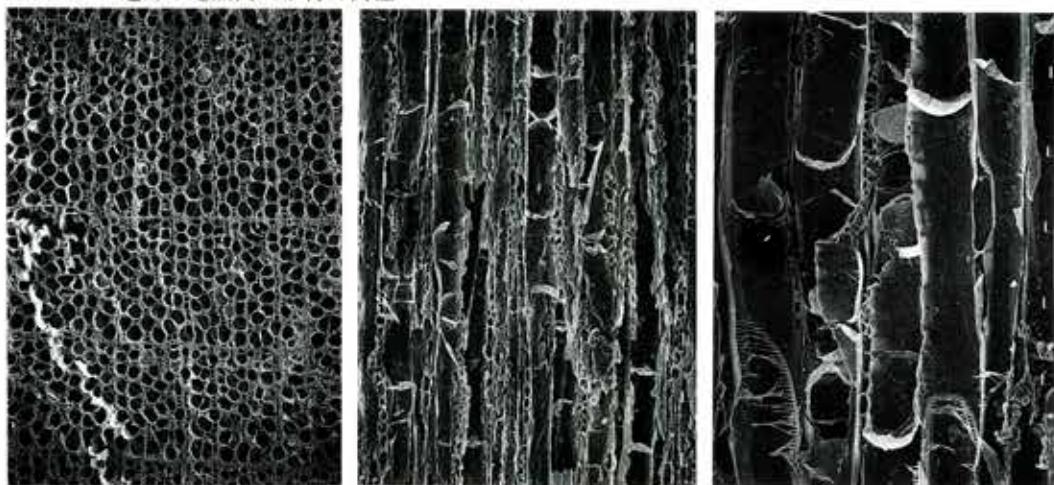


2 a. サワラ (横断面) 2 b. 同左 (接線断面) bar:0.2mm 2 c. 同左(放射断面) bar:0.05mm  
試料番号④ bar:0.2mm



3 a. カツラ (横断面) 3 b. 同左 (接線断面) bar:0.2mm 3 c. 同左(放射断面) bar:0.1mm  
試料番号⑥ bar:0.5mm

## カクシクレ遺跡C地点出土木材の樹種



4 a. カツラ (炭化材 横断面)  
試料番号⑧ bar:1mm

4 b. 同左 (接線断面) bar:0.1mm

4 c. 同左 (放射断面) bar:0.1mm

5 a. アジサイ (横断面)  
試料番号⑩ bar:0.5mm

5 b. 同左 (接線断面) bar:0.2mm

5 c. 同左 (放射断面) bar:0.1mm

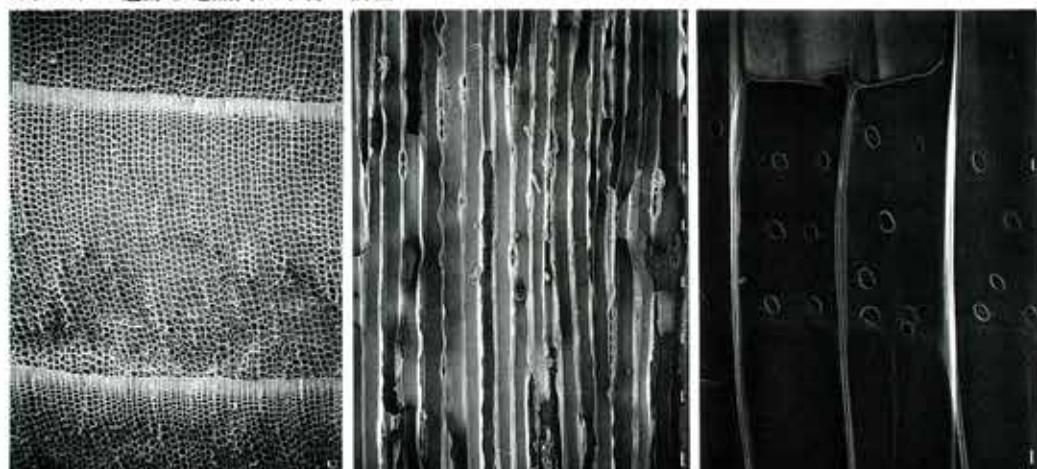
6 a. ニワトコ (横断面)  
試料番号① bar:0.5mm

6 b. 同左 (接線断面) bar:0.2mm

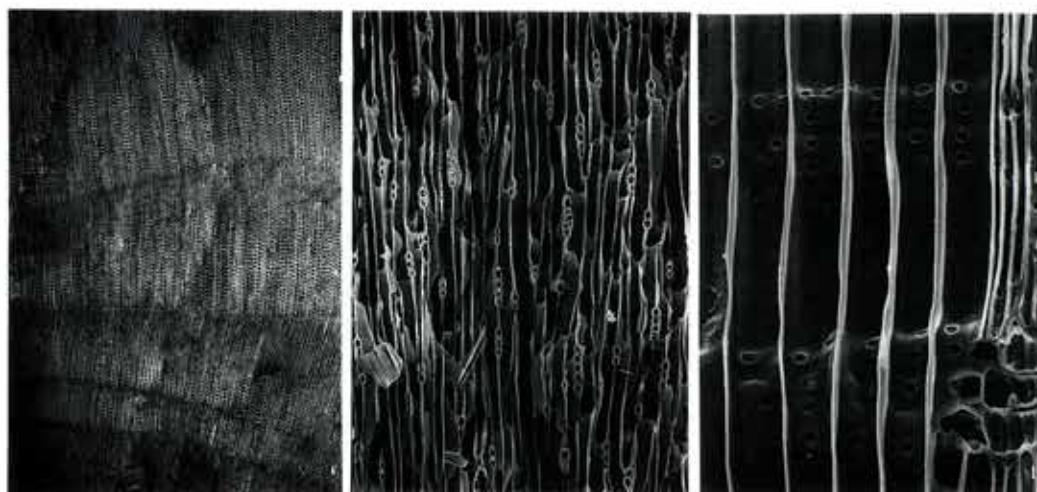
6 c. 同左 (放射断面) bar:0.1mm

図版40

カクシクレ遺跡C地点出土木材の樹種



1 a. ヒノキ属 (横断面)  
試料 SX4 bar:1mm  
1 b. 同 (接線断面) bar:0.1mm  
1 c. 同 (放射断面) bar:0.05mm



2 a. ヒノキ科 (横断面)  
PLD-101 bar:1mm  
2 b. 同 (接線断面) bar:0.1mm  
2 c. 同 (放射断面) bar:0.25mm

## 報告書抄録

ふりがな	かくしきれいせき						
書名	カクシクレ遺跡						
副書名	丹生川ダム水没地区（五味原遺跡群）埋蔵文化財発掘調査報告書						
卷次	第2集						
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター調査報告書						
シリーズ番号	第32集						
編著者名	上嶋善治 岩田修 古田奈緒子 山形秀樹 植田弥生 藤根久 千藤克彦						
編集機関	財団法人岐阜県文化財保護センター						
所在地	〒500 岐阜県岐阜市司町1(岐阜総合庁舎内) TEL058-(264)-1111(814)						
発行年月日	西暦1997年3月31日						
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査原因
所収遺跡名	所在名	市町村	遺跡番号			調査面積	
カクシクレ遺跡	岐阜県大野郡 丹生川村折敷地	21601	G07N 00316	36° 12' 49"	137° 22' 54"	19950428 19951117 6,400m <sup>2</sup>	丹生川ダム 建設事業に 伴う事前調 査
所収遺跡名	地點	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
カクシクレ遺跡	A地点	集落	縄文	竪穴住居址1軒 土坑 1基 水さらし場遺構 焼土址 5基 ピット群	縄文土器 石器 土製品	竪穴住居址は縄文中期後半。縄文晚期後半の水さらし場遺構を検出。 縄文晚期後半の土器が集中的に出土した。	
	B地点	散布地	縄文	ピット 石組み遺構	縄文土器 石器 土製品	縄文中期初頭および後期から晩期にかけての遺物が出土。	
	C地点	散布地	縄文 古代	土坑 巨大炭化木	縄文土器 石器 須恵器	縄文後期から晩期にかけての遺物。 古代の用途不明の巨大炭化木を検出。	

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第32集

## カクシクレ遺跡

丹生川ダム水没地区（五味原遺跡群）  
埋蔵文化財発掘調査報告書 第2集

1997年3月25日 印刷

1997年3月31日 刊行

編集・発行 財團法人 岐阜県文化財保護センター  
岐阜県岐阜市司町1（岐阜総合庁舎内）

印 刷 西 濃 印 刷 株 式 会 社

『カクシクレ遺跡』正誤表

	誤	正
19頁4行目	III-8	III-9
44頁21行目	第31・32図、図版7	第31・32図、図版7・8
47頁13行目	206・207	206・208
53頁9行目	345 は直線的に開き器形の浅鉢である。	(抹消)
58頁4行目	617～639	617～630
109頁28行目	向かって狭くなつて	向かって狭くなつて
122頁9行目	(第75図54、図版27)	(第75図53、図版27)
149頁3・4行目	d類(66) 船形を呈する	d類(66・67) 66は船形を呈する
149頁18行目	90～123	69・90～123
178頁 引用・参考文献	(追加) 大江 命 1965 「飛驒の考古学Ⅰ」 野村宗作ほか 1994 「荒城神社遺跡」	
図版11	4. A地点包含層出土の縄文土器(B III群)	4. A地点包含層出土の縄文土器(B II群)
図版23	8. クシコメツキ CANDEZE	8. クシコメツキ CANDEZE
報告書抄録 編著者名	(追加) 新山雅広	